カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般】あなたがたは地の塩、世の光である
【布教】中国のキリスト教共同体
【日本の教会】争いのない世界を祈る

年間テーマ　マリアと共にキリストの道を歩こう！

松永久次郎司教2003年年頭メッセージを発表
神の望みは私たちが神の国をこの世に打ち立てること

年頭にあたり教区長松永久次郎司教は、教区民への教書を通して「平和の働き手になろう」と呼びかけている。私たちは神の国をこの世に打ち立てるために、平和の実現に向かって働かなければなりません。ロザリオの祈りに強められ、マリアと共にキリストの道を歩むことで、自分に任せられた使命を果たそうと励ましている。

あけましておめでとうございます

一、平和の働き手となろう

わたしたちは平和のうちに、お恵みの新年を迎えました。神に感謝をささげると共に、お互いのために必要なお恵みをお祈りいたしましょう。

わたしたちは幸せにも平和のうちに新年を祝うお恵みをいただいております。しかし、世界各地では争い、戦いがあり、多くの人が苦しみの中にあります。わたしたちは心を尽くして平和のお祈りを捧げるとともに、心と力を合わせて平和のための活動に参加いたしましょう。また、わたしたちの生活の一部を割いてでも、貧しい人の援助となるように努めましょう。もちろん、わたしたちは大したものを捧げることは出来ないかも知れませんが、その真心が多くの人々の助けとなります。何かを捧げて、わたしたちの真心を表すように努めましょう。

善意の多くの人々と心を合わせるとき、それは大きな力となります。わたしたちの回りに、隣の国に、そして全世界に平和と喜びの輪を広げます。一人一人では大したものではないことが、一つになり、更に聖霊のお恵みがプラス・アルファされると、全ての心に届く、力となります。それを希望しながら、わたしたちの歩みを続けて行きましょう。

わたしたちはこの世に住んでおります。わたしたちは全能者でなく、わたしたちがなし得ないことは沢山あります。しかし神はこの世界を人間の手に委ね、人間の協力によって神の国を建設するよう望まれました。わたしたちは神の国をこの世界に打ち立てる、この願いを持って今年を乗り切って参りましょう。

二、ロザリオの年が始まる

パパ様はロザリオの十五玄義に、光の五玄義を加えて二十玄義とし、この一年をマリアの年と定められました。昨年の十月に、私たち信者にとって懐かしいこのロザリオの信心にいわば歴史的な改革を行い、私たちの心を奮い立たせることを望まれました。ロザリオの祈りを武器として、世の悪と戦い、世界の平和のために祈り、全ての人の幸せの実現のために、祈りの心を合わせねばならないと諭されました。

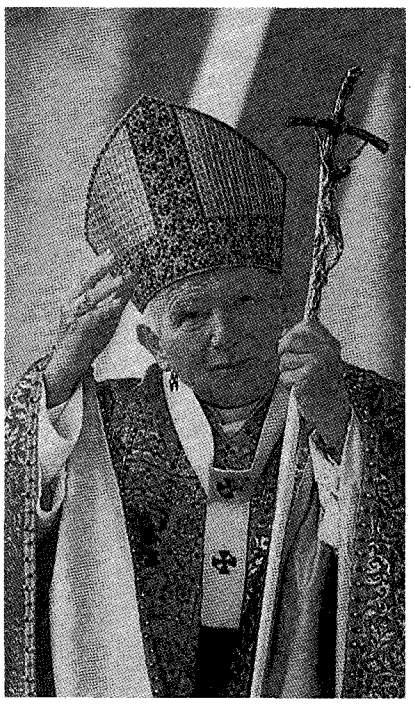
聖母マリアは何時も私たちの母ですから、わたしたちのことを暖かく配慮してくださいます。わたしたちが忘れることがあっても、マリアは私たちと共にいて、必要な配慮を怠ることなく、この地上の旅を見守っていてくださいます。このマリアに信頼して全てをマリアにその御手に委ねて生きる必要があります。この基本的信頼をわたしたちの第二の天性にしなければならないと思います。

特に過去の一年を思い、種々のことが新しい年に起こることを予測しながら、その全ての試みを適切に通り抜けることが出来るよう、お恵みを祈っておく必要があります。年頭になすべきことの一つは、この霊的準備です。マリアのご保護のもとにこの新しい一年を過ごして参りましょう。

二、み旨の道を前に進む

わたしたちは、ぼんやりとした無為のうちに時を過ごすのではなく、自分に任せられた使命を果たすために、働いて行かねばなりません。「沖に漕ぎ出せ（ルカ5章4節）」とキリストは云われました。日本各地でもこのキリストのみ言葉の心を受けて動いております。わたしたちも、私たちの今年に期待されることを果たして行かねばなりません。私の務めはなんでしょうか。それは人によって、それぞれの立場によって、それぞれ違うと思います。堅信のときに戴いた聖霊のお恵みに従って、それぞれ自分の務めを認め、自分の使命を果たして行かねばなりません。

普通の人には通常、特別な務めは与えられないでしょう。毎日の生活の中で神の掟を守り、平凡に生きて行けば善いと言えます。日々与えられる平凡な務めが、私たち平凡人の毎日の務めです。正しさを守り、神の心を心として、隣の兄弟の善を思いながら、平凡に毎日の務めを果たして行きます。回りの兄弟のためを思いながら、それぞれの立場の務めを果たすこと、これが第一の務めです。



2003年「世界平和の日」教皇メッセージ
地上の平和―変わらない決意―

教皇ヨハネ・パウロ二世は、1月1日（世界平和の日）に寄せて、メッセージ『地上の平和―変わらない決意―』を発表しました。このタイトルは、40年前に出された教皇ヨハネ23世の回勅からとられています。現教皇は、この混乱した世界情勢の中にあって、宗教こそ、平和の行動を育むために、平和への条件を整えるために重要な役割を果たすものであることを告げます。

［要約を二面に掲載］

時の話題

聖母訪問会
祈る喜び

「神はすべてを時宜のかなうように造り、また永遠を思う心を人に与えられる」（コヘレトの言葉3章11節）。

福岡教区75周年の祝典の喜びを終えた翌日の11月5日に、聖母訪問会新田原第三修道院の祝福・竣工式を美しい晴天のもと、福岡教区長松永久次郎司教様をお迎えして行われました。

第三修道院は、永年宣教に従事し、今は高齢や病弱のため祈りの中に神と共にあって、奉献生活を全うする本会の修道女たちのために建てられました。

祝福式の中で、松永司教様が「高齢のシスター方の祈りが教会の中で大きな力となること、いのちを大切にする、それは愛の証です」とおっしゃってくださり、奉献者としての使命を果たそうと励ましました。

また、このたびの建築工事を担当してくださった建築会社の副支店長様も「普通でしたら型通りの挨拶をするのですが、今日は自分の感じていることを言わせていただきます。皆様の祈りと、暖かい心に接し、本当に神様の愛を感じました。その心を工事のすみずみにまで行きわたらせ、思いやりと愛が溢れる建物にしました。」と力強くおっしゃいました。

祈りの間に置かれた聖家族のご像、聖母ご訪問のステンドグラスに囲まれて、これからも、小さく貧しい者として、聖三位の愛の交わりの中で、最後の奉献生活を歩んで行きたいと思っております。

新田原修道院

キリスト教一致祈祷集会

テーマ

私たちは、このような宝を土の器に納めています
（コリントの信徒への手紙二4-7）

日　時：2003年1月19日（日）19：00～
場　所：カトリック大名町教会
お話し：浜生正直司祭［聖公会福岡教会］
主　催：キリスト教超教派の準備委員会

※毎年1月18日から25日（聖パウロの回心の記念日）までを「キリスト教一致祈祷週間」として、各地で教派を越えた祈りの集いが行われています。昨年の日本基督教団渡辺通教会での集会に続き、今年はカトリックの教会で集いが開催されます。同じ主イエスのもとに集い祈るために参加しましょう。

しかし、時には特別な使命が与えられることもあります。ある特別な機会に、特別なことを、神は特に貴方に、望まれるかも知れません。神は特別なことをある人に望まれることがあり得ますので、その時は、勇気と決断をもって特別の召し出しに従う心構えを持つことが必要です。わたしたちには、お恵みのとき、特別のお恵みの招きに、寛大にこたえる心構えが期待されるのです。

新しい年が始まりました。これは確かにお恵みの年です。私たちの協力によって神のお恵みが実った年となるよう努力いたしましょう。また、全ての人が神のお恵みの善き協力者となるようお祈りいたしましょう。

このお祈りを込めて、全ての方々に心から神の祝福をお祈りいたします。

福岡教区長
ヨセフ　松永　久次郎司教

みちくさ

新しい年の幕開け。暦の上で新しくされた時を、真に新しいものとするのは自分の心がけ次第。この朝に新鮮な息吹きを感じ、自分と他者の幸せを祈念するこころを、一年にわたって広げていけたら▼多くの人がこの思いを抱いている。もし、保ち続けることができれば、世界の様子はきっと違ってくるだろう。しかし人が生きていく環境は苛酷なものだ。現実は容赦なく私たちを先へ先へと押し出していく。未知の領域へと。押し流されないようにしよう。耐えて、忍んで。希望の灯を消さないように▼だれもが健康でありたい、幸せでありたいと願っている。でも、人生には思いがけない穴がぽっかりあくことがある。穴の存在を嘆いたり、悲しんだり、穴をふさぐことに必死になったり。けれどもその穴が開いたことで見えてくるものがある▼救い主がお生まれになったあの夜、空には美しい星がまたたいていた。この世界に灯った救い主の光のそばに、心の清らかな人たちがいた。マリア、ヨセフ、羊飼い、はるか東方から旅してきた占星術の学者たち。空いっぱいの星は彼らの心を映していたのかもしれない。彼らは人生の苦しみ、悲しみを知っていた。彼らは自分の心にぽっかり開いた穴を通して、神の愛、その輝きに出会うことができた▼神がこよなく愛してくださったこの世界に生き、これからも生きていく。世の苦しみを取り除くために、すべての人を幸せに導くために、人間となられた神、救い主イエス・キリストの輝きを見つめることを忘れずにいたい。（F）

2003年世界平和の日教皇メッセージ
地上の平和 ―変わらない決意―（要約）

教皇ヨハネ23世は1963年、歴史的回勅『地上の平和（パーチェム・イン・テリス）』を発表した。

分裂した世界に平和を説く

回勅発表当時の世界は、深刻な混乱の状態に陥っていた（1961年のベルリンの壁築造、1963年のキューバ危機）。人々は人類史上最悪の戦争が引き起こされるのではないかという不安にさいなまれながら生活していた。

平和の四つの柱

ヨハネ23世は、平和は不可能だと主張する人々には同調しない。その深い直観力で、平和に必要な条件を、人々の心が求めている四つの必要、すなわち真理と正義、愛と自由に見い出している。

人間の尊厳と不可侵の人権への新たな気づき

ヨハネ23世は、悲劇的な状況にも関わらず、世界は人間の尊厳と人権への気づきを深めており、真理と正義、愛と自由という「平和の四つの柱」の豊かな意味に心を開いているということを確信していた。その現象の勢いと歴史を変える力に気づいたのである。平和への道は基本的人権の擁護と促進を通して歩む道である。

世界的共通善

同回勅は「世界的共通善」について言及する。相互依存と地球規模化が進行していた世界にあって、ヨハネ23世は、共通善という概念が、国際的水準で実現されなければならないことを示唆した。

新しい国際的な道義的秩序

大半の国家が、人権という考え方を尊重する義務を感じている。この事実は、道義的な確信と精神的な高潔さが、強大な威力を発揮することを示している。

現代世界に深刻な混乱があることは明白である。今こそ、すべての人が共に働き、人々の間に平和と協調を保障し、総体的な発展をもたらすような、全人類家族の新たな組織を構成する時ではないか？

平和と真理のきずな

人間は道義を選び取る力を備えられている。政治も人間の活動、ゆえに相応の形式による道義的な検証を受ける必要がある。今日の中東地域と聖地の兄弟殺しともいえる悲劇的な争いは、人間の尊厳と人権を尊重する原則に基づいた政策を、確信をもって実行する人々が必要だとはっきりと示している。

恒久的平和の前提

平和へのはたらきと真理の尊重の間には切り離せないきずながある。誠意ある情報提供や法体系における平等、民主的手続きでの公開性によって、人々は平和的手段による争議の解決へと向かい、真の建設的な対話を望むようになる。これらは恒久的平和の真の前提となる。

平和の文化

平和とは構造についての問題ではなく（確かに、法的そして政治的、経済的な面で平和のための構造や仕組みは必要であるが）、人間についての問題である。平和への行動は、その心のうちに平和を育んだ人々の生き方から始まる。この行動こそが平和の伝統と文化をつくり出すのである。

宗教は、神へ心を開くこと、普遍的な兄弟愛を育み、連帯の文化を促進することによって、平和の行動を育み、平和への条件を整える上で重要な役割を果たす。

『地上の平和』の遺産

ヨハネ23世を支えていたものは、神と人への深い信頼による楽観的な姿勢である。

2003年の「世界平和の日」に、私たちは皆、彼と同じ感性をもって前進するよう召されている。私たちを兄弟愛へと導かれる慈しみ深い神に信頼し、今の時代の人々にも信頼しよう。なぜならすべての人の魂に、全く同じように神の似姿が刻まれているからである。

この回勅が善意のすべての人に提案した「社会生活の諸関係を、真理と正義、愛と自由の土台の上に再建する」という崇高な使命に向かう新たな情熱が再燃しますように。

（文責　編集部）

ロザリオの祈り 光の神秘（啓示の神秘）

2002年10月16日、教皇ヨハネ・パウロ二世は、使徒的書簡『おとめマリアのロザリオ』を発表し、2003年10月までを「ロザリオの年」と定めました。それに伴い現行の祈りに「光の神秘」を加えました。

第一の黙想：イエス、ヨルダン川で洗礼を受ける

イエスがヨルダン川で洗礼を受けられると、聖霊がくだり、「あなたは私の愛する子」という御父の声が聞こえました。

この一連をささげて、洗礼のいつくしみを現してくださいました。

この一連をささげて、イエスの招きに応え、心から悔い改めて、福音を信じることができるよう聖母の取り次ぎによって願いましょう。

第四の黙想：イエス、タボル山で栄光の姿を現す

イエスは、タボル山で三人の弟子たちに栄光の姿を現し、困難を乗り越える希望の光を示してくださいました。

この一連をささげて、主の変容を心に刻み、イエスに聞き従うことができるよう聖母の取り次ぎによって願いましょう。

第五の黙想：イエス、最後の晩餐で聖体の秘跡を制定する

イエスは、最後の晩さんで、救いのいけにえ、永遠のいのちの糧として、パンとぶどう酒を用いて聖体の秘跡を定め、人類に対する愛の記念を残してくださいました。

この一連をささげて、すべてを与え尽くされたイエスの愛に日々ならうことができるよう聖母の取り次ぎによって願いましょう。

（2002年12月5日　常任司教委員会承認）

一日に一環を唱える場合の曜日の振り分けについて

喜びの神秘：月曜と土曜日
苦しみの神秘：火曜と金曜日
栄えの神秘：日曜と水曜日
光の神秘：木曜日

主のご降誕と新年のお慶びを申し上げます

教区長　松永　久次郎司教

[福岡地区]
司教館　中浜　一男
松井　忠之
牧山　美好
櫻井　尚明
岩永　義人
堤　敏雄
A・スカットロン
牧山　勝美
三村　邦明
田中　重治
W・マヘル
乾　盛夫
T・ドワイヤ
今田　昌樹
中浜　一男
青木　悟
浦川　務
小池　如安
片岡　哲夫
山田　成章
下町　豊重
G・ミッシェル
G・ブルニ
川上　惣一
畠山　七郎
硫黄　隆二
浦口　均
大山　悟
牧山　強美
白浜　満
湯淺　俊治
川原　昭如
Z・イエール
J・バイヨ
糸島
今村
大楠
大牟田
小郡
久留米
古賀
笹丘
浄水通
大名町
高宮
茶山
西新
箱崎
光丘
二日市
本郷
吉塚
老司
大神学院
イエズス会　R・キエサ
J・モラレス
曽根　忠明
G・ケルクマン
塩谷　恵策
A・セトアイン
萱場　基
聖パウロ修道会　永富　久雄
御受難会　鈴木　忠一
来住　英俊
G・ブレシュット
M・コース
美野島ファミリーセンター　S・ライル

[北九州地区]
飯塚　山下　正
黒崎　L・ベリオン
小倉　平田　敬
杉原　寛信
竹森　勇
H・キニュ
新田原　森山　信三
天神町　中村　信哉
戸畑　伊東　成晃
直方・田川　水巻　伊東　成晃
門司　門司港（管理者）　伊東　成晃
湯川　浦　俊雄
行橋　山元　眞
若松　鵜野　泰年
八王寺（パリ外国宣教会）　牧山　重光
M・ラバルタ
J・ガイヤール

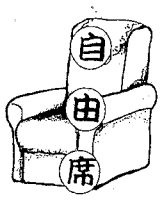
[佐賀地区]
伊万里　C・ガッザルディ
鹿島・武雄　L・マネルバ
唐津　V・チェリッザ
佐賀　深堀　勝人
多久　A・テンペリーニ
鳥栖　平田　三好
馬渡島　田川　清美
呼子
ロザリオの園　A・アレグリーニ
シトー会　J・ミケレーナ
聖マリア病院　R・マグリン

[熊本地区]
荒尾　K・オマホニ
大江・崎津・本渡　川添　猛
川原　拓也
帯山　V・ヤングキャンプ
菊池　R・オウエンス
健軍　中村　彰
島崎・玉名　F・カロール
手取　W・カリー
人吉　H・オッカロール
水俣　E・ホーガン
武蔵が丘　F・マッケイ
八代　J・ノーリス
生命山カトリック別院　F・ソットコルノラ
司教館付　平田　三郎司教
久留米信愛女学院短大　高木　善行
召命の家　山頭　原太郎
パストラル　W・キッペス

[海外]
米国　渡辺　隆義

サンキ　サンキ

福吉　三代子



教区報8月号自由席に「シエラレオネ」を載せていただきました。想像を超える反響で、福岡・佐賀を中心に50件近い支援金が寄せられました。「一人の小さな手、何も出来ないけど…」でも集まれば、出来る人ですよね。

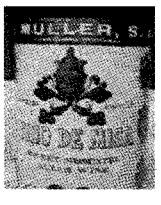
黒崎教会の子どもたちは、12月8日シエラレオネの子どもたちのために街頭募金に立って8万円近いお金を送金してくれました。寒風の中、黄色い声で街ゆく人々に呼びかける子どもたちに、「小さな人々にしてくれる事は私にしてくれることだよ」とイエスそれぞれがお祈りのカードを作り、奉納してくれました。

「天に栄光神にあれ。地には平和、人にあれ」天使の歌声が夜空にひびいています。「サンキ、サンキ、ジャパンピープル」、両手を高く上げ、喜びに湧きかえり、踊り出しているシエラレオネの子どもたちの姿が目に見えるようです。クリスマスおめでとうございます。

（小倉教会信徒）

※サンキはクリオ語で「有難う」の意。

むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

健軍教会創立50周年を祝う

熊本の健軍教会（主任＝中村彰神父）が創立50周年を迎えた。11月23日（土）聖コロンバンの祝日に、盛大に記念式典が挙行された。

当日は、快晴の青空の下、教区長松永久次郎司教はじめ、熊本県内外から、歴代の主任司祭ら11人の司祭、修道者、信徒約270人が参加し心を合わせて、50年間にいただいた神の豊かな祝福を感謝した。

2000年の9月から実行委員会が立ち上げられ、月一回のミーティングを重ねてきた。50年の歴史を振り返りながら、より信徒が一致し、神の国を力強く証しすることができるよう祈りながらこの日をむかえた。記念行事として、2001年10月に、チャリティーコンサート「心のしらべ」と題して、高見久美子氏のソプラノリサイタルを催した。また、2002年1月末から10日間、ヨーロッパ記念巡礼も企画され、恵みのうちに、滞りなく終えることができた。

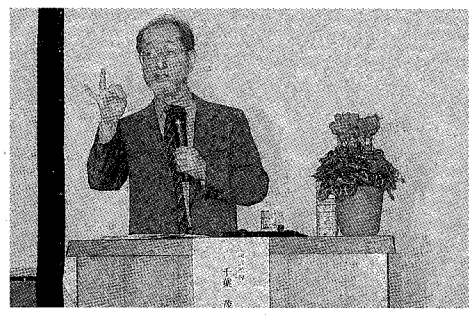
この日の記念ミサの中で、11人の中学生、高校生に堅信の秘跡がさずけられ、参加者一同の大きな喜びとなった。

松永司教は、説教で「これからも、福音を宣教する共同体として成長するように」と励ました。

ミサ後、隣接の幼稚園・さゆり園ホールに会場を移して祝賀会が催され、婦人会の心のこもった料理が準備され、盛り上がりを見せた。

健軍教会の基礎を築いた聖コロンバン会の司祭たち、そして先人たちへの感謝とともに、熊本の地に福音を種蒔く決意を新たにする日となった。

大牟田教会献堂50年の記念を市民と共に


講演中の千葉茂樹監督

大牟田教会（主任＝A・スカットロン神父）では、11月23日に、聖堂献堂50周年を記念して、多彩な行事が催された。この行事は「先達の信仰と祈りにより聖堂が建てられて以来50年の大牟田教会の歩みを振り返り、神に感謝すると共に、この新しい21世紀に一般市民の人々にも神と教会にぜひ触れていただきたい」との思いを込めて計画された。そこで一般の人にもよく知られているマザー・テレサをとりあげた。映画『マザー・テレサとその世界』を上映、続いて映画監督の千葉茂樹氏が『マザー・テレサの贈り物』と題して講演した。マザー・テレサの祈り、ひとりひとりを大事にする生き方を紹介し、「人の心を癒したり、励ましたりできるのは、一対一の関係の中でその人の心を開くことに始まる」と時にユーモアを交えながら語った。「ひとりひとりは神から与えられた使命を生きるように呼ばれている」。千葉氏が伝えてくれたマザー・テレサのメッセージは心にひびいた。

続いて横山浄氏によるオルガンコンサートが行われた。また会場には50年の歩みのパネルや信徒の作品が展示され、大勢の信徒・市民が観賞した。最後にミサをささげ、祈りの家である聖堂からそれぞれの使命の場へと派遣されていった。

天草地区で合同堅信式22人が受堅

天草地区三教会（本渡、崎津、大江教会＝川添猛神父、川原拓也神父）の合同堅信式が12月1日、大江教会で行われた。この日、22人が堅信の秘跡に臨み、参加者一同心をひとつにして受堅者の上に聖霊の豊かな賜物を祈り求めた。

松永久次郎司教は説教で「みなさんの中には、やがて都会へ出て生活するようになる人もいるでしょう。今日受ける堅信の秘跡のお恵みによって、信仰を誇りをもって力強く証しして生きていってください」と語った。受堅者は大いなる恵みの訪れに勇気をもって応え、司教の前に進み出た。

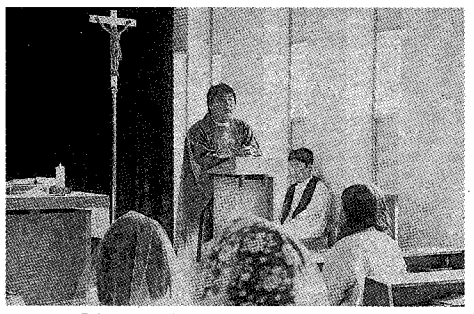
「堅信とは？」の質問に答えられてホッ！

堅信式を終え、受堅者からは「司教様から当てられた時はびっくりしたけど、答えられてよかった」、「今後も、教会、勉強会に休まず行きます。堅信を受けたことを誇りに思っていきたい」といった感想が聞かれた。

ミサの後、地域のコミュニティーセンターで、松永司教、受堅者を囲んで祝賀会が催された。会場内には喜びに満ちた笑顔と歓声が満ちていた。

福岡地区婦人会「ヤングママ」を開催

去る11月13日に、召命の家でヤングママ黙想会が開催された。子育て世代の母親を対象にしたこの集いは、福岡地区婦人会主催で年一回開かれている。日々奮闘中のお母さんに、せめてこのひとときだけでも、ゆったりとした気持ちで、神様のまなざしのもと自分をみつめ、共に生きる人のいのちを見つめることができるようにとの思いがこめられている。


「育児は育自です」と話す川上神父様

今年は28人が参加。川上惣一神父（二日市教会主任）が『信仰を通しての子育て』というテーマで指導した。参加者は「育児は育自とは、本当に実感します。幼児期から思春期へと悪戦苦闘の毎日、子どもと親とぶつかったり仲良くなったり。深い信仰心をもって、子どもをあたたかく見守ることの出来る母親になることができたらと思います」と感想を語ってくれた。

福岡市民クリスマス 第55回を数える 集いを超教派で

恒例の福岡市民クリスマスの集いが12月9日、福岡市民会館大ホールで開催された。キリスト教諸教会が協同して実行委員会を組織し、広く一般市民へ参加を呼びかけているこの集いも、今年で55回を数える。

夜の戸外は、肌をさす寒風だったが、会場入口で迎えてくださる方々の明るい笑顔と声、ほっとする温かい空気に包まれ、「現代の馬小屋がここに」と感じた。第一部の、クリスマスメッセージを川上惣一神父（二日市教会主任）が担当。『救い主の心を生きる』をテーマに、「わたしたちに愛に生きる心を与えるために救い主は来てくださる。自分ばかり癒されることを求めないで、周りの人を癒すことができるように、愛を生きる者となろう」と語りかけた。

第二部では岩本正樹氏・国分友里恵氏夫妻により、心地よい伸びやかな音楽にのせて賛美が行われた。

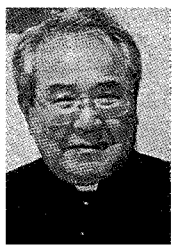
多くを含むこと

静岡市にお住みのご婦人から電話があり、益田四郎時貞と天草・島原の乱で亡くなったキリシタンの供養をお願いできませんかというのです。とてもていねいな電話でしたので、こちらも心よく承諾しました。

それから十日ほどして、ご婦人からの荷物が宅配便で届きました。中味は供養料・米・酒・果物・菓子箱などでした。供養に必要な品々なのでしょう。それに、次のような一文が添えられていました。

「毎年お寺で供養してもらっています。でもよく考えてみますと、あの人たちはみなキリシタンでしたので、キリスト教会での供養をより喜ぶことでしょう。私は上天草の大矢野出身で、益田四郎時貞とかかわりある者です。よろしくお願い致します」

このことがあってから、「多様性」についてあれこれ考えるようになりました。もうひとつは、現状に危機感をもっているためかもしれません。哲学者の梅原猛氏は最近の著書の中で、「世界は多くを含むことによってすばらしい」と言っています。ご婦人は供養は「一様」です。多様性がないとき人も社会も「ひとりよがり」になるか、全面的に周囲のまねをして「一様」になってしまうかです。教会が日本的キリスト教文化を生み出せないでいるとすれば、ここに問題があるのかもしれません。


川添　猛神父

供物の処理が気にかかるとおっしゃる方々のために、書き添えます。モーセが命じた次の定め（民数記5・10）を多様に解釈させてもらいました。

「人がそれぞれ、たずさえて来る聖なる献げ物は祭司のものとなる」

（本渡教会主任）

BOOK 読みは専科

★平和への情熱
トマス・マートンの平和論
トマス・マートン 著
木鎌 安雄 訳

アメリカの良心と慕われ尊敬された祈りと活動の人、トラピスト会士、故T・マートンのテロと報道の狂気うずまく世界に呼び掛ける七つのエッセイと3編の詩。戦争の根は何か？平和が危機に瀕している今、わたしは何をしたらよいのか？キリスト者としての反省と平和への取組みを述べた、今こそ必読の書。

女子パウロ会　発行
本体　1100円

◇　◇　◇

★心と魂の叫びに応えて　2
スピリチュアルケア
ウァルデマール・キッペス編

本書は臨床パストラルケア教育研修センター2001年度全国大会の内容をまとめたものです。日頃、パストラルケアの研修会やミーティングに出席する機会のない方々にとっては、本書は大きな役割をもっていると信じています。尚、1998年から2000年度の全国大会記録「心と魂の叫びに応えて」（サンパウロ発行）もお薦めいたします。

サンパウロ発行
本体　1800円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

マリアと共にキリストの道を歩こう！

熊本地区神学講座

1月26日(日) 教会と社会正義　中村彰神父
2月16日(日) 子育ての神学論　川添猛神父
今回のみ13：30に開講します。
2月23日(日) 傾聴の神学論：スピリチュアルカウンセリング　W.キッペス神父
3月9日(日) 信徒と霊性　松永久次郎司教
3月9日(日) 神学講座の総括　松永久次郎司教
会　場：カトリック手取教会
時　間：13：00～16：30
問合せ先：☎ FAX 096-352-1515／携帯09086644039
手取教会、日向までご連絡下さい。
※駐車場には限りがございますので、公共交通機関でお越し下さい。

福岡典礼を学ぶ集い

【開催日と学習内容】
…ことばの典礼…
日　時：1月26日(日)　信仰宣言／共同祈願
講　師：白浜満神父（サン・スルピス大神学院）
場　所：カテドラル大名町教会講堂
時　間：14時～16時
参加費：６００円
申込先：☎ 0940-33-8122　井上元之
※典礼に関心のある方どなたでも参加できます。
当初の予定（1月19日）が変更になりました。

講演会のご案内

テーマ：キリストの夢と出会う教会と社会
日　時：2003年1月19日(日) 14時～16時
場　所：カトリック大名町教会
講　師：松浦悟郎司教（大阪大司教区補佐司教／日本カトリック正義と平和協議会会長）
主　催：福岡地区正義と平和協議会

黙想会　召命をはぐくむ共同体を目指して

日　時：1月22日(水)13時受付～23日(木) 昼食
場　所：カトリック福岡黙想の家
指　導：来住英俊神父（御受難会）
対　象：一般信徒
持参必要：洗面用具・ロザリオ
費　用：7,５００円（1泊3食）
問　合：☎ 092-741-3687浦川務神父（召命担当）

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　1・2月

◇5日(土)～10日(金)　休館日
◇11日(土)～13日(月)　総合人間学講座［本田正昭氏］
◇15日(水)　ミカエル会
◇22日(水)～23日(木)　召命を共に祈る黙想会［来住神父］
2月
◇10日(月)～11日(火)　聖母カテキスタ会
御受難会きょうだい会
◇14日(金)　宗像和善の聖書
◇15日(土)～16日(日)　山口・島根信徒養成研修会
◇17日(月)～18日(火)　カトリック児童施設協議員研修会
◇20日(木)～28日(金)　修道女のための黙想会［鈴木神父］

♥祈りの日
◇1月14日(火) から「祈りの日」が始まります。
［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

指　導：Sr.マリアと S.フランコ神父

※祈りの集い
・1月9日(木) 10時～15時
テーマ：教会の公の祈り
・2月12日(水) 10時～15時
テーマ：聖書を味わって祈る

［問合先］
・生命山カトリック別院
☎ 0968-85-3100
FAX 0968-85-3186

マグリン神父によるゆるしの秘跡

日　程：毎月第1と第3土曜日
場　所：大名町カトリック教会小聖堂

1月のこよみ

1日(水)　神の母聖マリア［守るべき祝日］
世界平和の日ミサ［大名町教会10時］
†C．バスチ［黒崎教会2002］
2日(木)　†J．ドノフ［菊池教会1985］
†ヨゼフ牧山藤房［直方教会1993］
4日(土)　†E．モーゼ［八王寺本部1998］
5日(日)　主の公現
7日(火)　†T.フィッシャー［人吉教会1999］
12日(日)　主の洗礼
15日(水)　松永司教福岡教区着座記念日
司祭新年の集い（ミサ：浄水通教会11時）
18日(土)　キリスト教一致祈祷週間（～25日）
†J.M.マルタン［大牟田教会1975］
19日(日)　年間第2主日
松浦悟郎司教講演会（大名町教会14時から）
キリスト教一致祈祷集会（大名町教会19時から）
†J.ツルデル［大神学院1999］
†L.ガルニエ［大江教会1941］
21日(火)　聖アグネスおとめ殉教者
25日(土)　聖パウロの回心
26日(日)　年間第3主日　カトリック児童福祉の日（献金日）
佐賀教会堅信式
28日(火)　聖トマス・アクイナス
2月
2日(日)　主の奉献
†マテオ山川辰幸［二日市教会2002］
4日(火)　2002年度第2回司祭評議会（司教館10時半）
5日(水)　日本26聖人殉教者
松永久次郎司教　司教叙階25周年記念日
ゴチックは司教日程

福岡

■福岡祈りの集い
［日時］毎週月曜11時～12時30分［場所］カトリック大名町教会［内容］聖霊による祈り［問合先］☎ 092・522・5139ブラザー床嶋

■第22回福岡ホスピスの会
［日時］1月12日(日) 14時～16時［場所］カトリック大名町教会4階［テーマ］遺族へのアプローチII［講師］藤泰澄師（専立寺住職）［問合せ］☎ 092・534・5647小林（事務所を移転しました）

■第88回福岡結婚準備講座
［日時］1月15日(水)から2月8日(土) 毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分［場所］大名町カトリック教会［問合せ先］☎ 092・552・5022カトリック・ファミリーセンター

■召命を共に祈る会
［日時］1月16日(木) 14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）

■召命祈願ミサ
［日時］1月16日(木) 19時15分［場所］サン・スルピス大神学院［主式］牧山美好神父（司教秘書）［次回］2月6日

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］1月23日(木) 13時から［場所］聖クララ寮聖堂（南区塩原）［内容］レクイエム［講師］坂田孝子氏［参加費］自由献金［問合先］☎ 096・380・5686堺

■在世フランシスコ会集会
［日時］1月26日(日) 14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎ 092・843・5831石崎

■第33回典礼聖歌研修会
［日時］2月9日(日) 13時から［場所］大楠カトリック教会［講師］深堀純氏（大名町教会信徒）［参加費］自由献金［問合せ先］☎ 092・623・5023有馬

北九州

■生と老い死を見つめる会
［日時］2月2日(日) 14時から［場所］カトリック大名町教会［内容］生と死を取り巻く現代医療［講師］三木浩二医師（小倉記念病院）

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、毛布・冬物男性用衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付を待っています。また、火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者を募っています。［問合先］☎コース神父 092・431・1419

■小倉祈りの集い
［日時］1月17日(金) 13時30分～15時［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわう賛美と感謝の祈り［指導］B・ガブリエル神父（御受難会）［問合先］09 3・452・1556安藤

■聖書講座入門編I
［日時］2月16日(日) 14時から［場所］カトリック小倉教会［内容］聖書とは何か？［主催］北九州地区信徒協

佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］1月8日(水) 10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る
［問合先］☎ 0952・72・7536吉田［次回］1月25日(土) 10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4土曜日。どうぞご参加下さい。

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］「詩編」を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書
［参加費］無料［問合先］☎ 0952・23・4754阿南

熊本

■第70回熊本結婚準備講座
［日時］1月20日(月)から2月17日(月) 毎月曜日と火曜日全8回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［問合せ先］☎ 096・352・3030 FAX 096・352・1515手取教会　安部

訃報

ジェームス・モラハン神父（聖コロンバン会）
2002年12月14日(土)
故国のアイルランドで帰天。享年78歳。福岡教区では本渡教会、玉名教会、健軍教会、水俣教会などで主任司祭として宣教された。

休業お知らせ

◇セント・ポール FUKUOKA
12月30日(月)から1月4日(土)まで休業させていただきます。1月5日(日)から開店いたしますのでよろしくお願い致します。
［問合先］☎ 092・741・4588

◇サンパウロ福岡センター
12月29日(日)から1月5日(日)まで休業させていただきます。1月6日(月)から開店致しますのでよろしくお願い致します。
定休日は木曜日で、日曜日も開店しています。
［問合先］☎ 092・721・2032

編集後記

あけましておめでとうございます。皆様に喜んでいただける『福岡教区報』めざして、今年もいきいき情報満載でお届けするためにがんばっていきます。これからもご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

この紙面を通じて、教区各地の皆様の表情を伝えることができたらと思っています。皆様の教会のみなぎるパワーをぜひ声にして、編集部まで送ってください。また、近く予定されている行事についても情報をお寄せください。お待ちしています！

今年10月までロザリオの年が続きます。ロザリオの祈り「光の神秘」を通して、キリストの神秘とそのこころをさらに深く黙想することができるようになりました。聖母マリアに伴われて、キリストの道を歩んでいきましょう！

キリストの平和の光が、この新しい年の上に豊かに満ちあふれますように、心からお祈りしたいと思います。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 城戸隆秀

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

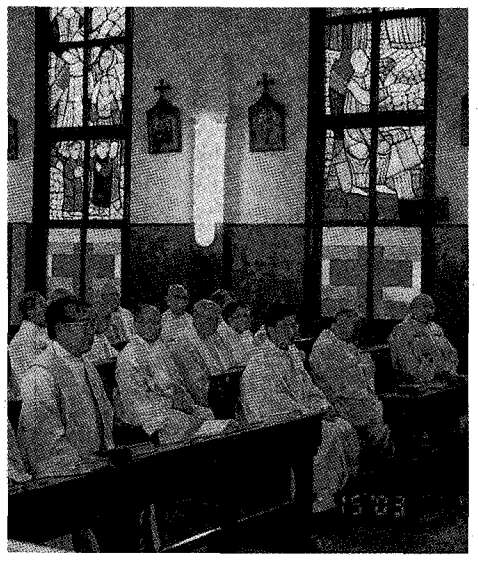
今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般】全世界のための水とパン
【布教】マレーシア、シンガポール及びブルネイの教会
【日本の教会】心の病に苦しむ人の癒し

福岡教区司祭新年の集いに50人

いのちの温もりを伝えるためにと決意新たに



1月15日（水）、福岡教区司祭新年の集いが行われた。この日は寒波の襲来で、雪やみぞれが降るあいにくの天候だったが、約50人の司祭が集った。11時から、浄水通教会で教区長松永久次郎司教主司式でミサをささげた。ミサ後の祝賀会で、新しく福岡教区で宣教司牧に奉仕することになった司祭と修道士が紹介された。

この日の説教で松永司教は、「このロザリオの年を、マリアのまなざしでキリストの道を見つめ、マリアと共にキリストの神秘を祝い記念しながら歩んで行こう。そしてロザリオの信心を自分のものにしていこう」と呼びかけた。

また、日本語にも翻訳されたカトリック教会の新しいカテキズムを良く学び、そこから今日的な教えを良く身につけるように、と諭した。

いま世界は、戦争の危険をはらんだ緊迫した情勢にある。教皇ヨハネ・パウロ2世は今年の1月1日、世界平和の日に当って送ったメッセージの中で、今日の世界にも力強く語りかける福者ヨハネ23世教皇の歴史的回勅『地上の平和』の教えを再び確認するよう招いている。そこでは、平和に必要な条件を「真理と正義」、「愛と自由」という人々の心が求めている四つの要素の中にとらえている。松永司教は「平和の根本要素は命の通うあたたかなもの」と述べ、「理論だけでなく、血の通ったものを自らの行動原理とするように、平和のために、命のぬくもりを伝えるために生きるものとなろう」、「私たちの母である聖母マリアにすべてを委ねて前進して行こう」と語り説教を結んだ。

ミサの後、司教館新館に会場を移して祝賀会が開催された。今年も心を合わせて進んで行こうとの思いで、司祭たちの表情は晴れやかだった。

健康に留意して、長く奉仕し続けようと互いに励ましあった。

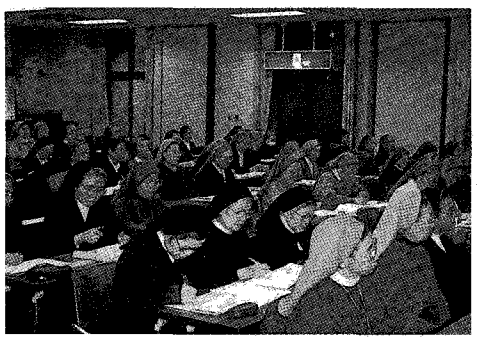
この集いの中で、新しく福岡教区で奉仕することになった聖アウグスチノ会日本分管区長で笹丘教会助任の今田昌樹神父、長崎教区司祭で、福岡サン・スルピス大神学院養成担当者の川原昭如神父、聖パウロ男子修道会の福岡修道院新院長の牧山忠治修道士の紹介が行われた。

教区修道女連盟研修会

老いを主の僕の自覚をもって生きる

1月13日（月・成人の日）、恒例の福岡修道女連盟（会長Sr.松本鶴子・礼拝会）の研修が、講師にシスター今道瑤子（聖パウロ女子修道会）を迎え、カテドラルで行われた。新春に新たな決意をふるい立たせるテーマは「老いを主の僕の自覚をもって生きる」。

シスター今道は聖書に基づいて種々の角度から話した。「老いたから…できない」ではなく、年令と共に神はさらに近くから慈しみの手を延べ、助け導いてくださること、外的にも内的にも、今までいただいてきたものを一つずつお返ししていく中で、最後のお返しをするまで、残されている能力をフルに使うこと、さらに預言者達も決して強く正しいものでなかったにもかかわらず、その時その場で与えられた力で歴史の中の出来事を読みとり、神のお望みのままに協力したことなど、与えられた今を精一杯生きる励ましを得えるものであった。



ミサの中で修道女連盟顧問の平田三好神父は、召命問題に関し「手を汚さないで収穫を待つ」という甘い姿勢をズバリ指摘。召された者は年令に関わりなく、最高に魅力あふれたイエズス様の手元に、両手で何回もすくえる程のパン屑の山ができたのではないでしょうか。この時のイエズス様のパンを裂くという行為は祈りそのものであり、血の汗を流す程、あるいは光り輝くほどの一生懸命さだったのではないかという気がします。空腹をかかえ、パンを得る手立てもない群集をかわいそうに思うイエズス様の心の温かさ、「不可能」を前にして賛美の祈りを唱える父への信頼、パンを裂き続ける行動力…イエズス様に習い、恵みを引き寄せる祈りでありたいと思います。

福岡海星女子学院　校長

松永久次郎司教

司教叙階銀祝記念ミサ

日　時：2月11日（火）11時
場　所：カテドラル大名町教会
※1978年2月5日に長崎大司教区の補佐司教に叙階されて25年。福岡教区に着座され12年。感謝ミサに参加しよう。

時の話題

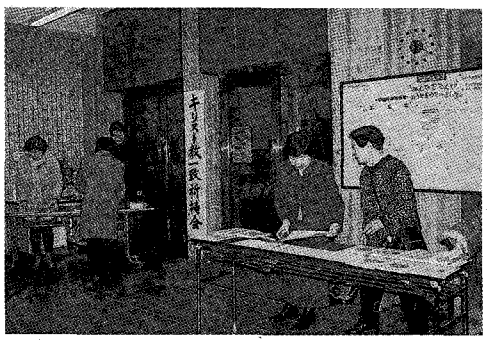
Sr.小沢　京子

新しい年を迎えると、自然に「今年こそ！」と意気込みが湧いてきます。しかし「長引く不況」に「進む少子高齢化」では、明るい夢も描きにくいと思っている矢先、ミサの中で「パンの奇跡」が朗読されました。男の人だけでも五千人もいるのにパンが5個しかない…需要と供給の落差の激しさは、私たちの不況どころの話ではありません。イエズス様はこの落差を「賛美の祈り」と「裂く」という行為で克服されました。

まさしく「奇跡」です。「一人につきパン1個」として単純計算しても、五千回もパンを裂かれたのでしょうか。この時のとも、一度裂けば、パンは何人分にも増えたのでしょうか。それにしても、イエズス様いずれにしては腱鞘炎になりそうなくらい何度も何度もパンを裂かれたのでしょう。人々は満腹して、パン屑は十二の籠に一杯だったそうです。満腹の人続けたイエズス様の手元に、

恵みを引き寄せる祈りを！

恵みを引き寄せる祈りを！



エキュメニズム委員会

一致祈祷会を超教派で

1月18日から25日まで、全世界のキリスト者が心を合わせてキリスト教の一致を願う週間である。福岡地区では、1月19日にキリスト教超教派が主催する祈祷会がカトリック大名町教会で開催され約70人が参加した。司式は磯部理一郎牧師（日本基督教団）、説教を浜生正直牧師（聖公会）が担当した。浜生牧師は「今、この場で話をすることに戸惑いと同時に恵みを実感している。プロテスタントの牧師が、カトリックのカテドラルの説教台に立ち説教をすること自体が、キリスト教諸派が一つに集い、祈っていることの象徴である」と話し始めた。浜生牧師は「私たちの現状は分かれているが、キリスト教が一致するようにと願い、祈り続けよう。互いを認め合い、日頃の交わりを大切に、互いに関わり合いながら知り合っていこう」と呼びかけた。最後に「キリスト者の目的はひとつ、主イエスの『全世界に行ってすべての人に福音をのべ伝えよ』との至上命令に従って生きることである」と語った。その後、イエス・キリストを通して一つのからだになり、神の愛を表現することができるよう願いながら信仰告白を行い、各派から代表して4人が祈祷をささげ、会衆も心を一つにした。

キリストを信じ、愛する兄弟が一つに集い祈ることの深い喜びを実感するひとときであった。

2月11日

ルルドの聖母

世界病者の日

どうか聖母が、苦しみの世から沸き起こる祈りに耳を傾けてくださいますように。どうか苦痛の中にある人々の涙を拭ってください。病の中で孤独な人々の傍らに立っていてください。どうか医療の分野で働く信者達がキリストの愛の確かな証しとなれるよう、聖母がその取り次ぎによって助けてくださいますように。

（教皇ヨハネ・パウロ2世メッセージから）

みちくさ

「神の愛の宣教者会」の創立者、マザー・テレサが今秋、福者に上げられることが発表された。帰天から五年あまり。この列福までの過程は「近代教会史上、最短」の早さといわれる▼アルバニア人シスターがサリーに身を包み、所属していた修道会を出て、一人でカルカッタの街頭へと歩みだした。神の愛を伝えるために。やがて人々は彼女をカルカッタの聖女と呼んだ。しかしマザーは言った「私は神の鉛筆にすぎない」と▼彼女がささげた祈りの言葉が残されている。そのなかに『主よ、私をお使いください』という祈りがある。「主よ、今日一日、貧しい人や病んでいる人を助けるために、私の手をお望みでしたら、今日、私の手をお使いください…」。この祈りがマザーの生涯のあの日々に生きられていたことを思う▼物質的に豊かなのに貧しいといわれる状態もある。マザーは、この癒すことが難しい奥深い貧しさを見ていた。孤独に苦しむ人の心の飢え。誰からも求められず、愛されず、見捨てられた人々は世界中どこにもいる。人はあまりの苦しみの中にある時、生きる希望を見失う。戦争、災害、病気、あるいは物質的・精神的貧困、非運は人々から立ち上がる力を奪う。「道端には競争に耐えられなかった人たちがたおれていく。わたしはこの人たちに仕え、大切にしたい」。マザーに心を合わせ、私たちも祈ろう。「主よ、…人は人であるという理由だけで、どんな人でも愛するために、私の心をお望みでしたら、今日、私のこの心をお使いください」。

（F）

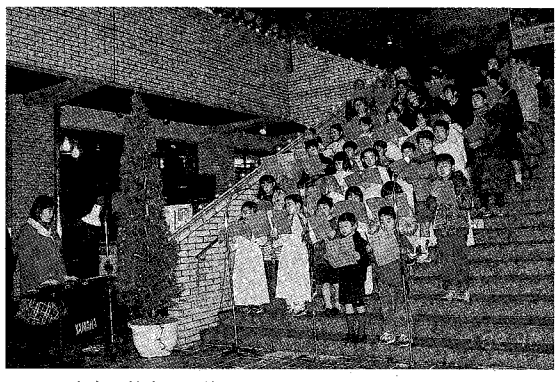
2002年のクリスマス
主イエスと出会う喜びが広がった日

2002年クリスマス。救い主イエス・キリストの誕生は、きっと皆さんの心の中に大きな喜びとして刻み込まれたことでしょう。キリスト者の少ない日本でも、たくさんの人がクリスマスを祝います。皆さんの教会でも、初めて教会を訪れる人、非キリスト者を迎えるために様々な工夫がなされていることと思います。ここでは、地域に根ざしクリスマスを祝おうとする教会と修道院の例を紹介します。

メインストリートに天使の歌声が！
大名町教会

大名町教会では、12月24日クリスマスイブの夜6時のミサの前に、毎年クリスマスキャロルを行っています。人々が行き交う通りに向かって、子どもを中心とした合唱隊が、聖堂入り口につながる階段に並びクリスマスの歌を歌います。子どもたちは待降節に入ると、教会学校の時間を使って、この日に向けて聖歌の練習をします。お生まれくださるイエス様に心も年齢も近い彼らだからでしょうか。イエス様に歌をプレゼントしたいという純粋な気持ちで一生懸命です。当日は、早めに教会に集まって直前のリハーサルを行い、本番を待ちます。子どもたちの胸も次第に高鳴って来ます。この子どもたちのがんばりを支える大人たちがいます。できるだけ遠くまで歌声が届くように考えて音響設備をセッティングする人、元気な声が出せるように軽食を準備する人など。このようにクリスマスキャロルの主役たち、これに関わる人たちの喜びが一つに結ばれて、歌声にのせて広がっていくのです。

師走の街に天使のような声が響き、大勢の人々が立ち止まって聞いています。歌い終わると、おしみない拍手をおくってくれます。バスの中からも笑顔で子どもたちを見つめる顔があります。


大名町教会の天使たちの歌声は師走の町を覆った

大名町教会は福岡市の繁華街に位置していることもあり、クリスマスイブのミサには大勢の未洗者も訪れます。子どもたちのクリスマスキャロルに導かれるように次々と聖堂に入って来ます。年末商戦の騒音のそばで行われる荘厳なミサに熱心に参加し祈る彼らの姿に、人となられたイエスのメッセージを見る思いがします。

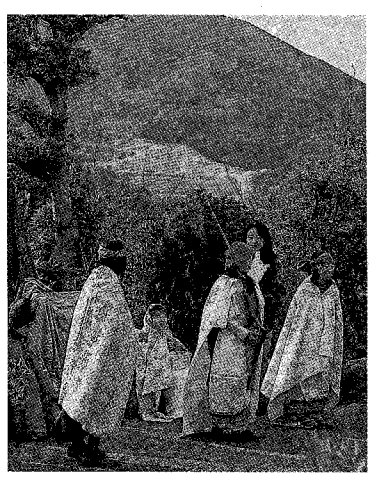
深夜11時のミサでは、青年たちが聖劇を行いました。

聖堂空間が遥かな時をこえて、あのベトレヘムの町・主がお生まれになった馬小屋に思われてきます。青年たちの熱演は、ある種ぴーんと張りつめた空気を感じさせます。思わず、持参したカメラで写すのを忘れてしまったほどです。照明や音楽なども工夫され、クリスマスのメッセージが感覚的にも訴える力を帯びて届けられることになったと思います。

地域の人々と幼子の誕生を祝う
カルメル会

12月23日、カルメル会の丘から見下ろす上ノ原地域の子どもたちをお誘いしてクリスマス会を行いました。今宿に移転して10回目の集いです。地域の子ども育成会とも連携して実施しています。大人も子どもも楽しみにして集まってきます。今回は小学生25人、親9人、いろいろと協力してくださる信者とその家族の方々を含めて50人ばかりのささなクリスマス会でしたがベトレヘムの雰囲気に近かったのではないかと思います。

聖堂でクリスマスの歌をシスターと共に歌い、大分から応援に駆け付けたパウエル神父（サレジオ会）から聖書の話を聞き、カルメルの前庭で聖書で読まれた箇所を信者の子ども5人と有志数人を加えてご降誕の野外劇を行いました。この野外劇はクリスマスの真の意味を伝える子どもたちへの宣教の第一歩になったのではないでしょうか。また、初めて参加された親子にとっては、クリスマスとはこのようなことだったのかと気付くよい学びだったのではないかと思います。


山々にこだまするクリスマスのメッセージ

シスターたちは、劇の間、聖堂で、集まった方々の心に幼子キリストが誕生しますようにと祈り続けました。暖かい日に恵まれた素敵なクリスマスでした。

ロザリオに親しむために（Ⅰ）

教皇ヨハネ・パウロ二世は、「ロザリオの年」を宣言しました。教皇はこの祈りが、さまざまなキリスト者共同体で特別に大切にされ、促進されることを強く望んでいます。

ロザリオはキリスト者の生活の核心に通じるもの。また個人黙想や神の民共同体としての養成、新たな福音宣教のために力を発揮します。たとえ平凡に見えても霊的に豊かな機会を与えてくれます。

ロザリオの祈りは現在、過小評価されている感があります。それゆえ新しい世代にあまり教えられていません。もったいないことです。教皇は指摘します。私たちキリスト者共同体が、「真の祈りの学びの場」となることが急務である、と。ロザリオはキリスト教の観想の伝統の中で最も優れ、たたえられている祈りの一つです。今こそ、私たちはロザリオの祈りについての理解を深めていきましょう！

ロザリオの祈りの起源

聖パウロは「絶えず祈りなさい」と呼びかけます。このすすめに従い、教会の中で祈り続けるための方法が考えられて来ました。そこで「聖務日課」が生まれ、最初はとくに修道者たちによって唱えられました。「聖務日課」の中心は詩編を共に唱えることです。詩編は150編ありますが、古代・中世ではだれもが字を読めたわけではなく、そこで「聖務日課」に代わる祈りを考案することにしたのです。これらを背景として現在のロザリオの祈りが生み出されていったと思われます。

教会が、現在のロザリオの形と今日の方法を受け入れたのは13世紀初め頃といわれています。聖ドミニコはロザリオの祈りを教会に紹介したことで知られています。彼は、当時問題となっていたアルビ派異端や罪人の回心のための力強い手段として、聖母マリアからロザリオを受けたと言われています。彼は熱心にその重要性と価値を人々に説きました。ルルドとファティマにご出現になった聖母ご自身も、ロザリオの祈りを唱えることをすすめられました。この古くからある祈りに新しい生命を吹き込むため、いきいきとした愛と信仰をもって唱えることが鍵となります。

「ロザリオ」とは、バラの冠という意味で、聖母マリアに対する祈りの一つひとつを一輪のバラとみなすところからきているといわれています。

ロザリオの祈りの唱え方

ロザリオの祈りは、一人で唱えることも、また教会の仲間といっしょに唱えることも出来ます。この祈りは、喜び（受肉の神秘）〈月・土曜日に黙想する〉、苦しみ（受難の神秘）〈火・金曜日〉、栄え（復活の神秘）〈日・水曜日〉そして新しく加えられた光（啓示の神秘）〈木曜日〉の四神秘それぞれに五つずつ、計20の黙想から成り立っています。

【一連】主の祈りを1回、聖母マリアへの祈りを10回、結びに栄唱を唱えます。

【一環】五連、すなわち各神秘の五つの黙想をおこなうとき。

【一本】四神秘すべて、すなわち二十連続けるとき。

ロザリオの最初に使徒信条をとなえ、主の祈りを1回、聖母マリアへの祈りを3回、栄唱を1回唱えます。

何はともあれ、まず唱え始めてみましょう。心配しないで、初めのうちは祈り方をよくご存じの方にたずねながら行っていくのがよいでしょう。

御言葉は太棹（ふとざお）に乗って
熊本

イエス・キリストの生涯を人形浄瑠璃で演じる「ゴスペル・イン文楽」が12月1日（日）、熊本市の鶴屋ホールで開催された。主催は熊本市内の超教派の人々によって結成された実行委員会。公演は昼・夜2回行われた。この日の公演は古典の「傾城阿波の鳴門」（巡礼歌の段）と「イエスの生誕と十字架」の二部構成。「イエスの生誕と十字架」は1999年に大阪で初上演された。受胎告知からイエスの誕生、その生涯をたどりつつ、十字架の死と復活までを表現した内容である。

「福音」と日本の古典芸能「浄瑠璃」の出会い、その深い味わいが観衆の心をぐっと掴んだ。今回の熊本公演に際し、実行委員会事務局長として尽力した伊津野拓也氏（武蔵ヶ丘教会）による報告。

この度の公演で、私たちはたくさんのお恵みをいただきましたが、なかでも日本の風土、文化に根ざした宣教の大切さ、有効性を肌身で感じさせていただき、そしてプロテスタントのみなさんと一緒に実行委員会を組織し、同じ神を戴く者同士が一体となって、成功の喜びを分かち合えたことが貴重な体験でした。

クリスチャン義太夫、豊竹英大夫（本名＝林雄治氏、アッセンブリー・オブ・ゴット教団会員）の、賛美歌ならぬ賛美文楽の取り組みを新聞で知り、ご本人とコンタクトが取れたのはその1年後でした。

林氏の誠実な人柄は電話の先からも分かりましたが、費用や観客の動員をどうするか未知の難問も多く、市内カトリック5教会で毎年行っている「キリスト教市民セミナー」の一環として何とか実現させたいと実行委員会の結成へ漕ぎ付けたのは昨年4月でした。

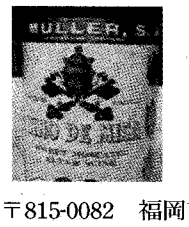
話題性があったからでしょうか、地元紙の熊本日日新聞が2度も前記事を掲載してくれました。このことは観客動員に成功した大きな要因となりました。

義太夫節と太棹（三味線）の音に合わせ、人形の芸術的なアクションを目の当たりにして約千人、その3割余りが一般の文化愛好者でした。鑑賞できるのは、普通250人程度の小ホールです。採算性の制約のなかで思い付いたのが、文楽では初めてという大型スクリーンの映像でした。幼いイエズスを抱き上げて「この人こそー、世の罪を購わんと人となりてー」と頬ずりされる着物姿のマリア様の大写しは、まるで生きた者のよう。それにしても独特の太棹の音色に乗ってキリストの御言葉が語られ、さらに人形がぴたりと呼吸を合わせて動く時の感動はどこから来るのでしょうか。きっと私たちのDNAの中に深くすり込まれた何かの感性がうごめいたからに違いありません。

英大夫は54歳。芸の完成を目指して今なお修練の道を歩む人ですが、その中で自らの芸をそのまま神に捧げる姿勢には敬服します。いま英大夫の希望は、このゴスペル・イン文楽を全国で演じることで、「いつかはローマ法王の前で演じてみたい」とおっしゃっていました。

昼夜2回の公演の入場者は合わせて約千人、その3割余りが一般の文化愛好者でした。

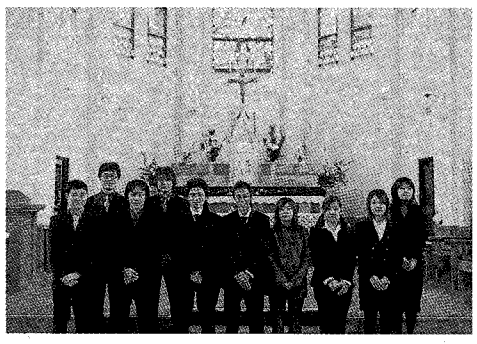
むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

共同体の後継者の成長を感謝する成人式

里帰り組も集った　久留米



久留米教会（三村邦明神父・田中重治神父）では、1月1日（水）神の母聖マリアの祭日のミサの中で、当小教区に所属、あるいは里が久留米という青年を迎え成人式のお祝いを行った。

ミサを司式した三村邦明神父は説教で、自分が青年時代に洗礼を受けた体験をもとに、「あなたたちのいただいたカトリックの信仰は本物で、とても価値があるもの」と青年たちに語った。ミサの終わりに共同体の前で一人ひとり紹介され、一緒にミサをささげた司祭が青年たちを祝福した。

続いて青年たちが、神様と親、教会への感謝とこれからの決意を述べた。記念には、みことばに導かれていくようにと聖書が手渡され、本人よりも家族の人が喜ぶ姿もあった。青年を代表して挨拶した棚町祐作君は、一同に感謝を表し、これから久留米教会のために仲間と一緒にがんばりたいと述べ、その姿はとても頼もしかった。

ミサ後、青年たちは笑顔で記念の写真撮影に臨み、久しぶりに顔を合わせた同級生と互いの近況を話していた。また家族も彼らを笑顔で見守った。参加した信者は、「これほどたくさんの青年が一緒に成人式を祝えたことはとてもうれしい。彼らが次の教会を担っていくんだなと実感が湧き、希望が見えました」と感慨深げに話していた。

教会学校の卒業生が集った　大名町

1月12日（日）、大名町教会（青木悟神父・浦川務神父）では主の洗礼のミサの中で新成人の祝福式が行われた。3人の青年が新しく成人の仲間入りをした。主日のミサ中、最前列に緊張して座っている3人に、親しみを込めた喜びの目線を向ける先輩信徒の笑顔が多かった。3人がこの共同体の中で生まれ、洗礼を受け、教会学校で学び、堅信を受け、誉められたり、叱られたりする姿を見てきたからだろう。彼らを見守る家族の姿がすぐ後ろの席にあった。

ミサ後に設けられた祝賀会で信徒会長は「みなさんの御両親は、いまこの教会のなくてはならない存在として奉仕してくれています。今日は、立派な後継者ができたことを大変うれしく思っています。立派な大人の信徒になってください」と激励。3人は「さぼりがちだったミサにこれからは頑張って参加しようと思います」という応えに会場は拍手。すがすがしい成人式となった。

ねばり強く生きて と、もちつき大会　北九州

1月5日（日）北九州地区の成人式が小倉教会で行われた。当日は朝から雪がつもり、この冬一番の冷え込みだったが、新田原、小倉、黒崎、水巻などの教会から成人も含めて、約20人の青年たちが集まりミサを捧げた。その後、小倉教会の信徒の皆さんの協力のもと、もちつきを開催した。

成人たちはもちつきの経験はあまりないようで、腰の入り方がいまひとつだったが、小倉教会の年輩の方々に教えてもらいながら、なごやかな雰囲気の中で杵を振るっていた。

深刻な不景気で先の見えない時代、この逆風の中をねばり強く希望を失わずに生きてほしいと願うものである。

福岡教区正義と平和委員会が勉強会 キリストの夢と出会う ―教会と社会―

福岡地区正義と平和協議会主催の講演会が、1月19日、カトリック大名町教会講堂で開催された。講師は大阪大司教区補佐司教・日本カトリック正義と平和協議会会長の松浦悟郎司教。福岡教区各地から100余人が参加した。

テーマは『キリストの夢と出会う ―教会と社会―』。松浦司教は講演の冒頭で「人間尊重の文化・人間活動が行われるために、私たちがイエスの目指したものに向かって歩んで行くことができたら」と語り、教会は何のために世界につかわされているのか？―それは、神と人がひとつになって生きるためであることを思い起こさせた。

まず私たちにとって、どこに身を置いてものごとを見ているのは、丹田呼吸法や声に出して名文を読むといった鍛錬です。鍛錬は確かに癒しよりも浅いレベルの対応です。それが大きな効果を発揮するのは結局、それほど大きな問題を抱えていない人だとも言えるでしょう。

鍛錬と癒し

しかし、常に深いレベル、つまり癒しのようなレベルで問題をとらえようとすると、特に問題がないと思われている人たちは置き去りにされてしまうのではないでしょうか。

誰でも本当は深いレベルの問題を抱えているものだということを否定するのではありません。そうなのかも知れない。そうでしょう。しかし、今その人に必要なのは癒しよりも鍛錬だというケースは必ずあります。

斎藤さんのレッスンの映像を見ると、確かに今まで放置されてきた子どもの意欲に正面から応えているという気がします。これで自信をつけて成長していける子どもは相当いるはずです。人数のほどは教育現場を知らない私には分かりませんが。

キリスト信者で物事を考える人にも、常に深いレベル、つまり癒しのレベルで考えようとする人が多いような気がします。しかし、わたしたちは鍛錬も必要としているのではないでしょうか。現状は、鍛錬も訓練もない信仰や善意で重大な問題に立ち向かおうとしているのではないでしょうか。

教会が傷ついた人の癒しの場であってほしいと思います。しかし同時に、信仰生活の鍛錬の場でもあってほしいと思います。もちろん、よく実効性が考え抜かれた鍛錬のことです。

（御受難会司祭）

来住英俊神父

信頼できると思った著者の本はできるだけ集めて読むことにしているので、『声に出して読みたい日本語』の斎藤孝の本を全部読みました。それで考えさせられたのは、「浅い対応」と「深い対応」ということです。

斎藤さんが子どもに薦めているのは、丹田呼吸法や声に出して名文を読むといった鍛錬です。鍛錬は確かに癒しよりも浅いレベルの対応です。それが大きな効果を発揮するのは結局、それほど大きな問題を抱えていない人だとも言えるでしょう。

しかし、常に深いレベル、つまり癒しのようなレベルで問題をとらえようとすると、特に問題がないと思われている人たちは置き去りにされてしまうのではないでしょうか。

誰でも本当は深いレベルの問題を抱えているものだということを否定するのではありません。そうなのかも知れない。そうでしょう。しかし、今その人に必要なのは癒しよりも鍛錬だというケースは必ずあります。

斎藤さんのレッスンの映像を見ると、確かに今まで放置されてきた子どもの意欲に正面から応えているという気がします。これで自信をつけて成長していける子どもは相当いるはずです。人数のほどは教育現場を知らない私には分かりませんが。

キリスト信者で物事を考える人にも、常に深いレベル、つまり癒しのレベルで考えようとする人が多いような気がします。しかし、わたしたちは鍛錬も必要としているのではないでしょうか。現状は、鍛錬も訓練もない信仰や善意で重大な問題に立ち向かおうとしているのではないでしょうか。

教会が傷ついた人の癒しの場であってほしいと思います。しかし同時に、信仰生活の鍛錬の場でもあってほしいと思います。もちろん、よく実効性が考え抜かれた鍛錬のことです。

（御受難会司祭）

BOOK 読みは専科

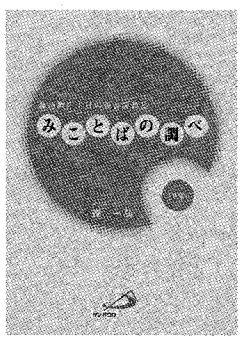
★ナディアと灰色のおおかみ
松居　友　作
ふりや　かよこ　絵

お母さんが重病で入院したので、お父さんはナディヤをお母さんの生まれ故郷チロルのおじさんの家にあずけました。たんぽぽの咲く頃迎えに来るというお母さんの約束を信じて過した山の生活には不思議なことがいっぱい！

元気いっぱいの、もうひとりのアルプスの少女ナディヤの物語。

女子パウロ会　発行
本体　1400円

◇　◇　◇



★みことばの調べ（B年）
…主日の福音説教集…
森　一弘　著

主日の福音を分かりやすく、コンパクトに生き生きと！森司教ならではの味わい深い言葉を通して、神の愛が心にしみわたります。日曜日のミサの友として、勉強会などのテキストとしても最適です。ネット版・みことばの調べも好評連載中です。

サンパウロ発行
本体　1000円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811−7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092−526−9176

マリアと共にキリストの道を歩こう！

熊本地区神学講座

2月16日(日) 子育ての神学論　川添猛神父
今回のみ13：30に開講します。*
2月23日(日) 傾聴の神学論：スピリチュアルカウンセリング　W.キッペス神父
3月9日(日) 信徒と霊性　松永久次郎司教
3月9日(日) 神学講座の総括　松永久次郎司教
会　場：カトリック手取教会
時　間：13：00～16：30
問合せ先：☎ FAX 096-352-1515／携帯09086644039
手取教会　日向までご連絡下さい。

ボランティア募集

【2月中の越冬炊き出しにご協力を】
日　時：2月中の毎週火曜日と金曜日
場　所：カテドラル大名町教に集合
時　間：炊き出しボランティア13時30分～16時
配布ボランティア20時30分集合
※献品［米、ホッカイロ、アルミホイル、サランラップ、毛布］も受付中です。
献金へのご協力もお願いします。
主　催：大名町教会2月の熱いスープの会(佐田)

黙想会のご案内

日　時：2003年2月23日(日) 13時～16時
場　所：サンパウロ福岡センター3階ホール
内　容：講話とミサ
講　師：桑島　啓吉神父（聖パウロ会司祭）
参加費：自由献金
主　催：聖パウロ協力者会・聖パウロ修道会
問合先：聖パウロ修道会ブラザー牧山忠治
☎092－721－2031
※どなたでも参加できます。

平和を共に考える佐賀の集い

日　時：2月11日(火) 14時～16時
会　場：佐賀カトリック幼稚園講堂
演　題：曲がり角の日本
《平和国家か、参戦国家か》
講　師：畑山敏夫氏（佐賀大学経済学部教授）
参加費：無料
主　催：佐賀カトリック正義と平和協議会
問合先：☎ 0952-30-9015　森内慎一郎

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　2・3月

◇10日(月)～11日(火)　聖母カテキスタ会
御受難会きょうだい会
サン・スルピス神学生黙想
◇12日(水)　ミカエル会
◇14日(金)　宗像和善の聖書
◇15日(土)～16日(日)　山口・島根信徒養成研修会
◇17日(月)～18日(火)　九州ブロック・カトリック児童施設協職員研修会
◇20日(木)～28日(金)　修道女のための黙想会［募集中］
3月
◇3日(月)　日本キリスト教団説教セミナー
◇24日(月)～29日(土)　オブレート会総会
◇29日(土)～4／1(火)　オブレート会会議
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

指　導：Sr.マリアと S.フランコ神父
※祈りの集い
・2月12日(水) 10時～15時
テーマ：聖書を味わって祈る
・3月13日(木) 10時～15時
テーマ：聖書を味わって祈る
［問合先］
・生命山カトリック別院
☎ 0968-85-3100
FAX 0968-85-3186

マグリン神父によるゆるしの秘跡

日　程：毎月第1と第3土曜日
場　所：大名町カトリック教会小聖堂

2月のこよみ

2日(日)　主の奉献
†マテオ山川辰幸［二日市教会2002］
4日(火)　2002年度第2回司祭評議会（カテドラル10時半）
5日(水)　日本26聖人殉教者
松永久次郎司教　司教叙階25周年記念日
6日(木)　聖アガタおとめ殉教者
9日(日)　年間第5主日
11日(火)　ルルドの聖母　世界病者の日　建国記念日
松永久次郎司教司教銀祝の集い［カテドラル11時］
14日(金)　†J.オマラ［荒尾教会1974］
16日(日)　年間第6主日
†J.ボア［黒崎教会1957］
22日(土)　聖ペトロ使徒座
†F.ベルトラン［門司港教会1940］
23日(日)　年間第7主日
老司教会堅信式
†パウロ糸永武男［今村教会1992］
26日(水)　今村信徒発見記念日（136年目）
†F.ドルエ［八王寺教会1983］
†G.オーブリ［大神学院院長1985］
28日(金)　†マルチノ青木保［浄水通教会1997］
3月
2日(日)　年間第8主日
†R.ミケレ［鹿島教会1988］
†J.オブライエン［手取教会1990］
5日(水)　灰の水曜日（大斎・小斎）
四旬節愛の献金（四旬節中）
9日(日)　四旬節第1主日
ゴチックは司教日程

福岡

■福岡祈りの集い
［日時］毎週月曜11時～12時30分［場所］カトリック大名町教会［内容］聖霊による祈り［問合先］☎092・522・5139ブラザー床嶋

■生と老い死を見つめる会
［日時］2月2日(日) 14時から［場所］カトリック大名町教会［内容］生と死を取り巻く現代医療［講師］三木浩二医師（小倉記念病院）［参加費］会員500円・一般700円［問合せ先］☎092・713・8523大山／607・6992村尾　次回4月6日

■召命祈願ミサ
［日時］2月6日(木) 19時15分［場所］サン・スルピス大神学院［主式］堤敏雄神父（大楠教会主任）次回4月10日

■第33回典礼聖歌研修会
［日時］2月9日(日) 13時から［場所］大楠カトリック教会［講師］深堀純氏（大名町教会信徒）［参加費］自由献金［問合せ先］☎092・623・5023有馬

■召命を共に祈る会
［日時］2月20日(木) 14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）

■福岡地区婦人会勉強会
［日時］2月20日(木) 9時30分［場所］カトリック大名町教会［テーマ］高齢者の心の理解と関わり方［講師］野島一彦氏（九州大学大学院人間環境学研究院教授）

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］2月27日(木) 13時から［場所］聖クララ寮聖堂（南区塩原）［内容］聖母マリアの祝日のミサ曲［講師］坂田孝子氏［参加費］自由献金［問合先］☎096・380・5686堺

■在世フランシスコ会集会
［日時］2月23日(日) 14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■第22回福岡ホスピスの会
［日時］3月9日(日) 14時～16時［場所］カトリック大名町教会4階［テーマ］在宅ターミナルケアについて［講師］平野頼子氏（福岡市医師会訪問看護ステイション管理者）［問合せ］☎092・534・5647小林

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、毛布・冬物男性用衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付を待っています。また、火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者を募っています。［問合先］☎コース神父 092・431・1419

■第90回福岡結婚準備講座
［次回］5月10日(土)から6月4日(水)毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分［場所］大名町カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎092・522・5022カトリック・ファミリーセンター

北九州

■小倉祈りの集い
［日時］2月21日(金) 13時30分～15時［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわう賛美と感謝の祈り［指導］B・ガブリエル神父（御受難会）［問合先］093・452・1556安藤

■聖書講座入門編I
［日時］2月16日(日)から［場所］カトリック小倉教会［指導］森山信三神父（戸畑教会主任）［内容］聖書とは何か？［主催］北九州地区信徒協［問合先］☎093・491・4981松尾隆

佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］2月12日(水) 10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］「詩編」を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］「詩編」を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南
7536吉田［次回］2月22日(土) 10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4土曜日。どうぞご参加下さい。

熊本

■第71回熊本結婚準備講座
［日時］5月6日(火)から6月2日(日)毎月曜日と火曜日全8回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎096・352・3030 FAX 096・352・1515手取教会　安部

訃報

シスター　カタリン白田うた

1月2日、幼きイエス会（ニコラ・バレ）のシスターカタリン白田うたが帰天。享年105歳。
シスターは1897年に誕生。1922年に入会。1926年11月23日に初誓願宣立。76年あまりにおよぶ奉献生活をまっとうした。いつも前向きで明るい性格のシスターに、共同体の姉妹たちは学園のためなどお祈りをお願いしていた。祈りの生活は病床に臥してからもたえず続けられていた。

お知らせ

2月11日（火）の東光町ルルドのミサは、松永司教様銀祝ミサのためお休みします。

編集後記

司教館には大小数本の梅の木があります。梅の花は長く楽しめるからいいですね。パソコンの画面から目を移して、窓越しにふと外の景色を見やると、「ちょっとこっちへ出ておいでよ」と呼んでいます（エッ、ホント？）。
私の場合、それがちょっとで済まないことが多いのですが。自然は思いやりが深いですね。人間は忘れても、彼らは人間が仲間であることをおぼえていてくれるのですから。
寒暖の入れ代わりが激しいこの冬ですが、元気に春を待ちましょう！

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 城戸隆秀

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般】赦しの秘跡

【布教】アフリカの地方教会

【日本の教会】世界の富の均衡

松永久次郎司教　司教叙階25周年を祝う
銀祝記念ミサに1000余人が参集

2月11日（カテドラル）

2月11日（ルルドの聖母の記念日）11時から、教区長ヨセフ松永久次郎司教の司教叙階25周年感謝ミサが、カテドラル大名町教会で行われた。福岡教区神の家族の父の記念を共に祝おうと約千人が集った。長崎教区からも代表の司祭が駆け付けた。松永司教主司式でささげられたミサで、司教みずからの感謝の祈りに合わせて、参加者一同の感謝とよろこびが聖堂いっぱいにこだました。

紋章と司教の標語が掲げられた祭壇で共同司式に臨む松永司教

教皇からの祝辞も

拝領祈願後、祝賀式典が行われ、最初に子どもたちが、『とびたとう』（教区創立75周年記念感謝の集いテーマソング）を元気いっぱい明るい声で合唱のプレゼントをした。

次に教皇ヨハネ・パウロ二世からの祝辞が、山元眞神父（行橋教会主任）によって代読された。続いて司祭団を代表して司教総代理の川上惣一神父、信徒を代表して山崎昌典氏（糸島教会信徒）が祝辞を述べた。続いて、教皇庁福音宣教省長官クレセンツィオ・セーペ枢機卿、駐日教皇庁大使アムブローズ・デ・パオリ大司教からの書簡をはじめ、前教区長平田三郎司教、その他各方面から寄せられた祝電が披露された。

ミサ開始を告げる鐘の音が響き渡り、侍者団を先頭に、神学生、助祭、約70人の司祭、最後に松永司教が入堂した。25年の歩みをかみしめるような面持で祭壇まですすんだ。

松永司教は、教皇パウロ六世により、長崎大司教区の里脇浅次郎大司教（後に枢機卿）の補佐司教に任命され、1978年2月5日、浦上教会で司教に叙階された。13年間の長崎教区での奉仕の後、1990年、教皇ヨハネ・パウロ二世により福岡教区第5代教区長に任命され、翌91年1月15日に着座した。以来、福岡教区3万余人の信者の父として、この地に神の国を打ち立てる使命を遂行していくために必要な恵みを祈り、励ましをおくり続けている。

感謝ミサの説教で、司教は、「私の司教叙階25周年の記念に、皆さんが心をこめて、こんなに沢山お祈りしてくださり、ご厚意を示してくださったことに深く感動させられました」と感謝を述べ、自らの奉仕をふり返り、ヨハネ福音書のパンの増やしの場面を思い起こしながら、「私たちにできることは、持っているわずかなものを、神の偉大な力への信頼のうちに真心こめてささげることである」と語った。

最後に、教皇様が、ロザリオの年と宣言されたこの時にあって、古くから伝わるロザリオの祈りを新鮮な気持ちで熱烈に唱えていこうと呼びかけた。そして「マリア様の助けのもと、神の摂理の中に身をおきながら、人々に対して恵みの伝達者となるよう、これからも自分を役立てていきたい」と結んだ。

共同祈願では司祭、修道女、青年、子どもの代表者によって松永司教のため、あつい祈りがささげられた。

3月5日
灰の水曜日
四旬節

「放蕩息子」ムリリョ作

キリストの受難に与り、復活祭への準備をする四旬節。信者にとって、洗礼の恵みを思い起こし、その恵みによりよく生きるための回心と償いの時、また洗礼志願者にとっては入信のための特別な準備期間です。松永久次郎司教は四旬節教書『ロザリオの年』を出されました（2面に掲載。なお全文は別刷りで各小教区に配付します）。

全教区内に信徒使徒職協議会の呼びかけで続けられていた司教への祈りが、一つの花束として合わされ、美しい装飾が施された台紙に書き留められ、司教に贈られた。

全教区民の祈りの花束（台紙はカルメル会製作）

寺濱亮司神学生
助祭叙階式ミサ

日時：3月21日（金）11時
場所：カテドラル大名町教会
※助祭に叙階されるペトロ寺濱神学生のためミサに参加し共にいのりましょう。

歓び溢れる祝賀会

ミサの後、会場を移して祝賀会が催された。来賓の祝辞では、長崎教区の橋本勲神父が「福岡教区が松永司教を中心に一つの家族として成長している姿を目にして喜ばしく思います」と述べ、続いて修道女連盟会長のシスター松本鶴子（礼拝会）が「この25年間、激動する社会、教会の中にあって、司教様は聖霊に開かれた心で神様のみ前をただひたすら誠実に、忠実に、そして勤勉に歩んで来られました」と語った。そして司教による祈りの後、会食に入った。

また教区信徒使徒職協議会、教区修道女連盟、司祭団や婦人会から記念品、花束などの贈呈が行われた。

司祭評議会開催
新年度の教区行事などを検討

2002年度の第2回司祭評議会が2月4日、大名町教会3階会議室で開催された。教区長松永久次郎司教と評議員18人の司祭が参加した。

会議に先立ち、松永司教は、「今年度最後の会議であり、区切りをつけ、次に結ぶよう、心を開いて討議して欲しい」と述べた。

松永司教の標語は「キリストの満ちあふれる豊かさに達するまで」（エフェソ書4章13節）。救い主イエス・キリストをあおぎながら、その満ちあふれる豊かさに達するまで、司教と心と力を合わせて歩み続けたいものである。

議事に入り、まず6月に予定されている司祭研修会について話し合われた。次に教区邦人司祭黙想会について、10月13日（月・体育の日）19時30分から始まり、10月17日（金）15時の講話をもって終了することが決まった。また、現評議員の任期は本年3月31日までとなっており、近く実施される司祭評議員選挙についても討議がなされた。

教区の行事予定としては、寺濱亮司神学生（久留米教会出身）の助祭叙階式が、3月21日（金・春分の日）11時からカテドラルで行われることが報告された。また、2003年度も聖霊降臨の主日に、14時からカテドラルで教区合同堅信式が行われることが決定した。

4月からはいよいよ宣教司牧評議会が始動する。また聖体奉仕者準備委員会からは、聖体奉仕者養成への取り組みの先進的な教区や地区などから資料を収集していることが報告された。

臨時の司祭評議会の必要が提示され、新評議員選出後の5月に開かれる予定である。

時の話題

Br.牧山　忠治

教皇庁列聖省は、昨年12月20日、尊者ヤコブ・アルベリオーネ神父の取り次ぎによる奇跡を認定する教令を発布した。アルベリオーネ神父は、聖パウロ修道会、聖パウロ女子修道会、師イエズス修道女会、他2修道会と4つの在俗会（パウロ家族）を創立した。

4月27日、聖ペトロ広場で、5人の方々と共に列福されることも発表された。

アルベリオーネ神父は、1884年北部イタリアの貧しい農家に生まれた。

創立者の列福によせて

16歳でアルバの大神学校に入学。1900年12月31日の世紀を分ける深夜の聖体礼拝は、将来生まれるはずのパウロ家族の固有の使命と霊性に決定的な夜であったと書き記している。

1907年、23歳で司祭叙階。1910年アルバ教区新聞を委託され、この時の印刷事業は、後のマスコミ使徒職への使命の道を開いた。当時のイタリア社会は、マルクス社会主義にそまりつつあった。反対者たちが使いまくっていた出版に目をとめ、出版には出版を、組織には組織をもって対応していく義務、大衆の中に福音を浸透させる必要をアルベリオーネは強く感じた。そのことが本会のマス・コミュニケーション使徒職の基礎となっている。近代で日本に足跡を残した人は、聖マキシミリアノ・コルベ、マザー・テレサ、一般にはあまりメジャーではないが、アルベリオーネ（彼は1949年から1963年まで4回日本を訪問した）。こうした聖人・福者を見、彼らに聞き、触れた人が数多くいる。改めて彼らを思い起こし、日々の生活に活かしてゆきたいものである。（聖パウロ会士）

みちくさ

駆け引き。これは政治の世界、特に外交をめぐっては必ず備えていなくてはならない能力のようである。昔からかけたり引いたりが苦手で、まして割り切って考えることもなかなかできない自分には、到底無理な話。と、普段ならさらっと通り過ぎてしまうところなのだが…▼駆け引きに長けるには、時機を見抜く目を持っていなくてはならない。また駆け引きには相手の出方をさぐるという、スリリングな一面がある。自分をひたすら隠し通すことではない。相手に隙を見せない、相手にも隙を与えないということでもない訳だ。そういう意味では相手と必死に関わろうとする態度なのかもしれない。さらに状況が自分の有利になるようにと、たえず計算し直すことはもちろん、巧みに態度を変える妙技も磨いておく必要がある▼実際、大舞台でこれを演ずるとなればよほどの体力、精神力がなければできない。それに、ここに来て、何だかんだ言って自分も小さい駆け引きなら結構やってのけていることに気が付いた。しかも、およそ見当違いの相手に対してよく用いているのだから、まったく、気が引ける▼駆け引きに満ちた世界はとにかく大変そうだ。そのことを考えてみただけで疲れてしまった。私たちには、駆け引きなく向き合うことのできる間柄がぜひとも必要なのだ。ありのままの姿で、素直に心を開くこと。そうするにはあまりにみじめな、みにくい自分だけれども。互いに弱さを認め合い、それを受けとめ、ゆるし、ゆるされることから生まれる何かが、きっとあるはずだ。（み）

2003年　四旬節教書

ロザリオの年

ヨハネ・パウロ二世教皇は、2002年10月からの一年を「ロザリオの年」と宣言されました。

一、ロザリオはマリアの学び舎の祈り

単純でありながら深みのあるこのロザリオのお祈りは、「マリアへの祈り」によって組み立てられており、マリアの心を想い出させます。これはマリアが教えてくれるお祈りであり、「社会を害する悪と戦うための効果的な霊的武器」と考えられ、教会のいろいろな時代に大きな力を発揮しました。わたしたちも今、多くの困難を抱えていますが、どうしてわたしたちは前の時代の人々と同じ信仰をもって、今一度ロザリオを手にしないのでしょうか?このロザリオのお祈りをわたしたちの霊的武器として正しく用いるようにいたしましょう。

ところで聖ルカ福音書に、「マリアはこれらの出来事を全て心に納めて、思い巡らしていた」とあります。真に、マリアの眼は常に御子イエスに向けられていました。そこでマリアは種々思い巡らしてお祈りを添えておられました。だから、地上の生涯を通じてマリアがたえず唱えておられたお祈りはロザリオのお祈りだったとも言うことが出来ます。このマリアの模範に従うのが、わたしたちのロザリオだと言えるのです。

二、マリアの祈りは何時もキリストへの祈り

マリアの眼は何時も御子キリストに向けられていました。マリアの祈りはキリストの神秘を思い、それを生きることでした。マリアは常にキリストの救いのみ業を観つめておられ、人間の救いの完成を願っておられました。ある意味でマリアのお祈りは、キリストのお祈りそのものなのでした。

ヨハネ福音書、カナの婚礼の場で、マリアは召し使いたちに、「この人が何か言い付けたら、そのとおりにしてください」と言われました。キリストの心に従って行動する、それがマリアの心だったのです。人間の救いのため、キリストの願いが完全に実現されたということがマリアの御心だったのです。

マリアは、いつもはキリストの陰に隠れてあまり姿を表されません。しかしキリストが何をなさっても、それを観ておられるマリアの姿がありました。パパ様はこの度、今までの一五の神秘に加え、五つの「光の神秘」を付け加えられましたが、わたしたちもその神秘を深く黙想しそれに学ぶようにいたしましょう。

三、キリスト者を豊かにする祈り

ロザリオは、マリアと共にキリストを思い起こすお祈りです。マリアを通してキリストを学ぶことです。マリアは常にキリストのものでした。キリストに於いて実行されるすべての救いの神秘を観ておられました。このマリアに導かれてわたしたちはキリストの救いの神秘を学ぶのです。キリストのことを深く学ぶために、マリアの学び舎に入るのです。ゲッセマネの園でのキリストから、悲しみの神秘に教えられてキリストの悲しみの心を学びます。十字架の道でのキリストの苦しみを前にして、マリアと共にその苦しみを味わいます。そして、このマリアを通してキリストの神秘に近付く者は、キリスト者としての神秘に深く与る者となります。ここに於て、キリスト者はキリストに似たものとなり、こうしてキリスト者の姿は豊かにされるのです。

また、マリアは救いの喜びにも与りました。マリアはキリストのご復活の朝、復活のキリストを見る喜びに充たされ、また聖霊降臨の日、新しい命の働きで一杯となりました。そして教会の宣教の発展を眼にされるのです。救いの秘義全体は最終的には神からの救いの喜びに満ち溢れたものでした。この救いの喜びがロザリオの祈りに充ちています。

四、ロザリオの祈りは平和のための祈り家族のための祈り

現代のキリスト者は、特に世界の平和のための働き手であることが求められます。ロザリオの祈りによって、わたしたちは自分が平和のために働く務めを受けていることを教えられ、そのために特別の力をいただくことが出来ます。これもまた、ロザリオの祈りの特徴と言うことができましょう。

また現在、特に要求されるのは真にキリスト教的な家庭の存在です。そして、子どもたちと共にロザリオを捧げる家庭こそ、真にキリスト教的な家庭と言うことができます。キリストの神秘が少しづつ豊かにされ、信仰の心が深まって行きます。若い時、子どもたちにとって、ロザリオの祈りは始め、そんなに楽しいものではないでしょう。しかし、繰り返し唱えるとき、わたしたちの心を信仰の暖かさに導きます。東方教会でも、日本の伝統的な宗教においても、繰り返し唱える同じ言葉が心の安らぎを与えているのは、一つの宗教的事実ではないでしょうか?「ロザリオ」の単純な祈りは、人生のリズムを刻むとも言われます。いろいろな時に捧げられるキリスト者のロザリオは、マリアを通してキリストと共に歩むことであり、キリスト者の美しい生活のリズムとなります。

わたしは、信者の個人がそしてその家族が、またそれぞれの共同体がロザリオと親しむようになることを希望いたします。そして聖母マリアの御取り次ぎによって必要なすべてのお恵みをいただくことができるよう心から願っています。

福岡教区長
ヨセフ　松永久次郎

松永司教に教区広報部がインタビュー

キリストの満ちあふれる豊かさに達するまで

司教叙階25周年を目前にした2月10日、編集部では松永司教様にインタビューを行った。司教執務室にてインタビューに快く応じてくださった。

司教叙階25周年、おめでとうございます。現在の心境はいかがでしょうか…。

25周年ということで特別な思いはないのですが…。私のために沢山の方々がお祈りをしてくださっているということで、感謝しています。どうかこれからも祈り続けてください。

これまで心がけてこられたことは何ですか。また、司教様が標語としておられるエフエソ書の4章13節「キリストの満ちあふれる豊かさに達するまで」のことばについて教えてください。

悩まないようにすることですね。平凡なことを平凡な一人として平凡に生きること、これが私のモットーです。

足りないところがあれば他の人が助けてくれる。私ができないこともきっと仲間が一緒になってやってくれると思います。

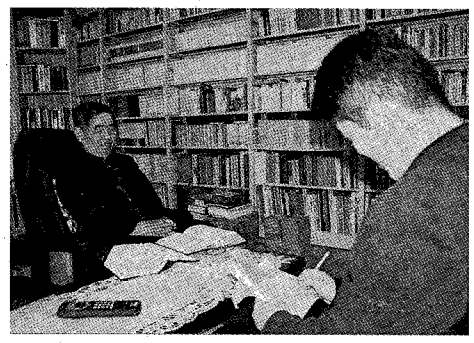
また、標語についてですが、キリストの大きさは、私たちが目指す、目指そうとするものだと思うんです。私もすべての人のために、キリストのみちみちた背丈に達することができるようにと願い、つとめています。

司教様が司祭になられたきっかけは何ですか…。

私の場合、それはきっと私の親がそのように育ててくれたことにあると思います。司祭は自分の力の足りなさを悟ると同時に、神様の力によってすばらしいことを行うことができるんです。私はそれを楽しみにしています。だから、これから司祭を目指そうとする人にぜひ味わって欲しいですね。司祭であってよかった、そう思う時がありますよ、きっと。

福岡教区の信者に期待することは…。

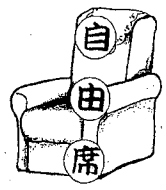
司教、司祭、信者に聖霊は直接働きかけておられます。聖霊に導かれ、その働きにしたがっていって欲しいと思います。



どうもありがとうございました。

苦しみの時に思う

渡辺　昇



日々の生活の中で、苦しみや悲しみに遭遇して、辛い時を過ごす事があります。その時、私が日頃、考えていることを述べてみたいと思います。

苦しみ、悲しみや悩みを抱えている時、それを自分の努力や忍耐力で解決できれば自分を大きく成長させ、自信をつけたり、他の人を勇気づけたりします。またそれを経験することで、人にも優しくなれます。従って苦しみや悩みに出合う時、自分の成長のために乗り越えるべきハードルだと思って、克服できるように最大限の努力をすることが望まれます。

しかし、苦しみや悲しみが過ぎ去るのを耐えて待つ事ができない場合があります。自分の力で解決する事が難しいと思われる時は、素直に神に助けを求めて、その十字架を担う勇気と力を願う事が大切だと思います。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ11・28-29)。

人から見放され、無視された孤独の時、失敗してどうにもならないと思う時でも、神は私たちの苦しみをご存知だし、必ず立ち直れるように配慮してくださる筈です。

私の経験を申しますと、まだ勤務していた頃、どうにもならない問題に出合い、幾日も悩みました。家族の者が寝静まった後、家庭祭壇の十字架の前で電燈を消して、一人で30分いや1時間以上、神に祈り、神に語り、尋ねました。「神様、あなただったら、この問題をどう解決しますか。教えてください」と。

神は何も答えてくれませんでした。しかし次第に心が晴れ、担うべき十字架を進んで担う勇気と力が与えられたのでした。しかし次第に心が晴れ、担うべき十字架を進んで担う勇気と力が与えられたのでした。今でもはっきり記憶しています。そして自然に問題は解決しました。神が私を見守ってくれているという確信を持てました。

ある本の中で、「キリストが担った十字架の苦しみこそは、すべての人間の苦しみに意味を与えるのだ」、という事を読んだ記憶がありますが、私もそう思います。

悩みや苦しみの中にいる時『今、自分はキリストと共に十字架を担って、カルワリオの山を登っているのだ』という信念を持つ事によって、苦しみの中にも心の安らぎを覚えるような気がします。

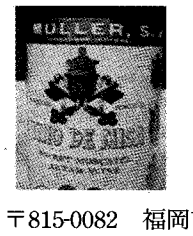
キリストは「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(ルカ9・23)と云われます。

凡人である私には、なぜ、苦しみや悲しみが、私たちの生活の中に存続するのかは理解できませんが、キリスト者として、神の栄光を受けるために、キリストと共に苦しみの道をたどる必要があるのでしょう。

したがって、苦しみや悲しみの生活の中にあっても、キリストと共に歩むとき、失望落胆することなく、神へ通じる希望の光を見いだせるような気がします。

(黒崎教会信徒)

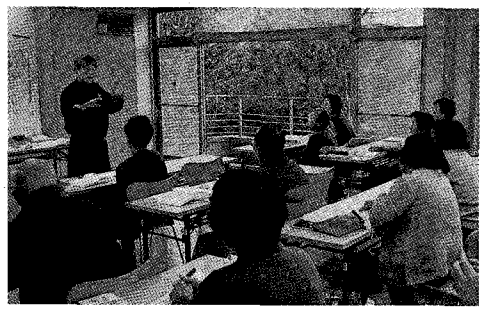
むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室(洗面トイレ付)／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

召命をはぐくむ共同体を目指して

召命を共に祈る会


来住神父の話に聞き入る参加者たち

先日1月22日（水）、23日（木）の両日、福岡黙想の家（宗像）において「召命をはぐくむ共同体を目指して」をテーマに研修会が行われた。この集いは召命を共に祈る会主催で企画された。指導司祭は来住英俊神父（御受難会）。今回の企画は、例年よりも対象者を広げたところ、熊本地区、北九州地区、福岡地区から27人が参加した。内容は①統計から見た福岡教区の司祭の現状、②教会における司祭の役割（あり方）、また、司祭の司牧生活の現実について、③具体的にどのように祈るか、という三本の柱によって構成されていた。

来住神父は祈りについて、具体的なイメージを持ちながら、粘り強く、継続的に祈るようにと話した。特に、祈りの対象者のすぐ側にイエスが手を置き、共に祈り、生きられる姿をイメージして祈るようにと勧めた。参加者の一人は、当初『召命について』というテーマに戸惑いを感じたが、神父の話に感銘を受け、目からうろこが落ちるような思いがした、と語った。

また、「司祭」については、秘跡の執行者、みことばの説教者、神と人との仲介者、第二のキリストを思い出させる信徒のカリスマのコーディネーターということを学んだ。改めて司祭の大切さをよく理解できた。

プログラムに予定されていた野外でのロザリオが、天候不良のため屋内に変更になったが、有意義な2日間だった。

「平和を共に考える2月11日佐賀の集い」が学び

2月11日、佐賀カトリック幼稚園講堂を会場に、佐賀カトリック正義と平和協議会主催の『平和をともに考える2月11日佐賀の集い』が開かれた。約30人が参加した。

時まさにイラク情勢をめぐって緊迫した状況にある中、「平和国家」日本が果たすべき役割について考えた。

集いでは、佐賀大学経済学部教授の畑山敏夫氏が『戦後平和国家の曲り角―非戦国家から参戦国家へ』と題して講演。畑山氏は、憲法第9条という非戦国家のモデルを鮮明にして戦後再出発した日本が、いま戦争加担国家へ転向しつつあると警鐘を鳴らした。戦争の記憶が遠く薄れてきている今日、有事3法案（自衛隊法改正、武力攻撃事態法、安全保障会議設置法改正）の整備はそのプロセスを完成するものだと指摘した。

畑山氏は、今こそしっかりとした「非戦」への視座を持とうと呼びかけた。今、世界には国境を越える市民が登場している。情報と知識、行動はグローバルに展開され始めている。世界が平和にならなければ、日本が平和になることもありえない。イラク問題に関連して「米国の要求のもとに国際的軍事戦略の片棒を担ぎ続ける行為は有事法制につながる。単に反対ではなく、国際平和実現のために対案を提起していく必要がある」と語った。

野宿労働者支援活動今年も！

支援活動に出発を前に打ち合せ中のボランティア

福岡市内の野宿労働者を対象とした炊き出しが、今年も2月中の火曜日と金曜日に大名町教会を中心に行われた。数年前から野宿者の数は増え続けており、今年は多い時で470人分の準備を必要としている。地区婦人会を中心とする調理ボランティアの方々によって心を込めて作られたおにぎりや卵、豚汁を、夜9時から配付ボランティアが配る。15年以上前には博多駅と天神地下街だけだった配付先も、野宿者の増加や駅周辺の追い出し活動などによって、今では市役所周辺や中洲、川端、大濠公園、舞鶴公園など市内各地に広がっている。一方ボランティアについては、今年も泰星学園や明光学園の中高生が参加している他、プロテスタント諸派や外国人の方々も参加され、協力の輪が着実に広がっていることを実感している。

北九州地区の支援

北九州では、15年前、黒崎教会で始まった炊き出しが、カトリックの北九州地区7教会とプロテスタント諸派の合同での活動に発展した。今はNPO法人化し、野宿労働者の自立支援に熱心に取り組んでいる。炊き出しは通年で実施されているが、12月から2月にかけては週1回行われている。調理は各教会持ち回りで実施され、企業からの応援もあり、弁当380食を準備している。活動拠点となっている勝山公園には平均130人の野宿労働者が訪れている。そこでは健康状態の把握につとめるボランティアも活動している。野宿労働者の中には高齢者が目立ち、弁当の受け取りに来ることのできない人もいるため、配付ボランティアが数班に分かれて八幡、戸畑、小倉方面へ巡回している。今年は、不況の影響をまともに受け野宿者の生活状況が、例年以上に苦しくなっている。彼らが無事に冬を乗り切れるよう支援していきたい。

教区創立75周年記念作文募集期間延長のお知らせ

昨年来の教区創立75周年の様々な取り組みに際しまして、教区民の皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

作文コンクールについて、昨年9月末日締切とさせていただき、たくさんのご応募をいただきました。感謝のうちに選考に入り、候補作を推薦いただきましたが、最終的には、作文コンクールの趣旨とともに、今年の7月16日まで続く教区創立75周年のことを鑑み、11月4日の感謝の集いに参加されたり、巡礼指定地訪問や免償をいただいたりされますことで感ずることもあろうかと思い、期間を延長して再応募・選定させていただくことになりました。募集期間は、教区創立75周年の終了する2003年7月16日までといたします。先に皆様からお送りいただいた作品については、そのままお預かりいたします。

ここで今一度、作文コンクールの趣旨とテーマについて確認させていただきたいと思います。

（趣旨）

歴代の司教様をはじめ多くの司祭、修道会、信徒の献身的な努力と聖霊の導きによって、教区創立75周年を迎えたことに対し、教区を挙げて感謝のうちに喜びを分かち合う。

（テーマ）

教区創立記念を契機とし、「信仰の喜び」、「教会・教区の歴史に対する思い」、「信徒としての召命」、「未来の教会、私たちの夢」、「教区の殉教者を偲んで」など。今日までの教区の歩みに対し、感謝や、信仰生活を深めるための信徒としての決意などが伝わるものとしてください。

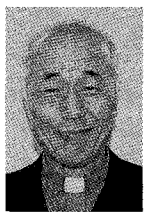
【文字数】　800字以内

【提出期限】　2003年7月16日（水）教区創立記念日

【送付先】　教区創立75周年記念行事実行委員会（司教館気付）

教区創立75周年記念行事実行委員長　川上惣一

ナーサリーの大切さ


乾　盛夫 神父

園芸を楽しむ人が増して来ているようです。苗木をつくるときは、よい花や実がつくようにと、種子から苗まで始めから心を配るそうです。種子は水に沈む位重いもの、双葉は茎と根がしっかりしているものに気を配ります。この時期の世話は、この時のものであって、後で手を加えても間に合わぬからです。また、季節ごとの世話もそれと同様です。

一度播かれた種子は自分で場所を替えることはできず、そこで自分の生命力で成長を計ります。聖書のたとえ話にもあるように、自然にある創造の永い歩みが今も続いていて、生命が受け継がれて来ています。全ていのちあるものは、周りにその準備ができた所にしか存在しません。

人間はこの仕組みの中にもあり、また、それを超えた使命にも方向付けられています。母親に宿されて9ヶ月余り、産み出されて5、6年は特に、この自然の歩みの時です。この間に、親（人）への信頼感や共存への強い愛着心、自分の目や耳、手足などでまなぶ事やそのよろこび、3才にもなると、自分で選び努力する自分らしさへの正直な自覚、自分以外の人々の差異に平穏に対応する社会性などが育ち「受肉」します。一口に云って、自分の本物の体験が実るときであるわけです。この「原体験」と呼ばれる成長の実績は、その後の学習活動に自信をもった創造性を発揮するのに強い土台になります。その時期の歩みはほとんど意識に上って来ませんが、その個人の学習力、生活力として有るのです。

ひとりひとりが与えられている人としての可能性を、まずできる限り土台から充実させ、実現させてこそ、次の発達成長が本人のやり甲斐になるのではないでしょうか。前世紀まで解らなかった子どもの心の発達と霊性の人格的関連が解ってきた現代は、ナーサリーの大事さをもっとよく活かすべきと思います。

（古賀教会助任司祭）

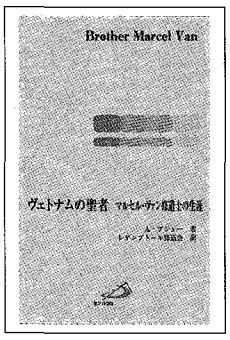
BOOK 読みは専科

★エルサレムよ歓べ！（CD）
復活の賛歌・聖母の晩の祈り
歌・演奏　パリエルサレム修道会
ヴェズレー修道院

都会の雑踏の中に、神秘的な歌声がこだまする。観想修道会として典礼に奉仕しているエルサレム修道会。ヴェズレーにある大聖堂で、祈り、うたい、神を賛美する男女修道者のいやしの唱和。全三十曲。

女子パウロ会　発行
テクラサウンド
税抜価格　2500円

◇　◇　◇



★ヴェトナムの聖者
マルセル・ヴァン修道士の生涯
A・ブシュー　著
レデンプトール修道会　訳

1928年、北ヴェトナムのハノイ近郊に誕生したマルセル・ヴァンは時代の波に翻弄されながらも、キリスト信者として生きる豊かな感性を持っていた…。共産主義下のベトナムにおけるキリスト者の生きざまを語る貴重な一書。

サンパウロ発行
税抜き　1000円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服、聖器具、聖像
信心用品、ベール、
ロザリオ他
典礼センター
ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

マリアと共にキリストの道を歩こう！

熊本地区神学講座

3月9日(日) 信徒と霊性　松永久次郎司教
3月9日(日) 神学講座の総括　松永久次郎司教
会　場：カトリック手取教会
時　間：13：00～16：30
問合せ先：☎FAX 096-352-1515／手取教会　日向

カトリック教会のカテキズム

日　時：4月27日(日)　15：00～17：00
通常毎月第4日曜日（変更日あり）
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
テキスト：カトリック教会のカテキズム（2002年7月に発売されたもの）と近日中に発売予定の「カトリック教会の教え」
参加費：1回　500円
対　象：教会学校のリーダーやカトリック教会の教えを学びたい人
主　催：福岡教区信仰教育委員会

北九州地区聖書講演会

①2月16日(日)　終了
②5月18日(日)　14：00～16：00
［テーマ］旧約聖書について
［会　場］新田原教会テレジア館
③9月7日(日)　14：00～16：00
［テーマ］新約聖書について
［会　場］カトリック小倉教会
④11月16日(日)　14：00～16：00
［テーマ］聖書と今を生きる私たち
［会　場］新田原教会テレジア館
［講　師］森山信三神父（戸畑教会主任）
［主　催］北九州地区信徒協
［問合先］☎ 093-293-4981　松尾

2003年度典礼を学ぶ集い

(1)：4月27日(日)　奉納
(2)：7月20日(日)　感謝の祈り（奉献文）
(3)：10月19日(日)　交わりの儀
(4)：2004年1月18日(日)　閉祭
講　師：白浜満神父（大神学院教授）
参加費：1回600円（4回一括2,000円）
申込み締きり：2003年4月21日(月)
申込先：〒811-4181宗像市三郎丸608-9
☎FAX 0940-33-8122　井上元之

パストラルケア研修会

日　時：4月21日(月) 9：30から
4月23日(水) 16：30まで
場　所：サンパウロ福岡センター3階ホール
教　材：スピリチュアルケア（2,450円）
講　師：W.キッペス神父（レデンプトール会司祭）
参加費：15,000円
問合せ先：パストラルケア教育研修センター
☎0942-31-4834／FAX31-4835
※どなたでも参加できます。

案内版　会合と催し　3月のこよみ

福岡黙想の家　3・4月

◇3日(月)　日本キリスト教団説教セミナー
◇14日(金)～16日(日)　四旬節黙想会①〈鈴木神父〉
◇17日(月)～18日(火)　グループ黙想会〈リバス神父〉
◇19日(水)　ミカエル会
◇21日(金)～23日(日)　四旬節黙想会②〈鈴木神父〉
◇24日(月)～29日(土)　オブレート会総会
◇29日(土)～4／1(火)　オブレート会会議
4月
◇5日(土)～6日(日)　祈りの学校〈来住神父〉
◇11日(金)～13日(日)　四旬節黙想会〈ガブリエル神父〉
◇17日(木)～20日(復活祭)　四旬節黙想会〈鈴木神父〉
※四旬節黙想会／祈りの学校の開始時間等は下記にお問合せください。参加をお待ちしています。
［問合先］黙想の家　☎0940-32-3222　FAX 32-3385

生命山カトリック別院

指　導：Sr.マリアと S.フランコ神父
※祈りの集い
・3月13日(木) 10時～15時
テーマ：聖書を味わって祈る
・4月17日(木) 10時～15時
テーマ：聖書を味わって祈る
［問合先］
・生命山カトリック別院
☎ 0968-85-3100
FAX 0968-85-3186

マグリン神父によるゆるしの秘跡

日　程：毎月第1と第3土曜日
場　所：大名町カトリック教会小聖堂

3月のこよみ

4日(火)　松永司教霊名の祝い［浄水通教会11時］
司祭評議会選挙
5日(水)　灰の水曜日［大斎・小斎］
6日(木)　†H.ジョリ［久留米教会1966］
7日(金)　†ミカエル平田寛［門司教会2002］
9日(日)　四旬節第1主日
12日(火)　†F.M.ヴェイヨイ［唐津教会1973］
16日(日)　四旬節第2主日
†L.M.ベリボ［箱崎教会1977］
17日(月)　長崎信徒発見記念日
†F.ベルトラン［門司港教会1940］
19日(水)　聖ヨセフ
†J.ベラス［水俣教会1990］
†M.ボネ［新田原教会1959］
21日(金)　寺濱神学生助祭叙階式［カテドラル11時］
23日(日)　四旬節第3主日
行橋教会堅信式
25日(火)　神のお告げ
26日(水)　†J.ドイル［荒尾教会1962］
†J.ムルグ［小倉教会1989］
30日(日)　四旬節第4主日
4月
6日(日)　四旬節第5主日
花岡山殉教祭
13日(日)　枝の主日
福岡教区司教座教会献堂記念日
世界青年の日
15日(火)　聖香油ミサ［カテドラル15時］
ゴチックは司教日程

福岡

■福岡祈りの集い
［日時］毎週月曜11時～12時30分［場所］カトリック大名町教会［内容］聖霊による祈り［問合先］☎092・522・5139ブラザー床嶋
■第24回福岡ホスピスの会
［日時］3月9日(日) 14時～16時［場所］カトリック大名町教会4階［テーマ］在宅ターミナルケアについて［講師］平野頼子氏（福岡市医師会訪問看護ステイション管理者）［問合先］☎092・534・5647小林
■召命を共に祈る会
［日時］3月20日(木) 14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）
■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］3月27日(木) 13時から［場所］聖クララ寮聖堂（南区塩原）［講師］坂田孝子氏［参加費］自由献金［問合先］☎096・380・5686堺
■在世フランシスコ会集会
［日時］3月23日(日) 14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎
■生と老い死を見つめる会
［日時］4月6日(日) 14時から［場所］カトリック大名町教会［内容］介護について［講師］平野頼子氏（福岡市医師会訪問看護ステイション管理者）［参加費］会員500円・一般700円［問合せ先］☎092・713・8523大山／607・6992村尾
■召命祈願ミサ
［日時］4月10日(木) 19時15分［場所］サン・スルピス大神学院聖堂
■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、毛布・冬物男性用衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付を待っています。また、火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者を募っています。［問合先］☎コース神父 092・431・1419
■第90回福岡結婚準備講座
［次回］5月10日(土)から6月4日(水)毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分［場所］大名町カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎092・541・6207 FAX092・552・5022カトリック・ファミリーセンター

北九州

■小倉祈りの集い
［日時］3月28日(金) 13時30分～15時［場所］カトリック小倉教会信徒会館［内容］「みことば」をあじわう賛美と感謝の祈り［指導］B・ガブリエル神父（御受難会）［問合先］☎093・452・1556安藤

予告

第42回クルシリヨ
5月3日～5日

佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］3月12日(水) 10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［問合先］☎0952・72・7536吉田［次回］3月22日(土) 10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4土曜日。どうぞご参加下さい。
■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］「詩編」を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南

熊本

■熊本地区典礼聖歌研修会
［日時］3月16日(日) 11時～14時30分［場所］カトリック帯山教会［講師］深堀純氏［内容］花岡山殉教祭のための聖歌他［参加費］昼食代／自由献金［問合先］☎096・380・5686堺
■花岡山殉教祭
［日時］4月6日(日) 14時［場所］花岡山北熊本市春日4丁目［問合先］☎096・352・5610島崎教会
■第71回熊本結婚準備講座
［日時］5月6日(火)から6月2日(月)毎月曜日と火曜日全8回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎096・352・3030 FAX096・352・1515手取教会　安部

訃報

V・マクナリー神父様

コロンバン会司祭。2003年1月31日和歌山で帰天。享年84歳。1943年12月21日司祭叙階。1973年から1982年まで天草の大江教会で、1983年から1987年まで島崎教会で司牧。

編集後記

いろんな物事が節目を迎えるのがこの季節。竹の節目は、割ってみると他の部位とは異なるつくりになっています。常なる流れを止め、しばしそこに留まり、やがてさらなる常に連なっていく。人生においても、このような機会を持つことが大切なんですね。決して、なおざりにして過ぎ去らないようにしたいものです。

最近ニュースで伝わってくる世界の情勢は不安なものばかりが目につきます。空を見ていると心が大きくなるような気がします。今もどこかで、きっと誰かがこの同じ空を見上げていると思えるのです。大きな空を仰ぎ見ることを忘れたくない、そう思います。踏みしめる大地と空の間に、人はきょうも生きています。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

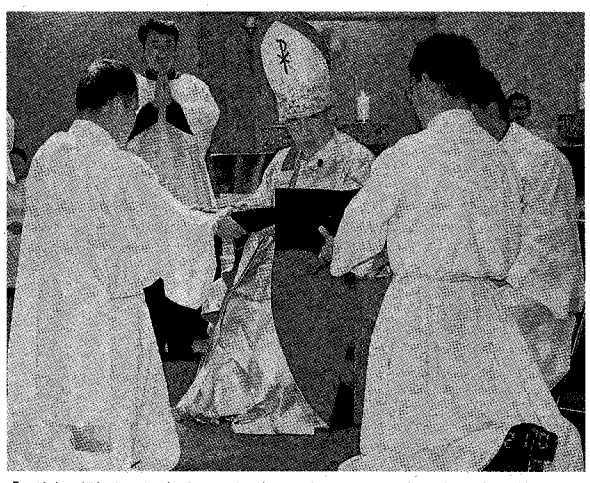
FUJIHi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 城戸隆秀

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

キリストの祭司職が神の民の中に、いつまでも続くように
寺浜亮司助祭誕生を700人が祝う
3月21日 カテドラル

福岡教区に1人の助祭が誕生した。受階者は久留米教会出身のペトロ寺浜亮司師。3月21日（春分の日）、カテドラル大名町教会で教区長松永久次郎司教主司式で行われた叙階式には、40余人の司祭、大勢の信徒、修道者が集った。助祭叙階式は、実に7年ぶり。神が福岡教区に注いでくださった大いなる愛と慈しみに感謝するとともに、新助祭の上に豊かな恵みを祈り求めた。


「…教会の信仰をことばと行いで宣べ伝える者となってください」と聖書が授与された

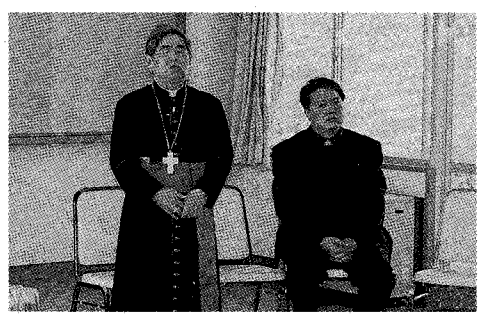
「助祭叙階は信徒にとっても大きな恵み。これからも祈りをもって支えてゆきます」と祝辞を述べた。

信者から寄せられた祈りの花束、春の色彩豊かな花束の贈呈に続いて、寺浜助祭が謝辞を述べた。助祭は「これまでの多くの人々の祈りと支援、そして今日いただいた恵みを感謝しながら、これから一歩一歩前進して行きたい」と語った。

その後講堂で祝賀会が行われ、新助祭を囲んで親しい交わりのひとときがもたれた。

寺浜亮司助祭は1972年生まれ、現在30才。1999年4月に福岡サン・スルピス大神学院に入学した。

叙階の秘跡は、満ちあふれる神の恵みとそれに応えようとする人間の真心の出会いである。「教会が大好き」だった少年が、今、助祭叙階の恵みを受け、教会のために奉仕する人生を歩き始めた。助祭の奉仕を通して、神のみ言葉が語られ、恵みが表されるよう、そしてこれからの司祭への歩みのために、心からの祈りをこめて支援してゆこう。


祝賀会であいさつする松永司教

司教霊名の祝日の祝いと司祭評選挙を行う

3月19日の聖ヨセフの祭日に先立って、教区長ヨセフ松永久次郎司教の霊名の祝いが、3月4日に行われた。松永司教は11時から、浄水通教会で司祭団と共にミサをささげた。説教の冒頭で、司教は、司教叙階25周年に際して、司祭団をはじめ教区民があたたかく祝ってくれたことに対し謝意を表し、これからも祈りによる支援を続けて欲しいと願った。司教は、神から救い主の守護者とたてられた聖ヨセフ、そして救い主の母であり私たちの母聖マリアの助けにより、現代の教会が抱えている困難を乗り越え、力強く前進して行こうと呼びかけた。

ミサの後、会場を司教館新館に移して祝賀会が行われた。挨拶に立った松永司教は、集まった司祭たちに向かい、「少しでも長く司祭として奉仕することができるように、どうか元気でいてください。そして、これから、この教区に司祭がつぎつぎと誕生するように、神への信頼に裏打ちされた実行力をもって、皆さんひとり一人が見回して召命の芽をさがし出し、声をかけ続けてください」と願いを込めて語った。

司祭評議会選挙
新司祭評議員19人が決定

司祭評議会の現評議員の任期は2003年3月31日に終わる。次期司祭評議会評議員を選出する選挙が実施され、去る3月4日に投票が行なわれた。職務上の評議員、教区内の各宣教会・修道会代表者を合わせて19人の司祭により新しくスタートする。なお新評議員による臨時の司祭評議会は5月6日（火）に開会の予定である。

司祭評議会評議員＝▽櫻井尚明（糸島教会）▽青木悟（大名町教会）▽牧山勝美（小郡教会）▽岩永義人（今村教会）▽竹森勇（新田原教会）▽森山信三（戸畑教会）▽平田敬（小倉教会）▽深堀勝人（佐賀教会）▽中村彰（健軍教会）▽R・キエサ（イエズス会）▽鈴木忠一（御受難会）▽F・マッケイ（武蔵が丘教会）▽G・ブルーニ（光丘教会）▽M・コース（司牧センター）▽川上惣一（二日市教会）▽大山悟（大神学院）▽中浜一男（浄水通教会）▽松井忠之（教区会計）　以上4月1日付

司祭異動

▽門司教会主任＝伊東成晃▽水巻教会主任＝F・ハーン（以上3月25日付）▽古賀教会主任＝A・シアーニ▽荒尾教会（管理者）＝A・スカットロン（大牟田教会兼任）　以上4月1日付

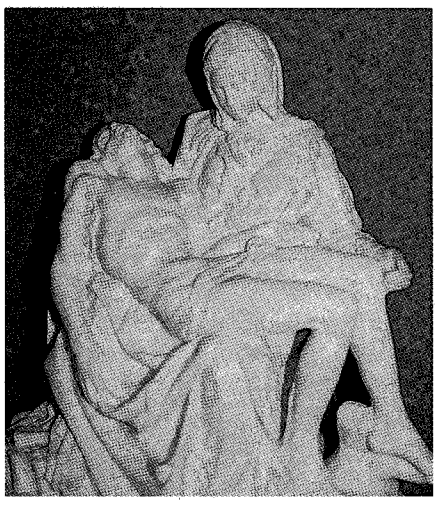
大神学院に新入生

十時伸治神学生

この春、福岡サン・スルピス大神学院にヨセフ十時伸治（とときしんじ）さんが入学。

十時さんは1980年生まれ、現在22歳。小倉教会出身。明治学園高等学校卒業後、英知大学文学部神学科に学ぶ。司祭を志すようになったきっかけは、中村信哉神父の助祭叙階、中村彰神父の司祭叙階の時。神学生が目標に向かい、着実な歩みが続けられるよう、祈りをこめて見守ってゆこう。

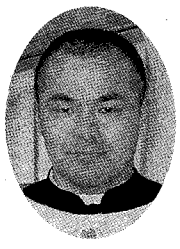
4月17日～20日
聖なる3日間


ピエタ像（典礼センター展示品より）

み言葉の典礼に続いて、助祭叙階の儀が執り行われた。

まず助祭候補者の選出が行われ、呼び出しに対して寺浜神学生は力強く「はい」と応じ、司教の前に進み出た。三村邦明神父（久留米教会主任）が候補者を叙階するよう司教に願い、彼が助祭にふさわしいことを会衆の前で報告した。

その後、司教は受階者と会衆一同を助祭の職務について共に考えるように招き、説教を行なった。その中で、「助祭は仕える者となられたイエス・キリストの奉仕者であるから、心から神のみ旨を行い、主に仕えるように人々にも愛と喜びをもって仕えるように」と諭した。また、独身のまま、この奉仕の務めを果たすことは、牧者としての愛のしるしと励まし


寺浜亮司新助祭

であり、世にあって豊かな実りをもたらす特別な源であると述べた。

説教の後、受階者は司教と信者の前で、キリストと教会の思いに従い、司教の導きのもとに、自らの務めを果たす決意があることを表明した。

続いて、受階者が床に伏し、一身に恵みを祈る中、会衆は心を一つにして連願をうたい、諸聖人の取りなしを願った。

会衆の祈りが終ると、司教は受階者の頭の上に手を置き（按手）、叙階の祈りを唱えた。その後、新助祭は左肩から斜にストラを着け、今後、典礼の中でどのような務めを果たすかが、目に見える形で表された。また、司教から福音書が授与され、典礼祭儀の中で福音を告げ知らせ、教会の信仰をことばと行いでのべ伝える助祭の務めが示された。

拝領祈願の後、祝賀式が行なわれ、司祭団を代表して下町豊重神父（西新教会主任）が祝辞を述べ、人々の前でキリストの光を輝かす者として奉仕職に邁進するよう激励した。次に、信徒を代表して、久留米教会の平田文夫氏が

今月の意向
教皇様の意向のために祈りましょう

【一　般】　霊によって生きる
【布　教】　聖霊への普遍的呼びかけ
【日本の教会】　新しく生まれ変わる

時の話題
綿貫真理さん

子どもの命に仕える

三月、四月、私たちは卒園生を送り出し、また新しい命を迎えるドラマティックな日々を送ります。

数年前、転入園児のお母様と面談の折り、「何かご心配なことはございますか？」とのこちらの問いに、「はい、全部です。」とお答えになり、これからこの方をどのようにご援助していこうかと、すっかり重たい気持ちになってしまったことがあります。園を信じて委ねることがとても難しいことだったのでしょう。

最近は、子育て中の方々が大変緊張しているのを感じます。すべての事柄に対して、安心感や自信が持てないようです。それがこと子どもに向けられてしまうと、子どもは生きていくのが苦痛になるほどのプレッシャーを感じて疲れているケースが多いのです。

時代が不安へと傾いていっていますが、どんな環境の中でも、子どもの本質は変わりません。子どもの世界は驚くほどの希望と喜びに満ちた世界です。

子どもたちは、私たちが不思議な生命の法則に沿って、謙虚に子どもと在る時に、そっと、その世界の素晴らしさを見せてくれます。子育て中の方々に、この法則を知っていただいて、子どもと共に在る幸せ、喜びを確かに感じ、味わって欲しいと思っています。子どもの命に仕えることは祈りでもあります。

（大濠聖母幼稚園園長）

みちくさ

主の受難の典礼が始まると、私には思い出すことがある。あれは小神学校に入ったばかりの時のこと。中学校の歓迎遠足が、ちょうど聖金曜日にあたっていた。遠足から戻ると、夕食を早めに済ませ、神学生そろって大名町教会で行なわれる典礼に参加した。神学生には前方に席が用意されていた。私はその最前列に座ることになったのだが…。どうも落ち着かない。というのは、すでに典礼が始まる前から、まぶたに錘りか何かがくっ着いたようで、これは何かがおきるのでは、と感じ始めていたからである▼その予感は、的中した。生まれて初めて耳にする、ヨハネによる主イエス・キリストの受難の朗唱が行なわれている間に、だんだん目の前の様子がワイパーのように右へ左へ揺れ出し、一瞬それらが扇に描かれた絵のように映ったかと思うと、急に真っ暗になってしまった▼気がつくと、司祭館の一室にいた。身体の調子がおかしいと薄々勘付いてはいたが、主のご受難のさなかに、不覚にも自分のほうが先に倒れてしまった。以来、聖金曜日の典礼に参加するたびに、主の受難にかたどられたこの出来事（!?）の記憶は、どうやら私の身にしみているらしく、よみがえってくるのである▼典礼暦の頂点をなす聖なる過越の三日間は、典礼を通して思い起こされる神秘の出来事、儀式の豊かさ共に、まさにキリスト者の生活の中心に位置付けられるものである。まずは参加してみること、そして体験することだ。それから体調を整えておくこともお忘れなく。（み）

第18回世界青年の日メッセージ

見なさい、あなたの母です

(ヨハネ19・27)

教皇ヨハネ・パウロ二世

親愛なる青年のみなさん

1　世界青年の日にあたり、私の敬愛の念をお伝えする特別なメッセージをお送りすることは、私にとって、いつも新鮮な喜びです。世界青年の日に私たちが出会ったときの印象を、私は鮮明な思い出として大切にしています。若者と教皇が、司教・司祭たちとともに地上の光であるキリストに目を向け、キリストを呼び求め、キリストを人類家族に告げ知らせるのです。先日、トロントで信仰を証ししたことを神に感謝しながら、オンタリオ湖畔での招きのことばを繰り返したいと思います。「教会は、信頼を込めて皆さんに目を向け、皆さんが幸福な民になるであろうことを期待しています」(2002年7月25日)。

第18回世界青年の日を各教区で祝うために、私は、ロザリオの年にちなんで一つのテーマを選びました。それはヨハネ福音書の「見なさい。あなたの母です」(ヨハネ19・27)という聖句です。イエスはこの上なく高貴な存在であるご自分の母マリアを使徒ヨハネに与えました。それらは贖い主の最後の言葉であるので、荘厳な性格を帯びており、主の霊的な証しになるのです。

2　ナザレで天使ガブリエルが告げたことば「おめでとう、恵まれた方」(ルカ1・28)は、ゴルゴダの場面を照らします。はじめにお告げがあり、十字架が完成を示すのです。お告げのとき、マリアは自身の体内で神の子に人性を与えました。十字架のもとでマリアは、ヨハネにおいて、自分の心に人間をあますところなく受け入れました。お告げが始まる瞬間から神の母であった彼女は、おん子イエスが生涯を閉じる最後の瞬間に全人類の母になりました。無原罪のマリアは、おん子が人類を救うために身に負った罪の苦しみを、ゴルゴダで真から知りました。お告げのときの「はい」ということばを完成させた方が息を引き取ろうとする十字架のもとで、マリアは、おん子から、第二の「お告げ」を受けたのです。「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」(ヨハネ19・26)

おん子は、十字架上で母の心に自分の苦しみを伝えることができたのです。苦しんでいるこどもは、みな、それが必要であることを知っています。親愛なる青年の皆さん、あなたがたも、苦しみに直面しています。それぞれの人生における孤独、挫折、失望です。また大人の世界や、それぞれの職業生活に入っていくことの難しさ、家族が離ればなれになっていくこと、戦争の暴力と罪のない人びとの死などです。しかし次のことを知っておいてください。だれの人生にも存在する困難のとき、皆さんは一人ではないということです。十字架のもとにいたヨハネになさったように、イエスは、皆さんにもご自分の母を与えます。なぜならイエスは、その優しさで皆さんを強めてくださるに違いないからです。

3　福音書は、「そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った」(ヨハネ19・27)と記しています。教会の始めから、さまざまに解説されてきたこの表現は、たんにヨハネが住んでいた場所を意味するものではありません。家は、物理的な側面以上に、もてなしの霊的な次元、マリアとヨハネの間にできた新しい絆の次元を思い起こさせます。

親愛なる青年の皆さん、皆さんはほぼ同年の若者であり、イエスとともにいたいという同じ望みをもっています。キリストは、皆さんがマリアを「心を込めて」もてなすように、「あなたがたの家」に特別に招き入れました。それは皆さんが「これらの出来事をすべて心に納め」(ルカ2・19)ること、耳を傾ける内的な心構え、救いのわざにおける神の最初の協力者として彼女を際だたせる謙遜な態度をマリアにならうためです。マリアは自己の使命を果たして、「キリストが私たちのうちに十全に形づくられるまで、皆さんを教育し陶冶する」(おとめマリアのロザリオ15参照)のです。

4　そこで私は、きょう、司教として、また教皇としてモットーにしていることばを、もう一度繰り返します。「私のすべては、あなたのもの」(Totus Tuus)。

私は自分の人生の中で、主の母の愛と力に満ちた現存を体験してきました。マリアは、ペトロの後継者として使命を果たしている私と、毎日ともにいてくださいます。

マリアは、神の恵みの母です。なぜならマリアは、恵みを与える方の母だからです。全幅の信頼を込めてマリアに自己を委ねてください！キリストの美しさに照らされて輝いてください。聖霊の息吹に自己を開いてください。勇気に満ちた使徒たちにならってください。皆さんの中に注ぎ込まれる真理の光と愛熱を受け止めてください。マリアの学び舎において、皆さんがキリストに注意を払うという具体的な課題を示してください。皆さんの生活の中でキリストを第一にして、思いと行いをキリストに向けることを学んでください。

青年の皆さん、キリスト教は説論ではなく、空虚なことばの中に成り立っているものでもありません。キリスト教は、キリストです！キリストは一個の人格であり、生きています。イエスと出会ってください。イエスを愛し、イエスが愛されるようにしてください。これがキリスト者の召命なのです。マリアは、皆さんがイエスとの、より真実で人格的な関係に入るよう助けるために、皆さんを訪れます。マリアは自分の模範によって、イエスの上に愛の視線を落とすことを教えています。イエスは、まず私たちを愛してくださった方です。マリアは、その取り次ぎにより、おん子に聞き従うことができる弟子の心を、皆さんの中に形作ります。イエスは、おん父の真のみ顔と人間の真の尊厳を啓示するのです。

5　2002年10月16日に、私はロザリオの年の宣言を行ない、教会の子らすべてを、この古いマリアの祈り、やさしい勧め、キリストのみ顔の深い観想へと招きました。事実、ロザリオを唱えることは、おん母の目でイエスを仰ぎ見ることを学び、おん母の心でイエスを愛することを意味します。きょうは、親愛なる青年の皆さんにも、霊的なロザリオの冠を差し上げましょう。各神秘ごとの祈りと観想をとおして、マリアは、皆さんを確かに、自分のおん子のもとに連れて行きます！大学への通学や通勤の途中、道や乗り物で一人、ロザリオを唱えることを恥ずかしがらないでください。またグループや活動体、諸団体などで唱えることを習慣にしてください。家で両親や兄弟にロザリオを唱える提案をすることをためらわないでください。そうした提案は、家族の絆を活性化し、より強固にするからです。この祈りは、固い信仰と変わらない慈愛を保ち、喜びと忍耐をもって希望に生きるための助けになります。

主のはしためであるマリアとともに、隠れた生活の喜びと豊かさを示してください。師の弟子であるマリアとともに、パレスティナの道を行く主に従ってください。こうして主の説教と不思議なわざの証人になるのです。悲しむ母であるマリアとともに、受難と死に望むイエスに付き添ってください。希望のおとめであるマリアとともに、復活の喜びの知らせと聖霊のこのうえない恵みを享受してください。

6　親愛なる青年の皆さん、イエスだけが皆さんの心とより深い望みを知っています。死に至るまで皆さんを愛した(ヨハネ13・1参照)方であるイエスだけが、皆さんの渇望を満たすことができます。イエスのことばは、永遠のいのちであり、いのちに意味を与えます。皆さんに真の幸福を与えられる者は、キリストのほかにいません。マリアの模範にならって、皆さんの無条件の「はい」をキリストに委ねてください。皆さんの存在の中に、利己主義や怠惰のための場所はありません。皆さんは、これまで以上に「夜明けの番人」、「暁の光」、すでに若芽を見せている「福音の早春を告げる証し人」であることが切に求められています。人間性は若者の証しを求めています。潮流に逆らいながら力と熱意とをもって神と救い主である主への自分の信仰を宣言する、自由で勇気に満ちた若者の証しです。

青年の皆さん、この使命は簡単なものではないことを知ってください。もし自分自身に頼るなら、不可能でさえあります。しかし人間には不可能でも神にはおできになる(ルカ18・27、1・37)ことを、私は知っています。キリストの真の弟子は、自分の弱さを知っています。だからこそ弟子たちは、真心で受け入れてくださる神の恵みに全幅の信頼を置き、神なしでは何もできないと確信しました(ヨハネ15・5参照)。弟子たちの特徴、他の人びととの違いは、才能や自然的な素質ではなく、イエスに従って歩もうとの堅い決心です。キリストのものとなった弟子たちにならってください。そして神が皆さんの「心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように。また、私たち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるように」(エフェソ1・18—19)。

7　親愛なる青年の皆さん、すでにご存じのように、世界青年の日の次の大会は、2005年に、ドイツのケルン教区とその町で開催されます。まだ先のことですが、2年後にお会いするまでに十分な準備ができるでしょう。皆さんのために私が選んだテーマが助けになればと思います。

☆2004年第19回世界青年の日＝私たちはイエスに会うことを望みます。(ヨハネ12・21)

☆2005年第20回世界青年の日＝私たちはイエスを礼拝するために来ました。(マタイ2・2)

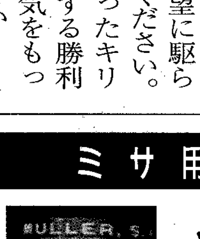
さて皆さんは、枝の主日に、それぞれの教会で出会うことでしょう。熱心に身を捧げる皆さんの信仰を示しつつ、祈り、注意深く耳を傾け、喜びを分かち合いながら、「生涯養成」の機会を、責任をもって生かしてください！あの博士たちのように、主に会い、主を拝みたいとの熱望に駆られる巡礼者になってください。死んで再び立ち上がったキリストは、悪と死に対する勝利者であることを、勇気をもって告げ知らせてください！

暴力と憎しみと戦争に脅かされている現代にあって、人間の心、家族、地上の人びとに真の平和をもたらすことができるのは、ひとりイエスだけであることを証ししてください。平和と義と兄弟愛を推し進める責務を引き受けてください。そして、次の福音のことばを忘れないようにしましょう。「平和を実現する人びとは幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」。(マタイ5・9)

皆さんを、キリストの母、教会の母であるおとめマリアに委ね、私の信頼のじるしであり、皆さんへの愛情の確証である特別の使徒的な祝福を送りつつ、私は皆さんと歩みをともにします。

2003年3月8日　バチカンにて

むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室(洗面トイレ付)／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155　福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

VINO DE MISA (ヴィノ デ ミサ)
スイートタイプ（赤）(白)
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草(SOU-EN)苑
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

地区婦人会がボランティア講習会
「高齢者の心の理解と関わり方」を学ぶ

「積極性を失った時から老いは始まる」と野島教授

2月20日、カテドラル大名町教会で50余人が参加してボランティア講習会が開催された。この講習会は、福岡地区婦人会が主催し、年1回、行われている。今回は九州大学大学院心理臨床学教授の野島一彦氏を講師に招き、『高齢者の心の理解と関わり方』について学んだ。高齢化が急速に進んでいる今日、それぞれの家庭や社会で、またボランティア活動を通して高齢者と関わる機会はますます増えていくことが予想される。野島氏は、具体例をあげ、興味深い実験データなども紹介しながら、高齢者の心理・関わり方のポイントを講演した。

「身体はある時期までは発達するが、その後衰える。しかし心は生涯発達し続ける」。野島氏は、老年期の発達課題として、「自我の統合を完成する」こと、「身体の衰えに対する適応」、「退職による生活の建て直し」、「愛する人を失うこと」、「死への対処・受容」を挙げた。

そこで、大切になるのは、生きがいを見い出すこと。それは生活の質（Quality of Life）の向上につながる。「人間はその年齢で老いるのではなく、気持ち（心）が老いて、積極的なやる気を失った時から老いるのである」と述べた。

続いて、人間の知的機能については訓練によって改善できるということが紹介された。「知的機能を充実させることで身体の衰え防止にも役立つ。できれば、これまで自分のレパートリーに含まれていないような事柄にチャレンジするのが良い」ということだった。

また、野島氏は「応答的環境」すなわち反応が返ってくる環境をととのえることが大切であることを指摘。これは子どもの成長のためにも欠かせないが、高齢者にとっても必要である。高齢者を無視することなく、反応を伝え続けることで痴呆を遅らせることにもつながるという。また五官をフルに活用すること、社会的刺激や日常にはない刺激を取り入れていくことなどをすすめた。

野島氏は、自我の統合の完成のためにライフ・レビュー（人生の回想）が役立つことを紹介した。現在、集団回想法といわれるグループワークも臨床の場で少しづつ取り入れられ始めているということである。

講演後、参加者数人から、実際、ボランティア活動や家庭で介護を行なうなかで、高齢者と向き合う時に、直面していることについて感想、質問などが出された。野島氏は、それらひとつひとつに耳を傾け、共感を表しながら、ボランティア活動を行う際に留意すべき点を提示した。

第1回熊本地区神学講座終る

第1回熊本地区神学講座が、3月9日、教区長松永久次郎司教の講義、総括をもってそのすべてのカリキュラムを終えた。本講座は、熊本地区信徒使徒職協議会主催で、手取教会を会場に、二年にわたって行なわれた。長崎大司教区の実施例を参考に準備が進められ、講座終了にいたるまで、信徒スタッフたちの誠実な奉仕と、熱意みなぎるたゆまぬ努力によって運営されてきた。松永司教も適時助言を与え、これを見守ってきた。また、カリキュラム作成など福岡サン・スルピス大神学院がバックアップした。

修了者69人を代表して挨拶する平田さん

この日、受講者はみな引き締まった表情で、「信徒と召命」についての講義に熱心に耳を傾けた。

講義に引き続き、感謝のミサが行なわれた。熊本地区の司祭ならびに大山神父も参加した。司教は説教の中で、「これまでに学んだことをこれからも繰り返し見直し、勉強を続けていって欲しい」と語り、第1回に続く新たな学びの機会がととのえられるようにと期待を述べた。また、これまで講座運営に尽力した人々をたたえ謝意を表した。

ミサの結びにおいて、修了式が行われた。69人の修了者の名前が読み上げられ、司教から修了証書が授与された。修了者を代表して、平田悠貴子さんがあいさつし、今日を無事迎えることができたのも、神が常に照らし導いてくださったから。そして松永司教をはじめ、福岡サン・スルピス大神学院、講義を快く引き受けてくださった多くの人々の理解と協力があったおかげ、と感慨深い表情で語った。

本神学講座は要理教師の養成課程としての役割も担ってきた。修了者の中から数人に対し、来る5月11日に要理教師2級の資格が付与されることになっている。

教会学校卒業手作りミサ
新田原教会

新田原教会（主任＝竹森勇神父）では、小学6年生が卒業するにあたり、3月23日に小教区全信徒と共に教会学校卒業ミサを祝った。6年生たちは、一か月前から、自分たちで役割分担して「手づくりの卒業ミサ」を準備した。

後輩から花束をもらって

当日は十字架を先頭に、卒業生が聖堂中央を行列して入堂。ミサの司会、オルガン、聖書朗読、共同祈願、奉納、すべてを卒業生が担当した。竹森神父は説教の中でお祝いと中学生になってからの心得を話し、その後男女1人づつ6年間の思い出を語り、参加した信者の感動を呼んだ。

ミサの結びにおいて、卒業生2人による感謝の言葉、5年生代表の送る言葉に続いて、1年生から花束が贈呈された後、竹森神父から卒業証書が授与された。また卒業生一人一人が紹介され、会衆一同からのお祝いと拍手喝采を浴びて、聖堂内は喜びの雰囲気に包まれた。

卒業生はそれぞれの思いを作文に綴った。「侍者を五年間続けてきました。神父様のお手伝いができてよかった」、「6年間教えてくれた先生、シスター方、ありがとうございました。神様と神父様に見守られた教会学校の勉強は、きっとこれからの僕たちに役立つことと思います。次は、堅信クラス。神父様、どうかお手やわらかにお願いします！」。

愛されること　愛すること

深堀勝人神父

司祭叙階から25年を終えようとしているこの頃、「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るようになる。」（ヨハネ13・34―35）というみことばが気になりました。

司祭になるまで、紆余曲折しながら、助祭叙階延期、父の帰天、司祭叙階式はいつのことかと思いながら、召し出しがなければ《やめなさい》という声があるはずと後ろ向きに召し出しを捉え、司祭としての抱負には答えは無く、司祭叙階が決まったときには『神が先にわたしたちを愛してくださった』（Ⅰヨハネ4・19）というみことばを司祭叙階式のときのみことばとして御絵に記しました。

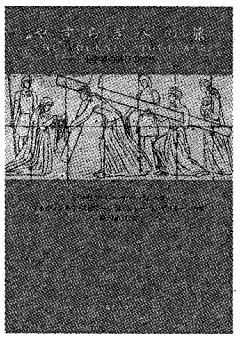
それから25年という時の流れを振り返りながら、確実に神様から愛されていることは間違いのない事実だと味わっています。それは、いいことばかりが続いたからではありません。嫌いなことはもちろんのこと、できること、できないことも関係なく自分の前に立ち塞がってきました。でも、「しなければならないことを喜んでやりなさい」、「毎朝、目が覚めたら司祭として生きることを新たにしなさい」という先行く司祭の言葉に励まされながらも、空しく時が流れている思いです。

ただ、愛することによってキリストを証しする愛とはどのようなものかと、ふと考えさせられます。キリストは新しい掟として、わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさいと言われる。そのみことばに応える愛のために、もっとキリストと出会い、キリストに倣う生き方に近づけたらと思う。自分の力ではどうしても近づけない神の愛の神秘。しかし、『前からも後ろからもわたしを囲み、み手をわたしの上に置いてくださる。』という詩編139・5のみことばに支えられて。どうぞ、司祭になるまでなく、司祭として生涯を終えることができますようにお祈りください。

（佐賀教会主任）

前号の「木かげ」に「ナーサリーの大切さ」を投稿頂いた乾盛夫神父の所属が「古賀教会助任」となっていたのは「暁の星幼稚園園長」でした。訂正し、お詫び申し上げます。（編集部）

BOOK 読みは専科



★やすらぎへの旅
十字架の道行の黙想
ジョゼフ・パーナーディン著
廣戸　直江訳

故ジョゼフ・バーナーディン枢機卿は、熱情あふれる愛と信仰を証し、謙虚な知恵と霊的な著作をとおして何百万という人の心をとらえました。人生最大の試練に直面する中で、内面の平安をどのように見い出すかを示す最高傑作の書。

女子パウロ会　発行
税抜価格　1100円

◇　◇　◇

★神様からの贈りもの
米塚　雉杜子　著

著者の母は、ハンセン病で強制収容され、診療所でこの世を去った。著者自身もまた、13歳で診療所に入り、そこで初めてそれが「隠される病」であることを知った。その病を背負って生きた彼女の人生を振り返る感動の一冊。

サンパウロ発行
税抜価格　1200円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811−7265

感謝と賛美のために
祭服、聖器具、聖像
信心用品、ベール、
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092−526−9176

マリアと共にキリストの道を歩こう！

カトリック教会のカテキズム

日　　時：4月27日(日)　15：00～17：00
　　通常毎月第4日曜日（変更日あり）
場　　所：カテドラル大名町教会
講　　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
テキスト：カトリック教会のカテキズム(2002年7月販売されたもの)と近日中に発売予定の信徒向け「カトリック教会のカテキズム」
参 加 費：1回　500円
対　　象：教会学校のリーダーやカトリック教会の教えを学びたい人
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

北九州地区聖書講演会

②5月18日(日)　14：00～16：00
　[テーマ] 旧約聖書について
　[会　場] 新田原教会テレジア館
③9月7日(日)　14：00～16：00
　[テーマ] 新約聖書について
　[会　場] カトリック小倉教会
④11月16日(日)　14：00～16：00
　[テーマ] 聖書と今を生きる私たち
　[会　場] 新田原教会テレジア館
　[講　師] 森山信三神父（戸畑教会主任）
　[主　催] 北九州地区信徒協
　[問合先] ☎093-293-4981　松尾

2003年度典礼を学ぶ集い

(1)：4月27日(日)　奉納
(2)：7月20日(日)　感謝の祈り（奉献文）
(3)：10月19日(日)　交わりの儀
(4)：2004年1月18日(日)　閉祭
講　師：白浜満神父（大神学院教授）
参加費：1回600円（4回一括2,000円）
申込み締切り：2003年4月21日(月)
申込先：〒811-4181 宗像市三郎丸608-9
　☎FAX 0940-33-8122　井上元之

パストラルケア研修会

日　　時：4月21日(月)9：30～4月23日(水)
場　　所：サンパウロ福岡センター3階ホール
教　　材：スピリチュアルケア（2,450円）
講　　師：W.キッペス神父（レデンプトール会司祭）
参 加 費：15,000円
問合せ先：パストラルケア教育研修センター
　☎0942-31-4834／FAX 31-4835

第42回クルシリヨ開催

日　時：2003年5月3日(土) 10時受付
　　5日(月) 16時解散
場　所：福岡黙想の家（宗像市名越立山1056）
参加費：12,000円
携行品：ロザリオ、着替、寝間着、洗面用具
　（筆記用具等は事務局で準備します。）
連絡先：☎092-661-0120（大谷眞造）
　〒813-0042 福岡市東区舞松原5-23-9

案内版　会合と催し　4月のこよみ

福岡黙想の家　4月

◇5日(土) 16：00～6日(日) 15：00　祈りの学校〈来住神父〉
◇11日(金) 20：00～13日(日) 昼食まで　四旬節黙想会〈ガブリエル神父〉
◇17日(木)～20日(復活祭)　聖なる3日間と主の復活を祝節黙想会〈鈴木神父〉
◇22日(火)～30日(水)　シスターのための黙想会(募集中!)〈鈴木神父〉
◇27日(日)～29日(火)　フランシスケン召命推進チーム研修
◇28日(月)～5/2日(金)　聖ザベリオ宣教会
5月
◇3日(土)～5日(月)　クルシリヨ
[問合先] 黙想の家　☎0940-32-3222　FAX 32-3385

生命山カトリック別院

指　導：Sr.マリアと S.フランコ神父
※祈りの集い
・4月10日(木) 10時～15時
テーマ：聖書を味わって祈る
・5月8日(木) 10時～15時
テーマ：聖書を味わって祈る
[問合先]
・生命山カトリック別院
☎0968-85-3100
FAX 0968-85-3186

マグリン神父によるゆるしの秘跡

日　程：毎月第1と第3土曜日
場　所：大名町カトリック教会小聖堂

4月のこよみ

6日(日)　四旬節第5主日
　花岡山殉教祭（14時）
13日(日)　枝の主日
　福岡教区司教座教会献堂記念日（特別献金日）
　世界青年の日
15日(火)　聖香油ミサ［カテドラル15時］
17日(木)　主の晩餐の夕べのミサ［カテドラル19時］
18日(金)　主の受難（大斎・小斎）
19日(土)　復活の聖なる徹夜祭［カテドラル19時］
20日(日)　主の復活の主日
25日(金)　聖マルコ福音記者
27日(日)　復活節第2主日
　神のいつくしみの主日
　援助修道会終生誓願式（黒崎教会13時30分）
　福岡地区カテキズム講座（カテドラル15時）
　典礼研修会（カテドラル14時）
29日(火)　シエナの聖カタリナ
　教区修道女連盟総会・講演会（カテドラル）
5月
1日(木)　労働者聖ヨセフ
2日(金)　聖アタナシオ
3日(土)　クルシリヨ（～5日）
5日(月)　浄水通小教区創立50周年記念感謝ミサ
6日(火)　臨時司祭評議会（司教館10時30分）
ゴチックは司教日程

◆福岡

■福岡祈りの集い
[日時] 毎週月曜11時～12時30分 [場所] カトリック大名町教会 [内容] 聖霊による祈り [問合先] ☎092・522・5139ブラザー床嶋

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
[日時] 4月24日（木）13時から [場所] 聖クララ寮聖堂（南区塩原）[講師] 坂田孝子氏 [参加費] 自由献金 [問合先] ☎096・380・5686堺

■在世フランシスコ会集会
[日時] 4月27日（日）14時～16時 [場所] 高宮フランシスコ会修道院在世会集会所 [内容] アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習 [指導] 小池如安神父 [問合先] ☎092・843・5831岩崎

■召命祈願ミサ
[日時] 4月10日（木）19時15分 [場所] サン・スルピス大神学院聖堂 [指導] 山内実神父（長崎教区カトリック神学院院長）

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、毛布・冬物男性用衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付を待っています。また、火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者を募っています。[問合先] ☎092・431・1419

■第90回福岡結婚準備講座
[次回] 5月10日（土）から6月4日（水）毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分 [場所] 大名町カトリック教会 [参加費] カップルで一万四千円 [問合せ先] ☎092・541・6207 FAX 092・552・5022カトリック・ファミリーセンター

■第25回福岡ホスピスの会
[日時] 5月11日（日）14時～16時 [場所] カトリック大名町教会4階 [テーマ] 在宅ホスピスの現状について [講師] 二ノ坂保喜医師（にのさかクリニック院長）[問合せ] ☎092・534・5647小林

■第34回福岡典礼聖歌研修会
[日時] 5月18日（日）13時から [場所] 光丘カトリック教会 [講師] 深堀純氏（大名町教会信徒）[参加費] 自由献金 [問合せ] ☎092・541・3730松山

■生と老い死を見つめる会
[日時] 6月1日（日）14時から [場所] カトリック大名町教会 [問合せ先] ☎092・713・8523大山／6077・6992村尾

◆北九州

■北九州・召命を共に祈る会
[日時] 4月24日（木）14時 [場所] 小倉教会 [指導] 中村信哉神父（直方教会主任）

■小倉祈りの集い
[日時] 4月25日（金）13時30分～15時 [場所] カトリック小倉教会信徒会館 [内容]「みことば」をあじわう賛美と感謝の祈り [指導] B.ガブリエル神父（御受難会）[問合先] ☎093・452・1556安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
[日時] 4月9日（水）10時～11時30分 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] 共に祈る [問合先] ☎0952・72・7536吉田 [次回] 4月26日（土）10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4土曜日。どうぞご参加下さい。

◆熊本

■熊本地区典礼聖歌研修会
[日時] 3月16日（日）11時～14時30分 [場所] カトリック帯山教会 [講師] 深堀純氏 [内容] 花岡山殉教祭のための聖歌他 [参加費] 昼食代／自由献金 [問合先] ☎096・380・5686堺

■花岡山殉教祭
[日時] 4月6日（日）14時 [場所] 花岡山＝熊本市春日4丁目 [問合先] ☎096・352・5610島崎教会

■第71回熊本結婚準備講座
[日時] 5月6日（火）から6月2日（月）毎月曜日と火曜日全8回19時～21時30分 [場所] 手取カトリック教会 [参加費] カップルで一万四千円 [問合せ先] ☎096・352・3030 FAX 096・352・1515手取教会　安部

訃報

シスター　マリア・ガエターナ・フォルニ様
3月2日、聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院のシスターマリア・ガエターナ・フォルニが帰天。享年87歳。日本における同修道女会の設立に尽力し、第3代管区長を努めた。

シスター棋澤俊子様
3月20日、援助修道会のシスターイサベラ棋木俊子が帰天。享年87歳。昨年、誓願60周年を祝った。広島市、北九州市、さいたま市で60年以上の奉献生活を、主に教会への奉仕に捧げた。

編集後記

春の息吹きがみなぎっています。春は、生き物たちにとって激動の季節。いろいろな物事が新しく動き始める時期ですね。
もうすぐ復活祭。わたしたちも古い自分を脱ぎ捨て、あたらしい心で、この恵みをいきいきと生きてゆきたいですね。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 城戸隆秀

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

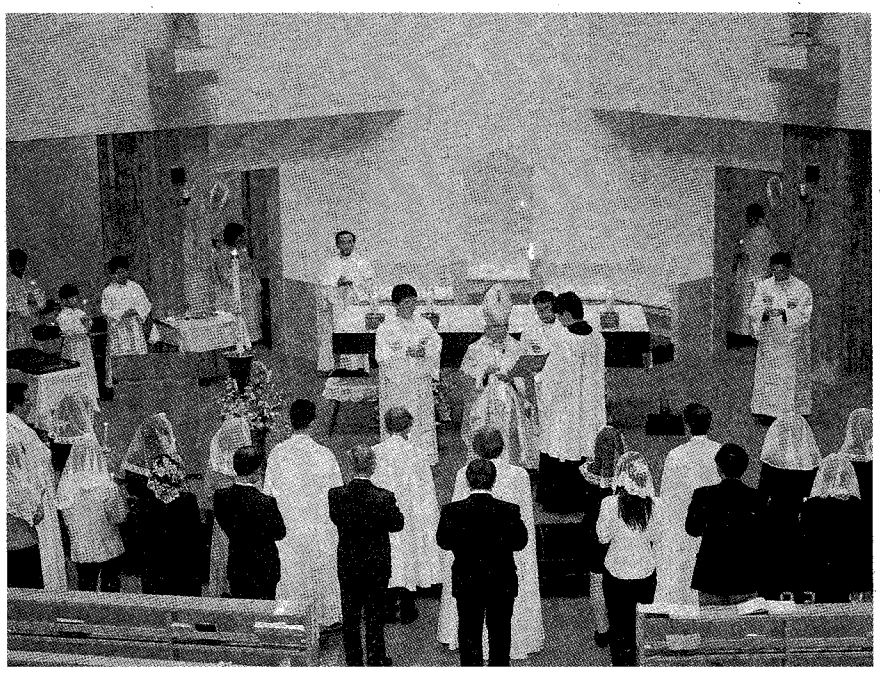
聖なる三日間

主の過越の神秘を祝う

各地の小教区で喜びの洗礼式

二〇〇三年、主の過越し。全世界の教会はこの偉大な神秘を祝った。主のみあとをたどる三日間、私たちは典礼を通して、神の人類に対する壮絶な愛を体験した。

今年も各地の小教区において、復活徹夜祭の典礼の中で、入信の秘跡が行われた。



神の子どもとしての新しいいのちを受けて！（洗礼の約束の更新）

キリスト教最大の、そして深遠な神秘を表す聖なる過越の三日間の典礼を通して、主はその御心に私たちを引き寄せ、燃える愛に触れさせる。

最後の晩餐の時、イエスは身をかがめて弟子たちの足を洗った。奉仕すること、他者のために自らを尽くす生き方を示した。そしてこの上ない愛をこめて聖体を制定された。

イエスは受難を前にして苦しみ悶え、叫ばれた。しかし、父なる神との親しい絆は決して断ち切られることはなかった。「父よ、み心が行なわれますように」、イエスの祈りは、このように結ばれた。

主は十字架に上げられた。その姿を見つめていた百人隊長は言った、「ほんとうに、あの人は神の子だった」。その開かれた脇腹から血と水が流れ出た。その時、教会は産声をあげた。

そして三日目。主は復活された。暗闇は主イエス・キリストの光によってうちはらわれた。死は打ち砕かれたのである。新しい生命のいぶきが豊かにみちあふれる。

復活徹夜祭に入信の秘跡が行われるのは、大変意義深い。キリスト者は、主の過越の神秘を生きてゆく者だからである。洗礼の時注がれる水は、水を通って救われた旧約の出エジプトの出来事、また十字架上で貫かれた脇腹から血と水が流れ出た出来事を思い起こさせる。私たちに古い人を脱ぎ捨て、新しい命に生きる者となるように招く。洗礼はまさに過越の体験である。

この諸秘跡の門といわれる洗礼を経て、堅信の秘跡が行われる。堅信は聖霊の賜物を豊かに与え、神の子としてのいのちを成長させ、信仰を証しする力を与える。

そして、神の子として生まれた者に旅路の糧として、聖体が与えられる。聖体はご自身をあますところなく与え尽くされたキリストの奉献、父なる神に捧げられたいけにえである。聖体のうちに主イエスは真に、現実に、実体的に現存しておられる。「このパンを食べる者は永遠に生きる」（ヨハネ6・58）。キリスト者はこのキリストの体によって養われ、たえず新しい力を受けるのである。

今年も、教会は新しい仲間をむかえた。復活節は神の子どもとしての命に気付き、この命の連帯感を実感する時ともいえよう。苦しみの時も、喜びの時も、主の復活の証人として、共に歩んでいきたいものである。

希望の礎・主キリストは復活された、アレルヤ！。洗礼の恵みを生きて行く日々が、またこれから始まる。

聖香油のミサと司祭叙階金祝・銀祝を祝う

聖週間の火曜日4月15日に、カテドラル大名町教会で聖香油ミサが行なわれた。教区各地から70人近い司祭が集い、松永久次郎司教主司式で捧げられた。本来、この聖香油ミサは聖木曜日の午前中に捧げられる。司牧上の観点から配慮して、復活祭に近い他の日を選んで行なうことが可能であるため、教区では今年、この日に行なうことになった。

聖別・祝福する油は聖香油、洗礼志願者の油、そして病者の油の3つ。キリスト者は、神から油を注がれたキリストのかたどりである。その典礼には、王、祭司、預言者に聖別の油を注いだ旧約の慣習を取り入れた。

聖香油は、洗礼、堅信、叙階の秘跡に用いられる。洗礼によってキリストの過越の神秘に結ばれてキリストとともに死に、ともに葬られ、ともに復活すること、キリストの王的・預言者的祭司職にあずかっていること、そして聖霊の霊的塗油を受けることを示す。

聖香油を聖別する

洗礼志願者の油は、悪霊の力が押えられ、受洗者を生命の泉で新たに生まれる前に、悪霊と罪を放棄することができるよう強めるものである。

病者の油は、病人が力強く病苦に耐えてこれと戦うことができるよう、また罪のゆるしを受けることができるよう、心とからだの病に抵抗する力を与えるものである。

ミサの説教で松永司教は、聖木曜日に教皇が全世界の司祭へ向けておくる恒例の書簡に代えて、今年は聖体に関する回勅を発布したことを告げ、その内容に触れながら、聖体は司祭職を生きるためにあり、司祭職は聖体のために存在することをあらためて心に留めるよう諭した。

説教の後、すべての司祭は司教の招きに応えて司祭の約束を更新した。すべての人がキリストにおいて成長し、ひとつになるように、生涯、神と教会に奉仕する使命を受けていることを思い起こし、叙階の日の決意を新たにした。

奉献文の栄唱が唱えられる前に、病者の油が祝福され、拝領祈願後に洗礼志願者の油の祝福と聖香油の聖別が行なわれた。

ミサの後、会場を講堂に移して司祭叙階記念の祝賀会が催された。今年、叙階金祝・銀祝を迎える司祭が紹介された。叙階金祝を迎えるのは、山頭原太郎神父（召命の家）、浦口均神父（老司教会主任）、E・ホーガン神父（水俣教会主任）、病気療養中のJ・バイヨ神父の4人。銀祝を迎えたのは深堀勝人神父（佐賀教会主任）。

また、この春から福岡教区で働くようになったA・シアニ神父（古賀教会主任）、J・マホニー神父（オブレート会）、増井啓神父（イエズス会）の紹介も行なわれた。

浦口師・深堀師に祝いの言葉を送る司教

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

いのちの母であるマリア

アジアの福音宣教

【一般】

【布教】

【日本の教会】聖母マリアと女性の使命

時の話題

一老信者の心境

今村茂氏

私は今年七十九歳の老信者であるが、七十歳までは或る大学で教鞭をとっていた。定年を迎えて教壇を離れる時、私は密かに或る決心を固めた。これからはもう何もしなくていいのだから、これからは自分のためにではなく、隣人のために生きて行こうと。なぜなら、自分のために何かをしても、そこから得られる慶びはたいして大きいものではない。これに反し隣人のために何かをすることが出来た時、そのことから得られる慶びはこの上なく清らかで、この上なく甘美なものであると思ったからである。信者には言うまでもなく隣人愛の掟が与えられている。しかし、これまでの私は俗世間のことに心を奪われて、隣人のことに気が回らなかったようである。私たちは神である主から実に多くの恩恵を与えられている。その恩恵に少しでも報いる努力を私たちはないがしろにして来たような気がする。

さて私のような弱い人間に一体どのような隣人愛が可能なのであろうか。私はごく些細な愛だけを実行するように努めた。そうして、そのようなささやかな努力を積み重ねて行くうちに、ようやく気づいた。隣人愛は自分の力や才能によってなされるものではない。もし私が隣人に対して何らかの愛を実行できたとすれば、それは神の恩恵によるのだと。こう考えることによって私は、残された人生を慶びと希望を持って生きて行くことができると信じている。

（茶山教会信徒）

みちくさ

若葉の鮮やかな季節を迎えた。もうすぐ母の日。手元にある『こよみ読み解き事典』（柏書房）によれば、「日頃の母親の労苦をいたわり、母の恩に感謝する日」とある。世界中で感謝の真心が通い合うことだろう▼この日を象徴する花がカーネーション。栽培農家には、すでに前年の11月頃から注文が入るという。初めてカーネーションを買った日のことを今も鮮明に覚えている。いつもは何気なく通り過ぎる花屋の店先に、どれくらいの時間留まっていたんだろう。後から来た人が先に買い物を済ませて行く。当時は、花の色も今ほど豊かではなかった。選択肢はだんだん少なくなっているはずなのに、あの時、何をもって自分のカーネーションを必死に探そうとしていたのか。今振り返ると、ただ喜ぶ顔が見たくて、そのことだけを思っていた▼親から多くのものを受け、またそれを当然のことだと受けとめていた。一方、親は子どもを育てる上で様々な困難にぶつかりながらも、それを苦労とは考えないという。そしてひたすら自分を与え続ける。人間関係のなかでもっとも深く美しいものは母と子の絆であろう。そこでは、自分を忘れ去ってしまうほどに相手を受けとめる関わりが相互に見られる▼当たり前のことが、実は大きな愛の力によって支えられていたことに気付いた時には、もう、この世界に感謝の思いを伝えるはずの母はいなくなっていた。今年の母の日には、心のなかで、なつかしいあの日のカーネーションを母に贈ろうと思う。（み）

教皇のメッセージを読む

教皇ヨハネ・パウロ二世は、今年の世界召命祈願日と世界広報の日に向けて、メッセージを発表しました。

■世界召命祈願日（5月11日）
奉仕への招き

教皇は、聖書のことばをひもときながら奉仕についての考察を展開しています。

悪に悪を返さず、むしろ悪に善をもってこたえる主のしもべ（イザヤ53・7参照）の持つエネルギー、それは神の力であり、救いの働き手とされた者の力です。そこで教皇は、イエスこそが聖書が語る「しもべ」の完全な模範であり、イエスの生涯のうちに、司祭また修道者の召命を読み取ることができると説きます。

さらに、人間関係が互いに仕え合う精神に息づいているこに真の召命の文化が発達すると指摘します。

時、新しい世界が生まれ、そ

奉仕するということは全く自然な召命です。真のしもべは利己主義に走らず、自己を与えることに無償の喜びを感じながら他者のために自分を消耗していくのです。最高の愛の秘跡である感謝の祭儀を主宰する者は、最後の晩餐の時のイエスの態度、すなわち命を与え尽くすまで愛し抜かれたイエスと同じ態度を身につけながら、イエスを新たに生きる者となるのです。

■世界広報の日（5月26日）
『地上の平和』に照らし、真の平和に奉仕する広報メディア

教皇ヨハネ23世は回勅『地上の平和』において、平和な社会への4つの柱として、真理と正義、愛と自由を指し示しました。教皇ヨハネ・パウロ二世は、この4つの柱に基づいて、メディアの果たす役割を説きます。

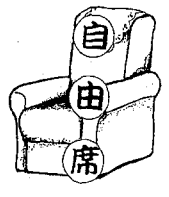
多様な思想が行き交う現代においては特に、真理を尊重し、勇気をもって真理に奉仕するという姿勢を持ち続けることがメディアに求められています。また出来事を正確に伝え、問題を適切に説明し、多様な見解を公正に紹介すること、さらに社会のすべての人間関係のうちに正義と連帯を育む重要な責務があります。

メディアが真理に奉仕するために、メディアそのものが自由で、その自由を正しく活かすように、そして全世界の平和実現を目指して、人々や民族を相互の理解と尊重に、さらには和解といつくしみに向かわせるために尽力するよう励ましています。

福岡教区教勢統計（2002年1月1日～12月31日）

福岡教区総人口 7,776,543人　司祭総数 89人　修道士・修道女総数 441人　神学生 2人

地区名（2003年2月1日人口）	小教区名	在籍信徒数 男	在籍信徒数 女	在籍信徒数 合計	不明 計	死亡 計	転入転出 男	転入転出 女	転入転出 男	転入転出 女	洗礼 幼児	洗礼 成人	洗礼 合計	求道者 男	求道者 女	初聖体 計	堅信 計	ミサ参加者 主日	ミサ参加者 復活	ミサ参加者 降誕祭	外国語	教会学校 教師	教会学校 幼小	教会学校 中学	教会学校 高校
福岡地区	糸島	170	188	358	45	1	2	5	0	5	1	6	7	1	2	7	5	125	210	280		8	30	14	8
	今村	442	557	999	0	13	3	5	1	0	6	6	12	1	2	11	28	700	800	900		4	61	41	0
福岡県人口 5,045,004人	大楠	145	199	344	17	2	4	8	6	5	2	3	5	14	22	5	3	225	320	650	40	14	106	8	5
	大牟田	98	187	285	0	3	11	15	6	4	2	6	8	1	2	6	2	100	130	200	20	8	39	9	5
	小郡	187	203	390	44	4	2	5	3	2	5	0	5	0	0	4	0	80	160	250		1	16	7	0
福岡市人口 1,371,363人	久留米	466	609	1,075	313	7	6	21	8	19	20	10	30	2	8	22	2	600	750	900	50	12	67	34	39
	古賀	409	494	903	46	4	13	26	11	16	3	5	8	3	4	9	0	192	480	407		6	55	43	30
	笹丘	352	495	847	27	5	7	9	9	14	4	4	8	0	1	14	0	230	250	400		9	58	29	17
久留米市人口 238,312人	浄水通	224	328	552	31	2	10	11	6	6	1	3	4	17	122	8	2	140	270	550		12	991	659	640
	大名町	733	1,113	1,846	322	14	52	59	17	23	16	24	40	7	49	35	73	500	800	3,000	120	15	37	5	0
	高宮	146	241	387	0	5	5	9	9	9	2	5	7	2	3	4	0	150	280	400		5	31	11	7
大牟田市人口 135,732人	茶山	265	294	559	0	4	3	0	5	5	2	1	3	0	3	1	0	257	404	284		4	15	7	1
	西新	557	685	1,242	21	10	22	29	14	28	5	8	13	1	2	9	0	400	450	650		10	51	33	0
	箱崎	104	170	274	4	2	8	8	6	5	5	7	12	3	6	7	7	90	200	250		3	23	0	0
前原市人口 65,851人	光丘	551	647	1,198	128	5	13	21	15	12	7	9	16	1	2	9	9	260	298	506		13	71	35	55
	二日市	287	388	675	9	3	7	10	11	12	2	9	11	2	3	4	0	200	350	550		10	45	20	0
	本郷	320	364	684	11	5	5	5	0	0	2	1	3	0	0	5	0	350	550	655		6	26	16	1
古賀市人口 56,471人	吉塚	338	443	781	0	4	11	8	8	13	3	3	6	0	2	7	1	190	346	452		2	45	6	1
	老司	316	359	675	0	4	1	4	2	2	5	0	5	0	11	8	1	130	280	952		8	44	5	0
	小計	6,110	7,964	14,074	1,018	97	185	258	137	180	93	110	203	55	244	175	133	4,919	7,328	12,236	230	150	1811	982	809
北九州地区	飯塚	108	146	254	0	0	0	1	0	1	5	5	10	2	2	1	0	70	170	190		3	12	0	0
	黒崎	479	666	1,145	0	12	6	6	5	8	6	5	11	2	7	4	21	400	500	800		13	30	18	0
北九州市人口 1,005,583人	小倉	885	1,367	2,252	418	18	14	15	10	14	2	14	16	2	10	20	25	500	800	1,000	10	9	57	3	0
	新田原	869	974	1,843	0	10	2	4	8	6	4	1	5	0	0	12	36	850	1,500	1,400		13	95	57	0
	田川	62	93	155	26	0	3	2	0	0	0	0	0	0	2	1	0	30	60	80		2	3	0	0
行橋市人口 69,991人	天神町	121	178	299	31	5	1	1	0	1	1	2	3	0	0	3	1	80	120	210	0	2	16	5	0
	戸畑	397	428	825	0	5	0	2	9	8	0	2	2	6	13	5	2	180	420	650		20	93	28	684
	直方	96	100	196	6	0	3	5	3	1	0	0	0	0	5	0	0	45	100	120		1	35	9	2
直方市人口 58,336人	水巻	343	436	779	0	1	6	7	4	7	2	0	2	0	0	0	0	150	350	400		12	34	23	0
	門司	206	286	492	30	7	3	4	1	3	0	0	0	0	1	3	0	150	230	280		6	7	1	0
	湯川	568	655	1,223	57	11	3	4	8	10	6	3	9	2	8	6	1	300	500	550		13	56	47	7
	行橋	340	382	722	11	4	4	3	0	0	13	3	16	2	0	14	0	300	400	650		14	33	24	0
	若松	107	145	252	0	5	0	1	1	3	1	1	2	0	1	4	14	80	200	250		3	15	0	0
	小計	4,581	5,856	10,437	579	78	45	55	49	62	40	36	76	16	49	73	100	3,135	5,350	6,580	10	111	486	215	693
	合計	10,691	13,820	24,511	1,597	175	230	313	186	242	133	146	279	71	293	248	233	8,054	12,678	18,816	240	261	2,297	1,197	1,502
佐賀地区	伊万里	122	144	266	13	3	1	1	0	1	2	5	7	0	14	6	2	93	209	238		7	28	8	0
	鹿島	23	31	54	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	16	31	57		2	68	0	0
佐賀県総人口 873,540人	唐津	222	275	497	40	1	6	4	1	6	6	3	9	0	1	0	0	100	180	270		6	37	8	0
	佐賀	305	435	740	37	16	14	21	5	15	2	16	18	0	2	6	3	148	310	365	20	7	28	0	0
	多久	58	62	120	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	3	0	25	58	67		2	14	1	0
佐賀市人口 167,255人	武雄	35	49	84	0	0	2	2	3	3	3	0	3	0	1	0	0	25	60	100		2	16	3	0
	鳥栖	167	235	402	3	2	1	0	6	7	8	3	11	2	1	4	3	100	250	260		6	87	5	6
	馬渡島	176	179	355	0	4	0	0	5	9	4	1	5	0	0	7	0	340	350	380		3	31	14	0
	呼子	151	164	315	36	3	2	2	1	1	6	0	6	0	0	5	17	150	280	250		2	36	17	0
	合計	1,259	1,574	2,833	129	29	27	31	21	42	32	28	60	2	22	31	25	997	1,728	1,987	20	37	345	56	6
熊本地区	荒尾	46	97	143	13	0	0	1	0	4	0	2	2	2	1	2	2	40	60	60		0	4	2	2
	大江	128	193	321	1	5	0	0	0	4	7	0	7	0	0	2	10	150	270	300		3	16	5	0
熊本県総人口 1,857,999人	帯山	125	184	309	7	6	2	2	11	7	4	11	15	1	2	10	0	80	110	150		12	0	0	0
	菊池	23	54	77	33	2	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	30	50	50		3	0	0	0
	健軍	190	260	450	0	4	11	9	6	6	5	3	8	0	2	6	14	140	200	260		8	26	10	12
熊本市人口 669,270人	崎津	96	132	228	3	5	0	0	3	2	1	0	1	0	0	3	10	70	150	150		1	13	10	0
	島崎	135	210	345	0	2	1	1	3	4	0	3	3	0	0	8	3	195	400	430		6	20	0	0
	玉名	49	79	128	0	0	0	0	2	0	3	1	4	0	1	1	1	50	120	100	0	1	5	10	4
八代市人口 105,293人	手取	368	660	1,028	38	13	8	13	5	10	4	14	18	4	20	6	0	350	550	750	150	12	47	18	0
	人吉	59	128	187	0	3	1	2	0	1	1	4	5	1	4	4	3	50	164	200	20	1	8	1	0
	本渡	65	129	194	95	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2	30	40	50		2	10	0	0
荒尾市人口 56,882人	水俣	33	50	83	14	1	0	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	20	50	80	12	4	47	0	0
	武蔵ケ丘	138	230	368	0	6	4	11	11	10	3	1	4	0	5	4	1	200	250	350		9	37	15	13
	八代	41	95	136	4	1	0	0	0	2	1	0	1	0	2	1	0	70	90	200		3	1	0	0
	合計	1,496	2,501	3,997	208	49	27	42	43	51	29	40	69	8	42	49	46	1,475	2,504	3,130	182	65	234	71	31
福岡教区	総計	13,446	17,895	31,341	1,934	253	284	386	250	335	194	214	408	81	357	328	304	10,526	16,910	23,933	442	363	2,876	1,324	1,539



洗礼と「ナンジャモンジャ」の木

黒田 京子

洗礼のお恵みを授かった二〇〇〇年の五月に友人と対馬へ天然記念物指定の「ひとつばたご」、別名「ナンジャモンジャ」の花を見に行きました。対馬の最北端、鰐浦の港を取り巻く三方の丘陵の全斜面に純白の「ナンジャモンジャ」の花が咲き誇り、それは美しいものでした。そこで早速、十年後に花が咲くという背丈が三十センチほどの苗木を買い求め、持ち帰りました。

神の子になった記念と二〇一〇年に花が咲くのを楽しみに、そして十年後の自分はどうしているかな?と思いながら、苗木を庭に植えました。あれから三年が経ちました。

「ナンジャモンジャ」の木の背丈はあまり高くなっていませんが幹のしっかりとした木に成長し、新緑きれいな葉を付けます。この木を眺めながら、私は成長しただろうか?私の信仰の根はこの木のようにしっかりしたものだろうか?と思いを巡らします。

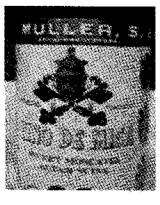
しかし、これからもイエス様がともにいてくださることを忘れずに前へ進んでいきたいと思います。

「♪苦しいこともあるだろうさ。悲しいこともあるだろうさ。だけど僕らはくじけない。進め!♪」と歌いながら。

そして、対馬へ一緒に行った友人がこの四月からアルフレッド・スカットロン神父様（大牟田教会主任）のもとで公共要理の勉強を始めたことは大きな喜びです。

（大名町教会信徒）

むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン


ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

花岡山殉教祭　熊本地区

熊本・花岡山殉教祭が、4月6日（日）午後2時から、松永久次郎司教司式により、花岡山殉教者広場にて挙行された。地元熊本および教区各地から司祭、修道者、信徒など約250人が集い、春のおだやかな陽に映える鮮やかな新緑に囲まれて、郷土の殉教者の列福を願い熱い祈りを捧げられた。

式典は、まず小笠原玄也と妻マリアみや一族15人の殉教者の墓域の灌水から始まり、次いで殉教碑前で15人の殉教者の列福を求める祈りを参加者一同で唱えた。

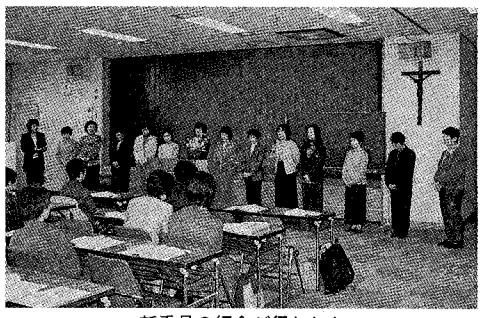
ミサは、松永司教と熊本地区の7人の司祭による共同司式で捧げられた。

司教は説教で、「福岡教区の28人の殉教者の一日も早い列福を望む私たちは、今こそ、心を一つにして真剣に祈り求めるべきです」と語り、神に信頼して祈ることの大切さを強調した。また、殉教者の母なる聖マリアに取り次ぎを求めて祈ろうと呼びかけた。

奉納では、15人の殉教者一人一人の名をしるした十字架が修道者、信徒によって捧げられた。

この行事は、花岡山殉教祭準備委員会に尽力により、毎年、この時期に実施されている。今年の殉教祭を機に、準備委員会の高木光行氏（島崎教会信徒）は教区の皆さんに次のようなメッセージを送っている。「花岡山の15人の殉教者との心の交わりを通して、彼らの模範に倣って、人生の自分自身の十字架を担う者に変えられていきます。この貴重な体験を多くの方々と分かち合いたいと思います。ぜひ、花岡山へ巡礼においでください」。

福岡地区婦人会第20回総会を開催



新委員の紹介が行われた

4月3日、カテドラル大名町教会で福岡地区婦人会第20回総会ならびにミサ、講演会が開催された。10時から行なわれた総会では、まず2002年度の行事・会計報告等が行なわれた。

続いて、地区婦人会の有志によって続けられている今村の聖母園、篠栗荘や富の里などの高齢者ホームでのボランティア活動について報告が行なわれた。報告を担当した会員は、「ボランティア活動を通して仲間と共に汗を流し、人々に奉仕するなかで味わう、あのすがすがしい喜びは何ものにも代え難い。一人でも多くの人とこの体験を分かち合えたら」と希望を述べた。また、ボランティア年代の高齢化や、参加者数そのものが減少してきていることなどからボランティアの増加にも協力してほしい旨が報告された。

続いて新年度行事計画、予算案が提出され、承認を得た。

次に退任する委員と新委員のあいさつが行なわれた。今期はほとんどの委員が任期満了となり、新しい委員と交代した。退任する委員からは「小教区の枠を超えた婦人会を通して、多くの人と出会い、様々な貴重な体験をすることができた」との声が聞かれた。

次に地区婦人会が加盟している日本カトリック女性団体連盟の活動について報告がなされた。昨年5月には福岡教区で15年ぶりとなる同連盟の大会が開催された。その際、地区婦人会は全面的に協力し、全国からの参加者を迎え、成功に導いた。

総会の後、会場を大聖堂に移してミサが捧げられた。牧山美好神父は説教で「神様は自分と一緒に他者のために身を投じてくれる人を求めている。神様に信頼して歩んでいって欲しい。また仲間を思う心を大きくひろげていって欲しい」と述べた。

昼食後、森山信三神父（戸畑教会主任）が「教会における

天草キリシタンの跡をたどる　熊本地区

熊本地区教会の子どもたちが合同で天草巡礼旅行を行なった。今年は地区の合同サマーキャンプに代えて、春休み中の巡礼が計画された。4月5日、子どもと引率者を合わせて総勢40人が参加。大型バスで健軍教会を出発、車内ではロザリオの祈りを唱え、聖歌練習をしながら楽しく過ごした。途中、大矢野で崎津・大江教会の子どもたちと合流し、天草四郎メモリアルホールを見学。キリシタンに関する展示品を見て回り、キリタン弾圧、島原の乱が起きた背景などについて学んだ。

説明に聞き入る参加者

その後、本渡教会（主任：川添猛神父）でミサをささげた。司式した川原拓也神父（崎津・大江教会管理者）は、説教の中で「殉教をどう考えるか。あの信者たちは死んだのではなく、神さまと共に生きている」と語り、参加者の胸をうった。ミサの後、本渡市の切支丹館を訪れた。

翌日には花岡山殉教祭が行なわれ、巡礼に参加した子どもたち数人が参加した。巡礼を通して先輩信者たちの生きざまに触れた子どもたちの心には、この殉教祭ミサを通して記念されることが、より深く刻み込まれたに違いない。

立誓願金祝を祝う　福岡カルメル会

立誓願金祝をむかえたシスター市田

3月25日、神のお告げの祭日に、カルメル山の聖母修道院（福岡市今宿）で修道誓願宣立50周年をむかえるシスターの感謝のミサが行なわれた。

この日、誓願を更新したのはシスター十字架のマリア市田美子さん。ミサの説教の中で、松永久次郎司教は、「神を観つめるカルメルの修道院で誓願宣立以来50年の歩みを続けてこられたシスターに敬意を表し、心からおめでとうを申したい。これからも、神と親しく過ごすこの場所から、この世界に在る人間の代表として、神を愛を込めてもてなし、賛美し、神と共に働き、そのみ心を深く悲しませていることについておわびをし、そしていつまでも神と共に歩む生涯を刻んでいってほしい」と語った。

木かげ

中村彰神父

熊本健軍に来て4年目を迎えました。この間、司祭叙階10周年を迎え、健軍教会創立50周年をお祝いしました。節目の年を神の恵みのうちに終え、新たな歩みを始める年となりました。

今年の課題は「多人数の人と長時間付き合う」ことかなと思っていますが、なかなかできていません。少人数と長時間付き合うこと、多人数と短時間付き合うことはできているつもりですが、多人数と長時間付き合うことは難しいことです。青年たちから「協調性を学びなさい」とよく言われています。それは例えば、十数名で山登りに行くとします。初めは皆のペースに合わせて登りますが、途中から、あるいは降りるときからマイペースでさっさと行ってしまうことです。あるいは街で食事をしていても、時間が遅くなると途中からさっさと帰ることです。教会の行事が終わって、残った人でお茶をしているときも、適当なところで席を立ちさっさと帰ることです。

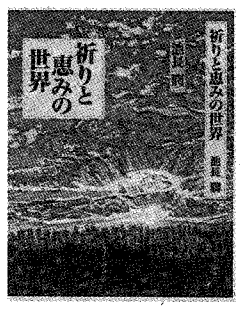
ところで、今年のNHKの大河ドラマは宮本武蔵です。書店には「宮本武蔵」関連の本がたくさん並び、熊本の武蔵塚、「五輪書」を書いたという霊巌洞は人気スポットとなっています。武蔵が書いた「五輪書」は有名ですが、「独行道」というものも書いています。人々が武蔵に惹かれるのは、独りで剣の道を極め、人生の道を極めるという求道性にあるのではないかと思います。個人的には自分にダブらせるところが多々あって、共感しながら見ています。

独りで、また人々と…

独りでいる時間も人と一緒にいる時間も大切です。独りで祈り、人とも祈る、独りで学び、人と学ぶ、人から学ぶといったふたつの時間をよく使うことによって、人の間に生きる人間として成長していくのでしょう。どちらかにかたよることなく、そのバランスを保てる賢明の賜物を願っています。

（健軍教会主任）

★祈りと恵みの世界
池長潤　著



人は、なぜ祈るのか。人は自分の存在の源であり、心のふるさとである神を忘れることはできない。そこに帰ることが祈りである。カトリックの伝統の中で、現実に体験されてきた祈りの紹介。実践的に自分の祈りを開拓し、広げていきたい、と望む人に参考となる書。

女子パウロ会発行
税抜価格　1400円

◇　◇　◇

★神様からの贈りもの
安東茂樹著

彼女はよく、君の話をしていましたよ。素直なとってもいい子だって、いつもうれしそうに話していました。彼女は君に会うと病気のことも忘れるって。少年が経験した、かけがえのない一年間の思い出の物語。

サンパウロ
税抜価格　1200円

BOOK 読みは専科

お知らせ
「福岡教区ハンドブック2003」は、各小教区に配布されています。

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

マリアと共に キリストの道を歩こう！

カトリック教会のカテキズム

日　　時：5月25日(日) 15：00～17：00
　　　　通常毎月第4日曜日(変更日あり)
場　　所：カテドラル大名町教会
講　　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」と4月発売された信徒向け「カトリック教会の教え」
参 加 費：1回　500円
対　　象：教会学校のリーダーやカトリック教会の教えを学びたい人
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

北九州地区聖書講演会

②5月18日(日)　14：00～16：00
　[テーマ] 旧約聖書について
　[会　場] 新田原教会テレジア館
③9月7日(日)　14：00～16：00
　[テーマ] 新約聖書について
　[会　場] カトリック小倉教会
④11月16日(日)　14：00～16：00
　[テーマ] 聖書と今を生きる私たち
　[会　場] 新田原教会テレジア館
　[講　師] 森山信三神父（戸畑教会主任）
　[主　催] 北九州地区信徒協
　[問合先] ☎093-293-4981　松尾

2003年度典礼を学ぶ集い

(2)：7月20日(日)　感謝の祈り(奉献文)
(3)：10月19日(日)　交わりの儀
(4)：2004年1月18日(日)　閉祭
講　師：白浜満神父（大神学院教授）
参加費：1回600円（4回一括2,000円）
申込み締きり：2003年4月21日(月)
申込先：〒811-4181宗像市三郎丸608-9
　☎FAX 0940-33-8122　井上元之

2003年度聖霊による生活刷新セミナー

①5月12日　神の愛　救いのみわざ　マッケイ師
②5月19日　新しい生命　オカロル師
③5月26日　神の賜物の受領　小池如安師
④6月2日　みたし　マッケイ師
⑤6月9日　聖霊のうちでの成長　キリストの変容　ドワイヤー師
⑥6月16日　派遣ミサ　松永司教ほか司祭団
日　　時：5月12日～6月16日までの毎月曜日
　　　　10時30分～12時30分
会　　場：大名町カテドラル
テキスト：「新生への門出」(600円)
参 加 費：無料／献金歓迎
主　　催：福岡地区聖霊による刷新セミナー実行委員会
連 絡 先：福岡司教館　Br.床嶋(☎092-522-5139)

聖母月　案内版　会合と催し　5月のこよみ

福岡黙想の家　5月

◇3日(土)～5日(月)　第42回クルシリヨ
◇8日(木)～9日(金)　カトリック児童施設職員研修会
◇10日(土)～11日(日)　明治学園小学校宗教科職員研修
◇12日(月)～16日(金)　キッペス神父グループ研修会
◇14日(水)　ミカエル会
◇16日(金)　むなかた和善の聖書
◇17日(土)～18日(日)　山口・島根地区信徒養成研修会
6月
◇1日(日)　聖公会宗像教会十字架の道行きと礼拝
◇2日(月)～4日(水)　御受難修道会共同体の日
◇9日(月)～13日(金)　大分・鹿児島・那覇3教区合同司祭黙想会
[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

※祈りの集い
・5月8日(木) 10時～15時
テーマ：ロザリオの祈り
・6月12日(木) 10時～15時
テーマ：無名の巡礼者の祈り
指　導：Sr.マリアと　S.フランコ神父
・黙想会
　個人、グループで、黙想会・研修会などができます。
[問合先]
　・生命山カトリック別院
　☎0968・85・3100
　FAX 0968・85・3186

マグリン神父によるゆるしの秘跡

日　程：毎月第1と第3土曜日
場　所：大名町カトリック教会小聖堂

5月のこよみ

3日(土)　クルシリヨ（～5日）
5日(月)　**浄水通教会献堂50周年記念感謝ミサ**
　†F.ルマリエ［八代教会1945］
6日(火)　**臨時司祭評議会（司教館10時30分）**
10日(土)　聖母行列とミサ（今村教会と聖母園）
　†F.チリ司教［初代福岡教区長1930］
11日(日)　復活節第4主日
　召命祈願日
　熊本神学講座要理教師2級資格認定証書授与式
14日(水)　聖マチア使徒
15日(木)　†ヨハネ棚町正刀［茶山教会1968］
18日(日)　復活節第5主日
　茶山教会堅信式
25日(日)　復活節第6主日
　世界広報の日（献金日）
31日(土)　聖母の訪問
　聖クララ会終生誓願式（聖クララ修道院10時）
6月
1日(日)　主の昇天
　天草地区合同海上聖体行列（ミサ10時大江教会）
　九州地区女子修道会総長管区長会［大神学院］
8日(日)　聖霊降臨の主日
　教区合同堅信式（カテドラル14時）
11日(水)　助祭・司祭候補者認定式［大神学院］
15日(日)　三位一体の主日
　手取教会堅信式

ゴチックは司教日程

◆福岡

■福岡祈りの集い
[日時] 毎週月曜11時～12時30分 [場所] カトリック大名町教会 [内容] セミナーを開催しています [問合先] ☎092・522・5139ブラザー床嶋

■召命祈願ミサ
[日時] 5月8日(木) 19時15分 [場所] サン・スルピス大神学院聖堂 [指導] 今田昌樹神父（笹丘教会助任）

■第90回福岡結婚準備講座
[次回] 5月10日(土)から6月4日(水) 毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分 [場所] 大名町カトリック教会 [参加費] カップルで一万四千円 [問合せ先] ☎092・541・6207 FAX 092・552・5022カトリック・ファミリーセンター

■第25回福岡ホスピスの会
[日時] 5月11日(日) 14時～16時 [場所] カトリック大名町教会4階 [テーマ] 在宅ホスピスの現状について [講師] 二ノ坂保喜医師（にのさかクリニック院長） [問合せ] ☎092・534・5647小林

■召命を共に祈る会
[日時] 5月15日(木) 14時30分 [場所] 召命の家 [指導] 浦川務神父（召命担当）

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
[日時] 5月22日(木) 11時から [場所] 聖クララ寮聖堂（南区塩原） [内容] グレゴリオ聖歌によるミサと研修…聖マリアの祝日のためのミサ曲 [講師] 坂田孝子氏 [参加費] 自由献金 [問合先] ☎096・380・5686堺

来て来て！バザーでーす。
日時：5月11日(日)
場所：笹丘教会
　　　老司教会
見てびっくり
食べておいしい

■第34回福岡典礼聖歌研修会
[日時] 5月18日(日) 13時から [場所] 光丘カトリック教会 [講師] 深堀純氏（大名町教会信徒） [参加費] 自由献金 [問合せ] ☎092・541・3730松山

■在世フランシスコ会集会
[日時] 5月25日(日) 14時～16時 [場所] 高宮フランシスコ会修道院在世会集会所 [内容] アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習 [指導] 小池如安神父 [問合先] ☎092・843・5831岩崎

■生と老い死を見つめる会
[日時] 6月1日(日) 14時から [場所] カトリック大名町教会 [内容] 葬儀について [講師] 高崎克也氏（草苑職員） [問合せ先] ☎092・713・8523大山／607・6992村尾

召命を祈る徹夜祈祷会
日時：6月21日(土)から22日(日)まで
場所：カトリック大名町教会

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、男性用夏物衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。また、火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者を募っています。[問合先] ☎092・431・1419コース神父

◆北九州

■小倉祈りの集い
[日時] 5月23日(金) 13時30分～15時 [場所] カトリック小倉教会信徒会館 [内容] 「みことば」をあじわう賛美と感謝の祈り [指導] B・ガブリエル神父（御受難会） [問合先] ☎093・452・1556安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
[日時] 5月14日(水) 10時～11時30分 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] 共に祈る [問合先] ☎0952・72・7536吉田 [次回] 5月24日(土) 10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4土曜日。どうぞご参加下さい。

■聖書を読む会
[日時] 毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] ルカ福音書を読む [講師] A・アレグリーニ神父 [テキスト] 聖書 [参加費] 無料 [問合先] ☎0952・23・4754阿南

◆熊本

■第71回熊本結婚準備講座
[日時] 5月6日(火)から6月2日(月) 毎月曜日と火曜日全8回19時～21時30分 [場所] 手取カトリック教会 [参加費] カップルで一万四千円 [問合せ先] ☎096・352・3030 FAX 096・352・1515手取教会　安部

■オール熊本青年祭り
[日時] 8月9日(土) 12時～10日(日) 12時 [目的] 交流→青年の活性化→教会の活性化 [テーマ] 新しい出会い…そして発見 [指導司祭] 中村彰神父（健軍教会主任） [内容] ミサ・分かち合い・ゲーム・バーベキュー [場所] 熊本信愛女学院西合志合宿所及びグラウンド [対象] 高校生以上の青年 [参加費] 1、000円 [主催] 熊本市カトリック教会青年部 [問合先] ☎090・8353・2024（前田）

編集後記

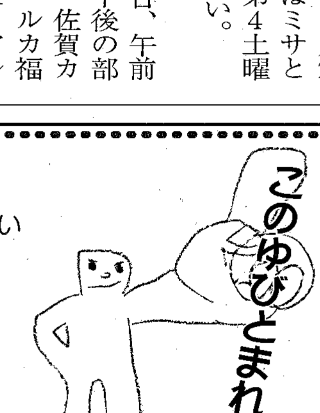
ただいま編集部では、教区報紙面の広告掲載希望者を募集しております。お問い合わせ、お申し込みは、☎092・522・4059教区報編集部までお願いします。
なお先着順とさせていただきますのでご了承ください。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

教会でもっと友だちつくりたい
他の教会ってどんな人がいるのかな
最近教会に行ってないなぁ……っていう君に来て欲しい

期間：2003年7／19(土) 20(日) 21(月)
対象：福岡近郊の中学生と高校生
場所：福岡召命の家　参加費：3,000円
問合：092-741-3687　大名町カトリック教会　浦川神父
ema：fycc2003@hotmail.com
HP：http://konnyaku.fc2web.com/fycc.html
主催：福岡地区青少年委員会（FYCC実行委員会）



カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
人間の価値の尊重
インドの様々なキリスト教
教派における一致の証し
【一般】
【布教】
【日本の教会】日本の政治と為政者のため

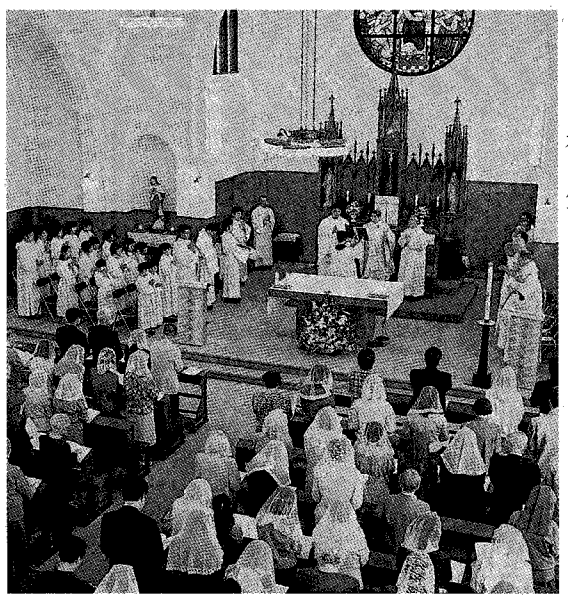
聖霊降臨

浄水通教会のステンドグラスから

浄水通教会創立５０周年を祝う

聖霊降臨に捧げられた浄水通教会
百周年に向かっての歩み再び

5月5日、浄水通小教区（主任＝中浜一男神父）は創立50周年を祝った。松永久次郎司教主司式でささげられた記念ミサには、20人近い司祭と約２００人の信者が集い、喜びのうちに神に感謝をささげた。



小教区としての誕生は１９５２年。初代主任は平田惣五郎神父。その後伊東誠二神父、深堀敏神父（現高松教区長）、山田成章神父、その後１９８２年からイエズス会に委託され、A・ラミレス神父、粟本昭夫神父、P・ブランガン神父、１９９２年青木保神父が着任、青木保師帰天後１９９９年堤要吉神父着任まで教会管理者がおかれた。

１９３１年に聖母訪問会が創設されたのがこの地における宣教の始まりである。この時の聖堂は美野島に移築され、現在、司牧センターとして使用されている。カトリック神学院が隣接していた当時は、小神学生がしばしばミサ典礼に参加することもあり、信者と神学生が親しく出会う教会であった。また教区司祭のなかには浄水通教会で叙階の秘跡を受けた人もいる。現在の聖堂は、信徒と司祭の尽力で、幾度の改修を経ながら保持され、聖堂の四方の窓にはステンドグラスも取り付けられ美しい彩りを添えている。

この記念行事開催を思い立ち、信徒への呼びかけを行なったのは第９代主任の故堤要吉神父であった。神父は着任当初から、創立50周年に思いを馳せ、これを契機に信仰共同体の絆を深め、愛のうちに成長することを願っていた。そのさなか堤神父が病気に倒れ、中浜一男神父がその意志を継いで「真の一致に導かれる宣教共同体としていくために」努力することを念頭において、行事計画を押し進めていった。病床で信徒を思い、祈り続けた堤神父は昨年８月18日神のみもとに召された。大きな試練の時であった。この悲しみを乗り越え、主任として着任した中浜神父と信徒は心を合わせて、創立記念を引き続き準備したのである。また、この節目に内的な豊かな実りを願い、昨年から「浄水通教会50周年の祈り」を信徒一同で唱えてきた。

記念ミサの意向は「キリスト者の一致のために」。松永司教は「これから百周年に向けて、一致の絆を深め、できるだけ多くの人をこの共同体の中に迎えて欲しい」と語った。

拝領祈願の後、祝賀式典が行なわれ、来賓や信徒代表の挨拶に続いて中浜神父が謝辞を述べた。最後に、子ども代表3人が決意表明を行なった。未来への夢を描く子どもたちの姿の中に、新しく前進するための力、希望の灯りを見る思いがした。

ミサの後、会場を司教館新館に移して祝賀パーティーが催された。なごやかな雰囲気で会食がすすみ、なつかしい人々も多数訪れ、旧交をあたためる姿が見られた。

福岡教区修道女連盟２００３年度総会開催
修道奉献者として教会と共に歩み続けよう

新緑輝く4月29日、福岡教区修道女連盟（会長＝シスター杉村尚子・マリアの宣教者フランシスコ修道会）が、カテドラル大名町教会で総会を開催した。教区各地からおよそ１００人のシスターが参加した。

第一部では、教区長松永久次郎司教が『おとめマリアのロザリオ』をテーマに講演し、ロザリオの各玄義の尊い意味を身近にとらえ、日常生活の中で繰り返し祈ることの大切さをユーモアを交えながら分かりやすく説明した。

司教は、喜びの玄義はロザリオの祈りの根本を示す祈りであること、また光の玄義における聖母マリアの現存について語り、ロザリオの祈りの深い霊的な恵みを会衆に悟らせつつ、参加者の心に感動を与えた。

第二部のミサは松永司教司式で捧げられた。教区のさらなる発展と、修道女連盟が喜び苦しみも共に分かち合い、強い絆に結ばれた修道奉献者として教会と共に歩み続けるように祈り、新しく始める年度の上に神の豊かな祝福を願い求めた。

第三部総会では、前年度の収支決算、活動報告と、今年度収支予算案、活動計画案が提示され、説明が行なわれた。また、役員の交代が行なわれた。任期を終えたシスターには心からの謝辞が述べられ、新役員6人が紹介された。

最後に、指導司祭の平田三好神父は「毎日のすべての出来事を主の恵みによってプラス志向に明るく受けとめて、幸福な修道奉献の生活をおくるように」と、あたたかく励ました。

臨時司祭評議会を開催

２００３年度臨時司祭評議会が5月6日、司教館新館会議室で開かれた。今回は新評議員となっての最初の評議会。

まず事務局長の中浜一男神父から年度前半の主な行事について報告が行なわれた。教区内全司祭研修会は6月24日（火）から26日（木）までの日程で、熊本県荒尾市のホテルを会場に開催される。

また10月に行なわれる邦人司祭黙想会の講師として小高毅神父（フランシスコ会司祭）が来福することが発表された。

次に司祭評議会常任委員の選出、教区宣教司牧評議会代表者の選出が行なわれた。

続いて、今年八代殉教４００周年にあたって八代小教区が中心となって取り組みが始まっている記念行事について、また国際移住移動者委員会から提出された外国人司牧に関する提言について報告が行なわれた。外国籍信者と共に生きる共同体つくりをめざして、教区として検討する課題、小教区で取り組んでほしいことなどが具体的に提示された。

合同堅信式

日時：6月8日14時
場所：カテドラル
※聖歌の練習が11時30分から行われます。
※公共の交通機関をご利用下さい。

時の話題
新型ウイルス性肺炎 SARS
黒岩中氏

今年の2月から3月にかけて世界の耳目が「イラク」に集中していた頃、国際ニュースの片隅に登場した「新型ウイルス性肺炎」が今は世界中に恐怖を与えようとしています。この新型肺炎は正式には「重症急性呼吸器症候群（SARS）」と呼ばれますが、最初の発生地は中国の広東省で、それが香港のあるホテルの滞在客を介してベトナム、シンガポールなどの東南アジア地区やカナダのトロントなどへ広がったことが分かってきました。

今やその汚染は中国全土に広がり台湾まで重大な汚染地区となっております。原因ウイルスは新型の「コロナウイルス」であるとほぼ特定されています。通常の「コロナウイルス」はごく普通の風邪のウイルスで感染の年齢層が高くなるほど致死率も高くなります。問題はこのウイルス感染に対する治療法が確定していないことです。一般にウイルス病に対する特効薬は殆どなく、ワクチンによる予防が最善の方法ですが、このウイルスは新型のため決め手となるワクチン作りにはまだ相当の時間がかかるでしょう。今のところ患者が発生したらいち早く「隔離」して感染の拡大を防ぐしか対処の方法がないようです。幸い未だ日本での発生例はありませんが、24時間で世界一周できる時代です。ここ暫くはこのウイルスから目が離せません。

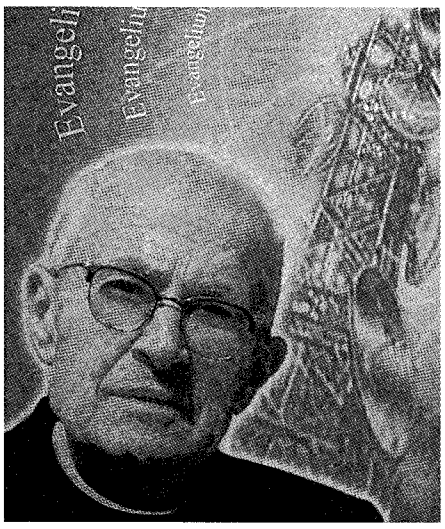
福岡大学医学部

みちくさ

今、考えて見れば、昔は種々の行事または習慣があった。例えば、三月には聖ヨセフの月の信心、五月には聖母月の務め、そして六月には聖心の月の信心、十月にはロザリオの月の務め、そして十一月は死者の月だった。それに待降節や四旬節等の大斉・小斉の義務もあった▼それに「初金曜日・初土曜日の務め」には、日曜日同様とも言える程の人の集まりであった。それに加えて、十八辺の祈りの信心などが死者のため捧げられていたのである▼それに私の個人的なことを加えると、私たちの教会では、朝登校前に堅信の「ケイコ」があったので、懐中電灯などを点けて、教会の早朝ミサに通わねばならなかったことである。良くやったものだと思う。しかし、そんなことが当然であったのである▼それらはほとんど個人の決定であり、参加はもともと自由であった。だけど一人としてこれらの信心業等に全く無関心ではあり得なかったと思う▼現在でもこのような信心業はここかしこで行なわれているであろう。しかし、昔ほどの熱心さはなくなったようだ。昔とは全く変わった静けさが教会の中を支配しているようだ▼もちろん、これでいいのかも知れない。公会議によって枝葉末節的なものは取り去られ、肝要なものだけが残された結果なのかも知れない。しかし、これでいいのだろうか▼もともと、人間の宗教心は、毎日の習慣で養われるものとも云える。平凡なことの繰り返しが人の心を形作ると言えるのである。今私たちが小さなこととしていることも、本当は大切だったのかも知れない。（ひ）

喜びのパウロ家族
創立者アルベリオーネ神父列福

パウロ会家族の創立者ヤコブ・アルベリオーネ神父が4月27日、福者にあげられた。列福式は喜びに湧く群集と共にヨハネ・パウロ二世教皇によってサンピエトロ広場で荘厳に執り行われた。福岡教区からも修道者や信徒も参加した。



福者ヤコブ・アルベリオーネ神父

修道会福岡修道院から参加した牧山忠治修道士と永富久雄神父に創立者の列福の瞬間に立ち会った時の様子を語ってもらった。

パウロ会家族（5つの修道会、4つの在俗会、1つの協力者会）の創立者ヤコブ・アルベリオーネ神父が4月27日、福者にあげられた。教皇庁列聖省は2002年3月20日にヤコブ・アルベリオーネ神父の取り次ぎによる奇跡を認定する教令を発布した。パウロ家族修道会は、創立者と、テイモテオ・ジャッカルド神父、二人の福者のお恵みをいただいたことになる。

列福式にあわせて、日本からも巡礼団が参加。聖パウロ会家族創立者ヤコブ・アルベリオーネ神父をはじめ、他の5人を福者の中に加えてくださいますよう謹んでお願い申し上げます」と読み上げた。続いて各々福者に挙げられる方々の業績が読み上げられ、そのたびごとに、広場をうめた人たちが地鳴りのように歓声を上げた。

喜びの瞬間に立会って

4月27日、アルベリオーネ神父ほか5人の列福式に参加した。サンピエトロ広場に8時30分（現地時間）に到着すると、すでに広場は人でごったがえしていた。その後もぞくぞくと人々が詰め掛け、さすがの広場も9時頃には大群衆で埋まり、その数およそ20万人。10時からミサが始まり、その中で枢機卿が教皇に「パウロ会家族創立者ヤコブ・アルベリオーネ神父をはじめ、他の5人を福者の中に加えてくださいますよう謹んでお願い申し上げます」と読み上げた。続いて各々福者に挙げられる方々の業績が読み上げられ、そのたびごとに、広場をうめた人たちが地鳴りのように歓声を上げた。

サンピエトロ広場に集った人々

その後、教皇は列福の宣言を行なった。「今、ここに列福請願者および司教団と多くの兄弟たち、多くの信徒の請願を受け、教皇庁列聖省の意見を聞いたわたしは、使徒座の権威をもって、神の僕たちが、今後福者と呼ばれ、規定どおり、彼らが天国に召された日を毎年祝日に制定することを宣言します。父と子と聖霊のみ名によって。アーメン」。この時、群集はひときわ大きな歓声を上げた。列福式に参加してよかった！と感動する瞬間である。列福式ミサは2時間におよんだ。

聖パウロの精神を生きて

「神父様はよく祈る人でした。」アルベリオーネ神父を知る人々に彼について尋ねると、まっ先にこの答えが返ってくる。彼は聖体の前で祈ることを大切にした。20世紀がまさに幕を開けようとしていた1900年12月31日の真夜中、ミサに引き続いて聖体の前で4時間ほど一心に祈っていた。その時、彼は、神秘的な体験をする。そしてそれは彼の特有の使命と、将来の使徒職が生まれ育っていくはずの固有の霊性に決定的ともいえる影響をおよぼすことになる。また、彼はいつもロザリオを持ち、たえず祈っていた。身体的健康に決して恵まれていたわけではない彼が、あれほどの働きをすることができたのは、まさにこの祈りの力であったといえよう。

彼には派手さはない。しかしバイタリティーに富み、その信念と行動力は人々を引き付けた。道、真理、生命である師イエズス、この方を観つめ、そのかたどりとなることをひたすら望み燃やし尽くされた生涯。「私たちの使徒職のすべては、人びとにキリスト教的生活をより深く生きさせるということを目的としている。すべての祈りは、師キリストに結ばれているように、修道生活そのもの、勉学、使徒職、すべてはキリストにつながっていなければならない。これこそ修道会の精神であり、パウロ的精神である」。

アルベリオーネ自身が大切にし、人々にも伝え続けたひとつの言葉は「すべて」。それは全人格を発展させ、統合させることを意味する。『私は生きているが、もう私が生きているのではない。キリストが私のうちに生きておられる。』（ガラテヤ2章20節）、師キリストの全容をとらえ、それを生きた弟子、聖パウロが理解したようにキリストを生きるように」と彼は書いている。

教皇パウロ6世と親しく話すアルベリオーネ神父

教皇パウロ6世は、たびたびアルベリオーネと彼が創立した修道会を訪れた。

教皇パウロ6世がアルベリオーネについて記した次のようなことばがある。「私はキリストのみ名において、彼に感謝し、祝福いたします。謙遜で沈黙にひたり、疲れを知らない。しかも常に目ざめ、つねに潜心している彼をごらんなさい。それらは、祈りと働きから生まれるものです。しかも『時のしるし』をみきわめることに注意を傾けていました。つまりアルベリオーネ師は霊魂に近付くにあたって、もっとも適当な方法で、すなわち新しい道具と新しい手段、ならびに現代世界におけるその使命の有効性と可能性についての良識を教会に与え、その現代的手段をもって教会が自身を説明するために貢献されました」。

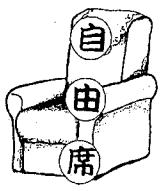
走るべき道のりを走り尽くしたアルベリオーネ神父。その最期のことばは「天国…みんなのために祈ります。」だった。

教会はいま、彼を福者と宣言し、彼のこの祈りに21世紀を生きる自らをゆだねようとしている。

ヤコブ・アルベリオーネ列福感謝ミサ
日時：6月28日(土) 14時30分から
場所：カテドラル大名町教会
主式：松永久次郎司教

福者アルベリオーネ神父　年譜

1884年4月4日	北イタリアのピエモンテ州クオネ県サン・ロレンツォ・ディ・フォッサーノの貧しい農家に、父ミケーレ、母テレーザの第5子として誕生
1896年10月25日	トリノのブラの小神学校に入学
1900年10月	アルバの大神学校に入学
12月31日	真夜中の聖体礼拝の間に、パウロ的召命の原始的インスピレーションを受ける
1902年12月8日	着衣
1907年6月29日	司祭叙階
1908年4月9日	ジェノバの聖トマス学院にて神学博士号を取得
1908年10月	アルバの大神学校の霊的指導司祭、教授となる
1913年9月8日	アルバ教区週刊新聞『ガゼッタ・ディ・アルバ』をレイ司教から委託される
1914年8月20日	聖パウロ修道会の前身である「少年印刷学校」をアルバのケラスコ広場に設立
1915年6月15日	シスター・テクラ・メルロを共同創立者として聖パウロ女子修道会創立
1917年6月30日	マス・コミ使徒職の協力者会を組織
1924年2月10日	師イエズス修道女会創立
1934年	日本に2人のイタリア人会員を派遣
1938年10月7日	善い牧者イエズス修道女会創立
1949年5月	第1回日本訪問
1958年	使徒の女王修道女会創立
1960年4月8日	4つの在俗会教皇庁から認可される ・お告げの聖マリア会 ・大天使ガブリエル会 ・司祭なるイエズス会　・聖家族会
1962年10月11日～1965年12月8日	第ニバチカン公会議に教父として出席
1963年3月	最後の日本訪問
1971年11月26日	ローマにて永眠。　享年87歳



病人訪問

東島　祥子

神父様は今定期的に、病気の方々を訪問されています。もう一人の方と一緒に私も同行させていただいていますが、その関わりの中で、神様が一人ひとりをどれ程慈しみ愛してくださっているか、「わたしがあなたを忘れることは決してない」（イザヤ49章15節）というみ言葉が思い出され、本当に神のみ業に感嘆し、賛美の心が湧いてきます。出会いを通してたくさんのことを学ばせていただいていることにも感謝しています。

最初の出会いのAさんは、転入まもなく足腰が弱られ、ミサに参加することができず「ミサの時間帯は一人で祈っていたけれど、教会の人との繋がりもなく淋しかった。でも今はご聖体を拝領し、神父様とも向き合ってお話もできる。今が一番幸せな時かもしれませんね」と穏やかに話されます。

Bさんは、ある偶然というより聖霊のお導きと思うのですが、入所先が判り、訪問すると、びっくりされたご様子でしたが、「自分にできる精一杯の祈りや愛の業に励んでいます。神父様すぐに告解を」と言って涙ぐまれ、喜びの時を共有させていただきました。

Cさんは意識レベルが低いのですが、「神父様ですよ」との呼びかけに、すぐ手を合わせ、祝福の時には目からひとしずくの涙が頬を伝わりました。それからまもなく帰天されましたが、心安らかに主のみもとに上られたことでしょう。

ご高齢のDさんは、いつも感謝と笑顔を絶やさず、ロザリオや霊的読書でいのち輝く日々を過ごしていらっしゃいます。

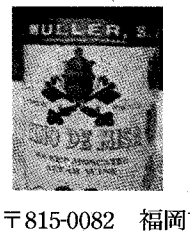
それから静かに信仰を守り続けて来られたEさん宅では、お嫁さんがお姑さまと同じ霊名で、ご復活祭に受洗されました。どんなに大きな喜びだったことでしょう。

重い症状の方は手を握り合い、言葉数は少なくとも、そこにはイエス様がいてくださることを確信し、信仰の力が伝わって参ります。しっかりと心にその生きざまを留めておきたいと思っています。

マリア様のお取り次ぎを願い、神様のお力をいただきながら、西新教会共同体が一つの大きな家族として共に心くばりし、祈り合い助け合いながら、天の国を目指して、信仰の道を歩んで行きたいものです。

（西新教会信徒）

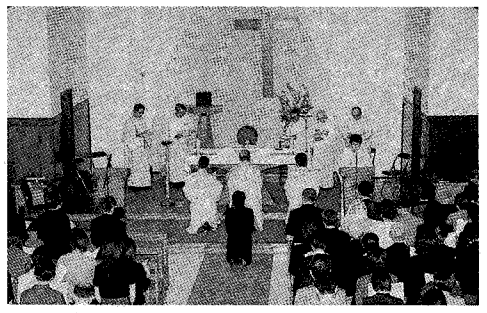
むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

喜びの終生誓願式

援助修道会


諸聖人の取次ぎを求めて祈る立願者と会衆

復活祭の喜びが広がる4月27日、神のいつくしみの主日に、黒崎教会で援助修道会シスタークララ小林直子さんの終生誓願式が執り行なわれた。誓願式ミサは松永久次郎司教と8人の司祭によりささげられ、シスター小林のご家族をはじめ、援助修道会会員、シスター小林が奉仕している聖ヨゼフの園からも入寮者、職員が参加した。黒崎教会の信徒もこの恵みの時を準備し、当日も典礼や様々な場面でおしみなく協力した。これは修道会と小教区との間に長年にわたって育まれた絆の深さを物語っている。

松永司教は説教で「終身の誓願には終わりがない。最後まで忠実であることが求められる。人は時の中に生きる者であり、一年、一か月、一週を通してたえまなく真を示す。大切なのはそれを続けること、そして繰り返すこと。私たちはたとえ倒れたとしても、もう一度立ち上がることができる」と諭し、はげました。

修道誓願の儀に入り、呼び出しに応えて祭壇前に進み出た立願者に対し、司教は神の国のために貞潔・清貧・従順の道を生涯にわたって歩むこと、また福音的勧告に従い、世で最も顧みられない人々のために主キリストの解放と和解のわざに協力する意志をもっているかを確認した。諸聖人の連願に続いて管区長シスター木村那子と二人の証人の前で、自ら作成した誓願文を読み上げ、その後、祝福された指輪を受けた。

ミサの後、教会広場で祝賀パーティーが催され、シスターを囲んで喜びの輪がひろがった。シスター小林は東京教区・潮見教会の出身。修練期・勉学期を除いて有期誓願期の4年間を北九州の青山、黒崎両修道院で過ごした。その間、養護老人ホーム聖ヨゼフの園の介護職員として働いた。終生誓願後は東京・本部修道院に派遣され、障害を持つ方々への奉仕に従事することになっている。

第42回クルシリヨを開催

第42回クルシリヨが、例年通りゴールデンウイーク中の5月3日から5日にかけ、福岡黙想の家で開催された。今年は参加者が少なく、中止もやむを得ない状況にあったが、神学生2人を含めて10人で何とか開催することができた。ここ四・五年の参加者数には不安定さがあるが、スタッフの意気込みに学習成果には目ざましいものを感じる。

参加者の自己紹介によると、参加のきっかけが教会の役員や司祭から促されてではなく、自分から望んだ人が多かったのは一つの特徴ではなかったかと思われる。それにしても、いつものことながら居眠りする暇もないほどの過密スケジュールの中で過ごしているうちに、いつのまにかしっかりと流れをつかんでいるようであった。

今年は例年になく天候も気候も良かったため、ウグイスの歌声のシャワーを浴びながらの朝の奉献が出来たのも、特別なお恵みだった。また、今年もたくさんの霊的花束が寄せられた。スタッフによって張り出されると参加者は目を見張っていた。これまで霊的花束を作成したり、お祈りを捧げたりしてきたが、参加者にとってこれ程喜ばしいものだとは予想もしなかったそうだ。多くの人々に支えられて、今年も無事クルシリヨを終了した。

スタッフから、支援に対しての感謝とあわせて、クルシリヨへの招きと参加呼びかけの協力を求める声が届いている。「このお恵みを福岡教区の信者だけが独占するのはもったいないことです。クルシリスタ（クルシリヨ参加経験者）の皆さん、他の教区の方々にもぜひ参加をおすすめください。祈りの輪は大きい程喜ばしいものになるに違いありません」。

木かげ

鈴木忠一神父

…いつ洗礼を受けられたのですか？

今から五十年以上も前、小学5年生の時、近所のおばさんが「明日、お宅の坊やを教会に連れて行く」と母に宣言、直ちに実行しました。このおばさんからイエズスさまのことや教会のことを一切教えられたことはありません。ただ教会の行き帰りにはロザリオを熱心に祈りました。それから時々お休みもしましたが、中学3年生の時親友と「公教要理」の勉強を始めました。教会のルルドでマリアさまに一生懸命祈りました。伝道士の青山先生のお人柄を尊敬していました。受洗は、高校1年生の春、御復活祭でした。

…その時、神父になろうと思ったのですか？

いいえ、受洗の後、高校、大学そして就職とごく平凡なカトリック青年の道を愉しんでいました。たまたま青年会の黙想会で、指導司祭に「君は神父になる人だ」と言われました。「この私が？とんでもない」と思いました。が、その後、心に消えない言葉になりました。

…ご家族は、賛成でした？

ゼッタイ反対！特に母の反対は無言で強烈でした。それでも私は一人で決心して、会社を退職、司祭職をめざして歩みはじめました。3週間後、元気だった父が急死。私は長男です。家にはまだ妹二人と高校生の弟がいる。これはお呼びではないと思い、葬式の夜、母に家に帰り、家族のために働く決意を伝えました。すると母は私を見すえてこう言うのです。「男が一度、自分の道を決めて歩み始めたら、進むだけよ。家のことは私が何とかする！」。その年、母は受洗してイエズスさまのもう一人の弟子になりました。大好きな良寛さんの歌、「なにゆえに家を出しとおりふしは心に恥じよ墨染めの袖」をいつも思います。司祭職の召命はただただ神さまの恵みにおすがりするだけです。

（御受難会福岡修道院院長）

お宅の坊ちゃんを教会へつれて行きます

要理教師2級認定証授与

熊本地区信徒協

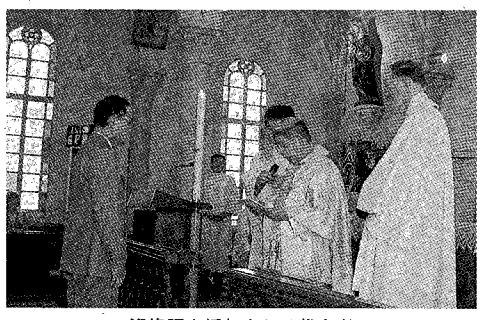
5月11日、手取教会で熊本地区信徒使徒職協議会主催神学講座・要理教師認定証授与式が行なわれ、講座修了者のうち26人に要理教師2級認定証書が授与された。

授与式に先立ち、14時から松永久次郎司教主司式でミサが行なわれ、司教は説教で「今日は新しい出発の時。これからも努力を続け、少しづつ進歩することの素晴らしい価値を体験してほしい。信じることを学ぶだけでなく、信仰を生きる人になるように」と語り、キリストの群れに属さない人々をも引き寄せ、迎え入れるようなはたらきを実行していくよう励ました。

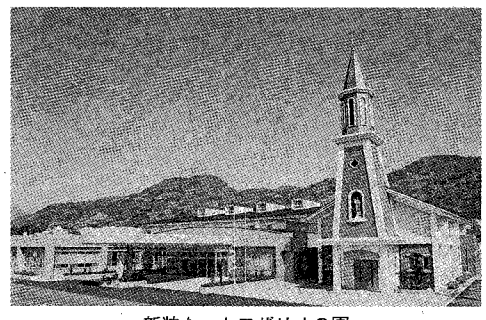
ミサの結びで、26人の名前が呼ばれ、松永司教から要理教師2級の証書が授与された。

続いて地区長のF・マッケイ神父があいさつし「キリストと教会の関係は、婚姻により結ばれる夫婦の絆にたとえられ、相互に与え合う関係である。与えることの喜びを味わって生きていくように」と激励した。

学びの労苦を共にし、新たな使命に呼ばれた人々の表情はとても晴れやかで、一つ一つの現実と向き合い、切り拓きながら、未来へと歩みをすすめる希望の力強さを実感しているようだった。


資格証を授与される代表者

指定介護老人福祉施設ロザリオの園が増改築

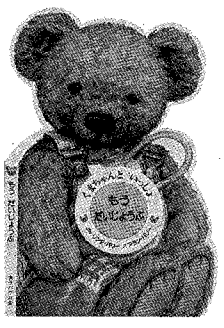

新装なったロザリオの園

佐賀県大和町にある指定介護老人福祉施設ロザリオの園（園長＝Sr田代リエ）が、このたび増改築工事を終え、5月13日に落成式が挙行された。落成式に先立ち、聖堂と施設入り口に立つ聖母マリア像の祝福が松永久次郎司教司式で行なわれた。聖堂にはイタリア製の美しいステンドグラスがほどこされ、落ち着いた雰囲気で人々を包み込んでいる。

社会福祉法人聖母の騎士会は佐賀県初の特別養護老人ホームとしてロザリオの園を開設し、「神の愛をすべての人に！」をモットーに、地域社会と密着した福祉実践に尽力してきた。佐賀県の高齢者人口の割合は日本の平均を上回っており、急激に進む高齢化と人々のニーズに応えるため、このたびの大規模な施設内容の拡充に踏み切った。国、佐賀県をはじめ各方面からの支援があった。今回の改築部分の建物面積は5020平方メートル余り。採光にも工夫が施され、ゆとりある間取りの一人部屋26室をそなえている。

現在、ロザリオの園では、特別養護老人ホーム（定員110人）、短期入所事業（定員12人）、通所介護事業（定員30人）、訪問介護事業、介護支援事業などをおこなっている。

BOOK 読みは専科



★くまちゃんといっしょ
もうだいじょうぶ
文・リンダ・バリー
絵・アラン・バリー
日本語文・脇田晶子

「くまちゃんのおいのりしましょう」シリーズ（全4点）の一つで、詩編二十三番をもとに、かみさまが一人ひとりの子どもたちといつもいっしょにあって見守ってくださっていることをやさしく話します。

女子パウロ会発行
税抜価格　620円

◇　◇　◇

★炎と希望
ピエール・グルサと
エマヌエル共同体　著
ベルナール・ペイルス、
エルヴェ・マリー・カッタ
共著
鶴原典子・与謝野達　共訳

エマヌエル共同体の創立者、ピエール・グルサの伝記。本書は単なる伝記や共同体創設の歴史ではなく、カトリック教会の新しい潮流を鮮やかに描き出しています。

サンパウロ
税抜価格　1800円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811−7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター
ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092−526−9176

マリアと共にキリストの道を歩こう！

カトリック教会のカテキズム

日　　時：6月22日(日) 15：00～17：00
　　通常毎月第4日曜日（変更日あり）
場　　所：カテドラル大名町教会
講　　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
参 加 費：1回　500円
対　　象：教会学校のリーダーやカトリック教会の教えを学びたい人
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

北九州地区聖書講演会

③9月7日(日) 14：00～16：00
　[テーマ] 新約聖書について
　[会　場] カトリック小倉教会
④11月16日(日) 14：00～16：00
　[テーマ] 聖書と今を生きる私たち
　[会　場] 新田原教会テレジア館
[講　師] 森山信三神父（戸畑教会主任）
[主　催] 北九州地区信徒使徒職協議会
[問合先] ☎093-293-4981　松尾

2003年度典礼を学ぶ集い

(2)：7月20日(日)　感謝の祈り(奉献文)
(3)：10月19日(日)　交わりの儀
(4)：2004年1月18日(日)　閉祭
講　師：白浜満神父（大神学院教授）
時　間：14：00～16：00
会　場：カテドラル大名町教会
参加費：1回600円
申込先：☎FAX0940-33-8122　井上元之

2003年度聖霊による生活刷新セミナー

④6月2日　みたし　小池如安師
⑤6月9日　聖霊のうちでの成長　ドワイヤー師
　キリストの変容
⑥6月16日　派遣ミサ　司祭団

日　時：6月16日までの毎月曜日
　10時30分～12時30分
会　場：大名町カテドラル
持参品：「新生への門出」(600円)
参加費：無料／献金歓迎
主　催：福岡地区聖霊による刷新セミナー実行委員会
連絡先：福岡司教館　Br.床嶋（☎092-522-5139）

(AFMET) 東ティモール医療友の会 江村美保さん現地活動報告会

日　時：6月29日(日) 13：30～15：30
場　所：カトリック大名町教会講堂／　参加費：無料
内　容：江村美保さん(新田原教会出身)の東ティモールでの医療活動の報告

♥新田原教会出身で看護師の江村さんたちは、復興の道を歩み始めたばかりの東ティモールの医師不在地域で医療や保健活動を行っています。活動報告と体験の分ち合いに、是非ご参加ください。

みこころの月　案内版　会合と催し　6月のこよみ

福岡黙想の家　6月

◇1日(日)　聖公会宗像教会十字架の道行きと礼拝
◇2日(月)～4日(水)　御受難修道会共同体の日
◇3日(火)　マテオ神父一周年追悼ミサ（11時）
◇9日(月)～13日(金)　大分・鹿児島・那覇3教区合同司祭黙想会
◇15日(日)～16日(月)　聖母カテキスタ会黙想
◇18日(水)　ミカエル会
◇21日(土)～22日(日)　正義と平和競技会
◇22日(日)～24日(火)　オブレート会会議
◇22日(日)～30日(月)　シスターのための8日間の黙想会（参加者募集中）

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

※祈りの集い
・6月12日(木) 10時～15時
テーマ：無名の巡礼者の祈り
・7月10日(木) 10時～15時
テーマ：沈黙の祈り
指　導：Sr.マリアと S.フランコ神父

※黙想会
・7月4日(金) 17時～13日(日) 朝まで
テーマ：日本文化における霊性
指　導：S.フランコ神父
[問合先]
・生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

マグリン神父によるゆるしの秘跡

日　程：毎月第1と第3土曜日
場　所：大名町カトリック教会小聖堂

1日(日)　主の昇天
　天草地区合同海上聖体行列（ミサ9時大江教会）
　全国修道女研修会九州地区［大神学院10時］
3日(火)　†V.マテオ［御受難会2002］
4日(水)　†西田邦洋［若松教会1996］
8日(日)　聖霊降臨の主日
　教区合同堅信式［カテドラル14時］
11日(水)　助祭・司祭候補者認定式［大神学院16時30分］
15日(日)　三位一体の主日
　手取教会堅信式
21日(土)　†深堀仙右衛門司教［第3代福岡教区長1985］
　召命を求める徹夜祈祷会（～22日）
22日(日)　キリストの聖体
　新田原教会聖体大会
　福岡地区カテキズム研修会（カテドラル15時）
24日(火)　洗礼者聖ヨハネの誕生
　福岡教区全司祭研修会（～26日）
27日(金)　イエスのみ心
28日(土)　アルベリオーネ神父列福感謝ミサ（カテドラル）
29日(日)　聖ペトロ・聖パウロ使徒（使徒座への献金日）
　西新教会創立50周年記念式典・堅信式

7月
3日(木)　聖トマ使徒
6日(日)　年間第14主日

ゴチックは司教日程

◆福岡

■福岡祈りの集い
[日時] 毎週月曜11時～12時30分 [場所] カトリック大名町教会 [内容] セミナーを開催中 [問合先] ☎092・522・5139ブラザー床嶋

■生と老い死を見つめる会
[日時] 6月1日(日) 14時から [場所] カトリック大名町教会 [内容] 葬儀について [講師] 高崎克也氏（草苑職員） [問合せ先] ☎092・713・8523大山／607・6992村尾

■全国修道女研修会九州地区
[日時] 6月1日(日) 10時受付 [場所] サン・スルピス大神学院 [テーマ] 彼女を記念して…イエスに香油をそそいだ女性たち [講師] 山口里子先生（日本聖書神学校講師・神学者） [主催] 日本女子修道会総長管区長会

■召命を求める祈りの集い
[日時] 6月19日(木) 14時30分 [場所] 召命の家 [指導] 浦川務神父（召命担当）

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
[日時] 6月26日(木) 11時から [場所] 聖クララ寮聖堂（南区塩原） [内容] グレゴリオ聖歌によるミサと研修 [講師] 坂田孝子氏 [参加費] 自由献金 [問合先] ☎096・380・5686堺

召命を求める徹夜祈祷会

日時：6月21日(土) 19時の夕べのミサから
　22日(日) 7時司教と共に捧げる早朝ミサまで
場所：カトリック大名町教会
主催：召命を求める祈りの集い
※どなたでも参加できます。

■在世フランシスコ会集会
[日時] 6月22日(日) 14時～16時 [場所] 高宮フランシスコ会修道院在世会集会所 [内容] アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習 [指導] 小池如安神父 [問合先] ☎092・843・5831岩崎

■黙想と祈りの集い
[日時] 7月10日(木) 15時～11日(金) 16時まで [場所] 宗像黙想の家 [内容] テゼの歌による黙想と祈り [講師] 植松功さん [参加費] 一万円 [申込先] ☎092・524・6142許斐

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、男性用夏物衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。また、火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者を募っています。[問合先] ☎コース神父 ☎092・431・1419

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
[日時] 6月17日(水) 10時～11時30分 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] 共に祈る [指導] 今泉ヒナ子（明治学園理事長） [テーマ] 聖母マリアと現代 [場所] 同美術館講堂 [問合先] ☎0952・7536吉田 [次回] 6月28日(土) 10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4土曜日。どうぞご参加下さい。

■聖書を読む会
[日時] 毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] ルカ福音書を読む [講師] A・アレグリーニ神父 [テキスト] 聖書 [参加費] 無料 [問合先] ☎0952・23・4754阿南

◆北九州

■小倉祈りの集い
[日時] 6月20日(金) 13時30分～15時 [場所] カトリック小倉教会信徒会館 [内容] 「みことば」をあじわう賛美と感謝の祈り [指導] B・ガブリエル神父（御受難会） [問合先] ☎093・452・安藤

■絵画展と講演会
「聖母子と子供たち展」（ヨハネ・パウロII世美術館所蔵）
[会期] 6月6日(金)～7月13日(日) ※月曜休館 [場所] 北九州市立美術館 [観覧料] 一般800円
◎会期中講演会を開催 [日時] 7月12日(土) 14時 [講師] Sr今泉ヒナ子（明治学園理事長） [テーマ] 聖母マリアと現代 [場所] 同美術館講堂

◆熊本

■オール熊本青年祭り
[日時] 8月9日(土) 12時～10日(日) 12時 [目的] 交流→青年の活性化→教会の活性化 [テーマ] 新しい出会い…そして発見 [指導司祭] 中村彰神父（健軍教会主任） [内容] ミサ・分かち合い・ゲーム・バーベキュー [場所] 熊本信愛女学院西合志合宿所及びグラウンド [対象] 高校生以上の青年 [参加費] 1,000円 [主催] 熊本市カトリック教会青年部 [問合先] 090・8353・2024（前田）

お詫びと訂正

「福岡教区ハンドブック2003」の中で、2つの小教区のFAX番号の訂正をお願いします。正しい番号は①大牟田教会0944・52・4886　②一日市教会0942・924・5129　また、68頁の「北九州納骨堂」の電話は廃止されましたので、各小教区の納骨堂担当者へご連絡ください。

広告募集

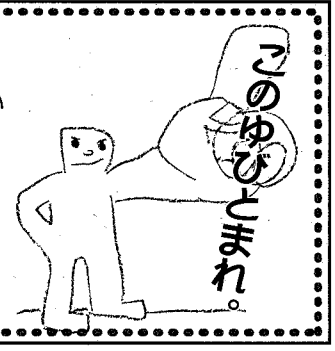
教区報編集部では、広告を募集しています。ご希望の方は編集部までご連絡下さい。
☎092・522・4059

編集後記

イラクの戦後復興が急がれています。新型肺炎、爆弾テロ事件などいのちを取り巻く状況は依然厳しいものです。イエスの尊いみ心のうちに憐えられた深い悲しみを思い、いのちを互いに慈しんでいきたいものです。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

教会でもっと友だちつくりたい
他の教会ってどんな人がいるのかな
最近教会に行ってないなぁ……っていう君に来て欲しい


期間：2003年7／19(土) 20(日) 21(月)
対象：福岡近郊の中学生と高校生
場所：福岡召命の家　参加費：3,000円
問合：092-741-3687　大名町カトリック教会　浦川神父
ema：fycc2003@hotmail.com
HP：http://konnyaku.fc2web.com/fycc.html
主催：福岡地区青少年委員会（FYCC実行委員会）

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般】全てに役立つ経済

【布教】アフリカの病人

【日本の教会】難民・移住者・移動者のために

天草の碧い海を渡るご聖体

福岡教区創立75周年 天草海上聖体大会
殉教者が待ち望んだご聖体をかかげて

6月1日（日）、34年振りに開催された天草地区の「海上聖体行列」が、台風一過で晴れ渡った天草の地で行われた。地元天草はもとより、福岡、長崎・鹿児島の各教区からも約500人が参加。提案者の川添猛神父（本渡・大江・崎津教会主任）は「殉教者の賛美の声が聴こえて来るようでした」と語った。

喜びの大漁旗をたなびかせ、ご聖体を顕示した御座船「漁吉丸」に多くの船が続いた。

福岡教区創立75周年 天草海上聖体大会「殉教者が待ち望んだご聖体をかかげて」

福岡教区創立130年を記念し、海上聖体大会が天草大江、崎津を舞台に行なわれた。前日の台風4号の影響で荒れた天候、海もうねりをともない心配されていたが、当日6月1日は朝から初夏の陽射しが顔を出し、波穏やかな真っ青な天草灘が人々をむかえた。

今回、漁船で聖体を運ぶ「海上聖体行列」が34年ぶりに復活。9時から大江天主堂でささげられたミサには天草、熊本をはじめ福岡教区各地から、そして長崎、鹿児島からも信徒約500人が集い、聖堂は熱気に包まれた。松永久次郎司教は「聖体、それはキリスト信者にとって信仰の中心。殉教者がいのちをかけて証したもの。現代に生きる私たちにあるべき姿について語りかける聖体に心を開こう」と力強く語りかけた。

このたび天草地区大江、崎津、本渡の3小教区（川添猛神父、川原拓也神父）は念願の海上聖体大会へ向けて実行委員会を組織し、大会の準備・運営などすべての面で力を結集した。今大会に際しては各会場の整備はもとより、広範囲にわたる会場間移動、なかでも一般道路や海上での行列移動が含まれ、安全確保と高齢者・病者への配慮などを念頭におき、煩雑な手続きをクリアしながら、想定される事態に備えて綿密な計画が練られ、対応がなされていった。典礼、陸上、海上、祝賀の各班、そして事務局など、それぞれの持ち場で若い人々が率先して、おしみなく奉仕している姿が目につき、天草キリシタンの信仰の火は確かに燃え、今に受け継がれていることを彼ら自身が知るきっかけとなり、また内外に示す機会となったのではないだろうか。

ご聖体をかかげて前進する教会、たとえ困難な道のり、航海があろうとも、ご聖体とともに、ご聖体に養われて生きる教会の姿がここに体験された。福岡教区にとって、創立75周年の節目の年を締めくくるにふさわしい、参加した人々の心に焼き付いて忘れ得ぬ出来事となった。この喜びと感動に満ちた信仰の体験を、新しい未来へと船出する福岡教区の原動力へとつなげていきたいものである。

福岡教区創立75周年と天草キリシタン復活130年を記念し、海上聖体大会が天草大江、崎津を舞台に行なわれた。前日の台風4号の影響で荒れた天候、海もうねりをともない心配されていたが、当日6月1日は朝から初夏の陽射しが顔を出し、波穏やかな真っ青な天草灘が人々をむかえた。

今回、漁船で聖体を運ぶ「海上聖体行列」が34年ぶりに復活。9時から大江天主堂でささげられたミサには天草、熊本をはじめ福岡教区各地から、そして長崎、鹿児島からも信徒約500人が集い、聖堂は熱気に包まれた。松永久次郎司教は「聖体、それはキリスト信者にとって信仰の中心。殉教者がいのちをかけて証したもの。現代に生きる私たちにあるべき姿について語りかける聖体に心を開こう」と力強く語りかけた。

このたび天草地区大江、崎津、本渡の3小教区（川添猛神父、川原拓也神父）は念願の海上聖体大会へ向けて実行委員会を組織し、大会の準備・運営などすべての面で力を結集した。今大会に際しては各会場の整備はもとより、広範囲にわたる会場間移動、なかでも一般道路や海上での行列移動が含まれ、安全確保と高齢者・病者への配慮などを念頭におき、煩雑な手続きをクリアしながら、想定される事態に備えて綿密な計画が練られ、対応がなされていった。典礼、陸上、海上、祝賀の各班、そして事務局など、それぞれの持ち場で若い人々が率先して、おしみなく奉仕している姿が目につき、天草キリシタンの信仰の火は確かに燃え、今に受け継がれていることを彼ら自身が知るきっかけとなり、また内外に示す機会となったのではないだろうか。

ご聖体をかかげて前進する教会、たとえ困難な道のり、航海があろうとも、ご聖体とともに、ご聖体に養われて生きる教会の姿がここに体験された。福岡教区にとって、創立75周年の節目の年を締めくくるにふさわしい、参加した人々の心に焼き付いて忘れ得ぬ出来事となった。この喜びと感動に満ちた信仰の体験を、新しい未来へと船出する福岡教区の原動力へとつなげていきたいものである。

福岡教区創立75周年閉幕ミサ
7月13日（日）

福岡教区創立75周年実行委員会は、その閉幕について検討し記念日に近い7月13日（日）に、各小教区で閉幕のミサを行うように決定した。

教区内10教会から62人が受堅した合同堅信式

6月8日聖霊降臨の主日に、カテドラル大名町教会で、教区合同堅信式が行なわれた。教会の誕生を記念するこの日、松永久次郎司教を囲んで各地から約600人が集った。今年は62人が堅信の秘跡を受け、キリストの証人としての新しい一歩を踏み出した。

説教に続いて堅信の儀に入り、受堅者の呼び出しの後、司教の招きに従って力強く信仰を宣言した。いよいよ堅信式の中心部、司教と共同司式司祭が受堅者の上に手をのべ、司教は聖霊のたまものを求めて祈った。そして受堅者は代親に付き添われて司教の前に進み出て、司教は一人ひとりに「…父のたまものである聖霊のしるしを受けなさい」と言って額に聖香油を塗った。

感謝の祭儀の後に祝賀式が行なわれ、司教はあいさつに立ち「堅信の秘跡は奇跡と違い、著しいしるしを持たない。めざましい変化を起させる場合もあるが、変わらない自分のままこれからも平凡な生活を続けて行くことだろう。私たちが堅信の秘跡を受けたことをたとえ忘れてしまったとしても、神はその恵みが届けられた今日この出来事を忘れることは決してない。信仰を守り通し、生きぬいて欲しい」と励ました。続いて信徒代表の目良豊さん（大名町教会）が謝意と抱負を述べた。

時の話題
白石 隆士氏

小鳥のさえずりで目が覚めた。やっと明るくなりかけたばかりである。今日はよい天気になると確信できる朝であった。人吉修道院の方々と天草の下田温泉に泊り、大江教会の記念のミサと聖体行列に参加する日である。

大江教会には早めに着いたが、聖堂の中はすでに満員の状況であった。参加者は皆、このような又となない貴重な行事に参加できた喜びで満ち溢れていた。司教は説教の中で「聖体行列とは信仰を現すことである。最後の晩餐でキリストは、このパンはわたしの体である、このブドウ酒はわたしの血であると言われたが、使徒たちの中にもいぶかしがる者もいた。2000年たった今、この言葉は一番真の言葉として残っている。本物の命を永遠に持ち続けること、これが信仰を証しすること、そして、ご聖体行列である。そして、ご聖体に対する本当の信仰を、本当の言葉を信じていかなければならない」と語ったサの後、聖体行列が始まり大江の港まで約1時間、水すましのいる大江川や町の中を歩いた。沿道では町の人が見守っていた。中には行列に向かってお辞儀をする人、手を合わせて拝む人、「もう少しだから頑張って」という声援もあり、人々の中に信仰を感じながら歩いた。信仰の原点とも言える「ご聖体」の神秘に感動した。

30隻近い船での崎津港までの海上聖体行列はさらに圧巻であった。一生に一度あるかないかの機会に立ち会えたことはただただ感謝である。

人吉教会信徒

街を行くご聖体

フェミニスト神学者を講師に女子修道会が研修会
「彼女を記念して…イエスに香油を注いだ女性たち」

6月1日（日）、福岡サン・スルピス大神学院で日本女子修道会総長管区長会（会長＝石上寿美江）主催の九州地区研修会が行われた。参加者は福岡、長崎、大分から173人。今回のテーマは「彼女を記念して…イエスに香油を注いだ女性たち」。講師の山口里子氏（日本基督教団大泉教会員）はフェミニスト神学者として、アメリカの女性新約学者E．S・フィオレンツァ氏の「彼女を記念して」の翻訳を手がけた経緯やフェミニスト神学としての新しい聖書の学び方を紹介した。

山口氏は、女性が小さくされていた時代にエリート男性によって書かれた聖書の中に、見えなくされた女性たちの姿、聞こえなくされた女性の声を聞き取ることで新しい聖書の世界、人となったキリストの庶民的な温かさや思いを読み取る事ができると話した。

イエスに高価な香油を注いだ女性の物語は四福音書が揃って記している。その中でイエスはこの女性を邪険にする弟子達を制して「はっきり言っておく、世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう」とまで言われた彼女について、それ以上の記載はない。

文字がまだ特別なもので、書くことより語るという方法で人々が思いを伝え合っていた二千年前、女性たちはキリストの話を子どもや友だちに物語として語っていた。しかし、文字になった時、隠されてしまった女性の業績があったのではないか、と語った。

研修会に参加していた修道女の一人は「あの時代にイエス様がこれほど女性の業績を認めてくださっていることに感動しました。共同体の中で自立した信者としての関わりそのための学びの必要を感じました」と語っていた。

みちくさ

「第二の人生」ということばがある。平均寿命ののびた今では、もう一度、これまでと同じくらいの長さを生きるんだという腹づもりがそこにこめられているという▼「木は二度生きる」、そう信じた人がいた。法隆寺金堂の修復や薬師寺金堂の再建で知られる宮大工・故西岡常一氏である。彼は「千三百年前の建物である法隆寺、それを支える古い木に、このうえない愛着を感じながら、その木がいつまでも生き続けてくれることを願っていた」と述懐する。法隆寺の主要部分には、すべて樹齢千年以上のヒノキが使われているそうだ。そのヒノキが千三百年を生きてビクともしない▼堂塔をつくる上で、くせ木を組むこと、またくせ木以上に「人の心」をつかむことが重要とされる。法隆寺大工が心をひとつにできたのは棟梁の統率力だけでなく、お互いの心が通じ合い結び合うような信仰の対象があったからではないか、と西岡氏は指摘する▼どんな木もくせを出し切らせるために、伐り出して三年から十年間寝かせておく必要があるという。この間、木は風、雨、雪、暑さ、寒さにさらされて、自然の木から建物の木に生まれ変わる。この過程が、山で二千年生きてきた木が建物の木として二千年生きるのに必要な条件を満たすことになるのだという。木にとって、第二の生を生きるために、三年から十年もの精進が必要なのだ▼神によってたてられた教会をもっとよく知りたいと願うようになった。ここに組まれた木を知り、そして棟梁の心意気を学ぶために。（み）

キリストの聖体救いの糧

天草海上聖体大会

6月1日（日）大江教会で9時から行われた感謝ミサの後、ご聖体は金色のオステンソリウム（聖体顕示台）に。まず松永司教がご聖体を掲げて歩き、天主堂から大江漁港への行列が開始された。

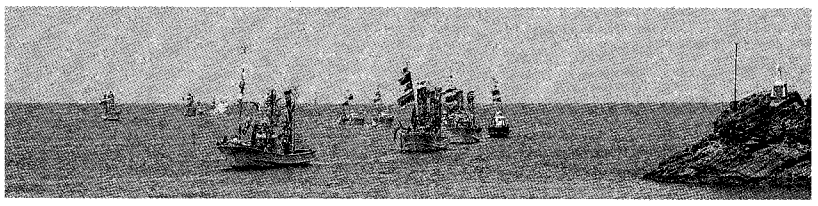
司祭が交代でご聖体を掲げ、漁港までの道のりを約1時間かけて進んだ。行列は旗を持つ信徒を先頭に、10人の花をまく子どもたち、そして天蓋をかざす信徒たちに囲まれながらご聖体を掲げた司祭が歩き、その後ろに司祭団、信徒、修道者の長い列が続いた。

一行は先唱に合わせて祈りを唱えながら進んだ。途中、行列が民家近くにさしかかった時、沿道でお年寄りが手を合わせながら見守っている姿がとても印象的だった。そして大漁旗はためく漁船が待つ港に到着した。

ご聖体はその一隻に乗船し、その船に松永司教と司祭団が乗船した。係員の指示で乗船者100人が各船に振り分けられた。ご聖体を乗せた御座船は23隻の漁船とともに、初夏の陽射しあふれる天草灘へ進み出て崎津の港を目指し海上での聖体行列が始まった。

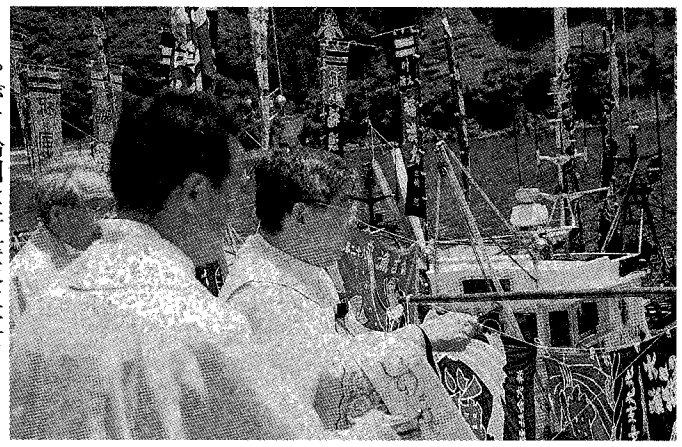
大江教会を出て漁港までの道を辿るご聖体

紺碧の海を1列になって進む24隻の漁船団。その光景は勇壮そのものであった。大小様々な船は波に揺られながら、ご聖体を追い慕うかのように熱くなるのを感じていた。なかには涙する人もいた。



聖母像が見守る岬の側を通る御座船と船団

船が崎津にさしかかり、海を見下ろす高台に先祖が眠る墓地が見えるところに来た時、「34年ぶりにやったぞ！」、そう心の中で叫んだ人もいたに違いない。先祖たちもきっと喜んで行列を見守っていたことだろう。



聖体行列に参加した漁船を祝別する松永司教

やがて船団は崎津天主堂を間近に臨む崎津湾を廻り、約40分の航海を終えて崎津漁港に到着、大勢の人が出迎えた。

ご聖体は聖体賛美式会場である崎津漁協揚場に上陸、子どもたちによる花まきの歓迎を受け、揚場内にしつらえられた祭壇上に安置された。賛美の祈りが漁協揚場一体にこだまし、最後に松永司教はご聖体によって会衆を祝福した。その後、司教は行列に参加した漁船と船主を祝福した。

賛美式の後、船上の船頭から紅白のお祝い餅がまかれ、歓声が上がっていた。

聖体大会当日のミサで司教のバクルス、ミトラを持った中学生の堀口大樹君、竹森涼太君に感想を寄せてもらいました。

堀口　大樹

僕は初めて、聖体行列に参加しました。そして、司教様がミサで使われる道具を手にとりました。僕が生きている間に、このような体験ができてよかったです。次は何年後にあるかわからないけれど、僕が生きている間にあってほしいです。

竹森　涼太

僕にとって聖体大会を経験できたことは、とても心に残る大きな出来事でした。前日まで悪天候だった天気が、その日には、晴天に恵まれ、本当に神様の力のすごさを感じました。みんなの心が一つになり、聖体行列が無事に、陸と海上をつないで、松永司教様と一緒に祈りをささげることができたことは、とても嬉しく、また、ミトラを持たせていただいて、参加できたことは、一生の思い出となりました。信者として嬉しく思います。

34年振りの天草海上聖体大会を終えて

実行委員長　平石　水穂

福岡教区創立75周年の記念の年に、天草3小教区（本渡、崎津、大江）は天草キリシタン復活130年、大江天主堂、崎津天主堂の献堂70周年をあわせて祝い、海上聖体大会を開催いたしました。

遠路天草に教区長松永久次郎司教様をはじめ県内外から多くの司祭、修道者、信徒の皆様にお越しいただきまして盛大に挙行することができました。心から感謝申し上げます。

私たちは天草3小教区の主任川添猛神父様、管理責任者川原拓也神父様のもとで、心を一つにして準備に取り組んでまいりました。

明治6年に禁教令がとけた後、大江に最初に福音をもたらしたのは、長崎の神の島の伝道者・西政吉でした。苦難の道を乗り越えて天草の信徒が復活し130年、これまで多くの先人が支えてきてくれたことに感謝したいと思います。この機会に多くの方と心を一つにしてお祈りをささげることが出来、これから未来に向けて信徒が手と手を取り合い、信仰による強い絆で結ばれたことは大きな喜びです。

行列の途中、沿道のお年寄りの方々が手を合わせていたのは、他の地域ではあまり見られない光景でありましょう。先祖を同じくする隠れキリシタンの地ならではの思いがいたしました。

港に24隻の漁船が大漁旗やのぼりで彩られている様を見たときはとても感動しました。

ご聖体と松永久次郎司教様、神父様方、そしておいでいただいた中から100人の方が漁船に乗り、崎津港めざし、船団をくみながら天草灘へと前進、海上に聖歌が響き渡る中、それぞれの船にお互い手を振りあう姿を目のあたりにしたときは感激で胸が熱くなり、涙がでてしまいました。

また陸上から見た光景も勇壮であったそうです。この出来事は多くの方々の心の中にいつまでも残ることでありましょう。

大江港において、聖体と共に松永司教様、司祭団が乗船され、聖体を安置した「御座船」漁吉丸を中心に、前後を信徒が乗った漁船が羊角湾を崎津港まで行進した。

空の青、海の青さの中で、二十隻以上の漁船が色とりどりの大漁旗やのぼりをひらめかせて進む「海上聖体大会」には、神の栄光が輝き、たとえようもなく感動した。私たち船に乗り合わせた仲間は、ダビデ王が聖霊に満たされて踊ったように、船の上で賛美の歌に酔いしれた。

崎津港においては、紅白のモチ投げが行われ「聖体賛美式」をもって一連の行事が終わった。この行事を通していただいたすべての恵に深く感謝した。

（熊本健軍教会信徒）

75周年記念作文募集締切り迫る

教区創立75周年記念作文コンクールについて、期間を延長して募集していますが、最終締切が迫ってまいりました。

ここで今一度、このコンクールの趣旨とテーマ等を確認させていただきたいと思います。

【趣旨】

歴代の司教様はじめ多くの司祭、修道会、信徒の献身的な努力と聖霊の導きによって、教区創立75周年を迎えたことに対し、教区を挙げて感謝のうちに喜びを分ち合う。

【テーマ】

教区創立記念を契機とし、「信仰の喜び」、「教会・教区の歴史に対する思い」、「信徒としての召命」、「未来の教会、私たちの夢」、「教区の殉教者を偲んで」など。

今日までの教区の歩みに対する感謝や、信仰生活を深めるための信徒としての決意などが伝わるものとしてください。

【文字数】　800字以内

【提出期限】

2003年7月16日（水）

教区創立記念日

【送付先】

教区創立75周年記念行事実行委員会（司教館気付）

教区創立75周年記念行事実行委員会委員長　川上惣一

むなかた祈りの森

グループ・個人の黙想、研修会等に…

カトリック福岡黙想の家

PRAYER GROVE MUNAKATA

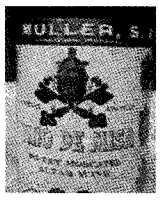
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター

カトリック御受難修道会・宗像修道院

811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385

http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン



ヴィノ　デ　ミサ

VINO DE MISA

スイートタイプ（赤）（白）

ご用命　お問い合せは

有限会社　大楠酒店

ヨハネ　青木　彰

〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号

電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち

草苑（SOU-EN）

カトリックのご葬儀

木下株式会社

TEL 092-526-5656

〒810-0016

福岡市中央区平和3丁目1-5

新しいカテキズム勉強会始る

カテドラル

櫻井神父の熱心な講話に引込まれる参加者

今年の4月27日（日）から「福岡地区カテキズム講座」が始まった。1991年9月から2002年7月まで福岡教区聖書委員会の主催で行われて来た「聖書講座」に参加していた人々の中に、「カテケジス」の勉強をしたいという声が交わされていた。時が実ったように「カトリック教会のカテキズム」の日本語版が出版された。

教区信仰教育委員会担当の櫻井尚明神父（糸島教会主任）は、この4月からカテキズム講座を始めることを決断。毎月第4日曜日の午後3時よりカテドラルで行うことになった。6月までは、毎回50人前後が出席している。

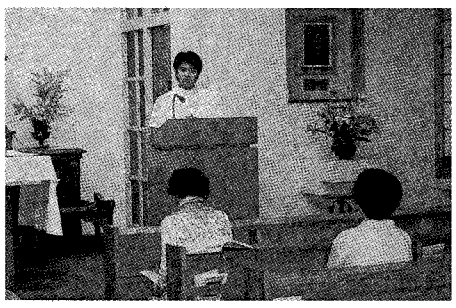
櫻井神父は、「カトリック教会のカテキズム」と「公会議公文書全集」をテキストに熱の入った講義を展開している。広域から修道者、教会学校のリーダーに混じって一般信徒に青年の参加も見られる。

第1回目は、新カテキズムの編纂の過程などが主に話され、第2回目から第1編の第1部「わたしは信じます」「わたしたちは信じます」に入った。

櫻井神父は、「1年や2年でなく、じっくり勉強して行くつもりです」といっている。

参加者の一人は、「神からの無償の愛に馴れ切って、愛してくださる神の姿と思いを忘れていたことに気づかされ信仰の見直しになる」と語った。

召命を共に祈る徹夜祈祷会を開催


「私の召命は家庭の中から…」と話す石田新司祭

6月21日（土）、22日（日）の両日にわたって、召命祈願のための徹夜祈祷会（召命を共に祈る会主催、担当＝浦川務神父）がカテドラル大名町教会で行なわれた。この徹夜祈祷会には福岡地区ばかりでなく北九州、熊本地区などから延べ70人の参加があり、夜を徹して祈りのリレーが行なわれた。今回も近郊の修道会のシスターによる祈りの先唱がなされ、参加者からは「自分たちだけではお祈りが散漫になってしまいがちだが、シスターの先唱にずいぶん助けられた」という感謝の声が聞かれた。

また祈祷会の中で、今春叙階された石田望神父（レデンプトール会）の「家庭における信仰教育の大切さ」についての講話がなされた。

7時から松永久次郎司教司式による感謝のミサが捧げられた。司教は参加した多くの人々の熱意に感謝と敬意を表し、「30パーセント司祭になりたいと望む人がたとえ30人いたとしても一人の司祭も生まれない。百パーセント司祭になりたいと望む人が一人でも多く出るようにと意識しながら周りにいる人々への働きかけを続けていかなければならない」と語った。

司祭はキリストの聖体をつくる人。キリストの聖体の祭日の朝、聖体の秘跡によって新しい力を受けた参加者は、これからの生活の中で司祭・修道者を求める祈りを続けていくために派遣されていった。

井手神学生司祭候補者認定式に臨む

大神学院

白いスルプリを着けて奉仕する二人

6月11日（水）、大神学院で助祭・司祭候補者認定式が松永久次郎司教の主司式で行われた。認定を受けたのは福岡教区の井手公平さんと長崎教区の谷脇誠一郎さんの2人。

福岡教区の井手神学生は佐賀教会の出身。

午後4時からの認定式には大勢の信徒が参加、正式に司祭候補とされた2人の認定式を見守り、祈った。式の中で、それぞれスータンの上に着ける白いスルプリが渡された。皆が見守る中でスルプリを着けた二人が、司祭団と会衆に挨拶をすると大きな拍手が沸きあがった。

聖クララ会では…終生誓願式

5月31日、聖母マリアのご訪問の祝日に、聖クララ会の終生誓願式が松永久次郎司教司式により執り行なわれた。

立願者はシスター・マリア・カタリナ守山淳子さん。聖クララ会の姉妹たち、そして長崎や教区各地から集った人々が見守る中、シスター守山は、従順に、何ものをも所有せず、貞潔のうちに福音を生きる望みを表した。そして説教に立った松永司教は「私があなた方を選んだ。今日、公式に2人に与えられた呼びかけです。途中、どんな苦しみに出会っても神が私を選んだことを思いながら前進してほしい。神の尊い願いに応えてください」と諭した。また、「ロザリオの祈りをよく唱えてください。ロザリオの祈りに支えられて歩いてほしい」と励ました。

ミサの後、聖堂の前庭で大勢の人の祝福を受けながら記念撮影に収まる2人の緊張した姿があった。彼らが司祭叙階に臨むまでの道のりは平坦ではないだろう。本人の努力と共に、教区民の弛まない召命への祈りが望まれる。

ルルドに響くロザリオの祈り

新田原教会

新田原教会では、5月の聖母月と10月のロザリオの月は、毎日夕方、教会庭のルルドで子どもたちを中心に100人近い信者が集まってロザリオの信心を行なっている。今年は「ロザリオの年」ということで、『聖母月・特別ロザリオの信心』を行なった。

日曜日には9時の主日ミサ前にロザリオの「光の神秘」を一連づつ唱え、そして夕方5時からルルドで、大人もいっしょにロザリオを唱えた。

平日には、学校帰りの子どもたちを主体に夕方6時からロザリオの信心を行なった。

日頃のロザリオの信心業が薄らぎつつある中「ロザリオの年」を機会に、もっとロザリオの信心の大切さを親子ともども、日常生活の中に習慣づけることができるようにとの願いを込めて計画された。

また隣接の聖母訪問会とカリタス会両修道院のシスターの協力・指導のもと、毎回、子どもたちがロザリオの先唱を担当し、「ロザリオカード」を作って出席シールを貼り、1カ月間の努力目標を掲げさせながら実施された。新緑のあふれる風かおる5月のルルドに、子どもたちの元気いっぱいの「ロザリオの声」がこだましました。

木かげ

平田三好神父

最近、教会が、幼稚園が50周年という話をよく耳にします。鳥栖教会も来年、創立50周年を迎えます。いま鳥栖教会はその準備に取りかかっています。教会を建て直すなどという、大きな事業を計画しているわけではありませんが、何となく落ち着かないというのが正直な気持ちでしょうか。おめでたいことでもありますが、できれば他の方にお任せしたい気も一方ではあります。

さて、ひとりの信徒からこんな話を聞きました。その方が何かの用で教会にいた時、4人の方が教会の入り口付近でお話をしておられたので、声をかけたそうです。その中の一人の方が、お孫さんが鳥栖カトリック幼稚園に通っていて、ある日、教会の柱に掛っている石板を見られました。その石板には、次のように書いてあります。「パウロ中村永七　ペトロ占野藤兵衛　ジョアン藤田弥助　熱心な仏教徒から改宗　ソーレ神父の指導により1891年受洗　多難な世代を敬虔に信仰を伝えた愛を賛えよう」と。

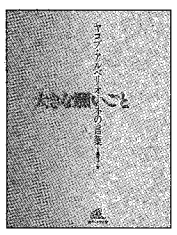
この石板に記されている名前は、基山教会の礎となった人々であり、仏教から一族で改宗した人たちです。この石板にある名前に見覚えがあったらしいのです。その名はジョアン藤田弥助で、私の先祖ではないか、というのです。それで、この度、4人で来られたのです。どうもこの藤田弥助が自分たちの曾おじいさんに当たるようだ。自分たちの先祖が信徒の皆さんから讃えられているけれど、この人たちは信者ではありません。途中で信仰しなくなったようです。

この場合は途中で途絶えたにしろ、今も信仰は続いており、これからも世の終わりまで続いていくことでしょう。私たちの知らない所で、神様の力が働き、信仰は受け継がれています。そうやって主の来臨まで信仰は続いていくんだなと身近に感じ、信仰の神秘を感じています。

鳥栖教会主任

信仰

BOOK 読みは専科



★大きな願いごと
ヤコブ・アルベリオーネの言葉
ヤコブ・アルベリオーネ著
大滝玲子　訳

愛に駆り立てられて大きな夢を見、若者たちを魅了しつつ一歩ずつ前進して、ついに理想を実現させた神父。コミュニケーション・メディアを用いる福音宣教者の輝かしい模範として、教皇ヨハネ・パウロ二世により福者と公に宣言されたアルベリオーネ神父の力ある言葉集。

女子パウロ会　発行
税抜価格　1000円

◇　◇　◇

★深き淵より新しき歌を
―九・十一の傷痕を越えて―
花の香りの記（2）
粕谷　甲一　著

本書は1966年に出版された『新しき歌』の数編と、同時多発テロ直前までの10年間にわたって発行された冊子の記事、さらにその後の著者の1年間の心の葛藤の末に見い出した『希望』を書き添えた、珠玉のエッセイです。

サンパウロ　発行
税抜価格　2400円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

マリアと共にキリストの道を歩こう！

カトリック教会のカテキズム

日　時：8月24日（日）　15：00～17：00
　　通常毎月第4日曜日（変更日あり）
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
参加費：1回　500円
対　象：教会学校のリーダーやカトリック教会の教えを学びたい人
主　催：福岡教区信仰教育委員会
…　※7月はお休みします。…

北九州地区聖書講演会

③9月7日（日）　14：00～16：00
［テーマ］新約聖書について
［会　場］カトリック小倉教会
［講　師］森山信三神父（戸畑教会主任）
［主　催］北九州地区信徒協
［問合先］☎093-293-4981　松尾

2003年度典礼を学ぶ集い

(2)：7月20日（日）　感謝の祈り（奉献文）
講　師：白浜満神父（大神学院教授）
時　間：14：00～16：00
会　場：カテドラル大名町教会
参加費：1回600円
申込先：☎FAX0940-33-8122　井上元之

福岡地区納骨堂委員会お知らせ

一般清掃　7月27日（日）8時より
　雨天の場合8月3日
墓地を開放日　8月13日～15日
追悼ミサ　8月15日　14時より　和田墓地

納骨堂加入者募集中
従来納骨堂　加入費15万円
新規納骨堂　加入費25万円
維持管理費いづれも4万円（10年間）
※詳細は、各小教区納骨堂委員にお尋ね下さい。

2003年平和旬間平和の集い催し

福岡地区平和を祈る集い
日時：8月10日（日）
場所：カテドラル大名町教会
テーマ：アジアの人権を考える（アジアの女性や子どもたちが平和に過ごせる社会を願って）
講師：山口道孝師（信徒宣教者会事務局長）

北九州地区平和旬間の取組み
日時：8月10日（日）11：30～17：00
場所：小倉カトリック教会
スローガン：共に祈り、みんなで築こう、真の平和！
演題：イラク戦争を通して見えたもの
講師：木村公一牧師（バプテスト伊都キリスト教会）
　アメリカのイラク攻撃に「人間の盾」として滞在
主催：北九州信徒使徒職協議会

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　7月

◇8日（火）　宗像茶道協会研修会
◇9日（水）　ミカエル会
◇10日（木）～11日（金）　『テゼの歌による祈りと黙想』の研修会
◇13日（日）～14日（月）　福岡地区オブレート会の集い
◇19日（土）～21日（月）　日本心身医学協会研修会
◇22日（火）～24日（木）　オブレート会会議
◇21日（月）～29日（火）　シスターのための8日間の黙想会（参加者募集中）
◇21日（月）～26日（土）　コンベンツァル聖フランシスコ修道会黙想
◇29日（火）～30日（水）　福岡雙葉学園小学校職員研修会
◇30日（水）～8／9（土）　ショファイユの幼きイエズス修道会黙想
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

※祈りの集い
・7月10日（木）10時～15時
テーマ：沈黙の祈り
指　導：Sr.マリアとS.フランコ神父
※黙想会
・7月4日（金）17時～13日（日）朝まで
テーマ：日本文化における霊性
指　導：S.フランコ神父
［問合先］
・生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX0968・85・3186

マグリン神父によるゆるしの秘跡

日　程：毎月第1と第3土曜日
場　所：大名町カトリック教会小聖堂

7月のこよみ

3日（木）　聖トマ使徒
　†平田正喜［1994年老司教会］
6日（日）　年間第14主日
11日（金）　聖ベネディクト修道院長
13日（日）　年間第15主日
　福岡教区創立75周年閉幕ミサ［各小教区］
15日（火）　聖ボナベントゥラ
16日（水）　カルメル山の聖母・福岡教区創立記念日
　カルメル会初誓願式（13時30分）
20日（日）　年間第16主日
　†平田勇［1980年西新教会］
　†W.シュルツ［1987年吉塚教会］
22日（火）　マグダラの聖マリア
25日（金）　聖ヤコブ使徒
　†J.ラグレブ［1982年門司天使園園長］
　†J.ブルトン［1957年呼子教会］
26日（土）　聖ヨアキムと聖アンナ
27日（日）　年間第17主日
　†L.ルリエ［1970年聖小崎育児園園長］
29日（火）　聖マルタ
31日（木）　†平田惣五郎［1989年浄水通教会］
8月
2日（土）　水巻教会・幼稚園合同夏祭り
3日（日）　年間第18主日
4日（月）　†M.ボンカズ［1991年田川教会］
　ゴチックは司教日程

◆福岡

■黙想と祈りの集い
［日時］7月10日（木）15時～11日（金）16時まで　［場所］宗像黙想の家　［内容］テゼの歌による黙想と祈り　［講師］植松功さん　［参加費］一万円　［申込先］☎092・524・6142許斐

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］7月13日（日）14時から　［場所］大名町カトリック教会　［内容］一般病棟での緩和ケア　［講師］長野玲子先生（福岡市立病院看護部長）　［問合先］☎092・534・5647小林・深堀

■召命を求める祈りの集い
［日時］7月17日（木）14時30分　［場所］召命の家　［指導］浦川務神父（召命担当）

'03夏召命学校
召命って何だ？！

日　時：8月26日（火）15時集合～28日（木）14時ミサ後解散
対　象：小学4年生から中学生の男子
持参品：信心用具・洗面道具・着替等
問合せ：☎092-741-3687（浦川神父）
主　催：召命を共に祈る会

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］7月24日（木）13時～14時30分　［場所］聖クララ寮聖堂（南区塩原）　［内容］グレゴリオ聖歌によるミサと研修　［講師］坂田孝子氏　［参加費］自由献金　［問合先］☎096・380・5686堺

■在世フランシスコ会集会
［日時］7月27日（日）14時～16時　［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所　［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習　［指導］小池如安神父　［問合先］☎092・843・5831岩崎

■スピリチュアル入門
［日時］7月27日（日）9時30分から　［場所］サンパウロ福岡センター　［講師］W・キッペス師　［参加費］四千円

■福岡地区結婚講座
［日時］9月10日（水）から10月4日（土）毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分　［場所］大名町カトリック教会　［参加費］カップルで一万四千円　［問合せ先］☎092・541・6207ファミリーセンター

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、男性用夏物衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。また、火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者を募っています。［問合先］☎092・431・1419

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］7月9日（水）10時～11時30分　［場所］佐賀カトリック会館　［内容］共に祈る　［問合先］☎0952・72・7536吉田　［次回］7月26日（土）10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4土曜日。どうぞご参加下さい。

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時　［場所］佐賀カトリック会館小聖堂　［内容］ルカ福音書を読む　［講師］A・アレグリーニ神父　［テキスト］聖書　［参加費］無料　［問合先］☎0952・23・4754阿南

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］7月25日（金）13時30分～15時　［場所］カトリック小倉教会信徒会館　［内容］「みことば」をあじわう賛美と感謝の祈り　［指導］B・ガブリエル神父（御受難会）　［問合先］☎093・452・1556安藤

■絵画展と講演会
［日時］7月12日（土）14時から　［場所］北九州市立美術館講堂　［テーマ］聖母マリア現代　［講師］Sr今泉ヒナ子（明治学園理事長）　［入場料］800円／7月13日まで北九州市立美術館でヨハネ・パウロ二世美術館所蔵の「聖母子と子供たち展」が開催されます。［入場料］800円

◆熊本

■オール熊本青年祭り
［日時］8月9日（土）12時～10日（日）12時　［目的］交流→青年の活性化→教会の活性化　［テーマ］新しい出会い…そして発見　［指導司祭］中村彰神父（健軍教会主任）　［内容］ミサ・分かち合い・ゲーム・バーベキュー　［場所］熊本信愛女学院西合志合宿所及びグラウンド　［対象］高校生以上の青年　［参加費］1、000円　［主催］熊本市カトリック教会青年部　［問合先］090・8353・2024（前田）

訃報

アルフォンソ塚本孝夫神父
聖パウロ会司祭。5月23日くも膜下出血のため八王子修道院で帰天。享年64歳。同修道会の塚本修治修道士の兄上。

アグネス山田マキ修道女
マリアの宣教者フランシスコ修道会会員。6月9日帰天。享年92歳。

マリア田中アサノ様
教区司祭田中重治神父様の御祖母。6月19日帰天。享年85歳。西新教会信徒。

変更のお知らせ

①門司教会FAX番号の変更　093・371・2988
②パリ外国宣教会八王寺本部内M・ラバルタ神父の電話番号093・651・2246
③トラピスト伊万里の聖母修道院電話番号（修道院）0955・23・8236、（製菓工場）0955・23・8223

編集後記

暑さを元気に乗り切りましょう！

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般】　科学と技術の賢い利用
【布教】　若い教会のカテキスタ
【日本の教会】　世界平和のため

日本カトリック平和旬間行事
8月10日

福岡平和を祈る集い

第1部　講演会：13：00～
テーマ：「アジアの人権を考える」
《アジアの女性や子どもたちが平和に過ごせる社会を願って》
講　師：山口道孝神父（信徒宣教者会事務局長）
第2部　平和祈願ミサ：14：30～
《在福外国人信徒と共に捧げるミサ》
※14：15からミサの準備と聖歌の練習をします。ご参加下さい。

北九州平和旬間の取組み

スローガン：共に祈り、みんなで築こう、真の平和を！
開　場：11：30
催し：展示会・模擬店・子供広場
講演会：13：00～
演題：「イラク戦争を通して見えたもの」
講師：木村公一牧師《イラク攻撃に際して人間の盾としてイラクに滞在》
平和祈願ミサ：15：30～

♥抑圧された人々の近くに行き、その現状を体験した人々の報告を聞こう。そして、共に祈ろう！

50周年を迎えた西新教会

26聖人殉教劇で50周年を記念した青年と子どもたち

日本二十六聖人のひとり、聖パウロ三木に捧げられた西新教会（主任＝下町豊重神父）は、6月29日（日）聖ペトロ聖パウロの祭日に、教区長松永久次郎司教を迎え、創立50周年を祝った。10時から行なわれたミサには約400人が集い、感謝と喜びを共にした。また、このミサの中で25人の子どもたちに堅信の秘跡が授けられた。

西新小教区は1953年7月5日、地行教会から分離して設立された。初めのうちは、聖堂として古い大きな民家を使用した。この地は二十六聖人が博多から唐津に向かって歩いて行った旧道筋に近い。当時は、能古島巡回教会（現在は大名町小教区）も含まれていた。

参加者に感動を与えた青年と教会学校の子どもたち

初代主任司祭は青木功神父。その後、平田勇神父、川口康頼神父、牧山藤房神父、山川辰幸神父、平田敬神父、そして01年4月に下町豊重神父が着任し現在に至っている。信徒数、1250人。

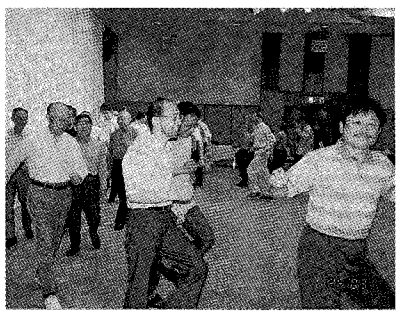
1955年幼稚園を創設。その5年後に聖堂兼幼稚園ホールを新築した。1983年、念願の新聖堂、司祭館、幼稚園教室が竣工、当時の駐日教皇庁大使ガスパリ大司教の司式により献堂式が行なわれた。

「糸島地区に教会を！」との声が次第に高まり、小教区民は心を合わせ祈り、資金への協力を積み重ねて、ついに1990年、糸島教会が完成した。糸島教会は落成祝福と同時に準小教区となった。

西新教会には活気がある。そして家庭的な雰囲気のなかで子どもたちものびのびと育っている。創立50周年行事開催に際しては、長島哲夫教会委員長を中心に実行委員会を組織し、昨年からたびたび会合を重ねながら、典礼、祝賀、記念誌編集など各分野で準備をすすめてきた。また青年と教会学校の子どもたちは二十六聖人の殉教劇に取り組み、殉教者の心を学びとろうと努めてきた。祝賀会での彼らの熱演は観客に深い感動を与えた。

この日、堅信の秘跡を受けた子どもの一人は「教会共同体の中で役立つものとなるように努力したい」と感想を語ってくれた。教会を長年にわたって支えてきた年長者からは「今日の日をしっかりと覚えていてほしい。百周年は頼んだぞ」という声がきかれた。

医療現場の倫理観／健康管理を学んだ司祭研修


ウォーキング　ウォーキングもっと足を高く！

教区内の全司祭を対象とした恒例の研修会が、6月24日から26日にかけて、荒尾市のホテルを会場に開催された。研修は二部構成で、第一部では前年に引き続き現代の生命倫理に関する諸問題について、第二部では司祭の健康管理について取り扱った。全体は6講義から成り、それぞれ専門の講師が担当したが、講義内容、講師の派遣など、久留米の聖マリア病院の協力により実現した。

医療現場で働くスタッフからの報告では、キリスト者として抱いている価値観とそれに基づく判断が現代医療の姿勢・方向性と相容れないことがたびたびあり、その状況に立たされた時の苦悩が切々と語られ、胸をうった。

健康管理についての講義は、多くの司祭が何らかの健康上の不具合を抱えている中で、関心をもって耳を傾けた。運動すること、食事についてのアドバイスを受けながら、あらためて大きく育った自分のお腹に見入る場面も。

最後にエアロビクスインストラクターによる実践指導が行なわれ、「アクティブ！」を合い言葉に、みっちり1時間以上、汗を流した。

各小教区で創立75周年閉幕ミサ　百年に向って

武蔵が丘教会での7月13日の閉幕ミサ

福岡教区創立75周年は7月16日の創立記念日をもって終了した。しめくくりとして、7月13日に全小教区で閉幕ミサが行なわれた。できるだけ多くの信者が集う機会にと、この年に受けた恵みを感謝し、新たな旅立ちをすることを願って、主日に各小教区での閉幕ミサ挙行となった。ミサでは、創立75周年記念行事実行委員会が準備した共通の祈願文が用いられた。

大名町教会では、ミサの中で初聖体式が行なわれた。教区の創立百周年を祝うのは、この子たち。子どもたちと一緒に信仰を守り、成長させ、神の国の発展のために努力していくことを共同体の成員の目標として意識した。

過ぎ去った一年、教区では熱心に創立75周年の祈りが唱えられてきた。また記念行事実行委員会は記念の年の意義を知らせ、信仰を鼓舞するために、個人や小教区に対して巡礼への招き、シンボルマーク・テーマソング募集、作文コンクールなどの企画を行なった。

昨年11月4日には、サン・スルピス大神学院で教区をあげて感謝の集いを開催した。

その後も、教区では松永久次郎司教の司教叙階銀祝、天草海上聖体大会など信仰の喜びを実感する恵みをいただき、神のもとにひとつに呼び集められた家族としての絆が一層強められた。また、これからの福音宣教はどのように行なったらよいか、宣教の最前線にいる信徒も司祭も一緒に考えて行こうとする動きが見えはじめた。

この地にしみ込んだ殉教者の血、先人たちが労苦しつつ流した汗を忘れることなく、いま、未来を見つめるまなざしの中に、確かに希望の灯が燃えていることを信じて、福岡教区は百周年に向かって新たな一歩を踏み出した。

時の話題

田中邦子

テレビや新聞のニュースを見るのがこわい。こんなにも簡単にいのちが失われていいのだろうか。命に込められた愛や希望、溢れるほどの神の賜物として語り、育んできた。今、この命をどう語り、どう伝え、どう共有できるのか。「命を守る」という運動や活動で中絶やピルの被害を訴えながら胎児の命、母体の安全を守ろうと活動しているグループも多い。そんな中、全国組織である日本カトリック女性団体連盟（日カ連）の「いのちを守る運動」は少し目線を変えた活動をしている。配偶者間暴力（DV）から逃げてきた女性、死の危険さえ孕む虐待の環境から救い出された子どもたちのために、シェルター（一時保護施設）や養護施設を運営する団体である。福岡教区の福岡地区婦人会も日カ連の加盟団体としてこの運動に賛同し、各家庭に小さな箱を置き、祈りのあと献金をする。全国からの献金は本部事務局で集計され基金となり、推薦された各地の施設へ届けられる。福岡のあるシェルターにもその一部が届けられている。家庭に設置された小さな箱に「ひとりの命はみんなの命。みんなの命はわたしの命」と書いてある。この箱が多くの家庭の茶の間に置かれ、親子が命の尊さを語り合えれば無残に失われる命はきっと少なくなる。（大名町教会信徒）

いのち

みちくさ

目覚めて、すぐにせみの声をきく。このところ激しい雨音に叩き起こされていたので、朝一番にせみの大合唱に迎えられても、いやな気持ちはしない▼うーん、暑いぞ。じっとしているだけで汗が滲み出てくる。なのに夏には、完全燃焼という言葉がよく似合う。暑いさなか、煮え切らないでいるのは、自分にも周囲の人にとってもはなはだ迷惑。不快指数を押し上げる効果については保証付き▼夏休みのはじめにはやりたいことだらけ、でも、あれこれ考えているうちに、いつの間にか「重力に逆らわずモード」に切り替わってしまっていた。終わってみると、やったことより、やらなかったことへの気持ちがずっしり重く感じられた。このあと、気分を立て直すのはなかなかしんどい▼とびっきりの夏を実感しよう。それはまわりが夏らしくあることではない。それでは何かが足りない。自分が夏になる、完全燃焼することだ。これまでにかみしめた苦い味も、大きな海に洗ってもらおう。心にしまっておいた幼い日の夢を、もう一度、大空いっぱいに描いてみよう▼今日も前を向いて、歯をくいしばってがんばっている人がいる。夢を追いかけて、厳しいトレーニングに、勉強に励む人がいる。この夏を、熱くする人がいる。だからといって怒らないでほしい。彼らは決して地球温暖化の要因になろうとしているわけじゃない。夏の音、夏のいろ、夏のにおい…。さあ、夏になろう！（み）

梅雨空を縫って、聖体を賛美する行列が続いた

今年も6月22日のキリストの聖体の祭日に、各小教区でご聖体を賛美する行事が行われた。聖体行列を恒例としている新田原教会と島崎教会からニュースが届いた。

新田原教会の聖体行列

町内をすすむご聖体と多くの参列者

6月22日（日）、新田原教会では、毎年、この聖体の祝日に『小教区聖体大会』と銘打って、晴天の場合は聖体行列、雨天の際は聖体賛美式を行って聖体に対する信心を培っている。

梅雨時であるだけに、毎年雨の心配に悩まされるが、今年は、梅雨の合間をぬって3年ぶりとなる聖体行列を実現できた。

午前9時、御受難会黙想の家の鈴木忠一神父とパリミッション会のM・ラバルタ神父を迎え、平田三郎司教と主任の竹森勇神父の4人の共同司式でミサが捧げられた。

ミサの後、聖堂正面玄関を出て、十字架と侍者を先頭に総勢400人の聖体行列が始まった。まず、教会の前庭で花まきが行われた後、カリタス修道女会の聖マリアの園幼稚園の門前を通り、新田原聖母病院の庭を行列して司祭館裏から、信徒会館・テレジア館前の仮祭壇までのコースで行列は進んでいった。

仮祭壇にご聖体が安置され、全行列が到着して、聖体賛美式と祝福をもって終了した。

島崎教会の聖体行列

同じ6月22日（日）、島崎教会でも恒例の聖体行列が行なわれた。雨模様の天気ではあったが、熊本市内の各教会から司祭、修道者、信徒約200人が参加した。

行列は11時の主日ミサに続いて行なわれた。島崎教会聖堂を出発し、マリアの宣教者フランシスコ修道会の聖堂まで およそ1キロの行程。途中、300メートルほど一般公道を通る。ロザリオを唱え、聖歌を歌いながら進んだ。修道院敷地内には待労病院、聖母の丘老人ホームなどがあり、各施設の正面で高齢者のために聖体による祝福が行なわれた。祝福が行なわれる毎に、神を賛美して子どもたちがまく色とりどりの花びらが空に舞った。

ご聖体を賛美して花をまく子どもたち

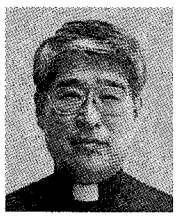
修道院聖堂到着後、聖体賛美式が行なわれた。

島崎教会では、小教区設立以来40年以上にわたって毎年聖体行列を行なってきた。キリスト者はキリストの平和を世界に生きる人々と分かち合う存在。信徒たちは年に一度、ご聖体の主と共に世に出て、自らが受けたキリストの愛と平和について思い起こし、そしてこれを多くの人と分かち合う力が与えられることを祈り求めて、これからもこの伝統を守り、実行し続けて行こうとしている。

祈る人の世界 (1)

兄弟が見える

御受難会福岡修道院
修練長　来住 英俊 神父


来住英俊神父

日々の祈りを続けるために必要なものは、「あこがれ」である。祈りの積み重ねがもたらしてくれる実りを予知して、それに強くあこがれることである。

ところで、あなたは祈りの実りをどう考えているだろうか。神との親しい交わり、愛が増すこと…もちろん、このように考えることもできる。しかし、このように言われると、あこがれの対象であるより、義務のように響く人もあるだろう。祈りによって神との親しい交わりを持たねばならない、というように。

このように表現するとどうか。「自分の住んでいるこの同じ世界が新たな姿をもって見えてくる」。

あるユダヤ教のラビが弟子たちに尋ねた。「夜が去り、昼が戻ってきたと分かるのは何によると思うか」。一人の弟子が答えた。「遠くの方に動物らしいものが見えて、それが犬か羊かが見分けられたら、もう昼間なのではないでしょうか」。ラビは「違う」と言った。

別の弟子が答えた。「遠くの方に木が見えて、それがイチジクか桃かが見分けられたら、夜が去り、昼間になっているのではないでしょうか」。ラビはまた、「違う」と言った。

そこで、今度は弟子たちが尋ねた。「では、どんな時が昼間なのですか」。ラビは答えた。「男性でも女性でも、一人の人間を見て、それが自分の兄弟あるいは姉妹であると分かったら、それが昼間なのだ。もしそれができないなら、たとえ何時であろうとも、まだ夜なのである」。

わたしたちは、昼間に生きることにあこがれているのではないだろうか。出会うすべての人が兄弟であり姉妹であると本当に「分かる」日を待っている。しかし、実際にはそうとは見えていない。地上の生活ではそれが当然だと思っているかも知れない。もちろん、信仰によって、すでにそれを認めてはいる。すべての人間は互いに兄弟姉妹であると。そして、出会う人をそう「思おう」と努力している。だが、実際に兄弟として「見える」日は、ずっと後のことだと思っているのではないか。

しかし、それはそんなに遠い日のことではないかも知れない。この地上の生活で、すでに昼間に踏み込むことはできる。神さまは、ただ「見ずして、信ぜよ」と言われているのではない。求める者には「見せて」くださるであろう。日々の祈りの積み重ねによって昼間の世界に入って行ける、と信じようではないか。

本当に「兄弟」が見えたとしたら、あなたの人生の喜びはかぎりなく増すことになる。世にある喜びはすべて、あなたの兄弟姉妹の喜びだからである。しかし、あなたの苦しみや悲しみが減ることにはならず、むしろかぎりなく深まるだろう。ただし、苦しみや悲しみの質が変貌するだろう。世界が自分の望むとおりの場所ではないことによる苦しさではなく、「自分の兄弟、姉妹が苦しんでいるのを目の当たりに見る」ことの苦しさ、悲しみである。

※ラビ…ユダヤ教の教師

今月から、御受難会福岡黙想の家の来住英俊神父に連載していただくことになりました。来住神父は1984年に初誓願、1989年2月26日に司祭叙階。現在、福岡黙想の家で2人の修練者の指導と、祈りの学校を開校しています。「祈りの学校」のホームページにもアクセスしてみてください。
http://www001.upp.so-net.ne.jp/inorinogakko/

来住神父の著書：
「目からウロコ　ロザリオの祈り　再入門」他。
発行所＝女子パウロ会

アルベリオーネ神父列福感謝ミサ

6月28日（土）、カテドラルでパウロ会家族主催でアルベリオーネ神父列福感謝ミサがささげられた。全国からパウロ会家族のメンバー、支援者らが集い、活動においても、またその精神も私たちに身近な、親しき現代の福者の誕生を心から神に感謝した。

ミサの前には、アルベリオーネ神父の生涯がスクリーン上で描かれ、列福式の様子も上映され、その感激を共に味わった。

お祝いを述べる教区総代理川上神父

アルベリオーネ神父列福式参加と巡礼

黒田　京子

聖パウロ修道会の創立者アルベリオーネ神父様の列福式に参加する恵みがありました。

この巡礼団には夫津木昇神父様（聖パウロ修道会管区長）を団長にパウロ会の神父様、ブラザーの方々、仙台、関東、関西、福岡などから約40人が参加しました。

聖ペトロ大聖堂をバックに筆者と参加者

4月27日、サン・ピエトロ広場に行く前に、巡礼団全員にアルベリオーネ神父の顔がプリントされた黄色いスカーフが配られました。このスカーフが列福式に参列できる「パス」となるもので、各々が思い思いの形にスカーフを巻いて参列しました。アルベリオーネ神父といっしょに列福された他の5人の福者の参列者たちも、みなそれぞれのお顔がプリントされたスカーフを巻いていて、どの列福者の関係の人たちか一目瞭然です。

世界の各地から二十万人の人々が集った列福式ミサ終了後の熱気はまるでオリンピックのようでした。

翌日の教皇様特別謁見では、スカーフは喜びの表現に使われました。隣人のスカーフと繋ぎ合わせて大きな旗にして掲げ、列福者をたたえる歌をうたい、謁見ホールは熱烈な雰囲気に包まれたのでした。

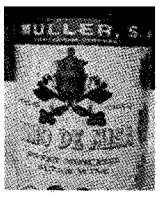
その後、美しい風景と静かな街並のアッシジへ移動しましたが、民家のベランダや窓には、「虹色の旗」が掲げてあり、Peaceと記されていました。この虹色の旗からも「平和を願う」意志を表示する何か力強いものを感じさせられました。

イタリアを楽しんでいた私たちに「世界の平和」のために祈る心を忘れないようにとアッシジの人たちに教えられた気がしました。

あれから三ヵ月、列福式に参加するお恵みを頂いたことを神様に感謝し、巡礼中の新しい出会いも大切にして、これからも信仰の歩みを続けていきたいと思います。

大名町教会信徒

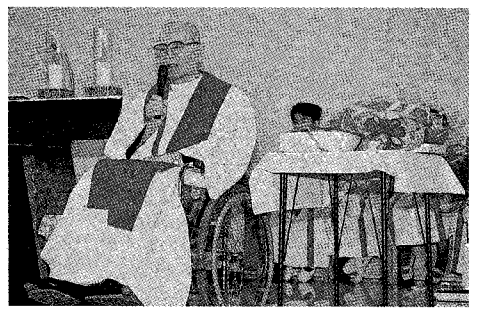
むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

平田三郎司教様　卒寿の祝い

新田原教会


感謝のことばをのべる平田三郎司教

聖母訪問会新田原・第2修道院で静養中の前教区長平田三郎司教は、今年8月で満90歳の「卒寿」を迎える。今年は、平田司教の霊名聖ペトロの祝日が日曜日に当るために、誕生日を繰り上げて6月29日に新田原教会の小教区民一同で平田司教の霊名聖ペトロと卒寿をお祝いした。

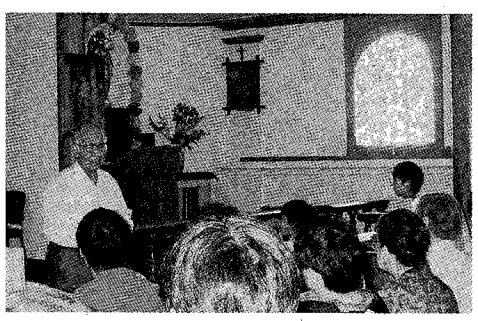
午前9時、サン・スルピス大神学院の高木善行神父も祝いに駆けつけ、竹森主任司祭と平田司教とで共同ミサを行った後、お祝いのセレモニーへと移った。

主任司祭、高木神父、信徒会長、ヨゼフ会の代表者によるお祝いのことばに続いて、松永久次郎司教からの祝電が披露された。更にお祝いや霊的花束、記念品の贈呈、歌のプレゼントがあり、最後に平田司教の感謝のことばに、信徒一同から大きな拍手が湧き上がり、おめでたい雰囲気に満たされた。そして最後に派遣の祝福で終了した。

平田司教は毎週日曜日は、新田原教会で主任司祭と共同司式を捧げられるくらいにお元気に過しておられる。

長崎外海町巡礼の旅

鳥栖教会

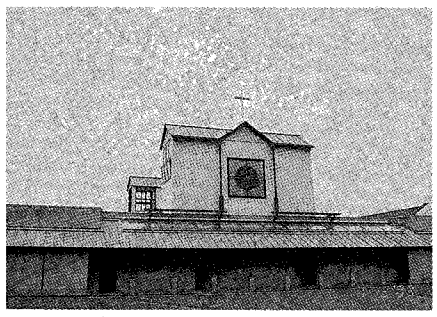

長崎の出津教会で教会の歴史を聞く参加者

7月6日（日）、梅雨の曇り空の中、鳥栖教会では総勢65名が、「キリシタンの里」長崎外海町へ巡礼した。

最初に訪ねたのは角力灘を一望できる丘に建つ遠藤周作文学館。外庭で、外海町への巡礼者を案内している山崎政行氏（出津教会信徒）から迫害時代、多くのキリシタンが角力灘を船を漕いで五島へ渡って行ったことなど、当時の信仰を守り通そうとする人々の苦難を聞いた。文学館の中では遠藤周作氏の生涯と「沈黙」の世界に触れることができた。次に、出津教会でミサを捧げ、平田三好神父（鳥栖教会主任）は、説教の中で「この巡礼を通して私たちの信仰を呼び起こしましょう」と語った。その後、ドロ神父記念館、外海町立歴史民俗資料館を廻り、ドロ神父の遺業に感動した一行は、ドロ神父の墓前で黙祷を捧げた。

来年創立50周年を迎える鳥栖教会に、この巡礼は信仰を新たにし、信徒の心を一つに結ぶ恵み多き旅となった。

トラピスチン修道院福岡教区に創立して50年


厳律シトー会伊万里の聖母修道院

梅雨期には珍しいほどの晴天に恵まれた7月2日、「シトー会」伊万里の聖母修道院は創立50周年を祝った。

記念ミサは、松永久次郎司教の主司式、母院であるフランス・ブリクベックのドン・シャールをはじめ、北海道当別、大分の修道院長ほか3人の共同司式でささげられた。女子修道院長たちも参加し、喜びを分かち合い、神に感謝をささげた。

司教は説教の中で、「あなたがたの存在は、神からの恵みを世に運ぶ担い手です」と語った。ミサの結びに、神への賛美の歌「テ・デウム」が聖堂に響き渡った。

伊万里の聖母修道院は1953年7月2日、北海道のトラピスチヌ修道院（天使園）から、福岡県豊津町に創立されたのが始まりである。隣接する自衛隊航空基地の飛行機騒音のため、1965年、現在の伊万里市へ移転した。

第一代大院長は、伊万里への移転のため、候補地を求めての旅行、自衛隊との交渉など、まさにいのちを尽くして働き、新修道院を見ることなく神のみもとに召された。

創立者たちは、二回にわたる苦しい創立期を、主のみ手にゆだねて築き上げていった。彼らの中には天国に召された姉妹たちもいるが、13人は今なお健在で、陰に陽に祈りと働きをもって支え続けている。荒れ地だった場所が今は畑や果樹園に、山には見事な杉や桧がそびえている。そこに創立者たちのたゆみない労働を垣間見ることができる。

会員たちは、50年という年輪の中に刻まれた創立者たちの尊いささげに思いを馳せ、また、これまであたたかく見守り援助の手をのべ続けてくださった多くの恩人たちに対して感謝をあらたにしていた。

カルメル会で初誓願式

7月16日カルメル山の聖母の祝日に、カルメル山の聖母修道院で初誓願式が行なわれた。この日初誓願を宣立したのは長崎・平戸の木ケ津教会出身のシスター・エンマヌエルのマリア佐々木すみ子さん。姉妹たち、シスターの家族や親戚、友人、そして各地から訪れた人々が見守る中、シスター佐々木は神への奉献の道をひたすら歩む意志を表明した。一同は心を合わせ、神の恵みによってこの望みを行なうための力が与えられるよう祈り求めた。

シスター佐々木は修院長の前で誓願文を読み上げ、その文は松永司教により祭壇に奉納された。続いてシスターに会則と会憲の書が渡された。

信徒宣教者の江村さん　東ティモールを語る

6月29日午後、大名町教会で信徒宣教者の報告会が行われた。AFMET東ティモール医療友の会に属する江村美保さん（新田原教会出身）は01年5月から2年間の東ティモールでの活動を終えて帰国したばかりの看護師である。

現地で診療活動を行なう江村美保さん

25年に亘る内戦で傷つき、復興の途上にある東ティモールには医師不在の地域が多く、これらの地域での保健活動の体験を報告してくれた。彼女は、自分達の活動は治療よりも「どうすれば病気にならないか、健康に暮らせるかを教える」というプライマリ・ヘルスケアが目的と語る。

訃報

シスター・ルチア高橋トエ（マリアの宣教者フランシスコ修道会）が7月19日帰天。享年95歳。奉献生活68年。

ご寄付御礼

故マリア田中アサノ様の御香典返しに代えて、田中利幸様より、教会活動のために多額のご寄付を頂きました。

ここにご報告し、厚く御礼申し上げます。

二〇〇三年七月

カトリック福岡司教区

教区長　松永久次郎

木かげ

山元眞神父

若者たちは想像以上に時と場所を超えてつながっている。福岡の青年の主催で、FYCC（FUKUOKA YOUTH CATHOLIC CAMP）という中高生対象のキャンプが福岡市浄水通の召命の家（元神学校）で開かれた。七月十九日から二十一日までの二泊三日。テーマは『このゆびとまれ』。このキャンプに行橋教会から一人の青年と八人の中高生が参加した。福岡教区の端にある行橋教会から福岡のキャンプに参加した、その経緯がおもしろい。

一人の青年がたまたま福岡の青年とつながった。そこで、このキャンプの情報が電子メールで伝わっていった。メールを通して福岡の青年たちとつながり、まだ会ったこともない者同志が親しくなり、行橋教会を訪問するまでになった。他教会の青年や中高生ともメールでつながり、キャンプ当日に互いに出会うことが楽しみになる。メールでは、キャンプのことだけでなく、日ごろの学校生活の話題を提供し合ったりする。インターネットでは、「掲示板」というのがあり、だれでも自由に読んだり、書き込んだりすることができる。ときどき拝見させていただくが、若者たちの情報のやり取りは、時にほほ笑ましく、時にまじめ。平和運動やボランティアの呼びかけ、それに参加した感想も記されている。全国の若者と瞬時につながっている。

時と場所を超えて

電子メールやインターネットは時と場所をかるく超えて人と人を結びつける。何事も小教区という区域に、しかも何十年も前に区分けされた地域にどうしてもこだわる人にとっては、おそらく考えられない世界なのかも知れない。

若者が教会に来ない、教会から離れているといわれる。それは、教会サイドの一方的な見方。今は、つながり方が昔とは違う。教会もメールやインターネットで若者とつながってはどうだろうか。教会の未来はそこにある。（行橋教会主任）

BOOK 読みま専科

★教皇ヨハネ・パウロ2世…和解とゆるしを祈る…
カトリック中央協議会　新聞事業部　編集

この写真集では、普段あまり報道されていない「祈る教皇」「ホッとする教皇」といった、人間味あふれる温かい教皇の姿に焦点が当てられている。また、1981年2月23日来日した教皇の日本での姿が多くの写真で紹介されている。分冊として資料ともなるカトリック新聞の教皇関連記事の抜粋が入っている。

カトリック中央協議会発行
税込み　4800円
◇　◇　◇

★キリストの使徒パウロ
涌田晶子　著
岩淵慶造　画

キリストの弟子の迫害者から突然最も熱烈な使徒となったパウロ。殉教にいたるまで福音宣教に力をつくしたパウロの魅力を、聖書や初代教会の伝統にそって生き生きと伝える新しい伝記。

対象　小学校上級から大人
女子パウロ会　発行
税抜価格　1200円

セントポール FUKUOKA からお知らせ
8月11日(月)～16日(土)まで夏期休業。

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

マリアと共にキリストの道を歩こう！

福岡黙想の家ご案内　8月・9月

◇10日(日)～16日(土)　サレジオ会黙想
◇17日(日)～18日(月)　オブレート会・福岡
◇19日(火)～28日(木)　ショファイユの幼きイエズス修道会黙想
◇19日(火)～28日(木)　シスターのための8日間黙想会(参加者募集中)
◇31日(日)～9／5(金)　オブレート会黙想

9月
◇6日(土)～7日(日)　聖母カテキスタ会黙想
◇8日(月)　ユリアナ会
◇13日(土)～14日(日)　在世カノッサ黙想会
明治学園小・宗教科職員研修
◇14日(日)～15日(月)　八幡鐵町教会修養会
◇20日(土)～21日(日)　福岡黙想の家後援会会員黙想会
◇21日(日)～22日(月)　オブレート会・福岡
◇22日(月)～23日(火)　九州アシュラム
◇25日(木)～26日(金)　九州地区カトリック児童施設職員研修

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

※祈りの集い
・9月11日(木) 10時～15時
テーマ：取次ぎのための祈り
・10月9日(木) 10時～15時
テーマ：聖体礼拝の祈り
指　導：Sr.マリアと S.フランコ神父

※黙想会
・8月2日(土) 17時～15日(月) 朝まで
テーマ：日本文化における霊性
指　導：S.フランコ神父
問合先：生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

カトリック教会のカテキズム

日　時：8月31日(日)　15：00～17：00
通常毎月第4日曜日（変更日あり）
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
参加費：1回　500円
対　象：教会学校のリーダーやカトリック教会の教えを学びたい人
主　催：福岡教区信仰教育委員会

北九州地区聖書講演会

③9月7日(日)　14：00～16：00
[テーマ] 新約聖書について
[会　場] カトリック小倉教会
[講　師] 森山信三神父（戸畑教会主任）
[主　催] 北九州地区信徒協
[問合先] ☎093-293-4981　松尾

福岡地区納骨堂委員会お知らせ

墓地を開放日　8月13日(水)～15日(金)
追悼ミサ　8月15日(金) 14時より 和田墓地
納骨堂加入者募集中
従来納骨堂　加入費15万円
新規納骨堂　加入費25万円
維持管理費いづれも4万円（10年間）
※詳細は、各小教区納骨堂委員にお尋ね下さい。

9月21日(日) 泰星学園文化祭

マザーテレサの写真展とマザーに会った神学生の話

案内版　会合と催し　8月・9月のこよみ

9月
3日(水)　†P・コトレル［1928年熊本地区で宣教］
7日(日)　年間第23主日
筑後地区スポーツ大会（大刀洗運動公園）
9日(火)　**司祭評議会**（司教館新館10時30分）
10日(水)　日本205福者殉教者
14日(日)　十字架称賛
15日(月)　悲しみの聖母　敬老の日
†A・ヒューゼ［1944年司教館］
17日(水)　†P・オジョニ［1982年ロザリオの園］
21日(日)　年間第25主日
吉塚教会堅信式
23日(火)　北九州地区信徒協レクレーション　秋分の日
28日(日)　年間第26主日
世界難民移住移動者の日（献金日）
29日(月)　聖ミカエル聖ガブリエル聖ラファエル大天使
†Y・ヴィオン［1969年司教館］
ゴチックは司教日程

8月
2日(土)　水巻教会・幼稚園合同夏祭り
3日(日)　年間第18主日
4日(月)　†M.ボンカズ［1991年田川教会］
6日(水)　主のご変容
日本カトリック平和旬間［～15日(金)］
†E・ベノア［1962年門司港教会］
8日(金)　聖ドミニコ司祭
†P・マルケシーニ［1980年待労病院つき］
10日(日)　年間第19主日
平和を祈る集い（カテドラル13時）
北九州地区（小倉教会11時）
12日(火)　†A・ブルトン司教［1954年第2代教区長］
†J・オサリバン［1983年熊本地区長］
13日(水)　和田墓地開放（～15日）
14日(木)　聖マキシミリアノ・マリア・コルベ司祭殉教者
†木村義巳［1967年馬渡島教会］
15日(金)　聖母の被昇天
教区和田墓地ミサ（14時）
18日(月)　†堤要吉［2002年浄水通教会］
19日(火)　†川口康頼［1991年小神学校校長］
20日(水)　†L・デシャンブ［2001年八王寺本部］
†D・グリフィン［2001年玉名教会］
24日(日)　**馬渡島教会堅信式**
27日(水)　**福岡地区婦人会感謝ミサ**（カテドラル10時）
28日(木)　聖アウグスチヌス司教
29日(金)　洗礼者ヨハネの殉教
31日(日)　年間第22主日
カトリック教会のカテキズム勉強会

マグリン神父によるゆるしの秘跡

日　程：毎月第1と第3土曜日
場　所：大名町カトリック教会小聖堂

福岡地区信徒協研修会のお知らせ

日時：9月15日（敬老の日）9時50分
場所：カテドラル大名町教会
講師：櫻井尚明神父（糸島）
テーマ：神が望まれる教会教会づくりを目指して
参加費：1,000円
主　催：福岡地区信徒協

'03夏召命学校

召命って何だ？！

日　時：8月26日(火) 15時集合～28日(木) 14時ミサ後解散
対　象：小学4年生から中学生の男子
持参品：信心用具・洗面道具・着替等
問合せ：☎092-741-3687（浦川神父）
主　催：召命を共に祈る会

◆福岡

■生と老い死を見つめる会
[日時] 8月17日(日) 14時から16時 [場所] 大名町カトリック教会 [内容] 葬儀について [講師] 鬼木保之氏 [参加費] 700円 [問合先] ☎092・713・8523大山／607・6992村尾

■召命を求める祈りの集い
[日時] 8月21日(木) 14時30分 [場所] 召命の家 [指導] 浦川務神父（召命担当）

■福岡地区婦人会モニカ祭
[日時] 8月27日(水) 10時 [場所] カテドラル大名町教会 [内容] 感謝のミサと年間物故者の追悼式 [主式] 松永久次郎司教 [問合先] 各小教区の婦人会長まで

■福岡地区結婚講座
[日時] 9月10日(水)から10月4日(土)毎水曜日と土曜日全8回19時から [場所] 大名町カトリック教会 [参加費] カップルで一万四千円 [問合せ先] ☎092・541・6207ファミリーセンター

■福岡ホスピスの会勉強会
[日時] 9月14日(日) 14時から [場所] 大名町カトリック教会 [内容] さくら病院の緩和ケア [講師] さくら病院緩和ケア病棟スタッフ [参加費] 700円 [問合先] ☎092・534・5647小林

■第35回典礼聖歌研修会
[日時] 9月21日(日) 13時から [場所] 笹丘カトリック教会 [講師] 深堀純氏（大名町教会信徒）[参加費] 自由献金 [問合先] ☎092・541・3730松山

■祈りの集い黙想研修会
[日時] 9月22日(月) 10時から23日(祝) 15時 [テーマ] 主の御手の中で [場所] 司教館教区事務所5階ホール [指導者] Brチャン（コンベンツアル聖フランシスコ会士）[参加費] 無料 [問合先] ☎092・541・3730松山

■在世フランシスコ会集会
[日時] 9月28日(日) 14時～16時 [場所] 高宮フランシスコ会修道院在世会集会所 [内容] アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習 [指導] 小池如安神父 [問合先] ☎092・843・5831岩崎

■美野島司牧センターから
8月は休会
美野島衣類バンクでは、男性用夏物衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。また、火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者を募っています。[問合先] ☎092・431・1419

◆北九州

■小倉祈りの集い
[日時] 8月22日(金) 13時30分～15時 [場所] カトリック小倉教会信徒会館 [内容] 「みことば」をあじわう賛美と感謝の祈り [指導] B・ガブリエル神父（御受難会）[問合先] ☎093・452・1556安藤 [次回] 9月26日(金)

■召命を求める祈りの集い
[日時] 9月11日(木) 14時30分 [場所] 小倉教会 [指導] 中村信哉神父（直方教会主任）

第30回 出会いの集い

日　時：9月23日（秋分の日）
場　所：カテドラル大名町教会
指　導：青木悟神父（大名町教会主任）
吉川信雄氏（光丘教会信徒）
内　容：ミサとお話し（ダンスと語らい）
対　象：20歳以上の独身男女
会　費：2,000円（昼食費含む）
申込締切：9月7日（各教会カナの会）

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
[日時] 8月23日(土) 10時～11時30分 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] 共に祈る [次回] 9月10日(水) 10時～12時：9月27日(土)はミサと祈り：毎月第2水と第4土曜日。どうぞご参加下さい。[問合先] ☎0952・72・7536吉田

■聖書を読む会
[日時] 毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] ルカ福音書を読む [講師] A・アレグリーニ神父 [テキスト] 聖書 [参加費] 無料 [問合先] ☎0952・23・4754阿南　8月は休会

◆熊本

■熊本地区結婚講座
[日時] 9月1日(月)から9月30日(火)毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分 [場所] 手取カトリック教会 [参加費] カップルで一万四千円 [問合せ先] ☎096・352・3030 FAX 352・1515手取教会　阿部

編集後記

先の集中豪雨で、皆さんの住んでおられる地域に被害はありませんでしたか。被災された方々のお気持ちをお察しします。困難な状況を乗り切るための力が与えられますよう祈っています。最近、身近なところで、突然いのちが奪われる出来事が起こり、衝撃が走りました。いのちは愛し育むもの。それだけに、いのちの喪失にともなう苦しみ悲しみは深いものです。9月号は休刊します。次号でお会いする頃には、涼しい風が吹き始めていることでしょう。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
電話 092-721-2032　FAX 092-739-3930

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

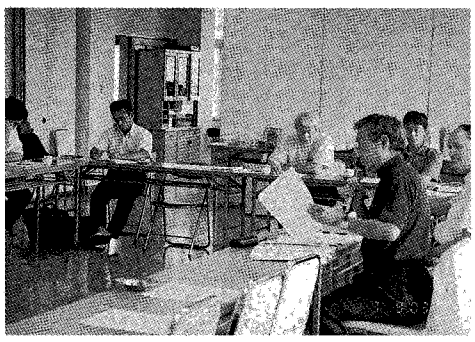
今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般】　熱心にキリストに従う
【布教】　知恵と聖性に富む牧者
【日本の教会】　学校教育と青少年のため

司祭評議会を開催

聖体奉仕者養成の要綱固まる

司祭評議会が9月9日（火）司教館で開かれ、教区長をはじめ14人の評議員が参加した。昨年から聖体奉仕者養成の第一段階として、準備委員会を組織し、養成要項の作成に着手していたが、このほどその作業が終了し報告が行なわれた。また、来年度の年間行事予定について確認し、教区司祭の休暇等についても討議された。



「ここで一つの方針を打ち出そう」という主旨のもと、教区レベルでの聖体奉仕者養成への動きは始まった。しかし、各地区によって出発点そのものが異なっており、それぞれの地区の状況を踏まえて歩み始めることは大切なことである。そのためにも、実行委員会メンバーには各地区から選出されるようにし、養成の場所も配慮する必要があるとの意見が出された。

このたび要項がまとまったことにより、聖体奉仕者養成を実効性ある動きに高めるために、早い時期に聖体奉仕者養成実行委員会の立ち上げが望まれる。

聖体奉仕者養成要項資料が評議員に配付され、準備委員会の岩永義人委員長からの説明に耳を傾けた。今回、養成へ向けて前進しようとしている聖体奉仕者について、「ミサの時聖体を授ける特別奉仕者」「病気や高齢で教会に来ることができない人に聖体を授ける特別奉仕者」に限定されることが確認された。いわゆる集会祭儀（司祭不在のときのことばの祭儀と聖体拝領）の奉仕者は含まれない。岩永師は、聖体奉仕者養成のために信徒の協力はもちろん、すべての司祭の理解と協力が得られることが不可欠で、司祭の意識高揚をはかることが重要であると訴えた。報告の後、評議員間で活発に意見が交わされた。

聖体奉仕者養成について、これまで地区・小教区ごとに様々な理解や方法があった。

世界宣教の日

2003年10月19日

教区の宣教を報告する司教

今年の世界宣教の日は「ロザリオの年」の終わりにあたります。教皇様はこのロザリオ年が世界各地の信者がキリスト者としての召命の意味を深めるための恵まれた機会となるよう念願し、信者に向かい、マリアの学び舎に集い、マリアと共にキリストのみ顔を観想するよう招きました。教会の宣教の使命は何よりも祈りによって支えられなくてはなりません。これからもロザリオを唱え続けましょう。

ロザリオの年の恵みはいま、教会を新しい福音宣教へと駆り立てています。

（教皇メッセージの全文は各教会に配布されています。）

北九州地区と福岡地区で平和旬間

イラクで「人間の盾」になった木村公一牧師の講演に350人

北九州地区

8月10日（日）11時30分、北九州信徒使徒職協議会主催の「平和旬間の集い」が小倉教会を会場に開催された。

前日までの悪天候が一変、晴天に恵まれた会場には早くからテントが張られ、北九州で活動しているグループ・団体等の模擬店が入り、開店と同時に多くの人で賑わった。その後も大型バスやマイクロバスなどを利用した参加があり500人近くにもなった。

イラクの戦前、戦後のパネルに見入る人たち

木村公一牧師は、自分が属する伊都キリスト教会に「人間の盾」としてイラクへ派遣してほしいと願い出て、派遣となったことや、またバグダットでの攻撃開始前、攻撃開始、攻撃後などの体験をユーモアを交えながら語った。分かりやすく、臨場感あふれる話に参加者は引き込まれていった。

また、イラク戦争のパネル写真が展示された教会の前庭には、テレビや新聞では報道されていなかった写真もあり、多くの人が見入っていた。

また、2月に出された日本司教団声明を支持する2、156人の信徒の名前や教会学校の手作り平和メッセージも展示され、子ども広場は40人ほどの子ども達で賑わった。

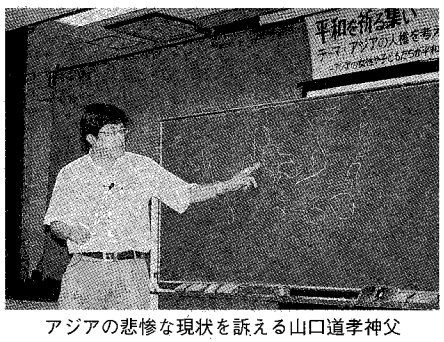
木村牧師の講演後のミサにも参加者があふれ、平和を願う熱い祈りが続けられた。実行委員の一人は「イラクの子ども達へ13万円近い献金が集ったことは、みんなの平和への希求の表れでしょう」と語った。

「アジアの人権」を考えた一日

福岡地区

同じ8月10日（日）、福岡地区では正義と平和協議会により、カテドラル大名町教会で2部構成で平和を学び、祈る一日を過ごした。

第1部のテーマは「アジアの人権を考える…アジアの女性や子どもたちが平和に過ごせる社会を願って…」。講師の山口道孝神父（日本カトリック信徒宣教者会事務局長）は、人間の尊厳とは程遠い生活を強いられているタイやネパール、パキスタンなどでの、子どもや女性たちとの関わりから見える現状を語った。豊かさに馴れ切った生活で見失っている平和や安定の本当の意味を考えさせられる生々しい事実の報告に会場から驚きと苦渋の嘆息が聞こえた。



アジアの悲惨な現状を訴える山口道孝神父

講演後に行なわれた「平和を祈る国際ミサ」では、福岡市に在住している外国人の信徒も参加した。韓国語、タガログ語、スペイン語、英語などで「平和」を希求する共同祈願が唱えられ、各々の母国語で「主のいのり」を同時に祈った。

美しい民俗衣装をまとった代表が奉納行列を行ない、民俗楽器による母国の聖歌も演奏された。

閉祭では日本語とローマ字で書かれた楽譜をもちいて「アーメンハレルヤ」の大合唱になった。

時の話題

夜明けがくるときまで

秋吉久紀夫

室見川といえば、直ぐに思い浮かぶのが白魚である。その川は福岡市の西、姪浜と西新との間を流れているが、河口の東側には以前、周りを高い塀で囲んだ福岡刑務所があった。

その獄舎の一室で、ひとりの朝鮮の無名の詩人が、敗戦直前の1945年2月16日の真夜中、拷問の末に息を引き取った。名は尹東柱である。享年27歳。傍らに聖書があった。

故郷は、現在の吉林省延辺朝鮮族自治州間島地区で、曾祖父の代に朝鮮北部の咸鏡北道から移住。1910年に日本が朝鮮を併合すると、中国領内居住の朝鮮族も強制的に日本国籍となる。家族はキリスト教徒である。

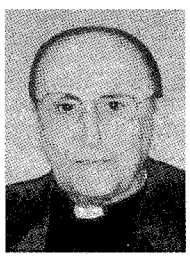
逮捕されたのはその2年半前のこと。同志社大学英文科に在学中で、44年3月、朝鮮民族の意識宣伝の科によるという治安維持法第5条違反で、懲役2年の刑が確定、即刻、京都から移送され、福岡刑務所に収監されていた。

かれの詩は110数篇が残されていて、その一篇「夜明けがくるときまで」（伊吹郷訳）の詩は24歳の作。「すべて死にゆく人びとに／黒い衣を着せなさい。／すべて生きゆく人びとに／白い衣を着せなさい。／そして一つの寝台に／しずかに寝せてあげなさい。」明らかに死より命への過ぎ越しに他ならない。

「詩人尹東柱之墓」は、中国、間島地区龍井の東山教会墓地にあるが、かれは今、非業の死を遂げた数10万人の同僚と共に、遥か望み続けているに違いない。拉致問題で喧騒な国、日本を向いて。（黒崎教会信徒）

訃報

アンヘル セトアイン神父（イエズス会）帰天



A．セトアイン神父

9月12日、日赤病院で帰天。享年85歳。9月15日、カテドラル大名町教会で葬儀ミサが行なわれた。1992年イエズス会日本管区管区長補佐を退任、引退後の生活を福岡修道院で送っていた。しかし、セトアイン神父の宣教活動に引退はなく、北九州や美野島司牧センターなど、特に外国人信徒の司牧や霊的指導にと、活躍した。

司祭人事

▽佐賀教会助任＝マルコ　ヴィッラ（8月5日付け）

みちくさ

忘れることのできないミサがある。神学生時代、そう、あれは前期末試験の最中だった。頭がオーバーヒートに近付いていた時に、日曜日がめぐって来た。救いの日！の到来をつくづくありがたく思い、気持ちの荷をおろして主日のミサにゆったり腰を落ち着けた。ステンドグラス越しに射し込む朝陽がとても心地よかった▼その日はちょうど「世界宣教の日」にあたっていた。入堂行列の最後に司式司祭のまーるくなった背中が見えた。神学校で最高齢のT師だった。彼の独特の日本語は、聞く者の注意力を否応なしに呼び起こす。彼は説教で、宣教師となって海を渡り日本を目指した当時のことを語り始めた。彼ははるか遠くを見つめるように、目を大きく見開いて会衆を見渡していた。あのキラキラとした目の輝きを今も思い出す。瞳の奥に秘められた強い意志によるものだったのか。彼の情熱にみちたことば一つひとつが心の中に舞い降りてくるのを感じていた▼教皇様は今年の世界宣教の日に寄せたメッセージの中で次のように言う。「聖性と宣教は切り離すことができない。洗礼を受けている人は皆、この両方に共に招かれているのだ」と。宣教師たちは人々の心の中にキリストのみことばを蒔き続けた。そして宣教のさなか倒れ、その地の土となった人もいる。彼らの心を今度は自分が受け継いで生きてみたいと願う▼あの日、ミサで味わった思いをこれからも大切にしたい。彼は教えてくれた。ミサは宣教者の生き方そのものであるということを。（み）

特集　夏　青年たちが熱く燃えた！

教会が、また社会が青年たちにかける期待は大きい。みなぎる若さはまさに希望の灯。しかし彼らはまた社会のうねりの中で激しく揺り動かされる世代。そんな彼らが小教区の枠を超えて一つに集まった。仲間と出会い、心を熱くした青年たちの夏を追った。

ネットワークミーティング　大神学校

教区を越えて仲間ができたよろこび！

ネットワークミーティングは、カトリックの青年、青年の活動を支えている信徒・修道者・司祭が自由に集い、今かかえている問題や信仰のことなど分かち合い、交流する場として、カトリック青年連絡協議会にあわせて開催されている。

今回、福岡の青年の協力を得て、9月13日（土）から14日（日）にかけて福岡サン・スルピス大神学院を会場に開催された。70人の青年が九州一円、広島、東京、千葉、北海道から集った。福岡教区内は福岡、熊本など20数名が参加し、信仰を分ち合った。

FYCC　命家召の

福岡地区では7月19日から21日にかけて、召命の家を会場に中学生・高校生を対象にしたキャンプ『福岡地区カトリック教会・中高生キャンプ（FYCC）』を開催した。中高生男女34人が参加。「このゆびとまれ！」をテーマに、ゲーム感覚の体験学習、フォークミサなど、のびのびとした雰囲気に包まれた集いとなった。

頭を寄せ会い、体験学習の一こま

キャンプの発案から約半年間、青年たちは情熱を燃やして準備に取り組んだ。何もかもが初めて。彼らは、まず自分の所属する教会の子どもたちと親しくなることから始め、それからポスターとちらしを持って各小教区を回った。「自分たちと一番年齢の近い中高生に、教会に集うことの素晴らしさを伝えたい」という強い思いが青年たちを突き動かしていった。そして、このような動きは青年たちの団結を生み、やがて周囲の人々に伝わる大きな声へと変わっていったのである。

青年たちはこの企画を通して、教会という組織化された人々の集まりの中で、中高生と向き合い、青年同士向き合い、司祭と向き合い、教会関係者と向き合い、そして神と自分自身の心と向き合った。その中で様々な不安、困惑、葛藤を経験した。しかしそれを乗り越えさせてくれる大きな力を彼らは感じ取っていた。神への信頼、そして仲間たちの絆。これこそ、キャンプを成功に導いた要因であり、このキャンプを通して得たものであった、青年の一人はそう振り返っている。

オール熊本　西合志

熊本地区では8月9日から10日にかけて熊本信愛女学院西合志合宿所を会場に『オール熊本青年祭り』を開催した。熊本県下のカトリック青年41人が集結。

心配されていた台風の影響もなく、初日には広々としたグランドに隠されたみ言葉をさがすゲームを行ない、ロザリオ作りにも取り組んだ。また「出会い」をテーマにした分かち合い（これを『しゃべり場』と呼んだ）や、バーベキュー、キャンプファイヤーなど盛りだくさんのプログラムを通して、今回初めて出会った青年同士もいつしか打ち解け合い、楽しく時を過ごした。二日目は朝の祈り、分かち合いのまとめを行ない、そして最後にミサをささげた。

自分の教会をパネルで紹介！

熊本市内五教会の青年有志が実行委員会を立ち上げ、「祭り」を一年かけて準備した。資金集めと理解を求めるために、市内の教会を巡って手作りカレーの販売をしたり、熊本県内の小教区をまわって宣伝活動を行なった。青年たちは訪れた先で、自分たちにかけられる期待の大きさを肌で感じたという。

これらの行事は、参加した中高生にとっても、また青年たちにとってもスタートを意味していた。ここで得たものを教会活動や日常生活にどう活かしていくのかが、彼らが新たに取り組もうとしているテーマである。

小教区を超えて、また教区を超えて青年が繋がろうとしている。この原動力はほかならぬ青年自身から来るもの。彼らが互いに出会い、つながりを深めていくことを通して力をあわせて新しい未来への扉を押し開いてくれることを心から期待したい。青年たちの心はいま夢に向かって大きく羽ばたこうとしている。

この夏の実りの芳香が、それぞれの小教区でも香り始めているのではなかろうか。

祈る人の世界 (2)

神中心の世界に住む

御受難会福岡修道院
修練長　来住 英俊 神父

「あなたが彼を好きかどうかなんて、大したことじゃないわ。」キリスト信者らしからぬ、とんでもない言葉だと反発する人もあるだろう。しかし、これは私が今まで友人から聞いたうちで、最も「目からウロコ」だった助言である。洗礼を受けたばかりの頃、私には納得できない言動の多い人が交友の中に何人かいた。若い時代はそういうものかも知れない。その一人について愚痴っていた時に、ある友人がそう言い放ったのである。それで、私はかなり解放された。

＊

キリスト信者同士で最もよく出る話題の一つは、「人を受け入れることができるか」という問題である。もっと正確に言うと、「キリスト信者なのに、あの人を受け入れることができない」という悩みである。それをゆるしの秘跡の中で告白する人もある。

しかし、「自分はあの人を受け入れることができるか」ということにこだわりすぎている気がすることがある。そのために、もっと手近に愛を実践する機会があるのに、それが見えていない。そんな時は、「あなたが彼を受け入れるかどうかなんて、大したことじゃないよ」と言ってあげたい。では、何が大したことなのか。「神さまは彼が好きだ」ということである。こう言うと綺麗事に聞こえるであろう。しかし、これは自分には世界がどのように見えているかという根本的な問題である。

＊

私が世界の中心にいて、彼と向かい合って、「ゆるせる」とか「ゆるせない」とか、悩んでいる。神さまはその横に立って、はらはらしながら、あるいはしかめっ面をしながら「やっぱり、ゆるすべきだよ」とか言っている。自分が中心にいるという意味で、これは自己中心の世界である。人との葛藤を解決したいと願うのはもちろんよいことだが、自分の世界を葛藤のない住み易いものにしたい、という動機が混じってはいないだろうか。

一方、神さまが中心にいて、自分も含めていろいろな人がその周囲に惑星のように回転している、そんな世界がある。神さまは彼を愛している。そして、「彼をゆるせない」とつぶやいているこの私も同じように大事に思っていてくださる。神中心の世界とはそういう世界である。

自己中心の世界を滅却しなければならないとやっきになる必要はない。それは当然あるものとして認めておこう。しかし、自己中心の小宇宙を包んで、はるかに広大な神中心の大宇宙の中に自分を置きたい。

＊

この視点を持つだけでも役に立つ。「私が彼を好きかどうかなんて大したことじゃない」という呪文を唱えるとよかろう。しかし、実際にそのように世界が「見えてくる」ようになりたいと思わないだろうか。そうなると、やはり祈りの時間を積み重ねる必要がある。神が中心におられ、さまざまな人がそれぞれの思いを持ちながらその周囲を回っている。それが「祈る人の世界」である。自分とうまく行かない人がその中に住んでいても、驚くことはない。

http://www001.upp.so-net.ne.jp/inorinogakko/

来住神父の著書：「目からウロコ　ロザリオの祈り　再入門」他。発行所＝女子パウロ会

自由席

五島巡礼に参加して

山川 優貴・栞

赤レンガの聖堂前で筆者やリーダー

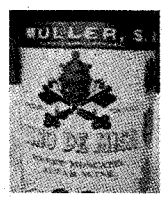
8月3日の夜遅く、私たちは五島行きのフェリーに乗り込みました。神父様はすぐに眠った様子でしたが、私たちは興奮してなかなか眠れませんでした。しかし、気付いた時には朝、そこはもう五島でした。フェリーを下船してすぐ、朝ミサにあずかるために大曽教会に移動しました。ミサの途中で虫が入ってきて私たちはその虫が気になってしようがありませんでしたが、五島の皆さんは気にする様子もなく熱心に祈っている姿を見て驚きました。それに私たちより小さい子どもたちが大きな声で祈ったり、聖歌を歌っている姿を見て、普段の自分達が情けなく思えました。その後、朝食を済ませ、十カ所の教会をロザリオを唱えながら巡礼しました。小さな狭い島に沢山の教会があり、教会の中には普通の民家のようなものもありました。最後に巡礼した真手ノ浦教会では、私たちの夕食のためにバーベキューが準備してありました。最高に美味しかったです。

今回巡礼に行って、五島の信者さんが、どんなに小さくても自分たちの教会を大切にし、信仰を守り伝えている姿を見て、心の広さと信心深さを感じました。

私たちは来年、堅信の秘跡を受けることになっていても、これまでなんとなく教会に行っていました。しかし、これからはもっと信仰を大切にし、バザー等の教会行事を通じてほかの皆さんと親睦も深めていきたいと思いました。

（大名町教会　中2・中1）

むなかた祈りの森　第13回 むなかたてんてんまつり
★特別講演　「死と向き合う瞬間」　Sr.高木慶子
ターミナルケアの現場から
★ザビエル聖堂再生　パネル展　本館1F口ビー
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 SOU-EN
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

神の望まれる教育を旨にして

教区幼児教育連盟

福岡教区幼児教育連盟（会長＝下町豊重神父）は、第23回教職員研修大会を8月19日から21日に、北九州市のホテルを会場に開催された。この研修には、カトリックの精神を持って幼児教育に携わる者同士が一同に会し、講演を通して自らの方向性を確認し、日頃の思いや感じている問題点を率直に出し合って共感、共有し、そこから生まれる新しいものを持ち帰って、それを保育の現場に反映させていこうとするねらいがある。福岡・佐賀・熊本三県各地の56の幼稚園・保育園から約310人が参加した。

今回のテーマは「神の望まれる教育とは　～育つ・育てる～」。大会は、今田昌樹神父（笹丘カトリック幼稚園園長）の司式によるみことばの祭儀をもって始った。

初日の講演で仙台教区長の溝部脩司教は「カトリック教育とは」と題し、カトリックの精神を、教育者がまず、自らが体得し、それを偽りなく幼児に伝えていくことの大切さを説いた。「混沌としている現代、幼いころからの宗教的情操は価値あるものとして認識されるべきである。自信をもってキリストの福音を伝えられるようになって欲しい。さらに、教師としての自立と権威を確立すべく、自らを受け入れることから始め、鍛練する必要がある」と述べた。

この後、参加者は教職員、園長、主任教諭のグループで分科会を持ち、講演の感想や、保育の現場での喜びや苦しみ、悩みを互いに出し合った。

二日目は、星美学園短期大学の成瀬環修道女（サレジアン・シスターズ）が講演し、「子どもは教師の様々な表現から多くを学ぶ。あらゆる機会を用い、子どもの感性を信じて関わっていくことが大切である。また、それは宗教教育にも言えることである。教師は子どもとの信頼関係を豊かにし、フィルター的な役目をしてくださる神を感じ、また感じさせることが大切である」と語りかけ参加者に感銘を与えた。参加者の一人は「講師の示唆に富んだ話で、カトリック精神を有する教育機関に勤める者として、自信と確信をいただいた」と話していた。

木かげ

T. ドワイヤー神父

ルルドは、マリア様を深く敬愛する日本の信者にも愛されているカトリックの有名な巡礼地です。この地でマリア様が少女ベルナデッタの前にお現れになったことがよく知られています。若きベルナデッタは叱られても、戒められても、ばかにされても、崩れる事なく強い意志と勇気をもってマリア様のお言葉を伝えようとしました。田舎の少女を誰も信じようとはしませんでしたが、ベルナデッタは次第に認められ、マリア様が示された泉は「癒しの泉」となり、数え切れない人々が、そこで癒されたのです。

ところで、成長したベルナデッタのことはあまり知られていないかも知れません。ベルナデッタは修道院に入り、短い修道生活の後、イエス様とマリア様のもとへ召されました。彼女が修道院に入りたいと希望した時、修道院の院長はこの有名な少女に尋ねました。「あまり教育を受けていないあなたに、修道院でどんな貢献ができるでしょうか。マリア様を見たからといって、修道院では何も役に立たないでしょう。」おそらく、彼女が謙遜か高慢か知りたかったのでしょう。ベルナデッタは「私はマリア様の道具にすぎません。マリア様は一時的に私を使われましたが、今は倉庫に入れられても構わないような者です。修道院ではあまり役に立てないかもしれません。私にできることはトイレの掃除、お芋の皮をむくことぐらいですが、やらせてください。」と答えました。

ベルナデッタ　マリア様の道具

ベルナデッタが亡くなると、バチカンから彼女が聖人であったどうかの調べがありました。修道院での日常生活の忠実さ、お祈りに対する熱心さ、人格の強いところ、弱いところなどが徹底的に調べられました。

修道院の仲間たちの言葉には感動させられます。「明るい」「優しい」「まじめ」「いつもニコニコ」「汚い仕事を喜んでした」「お祈りの熱心な人」「ユーモアがいっぱい」そして「マリア様との出会いについては一切話さなかった」。彼女が仲間に愛されていたということは明らかです。

ベルナデッタはその立派な人格により、今はカトリックの聖人です。その遺体も腐敗していません。

聖ベルナデッタ、マリア様の道具、我々のために祈りたまえ。

（笹丘教会主任司祭）

03年召命学校　召命ってなんだ！

召命の家

僕たちの好きなみことばはこれ！

今年も8月26日から28日に召命の家（旧小神学校）で召命学校が開校した。福岡県、熊本県各地から30人を超える男の子が集った。なかには召命学校に毎年参加している顔なじみの子どももいて、互いに再会を喜び合っていた。初めて参加した子どももその親しい輪の中に引き込まれ、すぐに打ち解けた様子だった。召命を共に祈る会のメンバーが食事の世話にあたった。

今年のテーマは「召命ってなんだ」。初日は神学生リーダーのもと、グループに分かれて聖書のみことばに触れる時間を過ごした。またグループ対抗のレクリエーションで大いに盛り上がった。

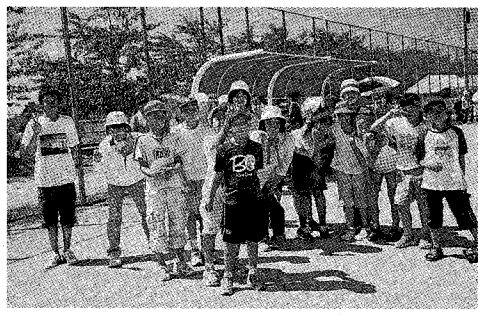
二日目、徒歩で約一時間かけて大神学院へ移動し、雨の合間をぬってスポーツに汗を流した。夜にはキャンプファイヤーを行なった。燃え盛る火を囲んで、子どもたちも手にろうそくを持ち、一人ひとり二日間を振り返っての感想を発表し、隣へと火をつないでいった。みんなと出会い友だちになれたことへの感謝や、神様のよびかけに勇気を出して応えることのできる自分になりたいといった声が聞かれた。目の前に燃える火に照らされ、子どもたちの顔は美しく輝いていた。

最終日のミサは松永司教が司式し、神様と人々に奉仕する司祭の素晴らしさを語り、ここに集ったすべての人が司祭をめざしてがんばって欲しいと励ました。司教の話に耳を傾ける子どもたちの目は真剣そのものだった。

子どもたちは別れ際、互いに「また来年も会おう」と声をかけ合いながら帰路についていた。想い出をいっぱいしょった彼らの背中は少しばかり大きく見えた。

恒例、秋のスポーツ大会

筑後地区



優勝は今村教会でした

第19回筑後地区親善スポーツ大会が、晴天に恵まれた9月7日（日）大刀洗運動公園で行なわれた。恒例となったこの行事、筑後地区の6教会に鳥栖教会が加わり、子ども、大人あわせて総勢300人が参加した。大会に先立って、9時から野外ミサを行なった。

子どもの部はドッジボール、大人の部はソフトボールの二種目で熱戦が繰り広げられた。心地よい汗を流した後は、お互いに健闘をたたえ合った。

このスポーツを通しての交流で地区七教会の親睦は確かに深まり、連携はより強いものになってきている。

モニカ祭

地区婦人会

福岡教区福岡地区婦人会（会長：牛尾伝枝）では、8月27日（水）、松永司教を迎え、恒例の「モニカ祭」をカテドラルで開催した。1年間の女性信徒としての活動への感謝ミサ、福岡地区15小教区で、昨年の8月から今年の7月までに亡くなられた会員や家族、縁りの方々117人の追悼を共に行なった。特設の台に置かれた物故者の写真を見ながら「あら、この方が。あの方が」と親しい方々への哀悼の声が囁かれていた。

「教会で葬儀が出来なかったので」という家族の参加が毎年見られ、混宗婚が多い現代の家庭状況の中で大切な行事としても感謝されている。

大名町教会マリア会　ロザリオで親睦

9月21日（日）の主日のミサの後、大名町教会のマリア会（会長：三浦晃代）は「信仰と親睦を深める」とした一日を開いた。ロザリオの年に因み、4つの玄儀をみんなで祈った。主任司祭の青木悟神父と助任司祭の浦川務神父もロザリオへの導入の講話をそれぞれ担当し、100人ほどの参加者が左右に座り代る代る先唱を受け持った。最初の2環を終えて準備された弁当を一緒に食べながら、日頃の教会での関わりなど親交を温める時となった。

BOOK 読みま専科

★カリットへの旅
…カルメル会の歴史…
ピーター・トマス・ロアバック著
女子カルメル会　訳
男子カルメル会　監修

来日五十周年を2002年に祝った日本の男子カルメル会が「カルメルの源流に立ち返りつつ新たな出発の一助となるように…」と出版を企画。カルメル会の歴史に関する著書で、これ以上のものはないと言われています。また、その歴史記述のおもしろさという点で卓越しています。カルメル会の歴史と精神性にとどまらず、その歴史的背景を生き生きと描き出したところに大きな魅力があります。

税抜き　2500円

◇　◇　◇

★愛―マザー・テレサ
日本人へのメッセージ
三保　元　著
女子パウロ会編

二度目の来日のおりに長崎をはじめ、訪れた先々で、講演や対話、記者会見等で語られた愛についての言葉。10月19日に列聖されるマザーの声に、今改めて耳を傾けたい。

女子パウロ会　発行

税抜価格　1400円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服、聖器具、聖像
信心用品、ベール、
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

マリアと共にキリストの道を歩こう！

カトリック教会のカテキズム

日　　時：11月23日(日)　15：00～17：00
　　通常毎月第４日曜日（変更日あり）
場　　所：カテドラル大名町教会
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
参 加 費：１回　５００円
対　　象：教会学校のリーダーやカトリック教会の教えを学びたい人
主　　催：福岡教区信仰教育委員会
※10月は、大名町教会バザーのため休会。

北九州地区聖書講演会

④11月16日(日)　14：00～16：00
［テーマ］聖書と今を生きる私たち
［会　場］新田原教会テレジア館
［講　師］森山信三神父（戸畑教会主任）
［主　催］北九州地区信徒協
［問合先］☎093-293-4981　松尾

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第三期神学講座
2003年10月19日(日)～2004年９月19日(日)まで
全８回（第３日曜日を基本とし変動あり）
①10月19日(日)
「主の臨在」　原田豊己神父
②11月16日(日)
「新約聖書における教会理解」湯淺俊治神父
♣聖書講座
2003年10月18日(土)～2004年9月18日(土)まで
全15回（基本的に第１・第３土曜日）
①10月18日(土)
「開講式・ヨハネによる福音書について」
松永久次郎司教
②11月15日(土)
「ヨハネによる福音書　第１章１節～18節」
講　　師：全回通して中村彰神父(健軍教会主任)
受講資格：カトリック信者／主任司祭の推薦を受けた人／自分の信仰を深めたい人／教会での奉仕活動をする人／カテキスタを目指す人
※受講料や単位取得等は下記に問合せ下さい。
☎096-352-1515(日向)/090-8664-4039(平田)
主　　催：熊本地区信徒使徒職協議会

聖霊の力と恵みを受ける黙想会

①９月30日　「神の愛」　マッケイ神父
②10月７日　「救いのみわざ」　信徒の証し
③10月14日　「新しい生命」　信徒の証し
④10月21日　「聖霊の満たしを受けるために(回心)」　オカロール神父
⑤10月28日　「聖霊の満たし」　マッケイ神父
⑥11月４日　「聖霊のうちでの成長」　信徒の証し
⑦11月11日　「キリストへの変容」　御ミサ

日　　時：2003年９月30日～11月11日(毎週火曜日)
　　19：30～21：00
会　　場：カトリック帯山教会
主　　催：熊本聖霊による刷新委員会
　　(代表：マッケイ神父)
会　　費：1,000円／締きり：９月21日(日)
持参するもの：聖書・テキスト「新生の門出」
申込み：☎096-382-9413（藤田）

ロザリオの月　案内版　会合と催し　10月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　10月

◇５日(日)～６日(月)　オブレート会・福岡
◇８日(水)　ミカエル会
◇13日(月)　第13回むなかた・てんてんまつり
◇13日(月)～17日(金)　福岡教区邦人司祭黙想会
◇19日(日)～25日(土)　サレジオ会黙想
11月
◇１日(土)～３日(月)　防府教会婦人会黙想
※10月13日(体育の日)は恒例の「てんてんまつり」、秋の一日、祈りの森で神様との出会、人々との出会いを体験しましょう。
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

※祈りの集い
・10月９日(木) 10時～15時
テーマ：聖体礼拝の祈り
指　導：Sr.マリアとS.フランコ神父

※黙想会
テーマ：日本文化における霊性
指　導：S.フランコ神父
問合先：生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

典礼を学ぶ集い（福岡）

日　時：2003年10月19日（日）14時～16時
テーマ：「交わりの儀」
講　師：白浜 満 神父(サン・スルピス大神学院)
場　所：カテドラル大名町カトリック教会
問合先：☎0940-33-8122　井上元之

マグリン神父によるゆるしの秘跡

日　程：毎月第１と第３土曜日
場　所：大名町カトリック教会小聖堂

5日(日)	年間第27主日
7日(火)	ロザリオの聖母
12日(日)	年間第28主日 光丘教会堅信式 恵楓園聖堂建立50周年記念ミサ
13日(月)	むなかたTENTEN祭り（宗像黙想の家） 体育の日 福岡教区邦人司祭黙想会［13日～17日］
17日(金)	†J.グリーン［1994年玉名教会］
18日(土)	聖ルカ福音記者
19日(日)	世界宣教の日（献金日） 湯川教会堅信式
23日(木)	†Ｊ.P.ドラビ［1967年黒崎教会］
26日(日)	年間第30主日 教区28名殉教者列福祈願ミサ［カテドラル14時］ 今村教会聖体行列　天草殉教祭 †Ｊ.ベルトラン［1987年門司港教会］
31日(金)	†ヨゼフ糸永一［1992年今村教会］
11月	
1日(土)	諸聖人
2日(日)	死者の日　教区墓地ミサ［和田墓地14時］ †S.アクワビバ［1984年］
3日(月)	召命の集い［大神学院］　文化の日 †F.ボア［1977年援助修道会黒崎修道院］
4日(金)	聖カロロ・ボロメオ教皇 教皇ヨハネ・パウロ２世霊名祝日
9日(日)	ラテラン教会献堂記念 八代殉教祭／不動山殉教者慰霊祭［佐賀地区］ 光丘教会創立50周年共同体の日

福岡

■召命祈願ミサ

［日時］10月９日（木）19時15分［場所］サン・スルピス大神学院聖堂［指導］小島栄神父（長崎教区田平教会主任）

■生と老い死を見つめる会

［日時］10月12日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［内容］輝いて人生を全うするため［講師］シスター高木慶子（生と死を考える会会長）［参加費］７００円［問合先］☎０９２・７１３・８５２３大山／６０７・６９９２村尾

■召命を共に祈る会

［日時］10月16日（木）14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）

納骨堂委員会から

一般清掃日　10月19日(日)　９時
ミサ　11時30分
清掃予備日　10月26日(日)
死者の日ミサ　11月２日(日)　14時
＊申込やお問合せは、各小教区の納骨堂委員へ

■在世フランシスコ会集会

［日時］10月26日（日）14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池安神父［問合先］☎０９２・８４３・５８３１岩崎

■チャリティーコンサート　ストップ ＨＩＶ

［日時］11月８日（土）14時から17時［場所］サンパウロ福岡センター（赤坂）［内容］徳永瑞子さん（アフリカ友の会代表）の講演とビデオ上映／ミニバザー／喫茶［主催］アフリカ友の会［問合せ］☎０９４２・５４・２９３９松田

■福岡ホスピスの会勉強会

［日時］11月９日（日）14時から［場所］大名町カトリック教会［内容］グリーフケアⅠ［講師］野島一彦氏［参加費］７００円［問合先］☎０９２・５３４・５６４７小林

■美野島司牧センターから

美野島衣類バンクでは、男性用夏物衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。また、火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者を募っています。［問合先］☎０９２・４３１・１４１９

北九州

■小倉祈りの集い

［日時］10月24日（金）13時30分～15時［場所］カトリック小倉教会信徒会館［内容］「みことば」をあじわう賛美と感謝の祈り［指導］Ｂ・ガブリエル神父（御受難会）［問合先］☎０９３・４５２・１５５６安藤

佐賀

■佐賀祈りの集い

［日時］10月８日（水）10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］10月25日（土）10時～12時はミサと祈り：毎月第２水と第４土曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎０９５２・７２・７５３６吉田

■聖書を読む会

［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音書を読む［講師］Ａ・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎０９５２・２３・４７５４阿南

熊本

あっちこっちバザー

10月19日：茶山教会　箱崎教会
10月26日：大名町教会　西新教会　佐賀教会　新田原教会
11月９日：南粕屋教会　大楠教会　小倉教会
※今年も、行ってみよう。

福岡教区28名殉教者列福祈願ミサ

日時：10月26日(日)14時
場所：カテドラル
※当日は大名町教会バザーにつき駐車場は使用できませんのでご了承ください。

大神学院 召命の集い

日　時：2003年11月３日　９時～
テーマ：「私の願い、神様の願い」
ミサ時間：10時15分から
※例年の通りミサ・講演会・劇など盛り沢山です。
問合せ：☎092-864-4203(汐留)

八代の殉教４００年祭

日　時：2003年11月９日(日)
第１部：殉教記念ミサ　14時
場　所：麦島殉教地（八代市）
第２部：講演会と音楽劇　18時
　　小西行長の音楽劇（一部披露）
問合せ先：八代カトリック教会
☎0965-32-4065

天草殉教祭

日　　時：2003年10月26日(日)
カトリックミサ：17時から
場　　所：千人塚(雨天時 本渡教会)
問合せ先：本渡観光協会
☎0969-23-1111
催し物：フォトコンテスト・ハンドベル演奏・聖歌合唱・俳句大会

編集後記

ロザリオを手にして祈ってみましょう。ロザリオの珠をたどるうちに、呼吸は静まり、やがて自分の中でかすかな、でも確かな人生のリズムを聞くことでしょう。

COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
ＴＥＬ　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（１F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（２F）十字架、ロザリオ、ご像、ＣＤ、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後６時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

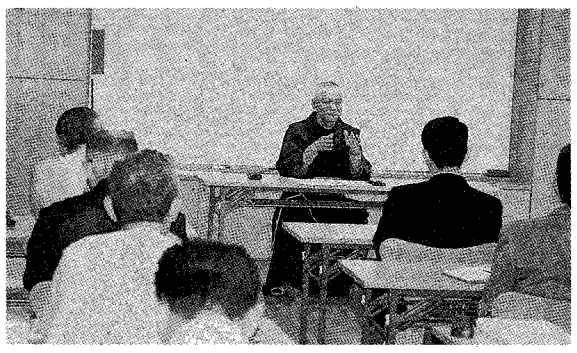
【一般】
東方教会の霊性と典礼に関する伝統の評価

【布教】
第二回アメリカ宣教会議

【日本の教会】
家庭生活の充実

教区邦人司祭黙想会
秘跡における聖霊の働きに気付く

恒例の教区邦人司祭の黙想会が10月13日から17日に福岡黙想の家で行われた。34人の司祭が参加。小高毅神父（フランシスコ会）指導のもと、司祭たちは神の息吹きを感じつつ時を過ごした。


講師の小高神父の話しに聞き入る

を行なった。

司祭は秘跡と深く結びついた霊性を生きる。そこで小高神父は秘跡における聖霊のはたらきに気付くことが大切であると述べ、いくつかのヒントを与えた。長年教父の研究にたずさわってきた神父の話を通して、時間と空間を超えて教父たちの姿が、そして彼らが行ったミュスタゴギア（＝秘義教話…儀式とその意味することについて実践に即して説明すること）が生き生きと浮き彫りにされていった。聖霊は教会を活かす。しかもこの聖霊のはたらきを教会内に閉じ込めておくことはできない。神父は私たちの信仰がダイナミックなものであることを再認識するよう招いた。

カトリックの霊性は聖体を中心にして発展してきた。聖体は教会の交わりの基礎であり、最近の回勅にもとられているようにまさに教会にいのちを与えるものである。

聖体はキリストの十字架のいけにえを具現する。教父のなかでただ一人、オリゲネスは神は苦しむ方、愛ゆえに苦しむ方であることを説いた。十字架の悲惨、恐ろしさを見据えていかなければならない。小高神父は聖体の中にあるキリストの愛の重さに気付くために、十字架のキリストから目をそらしてはならないと語った。

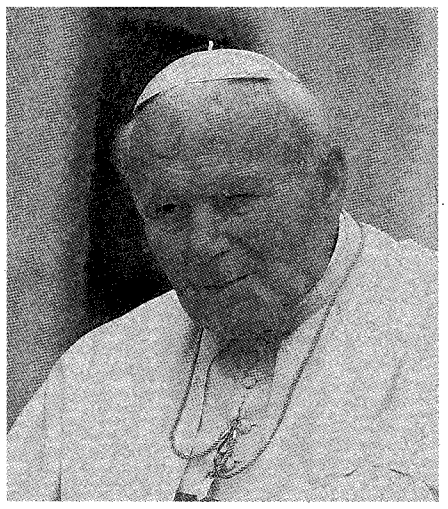
小高毅神父は「洗礼、聖体、十字架のキリスト・復活のキリスト、聖霊」という4つのテーマに沿って、8回の講話

マザーテレサ福者に！

片柳弘史s.j.提供

教皇ヨハネ・パウロ2世は、10月19日（世界宣教の日）に、神の愛の宣教者会創立者マザー・テレサ（アグネス・ゴンジャ・ボヤジュー）を福者に列した。列福式は、バチカンのサンピエトロ広場に世界中からの巡礼者ら十数万人を集めて行なわれた。マザー・テレサは1910年、オスマン・トルコ統治下のバルカン半島スコピエ（現マケドニア）で生まれ、28年ロレット修道会に入会、12月にインドに派遣された。50年、貧しい人々のなかでも最も貧しい人たちに仕えるために設立した修道会「神の愛の宣教者会」が教皇庁から認可され、初代総長となり、インド・カルカッタのスラムで孤児、重病人を救済する事業を開始。その後、同会は世界中の貧しい人たちのもとへ向かい、現在、世界130カ国で約4500人の会員が活動を続けている。

教皇ヨハネ・パウロ2世　登位25周年を祝う



10月16日（木）に登位25周年を迎え、バチカンの聖ペトロ大聖堂広場で公式の祝賀ミサが挙行された。

1978年10月の登位以来、一貫して平和と和解の使徒として活動して来られた。長く続いた冷戦構造の終焉は、このポーランド出身の教皇の力なくしては、実現しなかったと言える。

1981年に来日された際、教皇は全世界に向けて平和を訴えられた。広島・長崎での教皇の平和を訴えるメッセージや祈る姿は、まだ過去のものとはなっていないのではないだろうか。

この平和のための活動は最近のイラク戦争回避のための努力に至るまでも続けられている。2000年の大聖年で、教皇はカトリック教会が過去に犯した罪のために、世界に対してゆるしを願われた。

わたしたちも平和と和解を求める教皇の祈りに強められ、聖母マリアの取次ぎにより頼みつつ、世界の平和と和解のために働くことができるよう祈るとともに、教皇の健康を祈りたい。

濱尾文郎大司教 枢機卿に

濱尾文郎枢機卿

バチカン

教皇ヨハネ・パウロ2世は、9月28日（日）、濱尾文郎大司教を含む31人の新しい枢機卿を発表。10月21日、バチカン聖ペトロ大聖堂広場で開催された枢機卿会議の中で正式に任命された。これにより、教皇選挙権を有する80歳未満の枢機卿は135人となった。

濱尾枢機卿は現在、教皇庁移住・移動者司牧評議会議長として、世界中の難民や移住者、国際交通機関の従事者、旅行者などの司牧のために精力的に働いている。

時の話題

徳永 瑞子

アフリカ友の会が、中央アフリカ共和国でエイズ患者の支援および啓発教育を始めて、11年目になる。現在、この国のエイズウイルスの感染率は15パーセントと推測され、国の存亡に関わる問題となっている。中央アフリカ共和国は、1996年以降、部族闘争が繰り返され、今年の3月15日にクーデターで政権が交代したが、破壊・略奪が横行し、経済は破綻状態にある。エイズ対策は進まず、国民の多くは貧困を強いられ、売春などによりエイズウイルスの感染は拡大し続けている。

エイズは、音のない戦争である。世界では戦争の犠牲者の数倍がエイズで亡くなっている。また、エイズは人権の戦争であるともいわれる。貧しい国では、抗エイズ薬による治療ができず、エイズの死亡者の70パーセントは途上国の人々である。

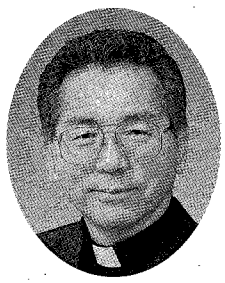
また、エイズは貧困の病気である。社会保障制度の整っていない中央アフリカでは、患者の生活を支えることが重要な活動である。食糧がない患者に食べさせること、お金がなくて治療が受けられない患者に治療を施すこと、学校に行けないエイズ孤児たちに教育を受けさせることなどの支援活動に力を注いでいる。また、保健指導員が家々を訪問しながら啓発教育を行ない、予防教育に尽力している。

将来、途上国でも先進国のように抗エイズ薬による治療が受けられる日が来て、エイズ孤児がこれ以上増えないように、これが私たちの祈りである。

（アフリカ友の会代表）

いのちの価値 ～アフリカでエイズと闘う～

高見三明補佐司教 長崎教区大司教に


高見三明大司教

10月17日正午、教皇ヨハネ・パウロ2世は、現長崎大司教区補佐司教ヨゼフ高見三明司教を、長崎大司教に任命すると発表した。

高見三明大司教は1946年3月21日長崎市の三ツ山で誕生。翌22日に受洗。長崎公教神学校から、64年に福岡サン・スルピス大神学校に入学、72年3月20日に司祭に叙階された。2002年2月長崎大司教区の補佐司教に任命され、4月に叙階された。同年8月31日に島本要大司教が急逝し、その後は大司教区において、臨時教区管理者として運営に当たってきた。

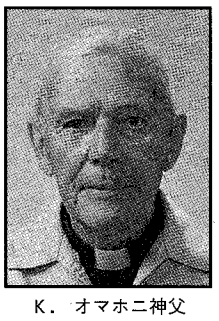
なお、着座式の日取り等は、現在未定。

司祭異動

▽古賀教会主任＝ウイリアム・エドワード（名古屋教区膳棚教会）▽オブレート会管区長＝シアニ・アンジェロ（古賀教会主任）以上10月付

訃報

ケビン オマホニ神父（聖コロンバン会）帰天


K．オマホニ神父

荒尾教会主任司祭のK・オマホニ神父が、10月9日（木）21時55分熊本の聖心病院で帰天。享年86歳。

1917年6月2日オーストラリアに生まれ、44年12月21日に司祭叙階。48年6月に来日、72年11月まで横浜教区で司牧に従事した。同年12月福岡教区菊池教会の助任司祭として着任、その後同教会主任、本郷教会主任を歴任。82年から荒尾教会の主任をつとめ、今年3月末から療養のため聖心病院に入院中だった。

みちくさ

人は何で生きるか？これまでじっとしていればどこかへ通り過ぎて行ってしまう問いに思えた。わざわざ捕まえてまで向き合おうとはしなかった▼最近ふと、この問いが目にとまることがあった。これが不思議にも自分の中に入ってきていまだ離れていない。ちょっと驚いている▼人は生きることの意味を問う存在。大多数の人は有意義な生をおくることを願っている。また、人は意味を見い出しながら生きていく。いま存在を支え、生そのものを前へ押し進めていく力となる意味付け、それを生き甲斐と呼ぶのかもしれない▼生きることと対立するのは死。生きながら死を体験する、こともある。関わりを失い、孤独と絶望の闇にとらわれる時。単なる生物学的現象でない死がある▼信仰の透徹したまなざしによってとらえられる死、それは罪。神との分離状態を象徴する。聖書は人間が神のいぶきによって生きるものとなったことを語る。神から離れることはいのちの源から離れること。またそれは自らを破壊すること、決定的死に赴くことでもある▼生命の誕生、そして死、ふたたびめぐってくることのないこれらの出来事について、自らの意志は静まったまま。この重大な局面で神が直接、深く関わってくださる▼人は何で生きるか、いましばらく自分に問うてみよう。生命は神の内にある。神を拠り所とし、神と対話するなかで、人間がとるべき態度は少しづつ見えてくるのかも知れない。信仰は神によって奮起する時、希望となる。（み）

わたしたちは旧約聖書と新約聖書を神のことばとして読み、大切にします。聖書を通して神の愛を知り、神の心を受け取るのです。聖書週間はすべての人、とくに信徒が聖書に強い関心を持ち、親しみ、神の心に生きるようになるために、と定められました。今年の聖書週間を前にして、聖書委員会の森山信三神父がメッセージをおくっています。

山上の説教教会。緑豊かな庭には小鳥がさえずっている。

特集 聖書週間にちなんで！

11月16日～23日

神の国のリアリズム

御受難会福岡修道院
修練長　来住 英俊 神父

私の出身教会では、毎土曜日、教会学校が行われていて、小学生20人ほどが、熱心に教会に通っていた。それは、「公教要理」と呼ばれていて、キリスト教の教義の解説を受け、それを暗記することを求められた。例えば「人は何のために生きるのでありますか」、「神とはどなたですか」等々。

堅信の前になると、その暗記した問答の試験が司祭の前で行われ、正しく答えた者のみが、堅信を受ける資格があった。今でもその時代を懐かしく思う。しかし、要理のテキストは、必携であったが、聖書を使うということはまずなかった。

第2バチカン公会議が、「すべてのキリスト者は、聖書をひもとき、聖書に親しまなければならない」と宣言してから、教会学校の風景も大きく変わった。確かに教義を学ぶことは、大切なことと思うが、他宗教との出会い、あるいは一般の人々に「キリストを伝える」という時、聖書を学び、また親しむことは、不可欠であろう。なぜなら、キリスト教の教義を知りたいと思う人は、そんなに多くないと思うが、聖書には興味がある、読んでみたい、どんな意味なのかもっと知りたい、そう願う人は、意外に多い。

聖書の中に自らの人生の生き方を求める人、あるいはそこに救いを求める人もおられることだろう。そうであれば、私たちが、まず聖書に親しみ、その意味を探り、分かち合い、日々の生き方の基準にすることが求められるのではないか。そして、み言葉に心を動かされ、生かされるとき、他の人々にもそれを伝えたいという思いが湧き上がるのではないか。人は、言葉によって生かされもするし、あるいは言葉によって人を失意のどん底に落とすことも出来る。

通常の言葉にそのような力があるとするならば、まして「神の言葉」には計り知れない力があるはずだ。実に、「神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。」（ヘブライ4・12）と言う通りである。

司牧生活の中で、ある時、神の言葉は生きている、ということを実感したことがある。いわゆるキリスト教入門講座において、司祭叙階後の数年間は、教義を中心にお話しをしていた。受洗された方々の中で、残念ながら教会を次第に離れる方も多かった。しかし、ある時期から聖書を中心に講座をすすめるようにした。そこで気づいたことがある。それは、受洗された方にとって聖書がなくてはならない書物になるとき、その方々が、教会共同体を離れる方も少ないということである。まさに「みことばの力」だと思う。

キリスト教は、ことばの宗教である。私たちはもっと言葉に敏感になる必要がある。

最近出版されたケセン訳聖書は、「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」マタイ5・48という有名な聖句を以下のように訳している。「其方等ア お父様ア出来だ方でありやるように、其方等の又出来だ者になり、あるがままの我ア姿受け入れなれ」と。訳者は、「完全」と訳されているギリシャ語の意味を出そうとしたという。専門的に見て、このような訳が受け入れられるのかどうか定かではないが、全体を通読して心に響く明快な訳だと思う。そして、まさにみ言葉を自分が住む地方に受肉させようとする試みとしてすばらしいと思う。聖書週間、言葉にこだわり、言葉の背後にある恵みの世界、神様の働きに触れるきっかけにしたいものである。

（福岡教区聖書委員会委員長・戸畑教会　森山信三神父）

祈る人の世界 (3)

日本でもよく読まれているヘンリー・ナウウェン神父は、著作家として、講演者として引っ張りだこだった。指導を求める手紙も、世界中の愛読者からどんどん舞い込んでくる。彼はその仕事を懸命にこなし、人々の役に立っているという喜びや充実感はたしかにあった。しかし、その一方で、自分はいつも何かに追われているような気持ちで暮らしているという自覚があった。これではキリスト信者としての平和はどこにあるのか、と疑問に思うことが多かったらしい。

ある日、彼は友人の神父に相談した。友人の答えはこうだった。「あなたは緊急な事柄と重要な事柄を区別するようにしなければならない。」なかなか味わい深い言葉である。

＊

語感からは「緊急」の方が優先度が高いという気がする。しかし、この神父の意図は逆のようである。わたしなりに解釈するとこうなる。「重要」とは神の国にとって「客観的」に重要だということである。「緊急」とは、それにかかわる人間の「気持ち」が切迫しているということである。つまり、「神の国にとって重要である」と「自分の気持ちが切迫している」を区別しなければならない。

＊

たとえば、ある神父が講演を準備しているとする。伝えたいメッセージらしきものはかすかに見えているが、聴衆に理解してもらえそうな表現、適切なエピソードがなかなか得られない。時間は迫ってくるし、とても焦った気持ちになる。訪問してきた人への対応とか、他の仕事が上の空になる。

よくできた話は人に霊的利益を与えうる。一所懸命に準備することが悪いわけはない。問題は、焦る重苦しいこの気持ちと、講演の重要性とは本当に釣り合っているのかということである。神の国の建設は、この講演の完成度にどのように左右されるのだろうか。その釣り合いを見失ったまま、大いに焦っていたのではないか。ナウウェン神父の友人が勧めたのはその識別であろう。

＊

典礼の刷新、援助活動、教会会計、バザーや運動会…キリスト信者の営みで、神の国の建設と無関係なものはない。ただ、問題は釣り合いである。神の国の建設にとっての本当の重要性とは別のところで、切迫した気持ちになって焦り、心の平和を失っていることはないだろうか。

仕事の出来は凡庸でも、神の国の建設がそのためにどれほど頓挫したかと言えば、それほどの損害ではないという場合も多いのである。ただ、自分自身の評価は下がるかもしれない。それを甘受することができれば心の平和を得るであろう。心の平和を得れば、神の国のために安定した働きができるだろう。安定したペースで働くことが大事である。

＊

しかし、神の国は目に見えないものだから、それに向けての重要度を計る物差しはない。ただ、祈りの積み重ねによって神の国に根を下ろす努力をしつつ、自分自身の感覚を育てるしかない。その感覚を「神の国のリアリズム」と呼びたい。それが「祈る人の世界」である。わたしたちはまだ、神の国のリアリストになっていない。

http://www001.upp.so-net.ne.jp/inorinogakko/

来住神父の著書：「目からウロコ　ロザリオの祈り　再入門」他。発行所＝女子パウロ会

小倉教会の夏祭り

福吉　三代子

小倉教会では、8月31日、夏休み最後の日曜日『愛のふれあい集会』と銘打ったバーベキュー大会が催されました。赤ちゃんからお年寄りまで、総勢100人参加の大イベントでした。いつもは近寄りがたい主任神父様の周りに人垣ができました。

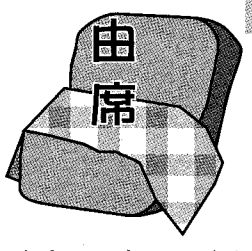
子どもたちのためにはスイカ割り、竹トンボ作り、見ているだけでは我慢できなくなった大人たちも竹トンボを飛ばす中になって竹トンボ作りの仲間入り。子どもたちと夢っぱいになりました。

このパワーはこの日一日だけでは終りませんでした。9月14日の敬老のミサ後の祝賀会では『ふらふらシンガーズ』が歌のプレゼントをしました。4人のサラリーマンが会社の帰り教会に集り特訓を重ね、この日を迎えました。神父様も夜遅くまで続く彼らの練習を見守ってくださいました。当日は、お揃いの可愛いTシャツで無心に童謡を唱う大きな子どもたちに、お年寄りからは盛大な拍手がいつまでも続きました。

小倉教会の今年のテーマは『広げよう！愛の輪を……私に出来る事は？』です。

（小倉教会信徒）

『あっ！』食べられるかしら…？


自由席

新田原教会の敬老会

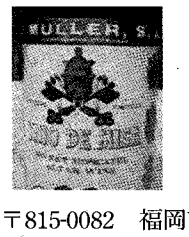
小島　篤美

新田原小教区には70歳以上のお年寄りが210名ほどいて、9月14日にその長寿を祝って敬老会が催された。聖母訪問会修道院でご静養中の平田司教様も元気に参加され、竹森主任司祭との司式ミサ参列し、祝福を受けた約80名の元気な年配者がミサ後、テレジア館にて催された祝賀会で、お互いの健康と更なる長寿を願って懇親を深め合い、代表として卒寿（90歳）をむかえられた平田司教様から「いつでも天に召される準備をしつつも、また来年もこの席に参加できることを望みます」とお言葉を頂きました。婦人会のアトラクションや老人たちのカラオケで楽しいひと時を過ごしながら、福引抽選会に心をときめかせ、更なる健康と長寿を願って再開を誓った一日でした。

（新田原教会信徒）

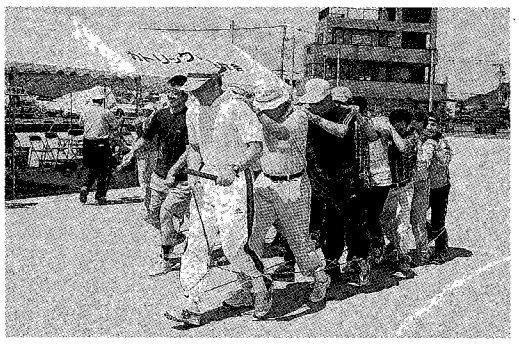
お元気な平田司教様も一緒に敬老会

むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 〔SOU-EN〕
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

北九州地区の親睦レクレーション大会


悪戦苦闘のムカデ競争

9月23日の秋分の日に北九州地区信徒協主催の「第5回親睦レクレーション大会」が行橋市の新田原グラウンドで開かれました。今年も北九州地区の各教会から800人以上の信徒が集りまった。

グラウンドには朝早くから各教会のテントが立てられ、定刻の9時には開会式が行なわれた、競技を開始された。

この大会のために実行委員会は、春から十分に準備を行ない、子どもたちから高齢者まで、参加者が全員参加できるようなプログラムを、と企画を練っていた。プログラムは親睦と楽しいもの、対抗種目といろいろあり、地区を4ブロックに分けての対抗種目は出場者も応援団も力が入り白熱したものとなった。子どもたちの参加も多く、中でも小学生の徒競走には大きな声援の声が四方から上がった。

会場の横では青年会のビールやジュースの販売コーナーあり、新田原教会婦人部の新田原特産果物の販売コーナーなど例年通りの盛況。毎年、新田原のナシ、ブドウ、イチジクは好評で、今年も早く売り切れたようである。

昼食には、各教会自慢のメニューで、バーベキューや焼そばなどが準備、販売され、昼食の前から会場のあちこちから煙がたっていた。また、年に一度の大きな集まりでもあり、久しぶりの再会を喜んでの会話もあちこちで弾んでいた。

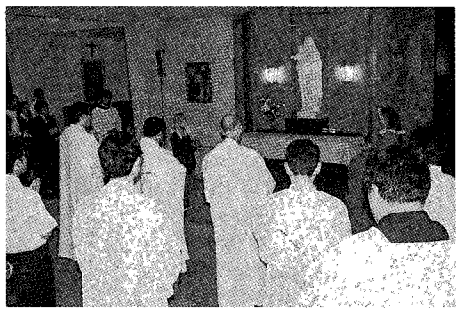
午後も楽しい競技が行なわれ、15時に閉会式を行って来年の再会を期待しながら解散した。

36回目の召命祈願ミサに70人　大神学院

10月9日、福岡サン・スルピス大神学院にて第36回召命祈願ミサが行なわれた。

福岡市近郊の司祭、修道者、信徒を中心に約70人が参加し、心を一つにして司祭・修道者の召命を祈った。今回、司式を担当したのは小島栄神父（長崎教区・田平教会主任・長崎教区召命委員会委員長）は説教の中で「小学生の頃、父親とよく泊まりがけの漁に出ていたが、幾ら疲れていても夕の祈りを一度も欠かすことのなかった父の姿に育てられた」と、召命における祈りの重要性を神父独特のユーモアを交えながら切々と訴えていた。この召命祈願ミサも初回から数えて、今年で七年目となる。

子どもたちが楽しく参加できるようフォーク調の聖歌を多く用い、また大神学院の司祭と神学生でアイデアを出し合い、毎回ちょっとした工夫を凝らしたミサが行なわれている。


聖母像の前に集って祈り、歌う参加者

今回はロザリオの年最後の月に因んで、派遣の祝福の後、聖母訪問を行なった。神学生代表の鶴巻神学生が聖母マリアへの祈りを捧げ、全員で『のばらのにおう』を歌った。

近年は神学生の減少に伴い、大がかりな工夫は難しくなったが、オルガン伴奏、朗読、共同祈願など。参加者の子どもや青年に願うなどして、皆で一緒に召命を祈る雰囲気作りに努めている。

ミサの後には食堂に移って茶話会が開かれている。お茶を飲みながら参加した人々と日頃のことを分かち合うひとき。神学生にとっても、こ とばをかけてもらうことはとても大きなよろこび、励ましとなっている。

恒例のてんてんまつり今年も盛況　黙想の家

出店はいつも大勢の人で賑わった

10月13日（体育の日）、宗像の福岡黙想の家で、今年で13回目の『むなかた・てんてんまつり』が開かれた。「この日ばかりは教会にご縁のない近所の方々に自由にお入りいただき、たっぷりカトリックを見物していただきたいと近隣の教会の協力を得て計画したのがこの催し」と院長の鈴木忠一神父は云う。

当日は、曇りがちの暗い日だったが、場内は明るい声が飛び交い約1500人ほどの市民がつめかけ、和やかな雰囲気であふれていた。今年のメイン・イベントはSr.高木慶子（援助修道会）の講演「死と向き合う瞬間」…ターミナルケアの現場から…死んだらどうなるかと問う日本人の死を受け入れる姿は、欧米人や他の外国人のそれとは違う。絵本を使いながら、見送った方々との深い対話の経験をふまえて、死に向う心をさわやかに語る。せまい会場だが、200人ほどの人々が熱心に耳を傾けていた。大聖堂では、大きな十字架をローソクの炎で浮き立たせながら、典礼聖歌をバックに受難の福音を朗読。ここは『てんてんまつり』のハート（心臓部）の役割を果たしていた。他のお祭りにはない、静かに祈りを深める大切な場所になっていた。

イベント広場の竹トンボ競技会やお食事コーナーに、バラエティーに富む多くのの出店が連なった。

まつりの最後は「ルルド広場前の野外ミサ」。この地に住む人々の平安と恵みを祈り、厳かに感謝の祭儀を行って結びとなった。

熊本地区第三期神学講座を開講　手取教会

熊本地区神学講座第三期（主催―熊本地区信徒協）が開講し、10月18日（土）、会場の手取教会に約90人が集い、開講式ならびにミサが行われた。神学研鑽の機会が設けられる前期終了から約半年、早くも2回目の神学講座では教会論・秘跡論各論を中心とした内容を扱う。また今期からは神学講座の一環として聖書講座「ヨハネ福音書を読む」が月2回行なわれる。担当は中村彰神父。2年間でヨハネ福音書全体をみていくことにしている。

神学講座は翌19日に初回が行なわれ、約100人の受講者が「主の臨在」についての原田豊己神父（広島教区）の話に熱心に耳を傾けた。

木かげ

ソットコルノラ フランコ神父

グローバル化が進み複雑化する社会にあって、真のグローバル化と人々の平和で安全な暮らしを守るための宗教者の役割と責任は非常に大きいです。

第二バチカン公会議は「キリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度についての宣言」を公布し、諸宗教間の対話の重要性を強調しました。そして、諸宗教間の対話を推進するため1964年に諸宗教評議会を設置し、この評議会によって1984年「対話と宣言　―諸宗教間の対話とイエス・キリストの福音の宣言をめぐる若干の考察と指針―」が発布され、各教区においても諸宗教事務局を設けることが勧められました。その結果、司教様は私を福岡教区の諸宗教対話担当者に任命されました。

諸宗教対話　―生命山から真命山へ―

前々から、キリスト教と他宗教の祈りと霊的体験の相互交流を通じた宗教的出会いの場を作りたいと考えていた私は、折しも玉名市にある生命山シュバイツアー寺住職故古川泰龍師との出会いに恵まれ、その協力を得て、1987年11月28日、熊本県玉名郡菊水町蜻浦の鳴滝山山頂に東西宗教交流センター生命山カトリック別院を創設し、活動を始めました。宗教間交流のシンボルとして仏教とキリスト教が協力し合うことによって誕生したこのセンターは、その名の示す通りお寺の別院として成長しました。そして創設から16年を経た現在、日本だけでなく諸外国においても諸宗教対話のシンボルとして注目されるようになりました。

そこで、仏教とカトリックそれぞれの立場をより明確にするため、本寺である生命山シュバイツアー寺の賛同を得てカトリック聖ザベリオ宣教会の施設として移籍することになりました。

それに伴い名称も生命山から「真命山諸宗教対話・霊性交流センター」に変わります。もちろん生命山シュバイツアー寺との友交には変わりがありません。

私は福岡教区の中にもっと諸宗教対話を進めていく必要を感じています。すでに10年ほど前から熊本の手取教会では、故古川泰龍師と共に蒔いた諸宗教対話の種が上村道雄氏をはじめとする方々に育てられ、「熊本地域諸宗教対話研究会」として活動を続けています。福岡、北九州、佐賀地区でもこのようなグループが誕生することを願っています。

（ザベリオ宣教会司祭）

★かぜがはこんだ　クリスマス

ぶん・え　つるみ ゆき

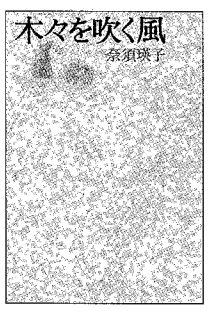
木枯らしの中を歩いていた子ねこのベルは、ナザレのマリアの世界にタイムスリップします。こうしてベルは「お告げ」「宿さがし」「イエス様の誕生」「羊飼いたち」「三人の博士」と出会いを体験します。子どもたちに一度はしっかり伝えておきたい、聖書にもとづいたクリスマス物語です。

サンパウロ
税抜き　1000円

◇　◇　◇

★木々の吹く風

奈須 瑛子 著



祈りの旅のなかでの人々との出会い、ふっと手渡されたもの、共有した祈り、とき、空間……。観光や巡礼では行けない場での、めったに見聞きできない貴重な体験をざっくばらんに語る、臨場感あふれる旅のエッセイ。

女子パウロ会　発行
税抜価格　1400円

店休日

サンパウロ
毎木曜日と祝日
セントポール
毎水曜日
ピエタ
毎水曜日
※年末年始の店休日など

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811−7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092−526−9176

マリアと共にキリストの道を歩こう！

カトリック教会のカテキズム

日　　時：11月23日(日)　15：00～17：00
　　通常毎月第4日曜日（変更日あり）
場　　所：カテドラル大名町教会
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
講　　師：櫻井尚明神父（糸島カトリック教会主任）
参 加 費：1回　５００円
対　　象：教会学校のリーダーやカトリック教会の教えを学びたい人
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

北九州地区聖書講演会

④11月16日(日)　14：00～16：00
［テーマ］聖書と今を生きる私たち
［会　場］新田原教会テレジア館
［講　師］森山信三神父（戸畑教会主任）
［主　催］北九州地区信徒協
［問合先］☎093-293-4981　松尾
※2004年度も「聖書講演会」として新たなプログラムを企画中です。

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第三期神学講座
2003年10月19日(日)～2004年９月19日(日)まで全８回（第３日曜日を基本とし変動あり）
②11月16日(日)
「新約聖書における教会理解」湯淺俊治神父
③2004年２月１日(日)
「教会憲章」　櫻井尚明神父
♣聖書講座
2003年10月18日(土)～2004年9月18日(土)まで全15回（基本的に第１・第３土曜日）
②11月15日(土)
「ヨハネによる福音書　第１章１節～18節」
③12月６日(土)
「ヨハネによる福音書　第１章19節～51節」
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
受講資格：カトリック信者／主任司祭の推薦を受けた人／自分の信仰を深めたい人／教会での奉仕活動をする人／カテキスタを目指す人
※受講料や単位取得等は下記に問合せ下さい。
☎096-352-1515（日向）/ 090-8664-4039（平田）
主催：熊本地区信徒使徒職協議会

福岡市民クリスマス

日　　時：2003年12月８日(月)　18：30開演
場　　所：福岡市民会館大ホール
※12月７日(土)　19時から大名町教会で合同祈祷会行います。ご参加下さい。

死者の月　案内版　会合と催し　11月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　11月

◇１日(土)～３日(月)　防府教会婦人会黙想会
◇８日(土)　八幡カトリック幼稚園土曜学校卒園生黙想会
◇８日(土)～９日(日)　北九州レジオ・マリエ黙想会
◇９日(日)～10日(月)　オブレート会福岡地区ミーティングと黙想
◇14日(金)～16日(日)　ユースフル・ライフ・ワークショップ
◇21日(金)　宗像　和善の聖書の集い
◇22日(土)～23日(日)　山口・島根地区信徒養成研修会
◇23日(日)～24日(月)　聖母カテキスタ会黙想会
◇28日(金)～30日(日)　マリッジ・エンカウンター日本企画
◇28日(金)～30日(日)　待降節黙想会①
※12月中毎週金曜・土曜・日曜日は、待降節の黙想会を開催しています。
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山霊性交流センター

※祈りの集い
・11月13日(木) 10時～15時
テーマ：自然とともに祈る
指　導：Sr.マリアとS.フランコ神父

※生命山の名称が変わりました。詳細が３面のコラム「木かげ」に載っています。ご覧下さい。
問合先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

マグリン神父によるゆるしの秘跡

日　程：毎月第１と第３土曜日
場　所：大名町カトリック教会小聖堂

11月のこよみ

1日(土)　諸聖人
2日(日)　死者の日　教区墓地ミサ［和田墓地14時］
†S.アクワビバ［1984年］
3日(月)　召命の集い［大神学院］　文化の日
†F.ボア［1977年援助修道会黒崎修道院］
4日(金)　聖カロロ・ボロメオ教皇
教皇ヨハネ・パウロ２世霊名祝日
9日(日)　ラテラン教会献堂記念
八代殉教祭
不動山殉教者慰霊祭［佐賀地区］
光丘教会創立50周年共同体の日
16日(日)　年間第33主日　聖書週間（～23日）
島崎教会堅信式
北九州地区聖書講座［新田原教会14時］
19日(水)　大神学院祭（サン・スルピス大神学院）
21日(金)　聖マリアの奉献
22日(土)　聖セシリアおとめ殉教者
†P.ポール［1996年黙想の家］
23日(日)　王であるキリスト
福岡地区カテキズム勉強会（カテドラル15時）
†B.シュルツ［1996年吉塚教会］
24日(月)　礼拝会来日75周年感謝ミサ
27日(木)　†S.ズワノニ［1962年］
30日(日)　待降節第１主日
門司教会堅信式

12月
1日(月)　†アシジ・F．伊東誠二［1997年馬渡島教会］
3日(水)　聖フランシスコ・ザビエル
7日(日)　恵楓園聖堂創立50周年記念ミサ

◆福岡

死者の日のミサ

［日時］11月２日（日）14時から［場所］和田墓地（福岡市南区和田）［主司式］松永司教［問合先］各小教区納骨堂委員まで

大神学院 召命の集い

日　　時：2003年11月３日９時～
テーマ：「私の願い、神様の願い」
ミサ時間：10時15分から
※例年の通りミサ・講演会・劇など盛り沢山です。
問合せ：☎092-864-4203（汐留）

■召命祈願ミサ
［日時］11月３日（文化の日）９時から行われる『召命の集い』に変えます［場所］サン・スルピス大神学院

■チャリティーコンサート　ストップ HIV
［日時］11月８日（土）14時から17時［場所］サンパウロ福岡センター（赤坂）［内容］徳永瑞子さん（アフリカ友の会代表）の講演とビデオ上映／ミニバザー／喫茶［主催］アフリカ友の会［問合せ］☎０９４２・５４・２９３９松田

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］11月９日（日）14時から［場所］大名町カトリック教会［内容］グリーフケアI［講師］野島一彦氏（九州大学教授）［参加費］一般７００円：会員５００円［問合先］☎０９２・５３４・５６４７小林／深堀

■召命を共に祈る会
［日時］11月20日（木）14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）

■在世フランシスコ会集会
［日時］11月23日（日）14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎０９２・８４３・５８３１岩崎

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］11月27日（木）11時から／死者ミサ（レクイエム）：13時から研修［場所］聖クララ寮（福岡市南区塩原）［講師］坂田孝子氏［参加費］自由献金［問合先］☎０９６・３８０・５６８６堺

■福岡地区結婚講座
［日時］２００４年１月26日（月）から２月17日（火）まで毎週月曜と火曜日の全８回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合先］☎０９６・３５２・３０３０FAX０９６・３５２・１５１５

あっちこっちバザー

11月９日：南粕屋教会
大楠教会
二日市教会
小倉教会
※今年も、行ってみよう。

◆北九州

死者の月の追悼式

［日時］11月２日(日) 14時から［場所］カトリック北九州納骨堂（小倉南区葛原本町）

■小倉祈りの集い
［日時］11月28日（金）13時30分～15時［場所］カトリック小倉教会信徒会館［内容］「みことば」をあじわう賛美と感謝の祈り［指導］B・ガブリエル神父（御受難会）［問合先］☎０９３・４５２・１５５６安藤

◆佐賀

不動山殉教者祈念祭

［日時］11月９日(日) 14時から［場所］佐賀県嬉野町大舟地区「異宗徒塚」［主司式］平田三好神父［問合先］☎０９４２・８２・０７７４古賀

■佐賀祈りの集い
［日時］11月12日（水）10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］11月22日（土）10時～12時はミサと祈り：毎月第２水と第４土曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎０９５２・７２・７５３６吉田

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音書を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎０９５２・２３・４７５４阿南

◆熊本

■典礼聖歌研修会
［日時］11月16日（日）①10時半から②13時から［内容］①講和「ミサと典礼聖歌」②典礼聖歌の研修［場所］帯山カトリック教会［指導］深堀純氏（サン・スルピス大神学院講師）［参加費］無料［持参品］典礼聖歌集・筆記用具［主催］熊本地区信徒協　司牧部［問合先］☎FAX０９６・３８０・５６８６堺敬子

■熊本地区結婚講座
［日時］２００４年１月26日（月）から２月17日（火）まで毎週月曜と火曜日の全８回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合先］☎０９６・３５２・３０３０FAX０９６・３５２・１５１５

八代の殉教４００年祭

日　　時：2003年11月９日(日)
第１部：殉教記念ミサ　14時
　場所：麦島殉教地（八代市）
第２部：講演会と音楽劇　18時
　小西行長の音楽劇（一部披露）
問合せ先：八代カトリック教会
☎0965-32-4065

編集後記

ひとりの人の死はいのちの重みとその輝きを伝え、とらえ難い死の神秘を語ってくれます。
死者の月、亡くなられた方々を思い祈りましょう。

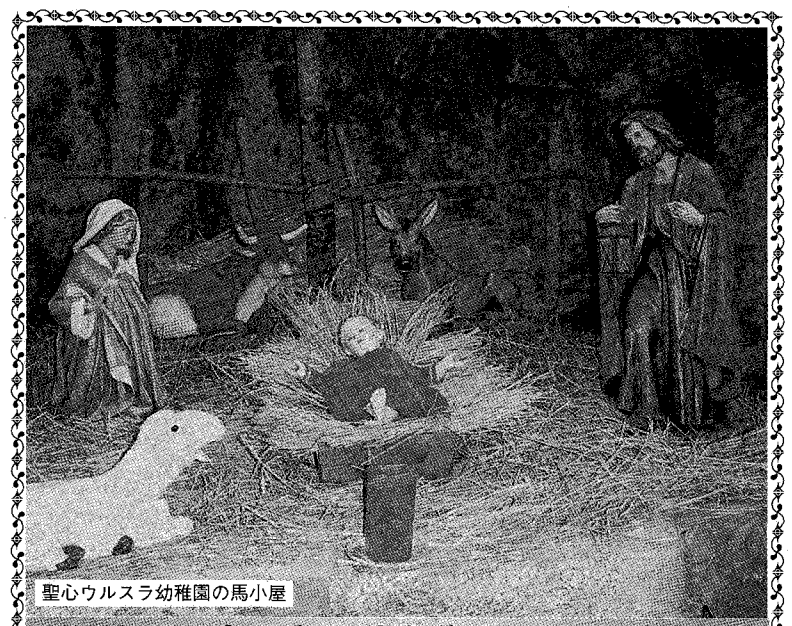
COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円



聖心ウルスラ幼稚園の馬小屋

大きな喜びを告げ知らせよう！

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般】　苦しみを緩和するための宗教間の協力

【布教】　全体主義国家における教会

【日本の教会】　一年の終わりの感謝

光丘教会５０周年を祝う

50人の神の家族が1200人になって

１００年を見据えた小教区の生き方を熱心に語り合う信徒たち

光丘小教区（主任＝G・ブルーニ神父）は今年、創立50周年をむかえた。戦争の傷跡がまだ癒えない１９５３年、前身である那珂町教会から分離、誕生した。当時、信徒数は50人。初代主任としてオブレート会のW・マクロクリン神父が着任し、キリストの福音を証し、地域社会の人々とともに歩み続けて50年。約１２００人を数える神の家族に成長した。今、宣教する共同体として新たな一歩を踏み出した。

光丘教会は10月12日（日）と11月9日（日）の両日、2回に亘って50周年の記念行事を行った。

１９６６年、那珂町教会は名称を「光丘教会」に変更した。68年6月には待望の新聖堂の献堂式が行なわれた。76年老司小教区が分離。88年に、35年間にわたり司牧を続けたオブレート会から、教区の司牧に移行した。

95年にはカトリック会館が落成し、信徒の養成・交流の拠点が築かれた。

光丘小教区の特徴の一つに、50年の間に生まれたいくつかのアクション団体が今も活動を続け、教会の多様性を豊かに開花させていることがあげられる。

２００２年4月に、3年間の信徒養成プログラムを打ち出し、「宣教宣言」を発表。以後、光丘小教区は奉仕する共同体となるために、長い意識改革の過程を力強く歩み続けている。なかでも、最重要課題として、①小教区所属信者一人ひとりの霊的な成長②より多くの小教区構成員が、特に弱い立場にある人への奉仕に積極的に参加する、の二点が掲げられている。

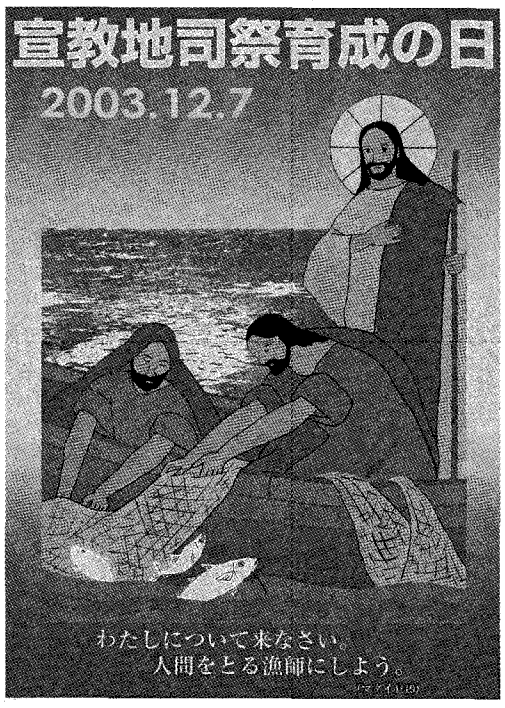
行事を中心とするということではなく、日常生活の中で直面する現実を正しく理解し、神のみことばによって導かれ、開かれた奉仕する喜びにあふれる共同体になることをめざしている。

このたびの創立記念行事は2部構成で行なわれた。

第一部は、10月12日（日）に松永久次郎司教の公式訪問・堅信式、そしてこれからの光丘小教区について考える信徒の集いが行なわれた。

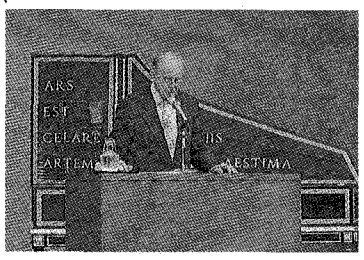
第二部は11月9日（日）には、「告げ知らせよう　神の愛」をテーマに、記念ミサと式典、祝賀会が行なわれた。遠方からも歴代の主任司祭、信徒が駆け付け、旧交をあたため合う姿が見られた。また、10月に堅信を受けた中学・高校生がフォークソングを披露。未来の小教区を担う新しい力が輝いて、なごやかな雰囲気に包まれた。

宣教地司祭育成の日



八代殉教祭　最初の殉教から４００年　記念ミサや講演、音楽劇　熊本

白百合学園で行われた殉教記念ミサに参加した人びと



講演する結城了悟神父

八代の最初の殉教から４００年にあたる今年、八代小教区と熊本地区信徒使徒職協議会は記念の殉教祭を11月9日に開催した。14時から殉教記念ミサが行なわれた。雨天のため、ミサ会場は当初予定されていた麦島殉教地から白百合学園の体育館に変更となった。

九州各地からの信者をはじめ、この記念行事に深い理解を示し協力した八代市、地元の関係者など約４００人が集まった。松永久次郎司教は説教で、「八代の殉教者が示した生き方になろう」と呼びかけた。

１５８８年にキリシタン大名アウグスチノ小西行長が南肥後領主となり、特に豊臣秀吉の死後、行長が領内に宣教師を多数招き、活発に宣教活動したことにより教勢は著しく発展した。関ヶ原の戦い以後、南肥後の状況は一変した小西行長は大変親しまれている武将の一人である。１６０７年、行長没後7年にしてイエズス会において音楽劇「アウグスティヌス　ツカミドヌス」が作られた。このたび、ウィーン国立図書館が所蔵するこの音楽劇台本の一部を入手し、八代市の文化関係者の間で、劇の全体復元を図ろうとの気運が盛り上がった。各文化団体・キリスト教関係者により実行委員会が発足し、歴史、音楽関係者などとの幅広い連携の中で、音楽劇復元へ向けての一歩が踏み出された。全体復元までには数年の歳月を要すると考えられる。殉教４００年祭のこの日に合わせて18時から、やつしろハーモニーホールで新山富美子氏（ザルツブルグ大学研究員）の解説により、一部再演が試みられた。結城了悟神父（長崎26聖人記念館館長）と高野茂氏（八代市文化財審議員）の講演も行なわれ、広く一般市民に対しても参加を呼びかけたところ約５００人が集った。

福岡教区28名殉教者列福祈願ミサ　大名町

10月26日に、教区の28名殉教者の列福祈願ミサが、松永久次郎司教式によりカテドラル大名町教会で行なわれた。郷土の殉教者を学び、親しむ心を私たちのうちに養うと共に、彼らの列福を心から祈りたい。

時の話題

森　邦蔵

街にははやくもクリスマスの飾りが目につくようになった。大名町教会では12月7日（日）の夕方、「合同祈祷会」が開かれる。「市民クリスマス」のために祈るキリスト教超教派の祈りの集いということである。

昨年、福岡市民会館で開催された「福岡市民クリスマス」に裏方のお手伝いとして初めて参加し、これが12月の単なるイベントではなく、イエス・キリストを一人でも多くの人に知らせたい、その福音を広く伝えたいというプロテスタントの方々の熱い思いと信仰に基づいて企画され、一年をかけて準備されていることを知った。

当日、楽屋の一つは出演者のためではなく、祈りの部屋として用意されており、催しの開始から終わりまで、担当の牧師、信徒の方が祈りのリレーを続けておられた。カトリックからも一人の神父さんと私がその祈りに加わって、救世軍の牧師さんと、日本キリスト教団の信徒の方と祈るうちに、いつの間にか30分位の担当時間を過ぎて、催しの終了まで祈っていた。

ステージは見逃したが、聖霊による交わりともいえる一つになるという恵みの実感を得させていただき、美しい夜空を仰ぎながら帰途についた。

今年の「市民クリスマス」には、友人を一人でも二人でもさそって参加しようと思う。皆が祈るだけでなく、友人をさそって参加すれば市民会館はすぐ満員になるに違いない。

小羊たちが一つになるように望み、すべての人々の幸せと平和を一番望んでおられるのは主イエスご自身ではなかろうか。最近の日本社会の、そして世界の騒然とした年の暮れにつくづくそう思う。

西新教会信徒

みちくさ

八代の殉教は、日本のキリシタン迫害の歴史の初期に位置している。１６０３年12月8日、肥後八代キリシタンの初穂が捧げられた。武士ジョアン南五郎左衛門が斬首され殉教した。彼は熊本で処刑された。翌9日早朝に八代の麦島でシモン竹田五兵衛が斬首された。同日の夕暮れにジョアン南の妻マグダレナと養子ルドビコ、シモン竹田の母ヨハンナと妻アグネスも、麦島ではりつけにされ殉教した。この最初の殉教から今年ちょうど４００年になる▼その後も、１６０６年はヨアキム渡辺次郎右衛門が牢内で死をとげた。ルイス宮原神父は百姓に変装し野菜籠を担いで牢をたずね、告解をきき、励ました。１６０９年2月4日にミカエル三石彦右衛門とその子トマス、ヨハネ服部甚五郎とその子ペトロの四人が斬首され殉教をとげた。渡辺、三石、服部の三人は、迫害が激しさを増す中、宣教師から八代の教会維持存続のために選ばれた慈悲役たちであった▼三石の息子トマスは体が不自由だった。彼は役人に背負われて刑場へ向かった。父の死の惨劇を目の前にしてもひるまず、父の血潮に染まった土の上にひざまづき、不自由な左手を右手で持ち上げて合掌し、祈りながら首をさしのべた、と伝えられている▼幼い子どもから老年者にいたるまで、かれらは最後まで神への愛と信頼を貫いた。八代の殉教者たちの姿から、深い家族の絆、そこに流れる信仰の熱き血潮を感じずにいられない。彼らの愛の証しは、今の時代を生きる私達の心に、大切なことを訴えている。

祈る人の世界 (4)

神の国のリアリズム

御受難会福岡修道院
修練長　来住 英俊 神父

「500CCのGPマシンは、たとえようもなく速い。だが、スピードが速くなればなるほど、僕の目に映る風景はゆっくりとして目に入ってくる。まるでスローモションのように。こまかなところまですべて見えるね。路面のしみひとつから、突起ひとつまで見ようと思えばすべて見えるわけよ。」

これはかつてのバイクの世界チャンピオンの言葉である。スポーツをする人は、一度か二度なら、こういう感覚を経験したことがあるだろう。「周囲の風景がゆっくり動き、一つひとつのものがはっきりと見えている。」

＊

ある会議の運営委員をしたとき、これに似た状態を経験した。その期間中、一種の透明な感じ、状況が見えているという感覚があった。会議が大成功だったと言う意味ではない。また、参加者たちが運営に満足していたということでもない。むしろ満足していない人が多かっただろう。ただ、参加者のそういう心持ちや表情も、現段階ではこういう運営をせざるをえないという背景も、時にムッとする自分の心の揺らぎも、すべて含めて状況が見えている。そして、次に何をすべきかも自分なりにほぼ見えている。そういう状態だった。

忙しいには忙しいが、追われてはいない。風景はゆっくりと動いている。物事が全部うまく行っているわけではないが、落ち着いた時間が流れていた。

これは短期だけの経験だが、普通の生活の中でも、周りの風景がゆっくりと動き、一つひとつがよく見えればいいなと思う。つまり、バイクに乗る人が高速で運転していても道の突起ひとつひとつが見えるように、修道院や使徒職の場での出来事、出会う人の表情や動きが一つひとつはっきり見えている日々でありたい。

＊

チャンピオンは続けてこう言う。「自分のすぐ前の、前輪のちかくを横切る小さな石のつぶまで見えるのね。だから、素晴らしいよね。」

確かに、それは素晴らしい世界であろう。よく見えることは愛の基礎である。周囲の一つひとつの事物がよく見えていないままに、自分の心だけを愛に満ちたものに育てようとするのは無理なことだと思う。はっきりよく見えさえすれば、すべての被造物は美しく、愛すべきものであるはずなのである。そして、たぶん衝突事故や接触事故も、なくなりはしないが、ずいぶん減るだろうと思う。

＊

優れたスポーツ選手に、飛んでくるボールや道路の突起がはっきりと見えるのはトレーニングの結果である。同じように、家庭や職場で周囲の事物や出来事が一つひとつはっきりと見えるためにも修練が必要であろう。

メンタルなレベルの訓練だけでなく、魂の働きの深まりが必要だと思う。地道な祈りの努力はそれを助けてくれるだろう。祈りは人間の魂を、優しく柔らかくするだけでなく、鍛錬するものである。魂の視力が鍛錬されて、神さまの造られた世界の動きがゆっくりとした風景として見えてくる。一つひとつの事物がはっきり見えるようになる。それが「祈る人の世界」ではないだろうか。

http://www001.upp.so-net.ne.jp/inorinogakko/

来住神父の著書：「目からウロコ　ロザリオの祈り　再入門」他。

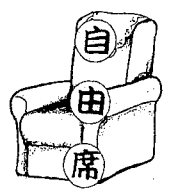
発行所＝女子パウロ会

2003年降誕前夜祭・大晦日・2004年元旦ミサ時間

教会	24日	31日	元旦
福岡地区			
糸島	20:00		10:00
今村	20:00		9:00
大楠	20:00		10:00
大牟田	20:00		10:00
小郡	20:00		10:00
久留米	19:00 22:00	0:00	10:00
古賀	19:00 23:00	23:00 0:00	10:00
笹丘	18:00 20:30		11:00
浄水通	20:00		10:00
大名町	18:00 20:30 23:00	23:30	10:00
英語25日	16:00		
高宮	20:00	23:45	10:00
茶山	20:30		10:00
西新	19:00		10:00
箱崎	19:00	19:00	10:00
光丘	20:00	10:00	10:00
二日市	19:30	0:00	10:00
老司	19:30	0:15	10:00

教会	24日	31日	元旦
本郷	18:30 21:00		10:00
吉塚	19:30	7:30	14:00
南粕屋	19:30		10:00
北九州地区			
飯塚	19:30		
黒崎	19:00 22:00	0:15	10:00
小倉	17:40 20:30 23:00	0:00	10:00
新田原	20:00	0:00	10:00
田川	18:00		12:15
天神町	19:00		10:00
戸畑	20:00		10:00
直方	19:00		10:00
水巻	19:30	0:00	10:00
門司	19:30	0:00	10:00
湯川	19:30	0:00	10:00
行橋	19:30	0:00	
豊津	22:30		10:00
若松	19:00		10:00
佐賀地区			
伊万里	20:00		11:00

教会	24日	31日	元旦
鹿島	18:00		11:00
唐津	19:30	18:00	10:00
佐賀	19:30	0:00	11:00
多久	20:00		11:00
武雄	20:00		9:00
鳥栖	20:00	19:00	10:00
馬渡島	19:00		8:00
呼子	20:00		8:15
熊本地区			
荒尾	25日	10:30	
大江	19:00	23:30	
帯山	19:00	23:00	11:00
菊池	20:00		10:00
健軍	19:30	0:00	10:00
崎津	21:00		8:00
島崎	19:00	0:00	11:00
玉名	19:00		
手取	18:00 20:00	0:00	11:00
人吉	20:00	0:00	11:00
本渡	20:00	0:05	
水俣	20:00	0:00	
武蔵ケ丘	19:30		11:00
八代	20:00	0:00	11:00



神様から目に見えるプレゼント

平田　悠貴子

社会の高齢化・少子化現象は教会にも確実に現われている中で、この夏、手取教会には10人の赤ちゃんが生まれました。教会が今年「子どもたちにもっと関わろう」と向いはじめた矢先の出来事でした。

そこで、主任のカリー神父様は「赤ちゃんの合同洗礼式」を発案され9月には幼児を含め12人、10月には5人の赤ちゃんが主日のミサの中で洗礼を受けました。

これからこの子たちは、同じ時に初聖体を、堅信の秘跡を受け、そして成人式を迎えます。「神」を「父」と呼ぶ日まで、私たちはそれぞれ様々な関わりを頼まれています。

いのちの誕生は、神様からのプレゼントにほかなりません。「赤ちゃんが生まれる」、そして「こんなに集中して」「こんなに沢山」ということに対する気づきは、「これは一体なんだろう…」と、私たちを考えさせ祈りに導きました。

その一つとして、召命に対して強い関心をもたされることになりました。すでに前向きな取組が始っています。「子どもたちの召命のために充てよう」という呼びかけで行われた友愛バザーでは多くの収益があり、教会が一致して子どもたちに目を向けていると言えるでしょう。

バザーの翌日にもかかわらず、11月3日の「召命の集い」には、最初マイクロバスを予約していたのに、なんと参加者が53人に膨れ上がり、はじめて大型バスで参加しました。

この夏の出来事は私たち共同体にとって大きなお恵みでした。神様のお恵みは溢れているのに、私たちは気付いていないのでしょう。

気付いたとき、どうするのか…、私たちの赤ちゃんは、そのことに気付かせてくれました。そして今回のようにこれからも次々に神様の方に私たちを動かしてくれるでしょう。それは楽しみであり、喜びです。10年先、20年先の希望になっています。

手取教会信徒

大神学院の召命の集いを振り返って

汐留　義和

11月3日、サン・スルピス大神学院における「召命の集い」にご参加いただき、本当にありがとうございました。

当日は神さまのお恵みと皆様方のご協力によりまして、実りのある一日になったのではないかと思います。今年の参加者は子どもと大人を合わせて1400人以上でした。

振り返ってみると、神学生一人ひとりが休み時間を削って劇やレクリエーションなどの準備にあたってくれたこと、地区信徒協の方々、地区婦人会の方々、青年の方々、修道女連盟のシスター方といろいろと話し合い、協力して召命の集いに臨んだことなどが懐かしく思い出されます。

多くの方々と一つのことに向かって準備ができたのは、私達にとってとてもよい勉強になりましたし、皆様の召命に対する熱い思いを感じることができました。

私たち神学生は、これからも召命の実りを願いながら、このような集いを続けていきたいと思っています。ここまでこの召命の集いを支え、育ててくださった方々に感謝をするとともに、これからのご協力もお願いしたいと思います。来年度の「召命の集い」もどうぞご期待ください。

神に感謝！

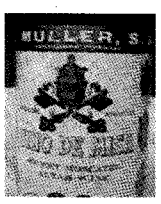
大神学生

2004年度福岡教区行事予定

2004年
- 司祭新年の集い［浄水通教会］　1月13日(火) 11時
- 2003年度第2回司祭評議会［司教館］　2月10日(火) 10時30分
- 松永司教霊名の祝い［浄水通教会］　3月9日(火) 11時
- 聖香油ミサ［カテドラル］　4月6日(聖火曜日) 15時
- 復活の主日　4月11日(日)
- 教区合同堅信式［カテドラル］　5月30日(聖霊降臨の主日) 14時
- 教区全司祭研修会　6月22日(火) ～24日(木)
- 平和を祈る集い［カテドラル］　8月8日(日) 13時
- 教区墓地ミサ［教区和田墓地］　8月15日(日) 14時
- 11月
- 2004年度第1回司祭評議会［司教館］　9月7日(火) 10時30分
- 邦人司祭黙想会［黙想の家］　10月11日(月) 19時30分受付　15日(金) 15時講話終了まで

2005年
- 司祭新年の集い［浄水通教会］　1月11日(火) 11時
- 2004年度第2回司祭評議会［司教館］　2月1日(火) 10時30分
- 松永司教霊名の祝い［浄水通教会］　3月8日(火) 11時
- 聖香油ミサ［カテドラル］　3月22日(聖火曜日) 15時
- 復活の主日　3月27日(日)

むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室(洗面トイレ付)／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

召命の集い『私の願い 神様の願い』

大神学院

出品作の前に勢ぞろいする小倉教会の子どもたち

11月3日（文化の日）に、福岡サン・スルピス大神学院で召命の集いが行なわれた。

福岡教区各地、また長崎教区からの参加者合わせて千四百余人が集った。うるおった空気の中で、参加した人々は心を合わせて召命を求めて祈り、召命について考え、探しながら、神学生が企画した様々なプログラムを体験した。

今年のテーマは『私の願い、神様の願い』。召命祈願ミサは松永久次郎司教主司式で行なわれ、テーマソング『ぼくの願い あなたの願い』が元気いっぱい演奏された。説教は寺浜亮司助祭が担当。寺浜助祭は「網をおろして漁をしなさい」という主イエスのことばを、一人ひとりの心に届くよう思いを込め、自分の体験をまじえながら語りかけた。

ミサの後、神学生製作上演の劇、レクリエーションなどを通して、神学院いっぱいに召命を祈る人々の心が広がり深まっていった。来日50年をむかえたZ・イエール神父による講話も行なわれ、親しく見守ってきた神学院と献堂以来50年の時を刻む美しい神学院聖堂に寄せる思いを語った。

今年もたくさんの作品が寄せられ、閉会式において、共同・個人出品それぞれの部門ごとに優秀作品の表彰も行なわれた。

スットプ ザ HIV

アフリカ友の会

美しい瞳の輝きが絶えないように

11月8日、サンパウロ福岡センター（福岡市）で、福岡では初めての「アフリカ友の会」によるチャリティイベントが開催された。

アフリカ友の会は10年前から中央アフリカ共和国で、HIV感染拡大防止とエイズ患者の支援活動を続けてきた。

近年、日本のHIV感染者とエイズ患者が増加していることに危機感を感じ、現地の活動報告と合わせて日本の現状について友の会代表徳永瑞子氏が講演し訴えた。

当日は各方面ボランティアをはじめ、福岡市内・佐賀・長崎からも参加があり、一般・学生合わせて約70人が集まった。参加者の中にはエイズについて、またアフリカ・日本のエイズの状況について初めて聞く人もあり、その表情は真剣そのもの。次々と積極的に質問する姿が見られた。

講演後に、クロマティックハーモニカによるロマンティックで叙情的な「コンドルは飛んでいく」など数々の名曲の演奏や、スペインの春祭りの華やかなフラメンコ舞踏が披露された。

会場ではバザーも行なわれ、アフリカのエイズ患者の生活支援として会が指導している洋裁教室の作品をはじめ、国内の支援者による手作りの洋裁品・工芸品などが所狭しと並べられ、にぎわっていた。

参加者からは「貴重な話を直接聞ける機会をもっと作って欲しい」との声が聞かれた。アフリカ友の会は、今後も誰もが参加しやすいイベントを繰り返し催すことにしている。そうした場で、多くの人にエイズの知識を伝え、地球に住むすべての人が困難のうちにある人々と助け合いながら、共に生きて行く社会になるよう訴える活動を、地道に続けて行きたいと考えている。

ヤングママ黙想会

福岡地区婦人会

今田神父の講話に真剣に聞き入る若いママたち

11月12日（水）、福岡教区福岡地区婦人会が主催する恒例の「ヤングママ黙想会」が浄水通の召命の家で行われた。

子育て中の若い母親たちが、日曜日のミサや黙想会に参加しにくいのをみて、先輩の熟年の母親たちがベビーシッターを引き受け、一日ゆっくり神様にふれてほしいと毎年企画されている。

今年は、笹丘教会の今田昌樹神父の指導に31人が参加、ミサと講話、昼食を挟んで講話と分ち合いがもたれた。

久しぶりにゆっくりミサにあり、お話を聞くことが出来て、心が元気になりました、と話す参加者もいた。

日頃、黙々と一人で子育て中の母親にとって、同じ信仰を持つ同世代の母親同士が、信仰や生活の喜びや悩みを話し合えるためにもよい機会ではなかろうか。

不動山切支丹殉教祈念祭

佐賀

佐賀地区信徒使徒職協議会主催の恒例行事「不動山切支丹殉教祈念祭」が、11月9日、佐賀県嬉野町丹生川区の「異宗徒塚」に於いて催された。

昨年から、その名称も「殉教祈念祭」と改め。福岡教区新たな気持ちで先祖の殉教を捉えようという意気込みで、丹生川地区の区長山口氏は「地区民この祈念祭について、としては、この祭りを他の宗教の行事として冷やかに見るのではなく、代々語り継がれて来た殉教者の死についても、厳粛な事実として今後に伝え、このような祭りにも積極的に協力していきたい」と述べた。

また、バプテスト教会の藤野牧師は「同じ神を信じイエスの導きを求める者として、カトリックの殉教者に学ぶことは多い。共に祈念していきましょう」と語った。

ダイエーナインをカテドラルの鐘が祝福

教会前をパレードする城島・斉藤・村松の3選手

木かげ

ガイヤール ジュリアン神父

今の幼稚園児は生き生きとし、目を輝かして楽しく生きているが、将来、今の純粋な心がどのように変わるだろうか、と考えさせられる。新聞、TVなどを見ると問題はびっくりするほど多い。

教育は大きな危機に直面している。子どもがどのように成長するか、開花できるか、あるいはしおれてしまうか、誰も予想できない。

ゆとり教育を目指して文科省は週休二日制、総合学習、プログラムのスリム化などを打ち出してきた。子どもに生きる力を着けることを最終的な目的としている。ところが、改革が始まったばかりなのに、すでに学力低下が指摘され、新しい方針の転換を求める声が増えている。文科省は一歩後退しているのである。

教育者は改革派と保守派との板挟みになって迷っている。

生きる喜び

このように揺れる船で、子どもたちが無事に教育の旅を続けることができるであろうか。文科省は生きる力をスローガンにしたが、なぜ、生きる喜びとしなかったかといつも思っている。生きる喜びといえば、子どもの場合、まず友だちと自然のなかで遊ぶことではないだろうか。

私は44年前から信仰教育に言われた。

先日、近くの金比羅山で小学生の遠足と一緒になった。聞こえてくる声は「きつい、きつい」、「どうしてこの山を登るのですか」と言うだけ。友だちと秋の自然を楽しむようなこともない様子だった。その時、30年前の経験を思い出した。ある日、教会の侍者を連れて福智山を登ることになり、出発前に子どもの履物をチェックしたら、古い草履を履いている子どもがいた。無理だと思い、彼に「君はこのようなぞうりで絶対、山には登れんよ」と言うと、その子は泣き出して「絶対、大丈夫、登れますから連れて行ってください」と繰り返し言った。リーダーと相談し、「一緒に行こう。登れるところまで来なさい」。これを聞いた子どもの喜び、笑顔と勢いをいまだに忘れることができない。金比羅山での小学生にとって、福智山のぞうりの子どものように、友だちと共に山を登る喜びを持たないのはなぜだろうか。この現象は、私たち大人にこそ問われていないだろうか。

パリ外国宣教会八王寺本部

BOOK 読みは専科

★カルカッタ日記
マザー・テレサに出会って
片柳 弘史 s.j. 著

カルカッタでマザー・テレサと出会った著者。ボランティアをしているあいだ、一人で過ごす夜につけていた日記の中から、特にマザー・テレサの人柄、カルカッタの雰囲気、ボランティア活動の様子などを伝えるものが選ばれています。マザーから直接「神父になりなさい」と言われた、衝撃と感慨をにじませる内容も綴られています。

ドン・ボスコ社
税抜き 1000円

◇ ◇ ◇

★きっと いい日
ひめくり
詩・カット
晴佐久 昌英 著

オシャレなカット入りの卓上型日めくり。あなたが出会いたかった31のことば。小宇宙に広がる二行詩は、あなたの心をいやし新しい一日を開いてくれるでしょう。

お友だちに贈りたくなることばでいっぱいのオシャレな日めくりは、病人のお見舞いにも最適でしょう。

女子パウロ会 発行
税抜価格 800円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事 ・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ 森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服，聖器具，聖像
信心用品，ベール，
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

マリアと共にキリストの道を歩こう！

カトリック教会のカテキズム

日　　時：2004年１月25日(日) 15：00～17：00
　　通常毎月第４日曜日（変更日あり）
場　　所：カテドラル大名町教会
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
講　　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参 加 費：１回　５００円
対　　象：教会学校のリーダーやカトリック教会の教えを学びたい人
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第三期神学講座
2004年９月19日(日)まで全８回
(第３日曜日を基本とし変動あり)
③2004年２月１日(日)
「教会憲章」　櫻井尚明神父
♣聖書講座
2004年9月18日(土)まで全15回
(基本的に第１・第３土曜日)
③12月６日(土)
「ヨハネによる福音書　第１章19節～51節」
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
受講資格：カトリック信者／主任司祭の推薦を受けた人／自分の信仰を深めたい人／教会での奉仕活動をする人／カテキスタを目指す人
※受講料や単位取得等は下記に問合せ下さい。
☎ 096-352-1515（日向）/090-8664-4039（平田）
主催：熊本地区信徒使徒職協議会

2003年度典礼を学ぶ集い

(4)：2004年１月18日(日)
講　師：白浜満神父（大神学院教授）
参加費：１回６００円
テーマ：閉祭
申込先：〒811-4181 宗像市三郎丸608-9
☎ FAX 0940-33-8122　井上元之
♠2003年度最後の集いです。2004年度も企画したいと思います。

第2回 あっちこっちミサ in 福岡

青年 全員集合！

とき：04年２月28日(土)・29日(日)

場　所：大名町カトリック教会４階
対　象：福岡教区青年／その他地区青年
費　用：４０００円（３食付・宿泊は召命の家）
問合先：「あっちこっちダヨ全員集合！」
プロジェクトチーム
☎ 092-741-3687（大名町教会浦川神父）
Eメール：fakm229@hotmail.com
※全国各地で同じ日・同じ時間に行われる「あっちこっちミサ」。このミサをむかえるにあたり、福岡では２日間の分ち合いを行います。
この機会を利用して、あなたのこれからの信仰や交友を深めてみませんか？

案内版　会合と催し　12月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　12月

◇１日(月)～３日(水)　御受難修道会・共同体の日
◇３日(水)～４日(木)　お告げのマリア修道会
◇６日(土)～７日(日)　祈りの学校［Fr.来住］
◇７日(日)～８日(月)　オブレート会福岡
◇10日(水)　ミカエル会
◇12日(金)～14日(日)　待降節の黙想会［Fr.ガブリエル］
◇20日(土)～21日(日)　待降節の黙想会［Fr.鈴木］
◇24日(水)～25日(木)　主のご降誕を祝うミサ［24日0：00／25日11：00］
◇26日(金)～27日(土)　海の会
※12月中毎週金曜・土曜・日曜日は、待降節の黙想会を開催しています。
◇2004年１月５日(月)～９日(金)　休館
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山霊性交流センター

※祈りの集い
・12月11日(木) 10時～15時
テーマ：自然とともに祈る
指　導：Sr.マリアと S.フランコ神父

※待降節や冬休みに座禅を組み新しい一年を祈念しにお出かけ下さい。
問合先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

マグリン神父によるゆるしの秘跡

日　程：毎月第１と第３土曜日
場　所：大名町カトリック教会小聖堂

12月のこよみ

３日(水)　聖フランシスコ・ザビエル
７日(日)　**恵楓園聖堂建立50周年記念ミサ**
宣教地司祭育成の日（献金日）
８日(月)　無原罪の聖マリア
12日(金)　†M.コーフィールド［2001年島崎教会］
13日(土)　聖ルチアおとめ殉教者
14日(日)　待降節第３主日
高見三明被選大司教着座式（長崎浦上教会）
17日(水)　†M.コニリー［1990年手取教会］
18日(木)　†J.マグラ［1976年荒尾教会］
19日(金)　†パウロ青木功［1973年行橋教会］
20日(土)　†M.ソーレ［1917年久留米教会］
21日(日)　待降節第４主日
糸島教会祝福式
23日(火)　†A.ベニエ［1983年飯塚教会］　天皇誕生日
24日(水)　**主の降誕夜半ミサ［カテドラル20：30］**
25日(木)　主の降誕（クリスマス）
26日(金)　聖ステファノ殉教者
27日(土)　聖ヨハネ使徒福音記者
28日(日)　聖家族の祝日
2004年１月
１日(木)　**神の母聖マリア／世界平和の日**［カテドラル10時］
†C．バスチ［2002年黒崎教会］　元旦
２日(金)　†J.ドノフ［1985年菊池教会］
†ヨゼフ牧山藤房［1993年西新教会］
４日(日)　主の公現　†E.モーゼ［1998年門司港教会］
ゴチック文字は司教日程

講演会のご案内

◆福岡

テーマ：イスラムの人びとと私たち
日　時：12月11日(木) 10時から
場　所：大名町カトリック教会　４階
講　師：秋吉久紀夫氏
(九州大学名誉教授・黒崎教会信徒)
主　催：福岡司教区福岡地区婦人会
問合先：☎092-522-1511　牛尾伝枝

■召命祈願ミサ
［日時］12月11日（木）19時15分から［場所］サン・スルピス大神学院聖堂［指導］中村倫明神父（長崎教区時津教会主任）

■生と老い死を見つめる会
［日時］12月21日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［内容］「死に別れた人の悲しみ」ビデオ観賞と語り合い／親しい方を亡くされた体験者グループの語り合いもあります［参加費］７００円［問合先］☎０９２・７１３・８５２３大山／６０７・６９９２村尾

■召命を共に祈る会
［日時］12月18日（木）14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）

■在世フランシスコ会集会
［日時］12月28日（日）14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎０９２・８４３・５８３１岩崎

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］１月11日（日）14時から［場所］大名町カトリック教会［内容］グリーフケアⅡ日本の弔いの文化の中から／現代の見送り［講師］鍋島隆啓師（天台宗本吉山清水寺住職）／高崎克也氏（会員）［参加費］一般７００円：会員５００円［問合先］☎０９２・５３４・５６４７小林／深堀

☆福岡市民クリスマス☆

日　時：2003年12月８日(月) 18：30開演
場　所：福岡市民会館大ホール
参加費：無料
♥クリスマスメッセージと美しい音楽を味わいキリストの誕生の喜びを分ち合いましょう。
※12月７日(土) 19時から大名町教会で合同祈祷会行います。ご参加下さい。

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］12月10日（水）10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音書を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音書を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎０９５２・２３・４７５４阿南

◆熊本

■熊本地区結婚講座
［日時］２００４年１月26日(月)から２月17日（火）まで毎週月曜と火曜日の全８回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合先］☎０９６・３５２・３０３０FAX０９６・３５２・１５１５

■福岡地区結婚講座
［日時］２００４年１月17日(土)から２月11日（水）まで毎週土曜と水曜日の全８回19時～21時30分［場所］大名町カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合先］☎０９２・５４１・６２０７FAX０９２・５５２・５０２２ファミリーセンター

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、男性用冬物衣類・毛布・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者も募っています。［問合先］☎０９２・４３１・１４１９

地球のステージ

世界の出来事に映像と音楽で近づく

日　時：2004年１月17日(土) 14時
場　所：佐賀県立美術館ホール
出演者：桑山紀彦氏（NPO法人代表理事）
入場料：大人／1000円・高校生以下500円
主　催：人生講座「地球のステージ」実行委員会
問合先：☎0952-23-4754／佐賀カトリック教会

編集後記

聖心ウルスラ幼稚園のクリスマスの馬小屋は圧巻です。ホールのステージ上いっぱいに聖夜の情景の造型が現出します。今月号一面に、昨年の馬小屋内を撮った写真を掲載しました。今年はどんな情景が造り出されるのでしょう。楽しみです。12月27日から１月５日までの期間、見学もできるそうです（時間は14時から16時）。Sr.フェラリス園長先生に電話してからお出かけください。☎０９２・５１２・００３３

教区報は今年もたくさんの方々からご支援と励ましをいただきました。心から感謝申し上げます。また取材に協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

来年もご購読よろしくお願いします。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930